Informatica® Multidomain MDM
10.4 HotFix 3

Data Director ユーザーガイド

Informatica Multidomain MDM Data Director ユーザーガイド
10.4 HotFix 3
2021 年 10 月

© 著作権 Informatica LLC 2005, 2022

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複写、写真複写、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、および ActiveVOS は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web（https://www.informatica.com/trademarks.html ）にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2022-05-05

目次

序文 12

Informatica のリソース 12

- Informatica Network 12
- Informatica ナレッジベース 12
- Informatica マニュアル 12
- Informatica 製品可用性マトリックス 13
- Informatica Velocity 13
- Informatica Marketplace 13
- Informatica グローバルカスタマサポート 13

序文 14

Informatica のリソース 15

- Informatica Network 15
- Informatica ナレッジベース 15
- Informatica マニュアル 16
- Informatica 製品可用性マトリックス 16
- Informatica Velocity 16
- Informatica Marketplace 16
- Informatica グローバルカスタマサポート 16

第 1 章 : 概要 17

Data Director の概要 17

主な概念 18

- レコード 18
- ビジネスエンティティ 18
- サブジェクト領域 19
- ベストバージョンオブトゥルース 19
- 検索と比較 20
- マージ 20
- 確認プロセスとタスク 20
- ビジネスエンティティリレーション 21
- 階層マネージャリレーション 21
- セキュリティおよびユーザーロール 21

Data Director へのログイン 22

- Microsoft Internet Explorer の設定 23

ユーザーインタフェース 24

- レコードビュー 26

第 2 章 : 入門ガイド 28

入門ガイドの概要 28

ホームページ. 28
グラフ. 29
ソーシャルメディアの投稿. 30
検索エンジンと外部 URL. 30
タスクインボックス. 30
スタートページ. 32
タスクのソートとフィルタリング. 32
ホームページでのデータの更新. 34
タスクインボックスのカラムの設定. 34
ユーザーインタフェースのローカライズ. 35

第 I 部 : ビジネスエンティティを使用する Data Director. 36

第 3 章 : ビジネスエンティティレコードの追加. 37
レコードの追加の概要. 37
［ビジネスエンティティ］ビューのデータ検証. 38
Person の追加のシナリオ. 38
組織の追加のシナリオ. 39
レコードの追加. 39
DaaS プロバイダのデータを使用したレコードの追加. 41
レコードのコピー. 42

第 4 章 : ドラフトレコードの操作. 43
ドラフトレコードの操作の概要 43
ドラフトレコードの追加. 44
ドラフトレコードの編集. 44
ドラフトレコードの送信 44
ドラフトレコードのフィルタリング 45
ドラフトレコードの削除. 45

第 5 章 : レコードの検索. 46
レコードの検索の概要. 46
検索ページ. 46
［クエリ］ページ. 48
検索ボックスを使用したレコードの検索. 48
エラスティック検索環境でのレコードの検索. 49
レコードのフィルタリング. 50
レコードの表示エラスティック検索環境. 50
クエリを使用したレコードの検索. 51
クエリのタイプ. 51
クエリの作成. 52
クエリの実行. 53
クエリ結果の表示. 54

クエリの管理. 55
保存したクエリの編集. 55
保存済みクエリの削除. 56
既存のクエリの新規クエリとしての保存. 56
保存済みクエリの移行と共有. 57
すべての保存済みクエリの移行および共有. 57
単一の保存済みクエリの移行および共有. 57
子レコードのフィルタ. 58

第 6 章 : レコードの編集. 59

レコードの編集の概要. 59
単一レコードの編集. 59
レコードの編集のシナリオ. 60
レコードの編集. 60
複数のレコードの編集. 61
複数のレコードの編集. 61
一括編集のステータスの表示. 62
一括編集の確認プロセスのトリガ. 63
関連レコードの追加と編集. 63
関連レコードの追加および編集のシナリオ. 64
関連レコードの追加. 64
関連レコードの表示. 66
関連レコードの削除. 66
リレーションの詳細の編集. 66
レコードの削除. 67

第 7 章 : バルクデータのインポート. 68

バルクデータのインポートの概要. 68
バルクレコードのインポート. 69
バルクリレーションのインポート. 69
レコードの更新. 70
フィールドマッピング. 70
デフォルト値の設定. 71
ターゲットフィールドのフィルタリング. 71
ソースローのフィルタリング. 72
レコードのプレビュー. 72
データのインポート. 73
新規ファイルのインポート確認プロセスのトリガ. 75
ファイルのインポートのサマリレポート. 76
新規レコードと既存レコードの照合. 77
一致ルールセット. 77
一致したレコード. 77
一致結果. 79

第 8 章 : 重複レコードの解決 80

重複レコードの解決概要 80

［一致するレコード］ビュー 80

一致したレコードと一致ルール 81

ベストバージョンオブトゥルースと信頼スコア 82

重複レコードのマージ 82

重複レコードのシナリオ 83

重複レコードの解決 84

重複する親レコードの識別 84

ベストバージョンオブトゥルースの完成 85

重複する子レコードの識別 86

重複レコードのマージ 87

単一レコードでの重複する子レコードの解決 87

第 9 章 : ベストバージョンオブトゥルースの確立 89

マスタレコードとベストバージョンオブトゥルース 89

シナリオ 89

ベストバージョンオブトゥルースの確立 90

マスタレコードへの手動更新の理解 91

相互参照レコードのマージ解除 92

第 10 章 : データ変更の調査 93

データ変更の調査の概要 93

データ変更の調査のシナリオ 93

イベント前後のデータの比較 94

第 11 章 : リレーションの調査 96

リレーションの調査の概要 96

ユーザーインタフェース 96

［階層］ビュー 96

［ネットワーク］ビュー 98

階層リレーションの管理 100

［階層］ビューからレコードを開く 100

階層のレコードおよびリレーションの表示 100

階層リレーションの追加 100

階層リレーションの削除 101

階層リレーションのリレーションプロパティの編集 101

今日を階層リレーションの終了日として設定する 101

有効日付または履歴日付との比較 102

［階層］ビューからのレコードの表示 102

階層のエクスポート 102

階層変更の送信 103

複数の階層リレーションの管理. 103
ネットワークリレーションの管理. 104
［ネットワーク］ビューでレコードを開く. 105
ネットワーク内のレコードとリレーションの表示. 105
ネットワークリレーションのレコードへの追加. 105
ネットワークへのレコードの追加. 106
ネットワー内のレコード間のリレーションの作成. 106
今日をネットワークリレーションの終了日として設定する. 106
ネットワークリレーションの削除. 107
ネットワークリレーションのリレーションプロパティの編集. 107
ネットワークビューで関連レコードを開く. 107
ネットワークのエクスポート. 107
複数のネットワークリレーションの管理. 108

第 12 章 : データ変更イベントでの有効期間の調査. 110
データ変更イベントでの有効期間の調査の概要. 110
データ変更イベントの調査のシナリオ. 110
データ変更イベントの表示. 111
データ変更イベントの追加. 112
データ変更イベントの削除. 113

第 II 部 : サブジェクト領域を使用する Data Director. 114

第 13 章 : サブジェクト領域レコードの追加. 115
［データ］ビューでのレコードの追加の概要. 115
［データ］ビューでのサブジェクト領域の追加の例. 115
［データ］ビューでのレコードの作成. 116

第 14 章 : 履歴ビューでのデータ変更の調査（従来のビュー）. 118
データ変更の調査の概要. 118
データ変更の調査のシナリオ. 118
［履歴］ビューを開く. 119
［履歴］ビューでのデータイベントの表示. 119
データイベント前後のデータの比較. 121

第 15 章 : ［一致］ビューでのレコードのマージ. 122
レコードのマージの概要. 122
レコードのマージの例. 123
［一致マージ比較］ビューを開く. 123
マージ候補の選択. 124
マージのプレビュー結果のオーバーライド. 125
Sending a Merge Proposal for Review. 126

第 16 章 : ［XREF］ビューでのレコードのマージ解除 128
レコードのマージ解除の概要 128
レコードのマージ解除の例 131
［XREF］ビューを開く 131
確認のためのマージ解除プロポーザルの送信 132

第 17 章 : ［データ］タブの検索クエリ 134
データタブの検索クエリの概要 134
検索のタイプ 134
基本検索 134
拡張検索 135
詳細検索 135
基本検索クエリと拡張検索クエリ 135
基本検索でのワイルドカード 136
検索条件の指定 136
基本クエリまたは拡張クエリの作成 137
詳細検索クエリ 137
論理演算子 138
条件演算子 138
比較演算子 138
詳細検索クエリの日付構文 139
詳細検索クエリの作成 139
詳細検索クエリの例 140
検索結果 140
検索結果からレコードを開く 140
検索結果のエクスポート 141
保存済みの検索クエリ 141
検索クエリの保存 141
保存済みの検索クエリの実行 141
保存済みクエリの詳細の表示 142
デフォルトクエリの設定 142
保存済みクエリの名前の変更 142
保存済みクエリの編集 142
保存済みクエリの削除 142
保存済みクエリの共有 143
保存済みクエリのエクスポート 143
保存済みクエリのインポート 143

第 18 章 : ［データ］タブでのレコードの操作 145
［データ］タブでのレコードの操作の概要 145
［データ］タブの保留中のレコード 145
検索結果からレコードを開く 146

子レコードのフィルタの作成. 147
［フォーム］ビューと［テーブル］ビューの切り替え. 148
システムカラムの表示. 148
レコードのコピー. 149
レコードのデータの編集. 149
有効期間の編集. 149
有効期間の追加. 150
タイムラインが有効なレコードの集計期間の表示. 150
レコードの調査. 150
レコードの削除. 151

第 19 章 : 階層とリレーションの調査. 152

リレーションの調査の概要. 152
ユーザーインタフェース. 152
［階層］ビュー. 152
リレーションの管理. 154
［階層］ビューからレコードを開く. 154
レコードおよびリレーションの表示. 154
レコードへのリレーションの追加. 155
関連レコードの追加. 155
レコード間のリレーションの作成 :. 155
リレーションの削除. 155
ネットワークリレーションの表示または非表示. 156
リレーションプロパティの編集. 156
階層のエクスポート. 156

第 20 章 : ［有効期間］ビューでのタイムラインデータの調査. 157

データ変更イベントでの有効期間の調査の概要. 157
データ変更イベントの表示の例. 157
［有効期間］ビューを開く. 158
データ変更イベントの表示. 158

第 21 章 : データのインポート. 160

データインポートの概要. 160
ソースファイル. 160
データインポートテンプレート. 160
データインポート例. 161
MDM Hub サーバーでのデータインポートの有効化. 161
データインポートテンプレートのインポート. 162
ファイルからソースデータをインポート. 162

第 III 部 : タスクとレビュー 164

第 22 章 : タスク 165

タスクの概要 165

タスクマネージャ 165

［詳細］ビュー 167

リストビュー 169

潜在的な所有者 170

潜在的なタスクアクション 171

タスクの検索 171

第 23 章 : 確認プロセスへの参加 173

確認プロセスへの参加の概要 173

編集の確認プロセスの例 173

タスクの引き受け 174

タスクの解決 175

編集済みレコードの確認 175

新しいレコードの確認 177

マージタスクの確認 178

マージ解除タスクの確認 180

階層タスクの確認 182

却下された階層タスクの確認 182

タスクの作業の整理 183

タスクの編集 183

タスクの別のユーザーへの割り当て 185

タスクの割り当てをプールに戻す 185

タスクの引き受け解除 186

第 24 章 : タスクの管理 187

タスクの管理の概要 187

タスクの引き受け 188

タスクの解決 189

編集済みレコードの確認 189

新しいレコードの確認 191

マージタスクの確認 192

マージ解除タスクの確認 194

タスクの作業の整理 196

タスクの割り当て 196

タスクの再割り当て 196

タスクの解放 197

タスクの詳細の編集 198

第 25 章 : 確認プロセス参照 199
確認プロセス参照の概要 199
承認を伴う更新のワークフロー 200
ワンステップ承認のワークフロー 200
ツーステップ承認のワークフロー 201
マージワークフロー 201
マージ解除のワークフロー 201

索引 202

序文

Informatica (R) *Multidomain MDM Data Director のユーザーガイド*を使用して、Data Director でマスタデータを作成、コンシューム、管理、および監視する方法を学びます。ビジネスエンティティレコードまたはサブジェクト領域レコードを管理できます。レコードの管理方法、レコード間のリレーションの管理方法、およびレコードの更新方法を学習します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、https://network.informatica.com にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、https://search.informatica.com にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム（KB_Feedback@informatica.com）です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム（infa_documentation@informatica.com）までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス（PAM）には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、http://velocity.informatica.com からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、https://marketplace.informatica.com からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network を介してグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト（https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html）を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースを見つけるには、https://network.informatica.com にアクセスして eSupport オプションを選択します。

序文

*Multidomain MDM Data Director のユーザーガイド*では、Data Director でマスタデータをどのように作成、使用、管理、および監視できるかについて説明します。このガイドは、ビジネスエンティティを使用する Data Director の使用方法と、サブジェクト領域を使用する Data Director の使用方法を説明する、2 つの部分から構成されます。

Data Director アプリケーションで、データを整理するためにビジネスエンティティを使用している場合は、次のトピックを参照します。

目的	開始位置
第 2 章,「入門ガイド」 (ページ 28)	**ホームページ**
第 3 章,「ビジネスエンティティレコードの追加」 (ページ 37)	**[新規]** タブ
第 5 章,「レコードの検索」 (ページ 46)	**[検索]** ボックス
第 6 章,「レコードの編集」 (ページ 59)	**[ビジネスエンティティ]** ビュー
第 8 章,「重複レコードの解決」 (ページ 80)	**[一致したレコード] ビュー**
第 9 章,「ベストバージョンオブトゥルースの確立」 (ページ 89)	**[相互参照レコード] ビュー**
第 10 章,「データ変更の調査」 (ページ 93)	**[履歴] ビュー**
第 12 章,「データ変更イベントでの有効期間の調査」 (ページ 110)	**タイムラインビュー**
第 19 章,「階層とリレーションの調査」 (ページ 152)	**[階層] ビュー**
第 23 章,「確認プロセスへの参加」 (ページ 173)	タスクマネージャ

Data Director アプリケーションで、データを整理するためにサブジェクト領域を使用している場合は、次のトピックを参照します。

目的	開始位置
第 13 章,「サブジェクト領域レコードの追加」 (ページ 115)	**[新規]** タブ
第 15 章,「[一致] ビューでのレコードのマージ」 (ページ 122)	**[一致マージ比較] ビュー**
第 16 章,「[XREF] ビューでのレコードのマージ解除」 (ページ 128)	**[XREF] ビュー**
第 14 章,「履歴ビューでのデータ変更の調査（従来のビュー）」 (ページ 118)	**[履歴] ビュー**

目的	開始位置
第 17 章,「[データ] タブの検索クエリ」 (ページ 134)	**[データ] タブ**
第 18 章,「[データ] タブでのレコードの操作」 (ページ 145)	**[データ] タブ**
第 21 章,「データのインポート」 (ページ 160)	**[新規]** タブ

主な概念については、以下のトピックを参照してください。

- 「ビジネスエンティティ」 (ページ 18)
- 「サブジェクト領域」 (ページ 19)
- 「レコード」 (ページ 18)
- 「ベストバージョンオブトゥルース」 (ページ 19)
- 「検索と比較」 (ページ 20)
- 「マージ」 (ページ 20)
- 「階層マネージャリレーション」 (ページ 21)
- 「確認プロセスとタスク」 (ページ 20)

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、https://network.informatica.com にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、https://search.informatica.com にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム（infa_documentation@informatica.com）までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス（PAM）には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、http://velocity.informatica.com からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、https://marketplace.informatica.com からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network を介してグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト（https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html）を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースを見つけるには、https://network.informatica.com にアクセスして eSupport オプションを選択します。

第 1 章

概要

この章では、以下の項目について説明します。

- Data Director の概要, 17 ページ
- 主な概念, 18 ページ
- Data Director へのログイン, 22 ページ
- ユーザーインタフェース, 24 ページ

Data Director の概要

Data Director はデータガバナンスツールです。Data Director を使用して、MDM Hub ストアに保管されたマスタデータを作成、管理、および使用します。マスタデータは、組織に重要な、人、場所、物に関するベストバージョンオブトゥルースを表すレコードの集まりです。

マスタデータドメインは、組織全体でのセマンティックスの一貫性をサポートするためにエンタープライズレベルで管理される、組織に重要なデータの領域です。共通マスタデータドメインには、顧客、サプライヤ、場所、チャネル、パートナー、製品、アセット、総勘定元帳が含まれます。マルチドメインマスタデータは、複数のマスタデータドメイン間の重要なデータの並列マスタリングです。マルチドメイン MDM には、組織のビジネスとビジネスプロセスの中心となる、関連マスタデータドメインが含まれます。マルチドメインマスタデータから得られる見識は、企業経営者にとって大変興味深いものです。例えば、ヘルスケア企業では、医者とヘルスケアサイト間の関係から、サービスのギャップが明らかになるかもしれません。

MDM 管理者は Data Director 内で使用するアプリケーションを構成しました。MDM 管理者は、組織にとって意味のある名前でデータ構造を構築することにより、マスタデータドメインを実装しました。例えば、患者は顧客マスタデータドメインの実装です。データ構造は、ツリー構造内のレコードと、ルートレコード、ノードおよび子レコードを関連付けます。MDM 管理者は、ビジネスエンティティおよびサブジェクト領域のいずれかまたは両方を使用できます。データ構造の各タイプには、Data Director の固有のビューのセットが付属しています。アプリケーションでどれが使用されているかを MDM 管理者に問い合わせて、一致する部分の手順に従います。

このガイドは、使用可能なビューの使用方法を提供する、2 つの部分で構成されています。

- Data Director ビジネスエンティティを使用する
- Data Director サブジェクト領域を使用する

ユーザーロールの権限に基づき、次のアクティビティを実行するアプリケーションを使用できます。

- レコードの追加
- レコードの検索および編集
- すべてのソースシステムで最も信頼性の高いデータがレコードに含められていることの確認

- 重複レコードの識別とそれらをマージすることによる解決
- レコード内のデータに対する変更の調査
- マージされたレコードのマージ解除
- レコード間のリレーション管理
- 新しいレコードと変更されたレコードの確認プロセスへの参加

主な概念

Data Director で効果的に作業するには、Informatica Master Data Management の概念についての基本的な理解が必要です。

レコード

Data Director を使用するときには、マスタレコードを操作します。

マスタレコード

マスタレコードには、ルートレコードおよび複数の子レコードが含まれます。Data Director では、マスタレコードの構成と表示は、ビジネスエンティティまたはサブジェクト領域で定義された構成によって異なります。

ルートレコード

ルートレコードには、レコードを識別するデータが含まれます。例えば、John Smith のルートレコードには、名、姓、性別、生年月日などのデータが含まれます。

子レコード

子レコードには、ルートレコードに関連付けられたデータが含まれます。例えば、John Smith の子レコードには住所が含まれ、他の子レコードには電話番号が含まれる場合があります。子レコードに、自身の子レコードを含めることができます。

アクティブなレコード

アクティブなレコードには承認されたマスタデータが含まれます。

保留中のレコード

レコードに変更を加えるときに、その変更をマスタデータとして承認する前に、確認ワークフローを経由する必要がある場合があります。レコードが承認待ちの間、レコードは*保留中のレコード*と呼ばれ、保留中のレコードに対して実行できるアクションは制限されます。変更が承認されると、レコードはアクティブなレコード状態に戻ります。

ソースレコード

ソースレコードには、Data Director で表示されるマスタレコードを作成するのに MDM が使用したデータが含まれます。ソースレコードは組織全体のソースシステムに保存されます。

ビジネスエンティティ

ビジネスエンティティはアプリケーションのマスタデータドメインの実装です。例えば、顧客マスタデータドメインは、個人、患者またはポリシーホルダのビジネスエンティティのタイプで実装できます。

ビジネスエンティティデータ構造は、オペレーショナルリファレンスストアデータベースのベースオブジェクトテーブルにマップします。ベースオブジェクトテーブルには、すべてのマスタレコードが含まれます。例え

ば、ビジネスエンティティのルートノードは、ルートベースオブジェクトテーブルに対応します。ビジネスエンティティの子ノードは、子ベースオブジェクトテーブルに対応します。ビジネスエンティティは、無制限の深さを持つことができますが、子レコードを表示するビューは、特定の深さを超えて意味のある方法ですべてのレベルを表示することができない可能性があります。

関連項目：

- 「レコード」 (ページ 18)
- 「レコードの追加」 (ページ 39)
- 「Person の追加のシナリオ」 (ページ 38)
- 「レコードの編集」 (ページ 59)

サブジェクト領域

ビジネスエンティティのように、サブジェクト領域はマスタデータドメインの実装です。サブジェクト領域は Data Director で使用される元のデータ構造です。

データ構造は、親、子および孫の 3 レベルをサポートします。親レベルはルートベースオブジェクトテーブルに対応します。子および孫レベルは子レコードです。

注: Data Director 用の一部のアプリケーションは、サブジェクト領域のデータ構造およびカスタムコードに依存するので、ビジネスエンティティに移行されていません。アプリケーションに関する質問は、MDM 管理者にお問い合わせください。

ベストバージョンオブトゥルース

Data Director でレコードを参照する場合、組織のソースシステム（Data Director を含む）から統合されたマスタデータが表示されます。MDM Hub は、提供元ソースシステムからデータをロードします。ロードプロセスでは、信頼されたフレームワークとルールを使用して、すべての提供元ソースシステムから、最も正確で最新なデータが含まれていると予想されるセルを特定します。統合されたレコードは、組織で使用できるベストバージョンオブトゥルース（BVT）を表します。

注: BVT レコードは、マスタデータ、ゴールデンプロファイル、またはゴールデンレコードとも呼ばれます。

例えば、車の購入の奨励プログラムを従業員に提供する自動車メーカーを考えます。BVT 顧客レコードを作成するために、データスチュワードは、顧客関係管理（CRM）システムと人事（HR）システムが提供元ソースシステムであると判断します。従業員は人事部に連絡先情報の変更を通知する必要があるため、データスチュワードは CRM システムよりも HR システムの従業員の住所と電話番号を信頼します。

Data Director は、特殊なタイプの関与ソースシステムです。通常、データスチュワードは、すべての提供元ソースシステムの中で Data Director を最も高い信頼レベルに設定します。これは、ユーザーが Data Director のデータを編集した場合、その編集が他のソースシステムよりも優先されることを意味します。また、自動 BVT プロセスをオーバーライドして、正確であることがわかっているセルの値を選択することもできます。

例えば、次の表は、2 つのソースシステムと Data Director のデータを示しています。

ソース	姓	名	電話	電話の信頼スコア
HR システム	Brown	Nancy	555-1235	80
CRM システム	Brown	Nancy	Null	50
Data Director	Brown	Nancy	555-1234	90

Data Director の電話番号の信頼スコアが最も高いため、更新されたその電話番号が使用されます。データスチュワードは、システムの信頼値を増減するルールを追加できます。例えば、電話番号が後で HR システムで更新された場合、直近に更新されたその電話番号が優先されるようにすることができます。

検索と比較

データガバナンスにおけるベストプラクティスは、新しいレコードを追加する前に既存のレコードがないかどうかを確認することです。レコードの追加を開始すると、Data Director（IDD）は、重複するレコードがないかどうかを検索します。

潜在的に重複すると思われるレコードをプレビューして、以下のいずれかのアクションを実行できます。

- 複数のレコードが追加するレコードと一致する可能性がある場合、レコードを並べて比較することができます。レコードの重複が確認された場合、マージを開始できます。
- 1 つのレコードが追加するレコードと一致する場合、そのレコードを開いて関連する作業を開始することができます。この場合、追加しようとしたレコードは破棄されます。
- 一致するレコードがない場合は、新しいレコードの追加を続行できます。

MDM 管理者は、潜在的な重複の検索で使用するフィールドを設定します。

マージ

レコードを比較した後、重複していると思われるレコードをマージできます。

レコードをマージすると、マージされたレコードのルートレコードが 1 つのルートレコードに統合されます。各ルートレコードの子レコードは、マージされたルートレコードの子レコードになります。

関連項目：

- 「重複レコードの解決」 (ページ 80)

確認プロセスとタスク

確認プロセスは、自動化されたビジネスプロセスです。ユーザーがレコードの追加、編集、マージ、またはマージ解除を行うと、そのアクションによって確認プロセスが開始されます。確認プロセスにより、ビジネスマネージャまたはデータスチュワードは、データをマスタデータにする前にデータの確認と最終承認を確実に実行することができます。

マスタデータの変更が確認のトリガとなるかどうかは、ユーザーロールによって決まります。例えば、データの追加または編集が許可されるが、変更の承認が許可されていないユーザーロールの場合、編集またはマージしたレコードを保存したときに、そのアクションによって確認プロセスが開始されます。

確認プロセスにはユーザーアクティビティが含まれます。ユーザーアクティビティは、確認プロセス内でユーザーの参加が必要とされる特定の時点を表します。確認プロセスのインスタンスがユーザーアクティビティに達すると、タスク通知が送信されます。ビジネスマネージャとデータスチュワードはタスクインボックスでタスク通知を受信します。

関連項目：

- 「確認プロセスへの参加」 (ページ 173)
- 「編集の確認プロセスの例」 (ページ 173)

ビジネスエンティティリレーション

リレーションは、2 つのビジネスエンティティ間の接続です。ビジネスエンティティを使用する Data Director で、ビジネスエンティティ間の階層リレーションおよびネットワークリレーションを作成できます。

階層リレーション

階層リレーションは、階層的な、2 つのビジネスエンティティレコード間の接続です。例えば、Informatica ビジネスエンティティは John Smith ビジネスエンティティの親です。

ネットワークリレーション

ネットワークリレーションは、2 つの関連するビジネスエンティティレコード間の接続です。例えば、John Smith のレコードは PX100 キーボードのレコードと関連しています。

エンティティタブの［**階層**］タブを使用して、レコードの階層リレーションを調査します。エンティティタブの［**ネットワーク**］タブを使用して、レコードのネットワークリレーションを調査します。

MDM 管理者は、ビジネスエンティティ間のリレーションを設定します。ビジネスエンティティ間のリレーションに基づき、レコード間のリレーションを作成できます。

階層マネージャリレーション

レコードには、他のレコードへのリレーションがある場合があります。［階層］ビューが有効な場合は、レコードが他のレコードとどのように関連しているかを示すグラフを表示できます。

［**階層**］ビューを使用して、サブジェクト領域を使用する Data Director の階層マネージャリレーションを調査します。雇用主と被雇用者の関係のように階層的なリレーション、および友達同士のように階層的でないリレーションを表示できます。

セキュリティおよびユーザーロール

MDM 管理者はユーザーロールを作成し、リソースへの権限およびユーザーロールの特権を設定し、ユーザーロールをすべてのユーザーアカウントに割り当てます。ジョブ要件に基づき、マスタデータへのアクセス権は他のユーザーと異なる可能性があります。

ビジネスエンティティレコードに対するセキュリティのタイプ

次に示すセキュリティのタイプがあります。

ビジネスエンティティのタイプに基づくレコードへのアクセス

ユーザーロールに、ビジネスエンティティのすべてのタイプ、または一部のタイプへの権限が付与されます。例えば、［新規］ダイアログボックスで作成する権限を持つビジネスエンティティのタイプを表示することができます。顧客および製品のビジネスエンティティへのアクセス権を持つ可能性がありますが、別の人は製品およびサプライヤのビジネスエンティティへのアクセス権を持つ可能性があります。

レコードで実行できるアクション

ユーザーロールにより、ビジネスエンティティの各タイプのレコードへの権限のセットが付与されます。例えば、ビジネスユーザーは、顧客レコードを読み取り、作成する権限を持つ可能性がありますが、データスチュワードも顧客レコードを削除およびマージできる可能性があります。権限はビジネスエンティティのタイプにより異なる可能性があります。

Data Director では、ユーザーロールの権限により実行できるアクションのタイプが制御されます。

- **作成**。新しいマスタレコードを作成および保存できます。
- **読み取り**。マスタレコードを表示できます。
- **更新**。レコードを編集および保存できます。

- **削除**。マスタレコードを削除できます。
- **マージ**。重複するマスタレコードを識別およびマージできます。
- **マージ解除**。以前マージされたマスタレコードのマージを解除できます。

フィールドに指定した値が含まれる場合のレコードへのアクセス

ユーザーロールの権限は、フィールドの値に基づきマスタレコードへのアクセス権を持っているかどうかを制御する、フィールドフィルタにより制約される可能性があります。レコードにフィールドフィルタに指定した値が含まれる場合、フィルタで定義されたルールに基づき、ユーザーロールのレコードへのアクセスが許可されるかまたは拒否されます。

子ノードにレコードがない場合の親レコードへのアクセス

ユーザーロールの権限は、ノードに子レコードがない場合に親レコードへのアクセス権を持っているかどうかを制御する、ノードフィルタにより制約される可能性があります。

レコード内のフィールドへのアクセス

一部のフィールドがユーザーロールに対して非表示になる場合があります。例えば、サプライヤのビジネスエンティティのビューでは、経理部門の人には DUN 番号を表示し、事業部門の人には表示しない可能性があります。

入力できる値

一部のフィールドは、ユーザーロールに基づき選択または追加できる値に制限がある場合があります。

参照エンティティの値

一部のフィールドは、国や性別など、ユーザーロールに基づき共通の値のリストから選択できる値に制限がある場合があります。

レコードへのアクセス不可

過去にアクセスできたレコードにアクセスできなくなることがあります。

次の状況で、アクセスできなくなる可能性があります。

- 自分または誰かが、レコードがユーザーロールに対し拒否されるようにフィールド値を変更した。例えば、ヨーロッパの住所を個人レコードに追加し、GDPR チェックボックスを有効にしたとします。変更を保存した後は、EU のデータスチュワードのみが個人レコードにアクセスできます。
- MDM 管理者が新しいフィールドフィルタまたはノードフィルタをビジネスエンティティに作成した。1 つまたは複数のフィルタに、ユーザーロールへのアクセスを拒否するルールが含まれます。
- MDM 管理者が、割り当てられたユーザーロールを変更した。
- MDM 管理者が、割り当てられたユーザーロールの権限を変更した。

Data Director へのログイン

ログインするには、Data Director の URL とユーザー資格情報が必要です。組織で Data Director 用に複数のアプリケーションを作成している場合は、アプリケーションの名前も必要です。この情報がない場合は、MDM の管理者に問い合わせます。

注: アプリケーションにログインできず、ブラウザで別の MDM アプリケーションをすでに実行中の場合は、新しいブラウザウィンドウを開き、アプリケーションにログインします。MDM Hub を実行するアプリケーションサーバーが両方のアプリケーションに同じセッション ID を使用しているため、問題が発生します。

1. Chrome など、サポートされるブラウザを開きます。

2. Data Director の URL を入力します。URL の形式は次のとおりです。

   ```
   http://<MDM Server host name>:<MDM Server port number>/e360/mdm/entity360view/
   ```

   ［ログイン］ ページが開きます。

3. ユーザー名とパスワードを入力します。
4. ［ログイン］**をクリックします**。
5. 確認のメッセージが表示された場合は、アプリケーションを選択します。

   アプリケーションが開き、**［ホーム］** ページが表示されます。ユーザー名がアプリケーションヘッダーに表示されます。

   ヒント: ユーザー名の横にあるメニューから、パスワードを変更してユーザーインタフェースの言語を変更できます。

Microsoft Internet Explorer の設定

Data Director を Microsoft Internet Explorer で起動した場合、データ変更がユーザーインタフェースに表示されることを確認するには、Web ページが再ロードされるように Microsoft Internet Explorer を設定します。そうでない場合は、データ変更後に、最新のデータではなくキャッシュされたデータが表示されることがあります。

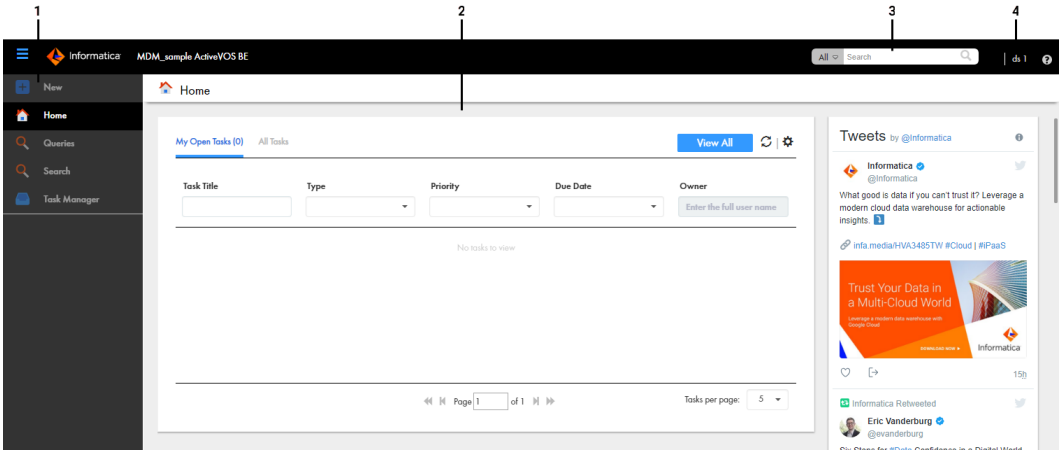
1. Microsoft Internet Explorer を起動します。
2. **［ツール］** > **［インターネットオプション］** をクリックします。
3. **［全般］** タブで、格納される Web ページの新バージョンを Web ページを表示するたびにチェックするように閲覧履歴設定を行います。

   この設定により、Data Director ページの最新バージョンが表示されるようになります。

ユーザーインタフェース

Data Director のユーザーインタフェースには、タブが構成されたナビゲーションバーが含まれます。

次の図は、**[ホーム]** ページが表示されたユーザーインタフェースを示しています。



1. ナビゲーションバー
2. ページ領域
3. 検索ボックス
4. ユーザーオプション

ナビゲーションバーには、Data Director 内の各ページにリンクされたタブがあります。タブには、1 つ以上のパネルを備えたページ領域があります。タブには、ページ内でビューを切り替えることができるものもあります。

注: 一部のタブは、Data Director に表示されない場合があります。例えば、MDM 管理者が、ビジネスエンティティを使用する Data Director 向けのアプリケーションを設定する場合に、**[データ]** タブを削除することがあります。

Data Director には次のタブがあります。

新規

[新規] タブを使用して、レコードを作成し、設定されている場合はデータをインポートします。

注: [新規] ウィンドウに **[ビジネスエンティティ]** と **[サブジェクト領域]** の両方のオプションが表示される場合は、どちらを使用するかを MDM 管理者に問い合わせてください。**[ビジネスエンティティ]** オプションの場合はエンティティタブが表示され、**[サブジェクト領域]** オプションの場合は **[データ]** タブが表示されます。

ホーム

[ホーム] ページは MDM ダッシュボードとして使用します。マネージャおよびデータスチュワードは、タスクインボックスに確認タスクのリストを表示できます。ソーシャルメディアフィード、外部 URL、チャートなど、他のコンポーネントが表示される場合があります。**[ホーム]** ページは、MDM 管理者が設定します。

タスクマネージャ

ビジネスユーザーとタスク管理者は、**[タスクマネージャ]** を使用して、ビジネスエンティティレコードへの変更を確認し、タスクを管理します。**[ホーム]** ページでタスクをクリックすると、**[タスクマネージャ]** が開き、そのタスクに関連付けられたレコードが表示されます。

データ

[データ] タブを使用して、サブジェクト領域レコードを別の視点から検索および表示します。

注: Data Director アプリケーションでビジネスエンティティが使用されていて、**[データ]** タブが表示されない場合、レコードは、ビジネスエンティティタイプの名前を表示するエンティティのタブに表示されます。

[データ] タブには複数のビューがあります。

- サブジェクト領域レコードを検索するには、**[データ]** タブから検索クエリを実行します。検索タブを使用して、検索クエリを管理および使用してサブジェクト領域レコードを見つけます。

  注: Data Director アプリケーションでビジネスエンティティが使用されていて、**[データ]** タブが表示されない場合は、**[検索]** タブまたは **[検索]** ボックスを使用します。
- サブジェクト領域レコードを表示して編集するには、レコードを選択して **[開く]** をクリックします。レコードが **[データ]** ビューに表示されます。
- レコードのソースと保留中の変更を表示するには、**[XREF]** ビューを使用します。
- レコードへの過去の変更を表示するには、**[履歴]** ビューを使用します。
- サブジェクト領域レコードと重複している可能性があるレコードを表示するには、**[一致マージ比較]** ビューを使用します。
- サブジェクト領域レコードに有効日付が含まれている場合、**[有効期間]** ビューでスケジュール設定された変更を表示できます。
- 階層マネージャが有効な場合、サブジェクト領域レコードおよびその関連するレコードを **[階層]** ビューで表示できます。

検索

アプリケーションヘッダーから検索を実行すると、**[検索]** タブに検索の結果が表示されます。検索結果からビジネスエンティティレコードを開くことができます。

エンティティタブ

検索結果でビジネスエンティティレコードを選択し、一時的なエンティティタブでレコードを開きます。タブの名前で、通常はレコードの名前によって開いているレコードを識別しますが、タブ名は設定可能です。エンティティタブでレコードのマスタデータの表示または編集を行うことができます。

注: Data Director アプリケーションでサブジェクト領域のみが使用されている場合、エンティティタブは利用可能にならず、レコードは **[データ]** タブで表示されます。

エンティティタブでは、以下のビューをタブで開くことができます。

- ビジネスエンティティレコードを表示して編集するには、**[ビジネスエンティティ]** ビューを使用します。
- ビジネスエンティティレコードのソースを表示するには、**[相互参照レコード]** ビューを使用します。
- ビジネスエンティティレコードの過去の変更を表示するには、**[履歴]** ビューを使用します。
- ビジネスエンティティレコードおよび重複している可能性があるレコードを表示するには、**[一致したレコード]** ビューを使用します。
- ビジネスエンティティレコードの階層リレーションを表示するには、**[階層]** ビューを使用します。
- ビジネスエンティティレコードのネットワークリレーションを表示するには、**[ネットワーク]** ビューを使用します。
- ビジネスエンティティレコードに有効日付が含まれている場合、**[タイムライン]** ビューでスケジュール設定された変更を表示できます。

注: MDM 管理者がカスタムレコードビューを作成した場合、異なるタブ名が表示されることがあります。

その他のタブ

MDM 管理者はその他のタブを設定できます。

追加ページ

MDM 管理者は、ビジネスエンティティモデルを使用する Data Director アプリケーションの追加ページを設定できます。追加ページは、カスタムタブに関連付けられ、ユーザーに役立つ情報を表示するカスタムページです。

レコードビュー

MDM 管理者が Data Director 向けのアプリケーションをどのように設定したかに基づいて、マスタデータに複数の方法でアクセスできる場合があります。Data Director でマスタデータにアクセスするときは、レコードビューを使用します。ビジネスエンティティ用のレコードビューとサブジェクト領域用のレコードビューがある場合があります。

通常、MDM 管理者は、ビジネスエンティティとサブジェクト領域のいずれかを使用するように、アプリケーションを設定します。ナビゲーションバーに［**データ**］タブが表示されない場合は、ビジネスエンティティのレコードビューにアクセスできます。［**データ**］タブが表示される場合は、サブジェクト領域のレコードビューにアクセスできます。

アプリケーションでビジネスエンティティとサブジェクト領域の両方がサポートされる場合、そのアプリケーションはハイブリッドアプリケーションであり、両方のタイプのレコードビューを使用できます。この場合、ナビゲーションバーに［**データ**］タブが表示されます。また、［**新規**］タブを使用してレコードを作成すると、［**ビジネスエンティティ**］オプションと［**サブジェクト領域**］オプションが表示されます。

レコードの追加方法に関係なく、MDM Hub ストアではビジネスエンティティまたはサブジェクト領域を構成するレコードが同一の方法で保存されます。親レコードには識別情報が含まれます。子レコードには、住所や電話番号など、他のタイプの関連情報が含まれます。

次の表は、ビジネスエンティティを使用する Data Director のレコードビューと、サブジェクト領域を使用する Data Director のレコードビューの違いを示します。

要素	Data Director **ビジネスエンティティを使用する**	Data Director **サブジェクト領域を使用する**
レコードビューへのアクセス	エンティティタブに含まれるタブを使用する。	［**データ**］タブに含まれるタブを使用する。
レコードビューのデータ	マスタデータ 場合によっては、ソーシャルメディアなどの外部ソースからの関連データも含まれる。 場合によっては、［**類似するレコード**］パネルなどの他のパネルも含まれる。	マスタデータ
主要エンティティの表現	ビジネスエンティティ	サブジェクト領域
レコードのネスト	ビジネスエンティティは、無制限の深さの子孫レコードを持てる。	サブジェクト領域には、孫レベルまでの子孫レコードを含めることができる。
ユーザーインタフェースの言語	使用する言語を選択する。アプリケーションヘッダーで、ユーザー名の横にあるメニューを選択し、［**言語の変更**］を選択する。	使用する言語を選択する。アプリケーションヘッダーで、ユーザー名の横にあるメニューを選択し、［**言語の変更**］を選択する。

要素	Data Director **ビジネスエンティティを使用する**	Data Director **サブジェクト領域を使用する**
検索	スマート検索。全文検索を実行します。 アプリケーションヘッダーの［**検索**］ボックスに、検索用語を入力する。 ［**検索**］タブの［**検索**］ボックスに、検索用語を入力する。 タスクマネージャの［**検索**］ボックスに、検索用語を入力する。	検索クエリ。フィールドで用語を検索します。 ［**データ**］をクリックして、既存の検索クエリを使用するか、新しい検索クエリを作成する。
Data Director バージョンでのサポート	10.0 以降	サポートされるすべてのバージョン
レコードビューを使用する Data Director アプリケーション	Data Director バージョン 10.0 以降用に開発されたアプリケーション。 また、MDM 管理者は古いアプリケーションをアップグレードできる。	Data Director バージョン 9.7.x 以前用に開発されたアプリケーション。 **注**: サブジェクト領域に基づく一部のアプリケーションには、ビジネスエンティティに簡単には変換できないカスタマイズが含まれます。

関連項目：

- 「サブジェクト領域を使用する Data Director」 (ページ 114)

第 2 章

入門ガイド

この章では、以下の項目について説明します。

- 入門ガイドの概要, 28 ページ
- ホームページ, 28 ページ
- スタートページ, 32 ページ
- タスクのソートとフィルタリング, 32 ページ
- ホームページでのデータの更新, 34 ページ
- タスクインボックスのカラムの設定, 34 ページ
- ユーザーインタフェースのローカライズ, 35 ページ

入門ガイドの概要

Data Director にログインすると、**[ホーム]** ページが表示されます。**[ホーム]** ページは、組織およびユーザーロールに固有です。

[ホーム] ページのレイアウトに基づいて、レポート内のデータを監視したり、ソーシャルメディアへの投稿を監視したり、埋め込み検索エンジンで検索したり、タスクインボックスを整理したりできます。

関連項目：

- 「ビジネスエンティティレコードの追加」 (ページ 37)
- 「レコードの編集」 (ページ 59)
- 「重複レコードの解決」 (ページ 80)
- 「ベストバージョンオブトゥルースの確立」 (ページ 89)
- 「データ変更の調査」 (ページ 93)
- 「階層とリレーションの調査」 (ページ 152)
- 「確認プロセスへの参加」 (ページ 173)

ホームページ

[ホーム] ページをデータ監視ダッシュボードとして使用します。**[ホーム]** ページでは、マスタデータに関する情報を表示するグラフを含めたり、タスクインボックスで利用可能なタスクのリストを表示したりできます。

また、［**ホーム**］ページに、Twitter や検索エンジンといった他の外部ソースのコンテンツを含めることもできます。

注: MDM 管理者は、ユーザーロールごとに［**ホーム**］ページを設定します。あるユーザーと別のユーザーでユーザーロールが異なる場合、一方のユーザーのページのデザインがもう一方のユーザーのページと異なることがあります。

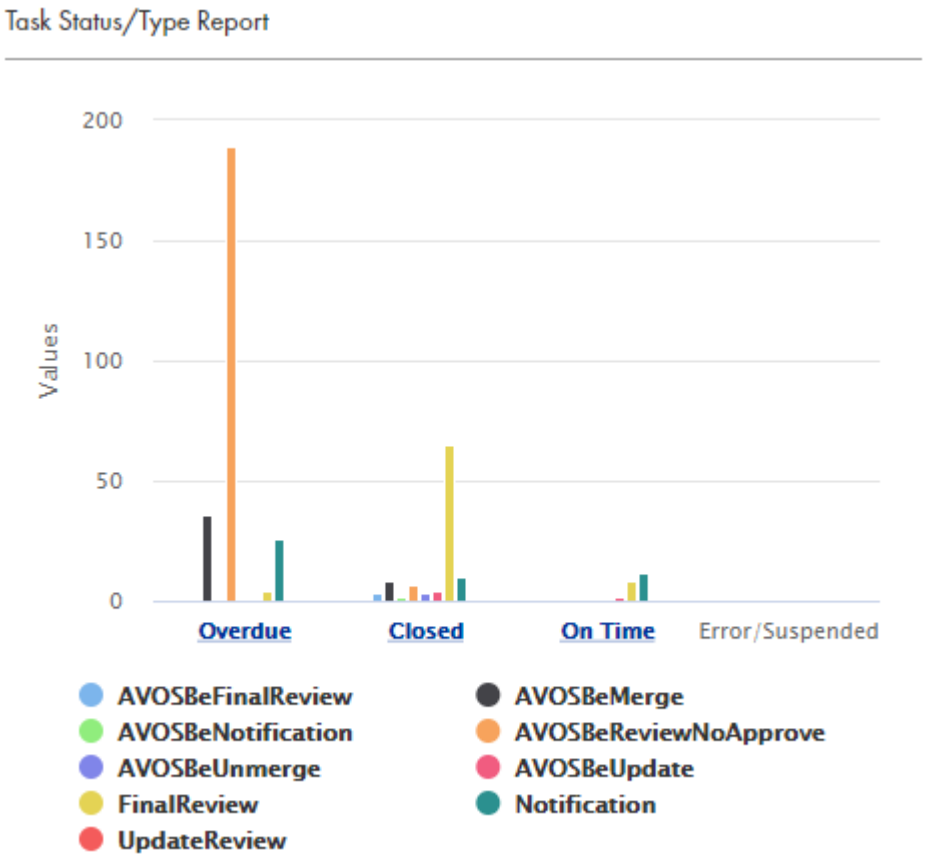
グラフ

［**ホーム**］ページには、グラフを含めることができます。グラフは、ビジネスエンティティレコードやタスクに関する情報、およびその他のタイプの情報を視覚的に表示します。

グラフ内のデータを選択し、データの粒度が別のレイヤで提供されるドリルダウングラフに移動できます。グラフ内のデータを選択してから、関連レコードまたはタスクを表示する Data Director の別のインタフェースに移動することもできます。

注: MDM 管理者は、ドリルダウングラフまたは別のインタフェースへのリンク、グラフのルックアンドフィール、グラフで使用されるソースデータを含む、グラフを設定します。グラフの変更を要求するには、MDM 管理者に連絡してください。

次の図に、タスクのステータスに基づいてタスクの数を表示するグラフを示します:



ソーシャルメディアの投稿

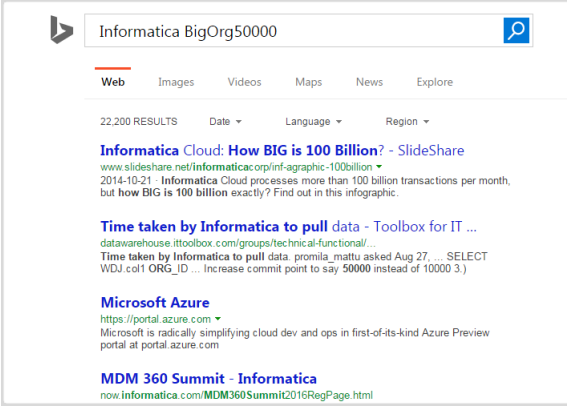
[ホーム] ページにソーシャルメディアの投稿を含めることができます。ソーシャルメディアの投稿は、組織のソーシャルメディアでのプレゼンスを把握するのに役立ちます。

例えば、次の図は Twitter 投稿を示しています。

検索エンジンと外部 URL

[ホーム] ページには、埋め込み検索エンジンまたはその他の外部 URL を含めることができます。外部 URL を埋め込むと、Informatica Data Director 内からそのままインターネットにアクセスできます。例えば、あるビジネスエンティティについて調べるためにインターネットを検索したり、競合他社のオファリングを監視したりできます。

次の図は、埋め込み Bing 検索エンジンを示しています。

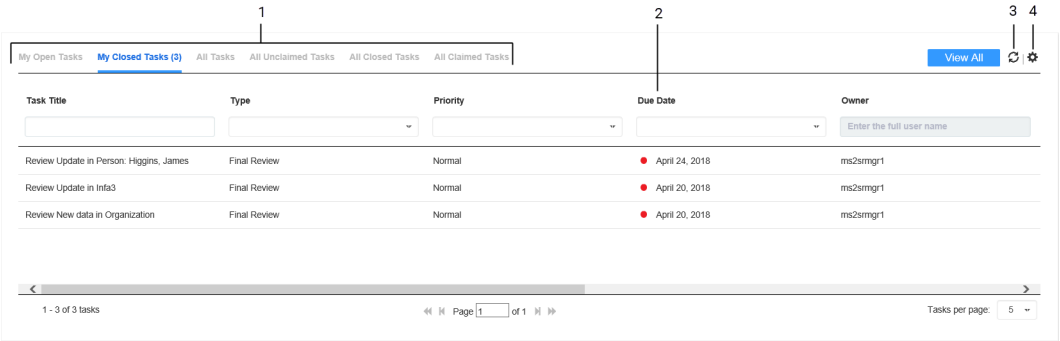


タスクインボックス

タスクは、確認プロセスへの参加を求める要求です。例えば、新しいレコードの承認や、レコードに対する変更の確認が必要になる場合があります。タスク通知はタスクインボックスで受信します。デフォルトでは、タスクインボックスには、最初のクイックフィルタに基づいたタスクが表示されます。例えば、最初のクイック

フィルタが［開いているタスク］の場合、タスクインボックスには開いているタスクすべてが一覧表示されます。

次の図は、［終了したタスク］フィルタが選択された状態のタスクインボックスを示します。



1. クイックフィルタ
2. カラムフィルタ
3. ［更新］アイコン
4. ［テーブル設定］アイコン

次の表で、タスクインボックスの要素について説明します。

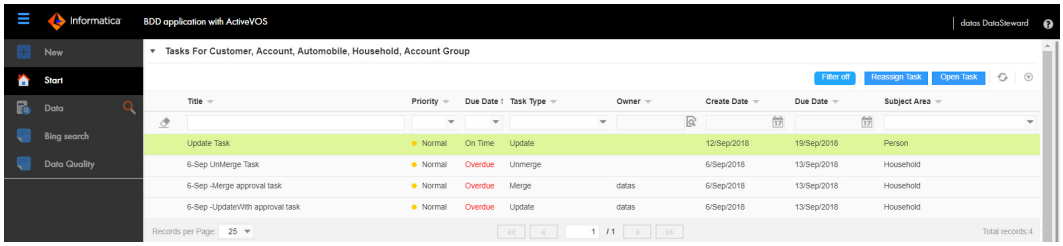
インボックスの要素	説明
フィルタ	フィルタ条件に基づいてタスクをフィルタします。次のタイプのフィルタを単独または組み合わせて使用できます。 - クイックフィルタ。選択した定義済みフィルタに基づいてタスクをフィルタします。 - カラムフィルタ。リストに表示されたタスクのプロパティに基づいてタスクをフィルタします。
すべて表示	タスクマネージャに一覧表示されているタスクすべての詳細を表示します。
［更新］アイコン	タスクインボックスのコンテンツを更新します。
［テーブル設定］アイコン	タスクインボックスに一覧表示されている各クイックフィルタのカラムを設定できる、ダイアログボックスが表示されます。
タスクのタイトル	確認タスクの簡単な説明を表示するリンク。レコードを確認して、タスクにアクションを実行するには、タスクのタイトルをクリックします。タスクマネージャでタスクが開き、関連するレコードが確認パネルに表示されます。ロールに権限がある場合は、タスクにアクションを実行する前に、このビューからレコードを編集できます。
ID	タスクを生成した確認プロセスのインスタンス ID。
タイプ	プロセス内のユーザーアクティビティの名前。
優先度	タスクの優先度。タスクの優先度を低、ノーマル、高のいずれかに設定できます。タスクの生成中に、確認プロセスによって同じタイプのすべてのタスクに同じ優先度が割り当てられます。

インボックスの要素	説明
期限	タスクの期限となっている日付。確認プロセスで、タスクの作成日に定義済みの期間を加算してデフォルトの期限が計算されます。 それぞれのタスクの期限の先頭には、次に示す色付きのドットのいずれかが付いています。 - 緑。タスクの期限が過ぎていないことを示します。 - 赤。タスクの期限が過ぎていることを示します。 - オレンジ。タスクが 24 時間以内に期限切れになることを示します。
ステータス	タスクのステータスは［オープン］または［終了］のいずれかになります。タスクのステータスがオープンの場合、タスクに関連付けられているレコードを表示できます。
所有者	サインインしたユーザーの名前。
作成者	タスクを作成したユーザーの名前。
作成日	ユーザーがタスクを作成した日付。

スタートページ

使用環境で［**データ**］タブが有効で、［**ホーム**］ページがロールで設定されていない場合、［**スタート**］ページをデータ監視ダッシュボードとして使用します。［**スタート**］ページにはタスクインボックスの確認タスクのリストが含まれています。

次の図に、［**スタート**］ページとデフォルトのタスクインボックスを示します。



タスクマネージャが有効ではない場合、タスクをクリックすると、［**データ**］タブにタスクが開きます。タスクマネージャが有効な場合、タスクマネージャでタスクが開きます。

タスクのソートとフィルタリング

タスクインボックスのタスクのリストをソートおよびフィルタできます。例えば、マージプロポーザルを確認する前に、編集されたレコードを確認する必要がある場合があります。

タスクインボックスには、クイックフィルタとカラムフィルタがあります。これらのフィルタを組み合わせることで、特定の結果を取得できます。例えば、割り当てられたタスクのうち優先度が高いものを表示するには、［**開いているタスク**］クイックフィルタを選択し、［優先度］カラムフィルタを［高］に設定します。論理項では、フィルタが AND 演算子で結合されます。

注: 1 度に設定できるカラムフィルタは 1 つです。例えば、リストを［組織］で絞り込んでから、組織のマージタスクのみを表示するようにさらに結果を絞り込むことができます。

1. ナビゲーションバーで［**ホーム**］をクリックします。

   タスクインボックスが表示されます。

2. タスクのリストをフィールド別にソートするには、そのフィールド名のカラムの見出しをクリックします。例えば、タスクをタスクタイプ別にソートするには、［タスクタイプ］というカラムの見出しをクリックします。

   選択したカラムの値に基づいてタスクがソートされます。カラムの見出しの横にある上矢印は、値が昇順にソートされていることを示します。カラムの見出しの横にある下矢印は、値が降順にソートされていることを示します。

   注: デフォルトでは、タスクインボックスでは、大文字小文字を区別せずにタスクがソートされます。ソートするタスクの数が `CompositePagerTotalRecords` プロパティの値よりも多い場合、大文字小文字を区別するソートはデータベースに依存します。`CompositePagerTotalRecords` プロパティの詳細については、『*Multidomain MDM Data Director の実装ガイド*』を参照してください。

3. タスクのリストをフィルタするには、フィルタ条件を任意の順序で設定します。

   - 最もよく使用される条件を基準にしてタスクをフィルタするには、次のクイックフィルタのいずれかを選択します。

フィルタ	説明
開いているタスク	開いているタスクを表示します。
終了したタスク	終了したタスクを表示します。
すべてのタスク	ユーザーグループに割り当てられた、終了したタスク、引き受け処理したタスク、引き受け解除したタスクをすべて表示します。
すべての引き受け解除したタスク	ユーザーグループに割り当てられた、引き受け解除したタスクをすべて表示します。
すべての終了したタスク	ユーザーグループ内のユーザーが終了したすべてのタスクを表示します。
すべての引き受け処理したタスク	ユーザーグループ内のユーザーが引き受け処理したすべてのタスクを表示します。

   - カラム見出しの値に基づいてタスクをフィルタするには、次のカラム見出しに適切な値を入力します。

カラム	説明
タスクのタイトル	指定したテキストを含むタスクを表示します。タスクのタイトルに検索するテキストを入力します。
ID	入力した値に基づいてタスクを表示します。
タイプ	選択したタイプのタスクを表示します。リストから［**最終確認**］や［**マージ**］などのタスクタイプを選択します。
優先度	［**高**］など選択した優先度のタスクを表示します。リストから優先度を選択します。

カラム	説明
期限	期限を過ぎているタスク、または特定の期間に期限が来るタスクを表示します。リストから期限のオプションを選択します。
ステータス	**［オープン］**や**［クローズ］**など選択したステータスのタスクを表示します。リストからステータスを選択します。
所有者	ユーザーに割り当てられたタスクを表示します。ユーザー名を入力します。
作成者	指定したユーザーが作成したタスクを表示します。
作成日	特定の期間中に作成されたタスクを表示します。リストから作成日オプション（**［最近 7 日］**や**［カスタム範囲］**など）を選択します。

4. フィルタを削除するには、**［フィルタのクリア］**アイコンをクリックします。

ホームページでのデータの更新

［ホーム］ページでデータを分析する前に、現在のデータを表示するようにコンポーネントを更新します。すべてのコンポーネントを同時に更新することも、一部のコンポーネントを個別に更新することもできます。

注: サードパーティコンポーネントは定期的に自動更新される場合があります。その場合、更新間隔は、そのサードパーティコンポーネントが提供している API ににによって決まります。詳細については、MDM 管理者に問い合わせてください。

次のいずれかのタスクを実行します。

- ページ内のすべてのコンポーネントを更新するには、ブラウザインスタンスを更新します。
- タスクインボックスのみを更新するには、**［更新］**アイコンをクリックします。
- グラフを現在のデータで更新するには、**［再計算］**をクリックします。

タスクインボックスのカラムの設定

タスクインボックスには、デフォルトで、管理者がすべてのクイックフィルタ向けに設定したカラムが表示されます。各クイックフィルタに、利用可能なカラムを追加または削除できます。

1. ナビゲーションバーで**［ホーム］**をクリックします。

   タスクインボックスが表示されます。
2. カラムを設定するクイックフィルタを選択します。
3. **［テーブル設定］**をクリックします。

   ［テーブル設定］ダイアログボックスが表示されます。
4. カラムの見出しを追加するには、**［使用可能なフィールド］**セクションでフィールドを選択して**［追加］**をクリックします。
5. カラムの見出しを削除するには、**［選択したフィールド］**セクションでフィールドを選択して**［削除］**をクリックします。

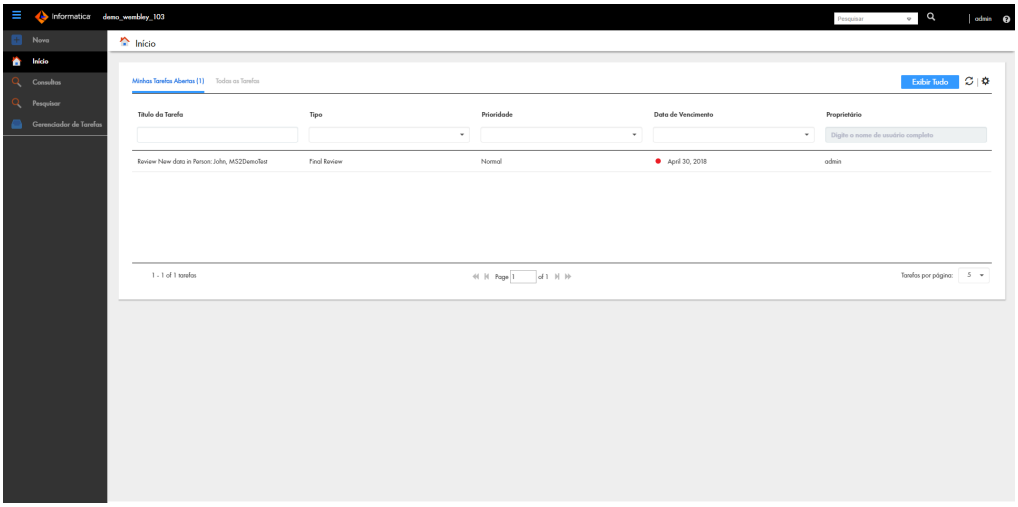
6. ［**OK**］をクリックします。

ユーザーインタフェースのローカライズ

Data Director ユーザーインタフェースのすべての要素を、別の言語で表示できます。ユーザーインタフェースのすべての要素は、選択した言語にローカライズされます。ローカライズされる要素は、メニュー、ボタン、ナビゲーションリンク、ラベル、エラーメッセージ、およびメタデータです。

1. Data Director にログインして、メッセージが表示されたらアプリケーションを選択します。
2. アプリケーションヘッダーから、ユーザー名をクリックして、［**言語の変更**］を選択し、言語を選択します。

   Data Director ユーザーインタフェースに、選択した言語が表示されます。



パート I: ビジネスエンティティを使用する Data Director

この部には、以下の章があります。

- ビジネスエンティティレコードの追加, 37 ページ
- ドラフトレコードの操作, 43 ページ
- レコードの検索, 46 ページ
- レコードの編集, 59 ページ
- バルクデータのインポート, 68 ページ
- 重複レコードの解決, 80 ページ
- ベストバージョンオブトゥルースの確立, 89 ページ
- データ変更の調査, 93 ページ
- リレーションの調査, 96 ページ
- データ変更イベントでの有効期間の調査, 110 ページ

第 3 章

ビジネスエンティティレコードの追加

この章では、以下の項目について説明します。

- レコードの追加の概要, 37 ページ
- Person の追加のシナリオ, 38 ページ
- 組織の追加のシナリオ, 39 ページ
- レコードの追加, 39 ページ
- DaaS プロバイダのデータを使用したレコードの追加, 41 ページ
- レコードのコピー, 42 ページ

レコードの追加の概要

ビジネスエンティティに基づいてレコードを追加するには、**[新規]** タブで **[ビジネスエンティティ]** オプションを使用して、ビジネスエンティティを選択します。

注: **[新規]** ウィンドウに **[ビジネスエンティティ]** と **[サブジェクト領域]** の両方のオプションが表示される場合は、どちらを使用するかを MDM 管理者に問い合わせてください。**[ビジネスエンティティ]** オプションの場合はエンティティタブが表示され、**[サブジェクト領域]** オプションの場合は **[データ]** タブが表示されます。

MDM 管理者が、ビジネスエンティティをデータや構造を含めて定義します。管理者は、レコードを作成するときに表示されるレコードビューのレイアウトもデザインします。アプリケーションには、1 つ以上のレコードビューを含めることができます。

レコードの作成時に、レコードビューに次のパネルが表示される場合があります。

[レコードの詳細] パネル

レコードビューの主なパネルはデータエントリフォームです。必須フィールドには赤い線があります。

[類似するレコード] パネル

レコードビューに **[類似するレコード]** パネルがある場合、必須フィールドにデータを入力すると、Data Director により、類似するレコードを確認できるリストが生成されます。フォームの入力を終える前に、類似するレコードを確認します。レコードがすでに存在する場合は、新しいレコードを追加する代わりに既存のレコードを編集できます。類似するレコードが、追加するレコードと同じかどうかわからない場合は、新しいレコードの追加を続けます。重複するレコードを追加した場合は、Data Director で一致したレコードを検出して統合できます。

［DaaS プロバイダ］パネル

レコードビューに［**DaaS プロバイダ**］パネルがある場合、表示名などの基本的な情報を指定し、その情報を要求に含めて DaaS プロバイダに送信できます。DaaS プロバイダはそのデータベースで検索を実行し、一致したレコードのリストを返します。各レコードのデータをプレビューできます。2 つ以上のレコードを比較し、レコードの作成にどのレコードを使用するかを指定できます。

［ビジネスエンティティ］ビューのデータ検証

ユーザーが［**ビジネスエンティティ**］ビューでデータを追加または変更するとき、Data Director では、メタデータや場合によっては検証ルールについてデータがチェックされます。メタデータは、データ型や指定できる文字数など、データの期待される形式を定義します。検証ルールは、クレンジングルールまたは Informatica Data Quality ルールです。

注: MDM 管理者がこの目的でカスタムビューを作成した場合は、ビューの名前が変わる場合があります。

検証プロセスは、フィールドレベル、セクションレベル、およびエンティティレベルで実行されます。

- フィールドレベル。［**ビジネスエンティティ**］ビューのフィールドでデータを追加または編集すると、クライアント側の検証プロセスによって、データがメタデータの条件を満たしているかどうかが検証されます。例えば、［日付］フィールドに日付を入力し、そのフィールドから移動すると、検証プロセスによって、入力したデータが期待される日付形式であるか検証されます。
- セクションレベル。［**ビジネスエンティティ**］ビューのセクションですべての変更を適用すると、クライアント側の検証プロセスによって、すべてのデータがメタデータの条件を満たし、必須フィールドにデータが入力されているかどうかが検証されます。
- エンティティレベル。［**ビジネスエンティティ**］ビューでレコードを保存すると、サーバー側の検証プロセスによって、データがメタデータの条件、クレンジングの検証ルール、および Informatica Data Quality のルールを満たしているかどうかが検証されます。

ユーザーの入力がメタデータの条件や検証ルールを満足していない場合は、データに問題があることについてのメッセージが表示されます。

Person の追加のシナリオ

自分が大手保険会社の保険勧誘員であるとします。新しい顧客、Anthony Lomax さんと電話で話をしています。Lomax さんをレコードとして追加する必要があります。

Anthony Lomax さんを追加するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションバーで［**新規**］をクリックします。ビジネスエンティティタイプとして［**Person**］を選択して、［**OK**］をクリックします。
2. ［**姓**］フィールドに「Lomax」と入力します。［**名**］フィールドに「Anthony」と入力します。
3. ［**類似するレコード**］パネルに重複の候補が表示されるので、類似レコードを開きます。

   注: ［**類似するレコード**］パネルは、MDM 管理者がパネルを表示するようにアプリケーションを設定した場合にのみ表示されます。
4. Lomax さんが、既存の Anthony Lomax と同じ人ではないことを確認したら、類似レコードを閉じます。
5. Lomax さんの情報をフォームに追加し終わりました。

組織の追加のシナリオ

自分がある企業のマーケティング部門に所属しているとします。新たに顧客 Time Warner を獲得しました。Time Warner は組織です。Time Warner を「Organization」ビジネスエンティティレコードとして追加します。

Time Warner を追加するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションバーで［**新規**］をクリックします。ビジネスエンティティタイプとして［**Organization**］を選択して、［**OK**］をクリックします。
2. DaaS プロバイダの必須フィールドを入力します。［**表示名**］フィールドに、「Time Warner」と入力します。［**表示名**］フィールドは必須フィールドです。
3. DaaS プロバイダを選択して［**実行**］をクリックします。
4. DaaS プロバイダから返される検索結果を確認します。検索結果で 2 つ以上のレコードを比較します。
5. 一致候補であるレコードを選択し、［**これを使用**］をクリックしてレコードを作成します。
6. 一致候補が見つからない場合は、検索結果を閉じ、データエントリフォームにデータを追加し、［**保存**］をクリックしてレコードを作成します。

レコードの追加

ビジネスエンティティモデルを使用するレコードを追加するには、ナビゲーションバーの［**新規**］タブから、ビジネスエンティティのタイプを選択します。

1. ナビゲーションバーで［**新規**］をクリックします。［**新規**］ウィンドウで、ビジネスエンティティタイプを選択して、［**OK**］をクリックします。

   エンティティタブが開き、ビジネスエンティティに対応するデータエントリフォームが表示されます。フィールドの赤い線は必須フィールドであることを示します。
2. フォームの各必須フィールドで、フィールドをクリックして値を入力します。

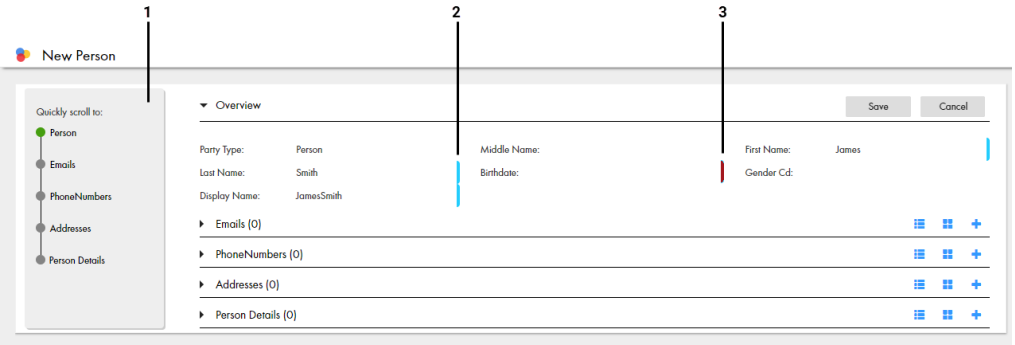
   注: テキストを追加するときは、次の表記規則に従います。

   - 検索するレコードの検索文字列をすべて入力するか、検索文字列とワイルドカード文字のアスタリスク（*）を入力します。ワイルドカード文字は検索文字列の末尾か途中に使用できます。例えば John を検索する場合、`Jo*`または `J*n` と指定できます。
   - 検索文字列を提示するように検索を設定した場合は、検索文字列を数文字入力して、検索文字列として提示された値のいずれかを選択します。

     注: 値が提示されるのは、1 つのビジネスエンティティタイプで検索した場合だけです。

   検索文字列に、「+、-、&、||、!、( )、{ }、[ ]、^、"、~、?、:、\」のいずれかの特殊文字を含める場合は、円記号をプレフィックスとして特殊文字の先頭に付加します。円記号をプレフィックスとして各特殊文字の先頭に付加しないと、検索結果が返されない、または誤った検索結果が返される場合があります。例えば `AT&T` を検索する場合、検索文字列には `AT\&T` と指定する必要があります。

   次の図は、Person ビジネスエンティティのデータエントリフォームのサンプルを示しています。必須フィールドは入力済みです。



1 ナビゲーションメニュー

2 必須フィールドのインジケータ

3 変更したフィールドのインジケータ

3. **［類似するレコード］**パネルに、類似するレコードのリストが表示されている場合は、リストの内容を確認してください。

   注: ［類似するレコード］パネルは、MDM 管理者がパネルを表示するようにアプリケーションを設定した場合にのみ表示されます。

   a. **［類似するレコード］**パネルで、レコード名の横にある情報アイコンをクリックします。

   b. そのレコードと追加しようとしているレコードが同じかどうかを確認するために、他のデータ値もチェックします。

      - 同じレコードの場合は、**［このレコードを使用］**をクリックします。確認を求められたら、**［はい、続行します］**をクリックします。作成中のレコードは破棄され、タブが閉じられます。選択したレコードがエンティティタブで開きます。必要に応じてデータを編集できます。
      - 同じレコードではない場合は、**［閉じる］**をクリックします。
      - 作成中のエンティティを破棄せずに、プレビューしているレコードの子レコードを確認するには、**［ビジネスエンティティの表示］**をクリックします。プレビューしているレコードがエンティティタブで開きます。

   c. 同じ方法で他の類似するレコードを確認します。

   d. レコードが存在しない場合は、作成中のレコードが含まれるタブに戻ります。

4. データエントリフォームで、オプションのフィールドにデータを追加します。

   a. フィールドを入力します。

   b. 必要に応じて、画像を追加します。画像フィールドに有効な URL を入力します。

      注: 最適な結果を得るには、200 x 200 ピクセル以下の画像を使用します。MDM Hub は、画像のファイルではなく、画像の URL を保存します。ファイルの場所が変更された場合、URL を更新する必要があります。

   c. **［適用］**アイコンをクリックします。

5. データエントリフォームに子レコード用のセクションが含まれる場合、セクションに子レコードを追加します。

   a. ナビゲーションメニューで、**［住所］**や**［電話］**などのセクション名をクリックします。

      ビューが選択したセクションにスクロールします。

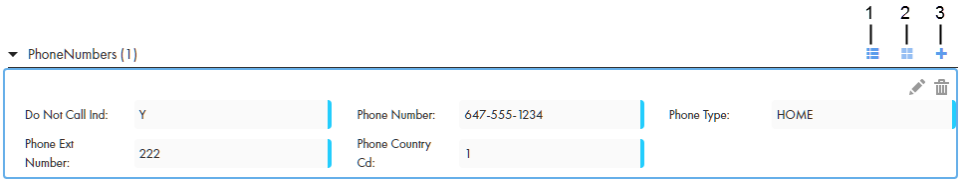
   b. **［子レコードの作成］**アイコンをクリックします。

      データを入力できるフィールドが表示されます。

c. フィールドの表示はテーブルビューとフォームビューで切り替えることができます。**［フォーム］**アイコンまたは**［テーブル］**アイコンをクリックします。

d. フィールドを入力します。

次の図は、フォームビューの**［電話］**セクションのサンプルを示しています。



1 **［テーブル］**アイコン。クリックするとフィールドがテーブル形式で表示されます。

2 **［フォーム］**アイコン。クリックするとフィールドがフォーム形式で表示されます。

3 **［子レコードの作成］**アイコン。クリックすると選択したレコードに子レコードが追加されます。

e. **［適用］**アイコンをクリックします。

6. データの追加が完了したら、**［保存］**をクリックします。

レコードが正常に作成されたことを通知するメッセージが表示されます。確認せずにデータを保存できるユーザーロールの場合、アプリケーションによってレコードがアクティブなレコードとして MDM Hub ストアに保存されます。それ以外の場合、アプリケーションによってレコードが保留中のレコードとして保存され、ロールに関連付けられた確認プロセスが開始されます。

DaaS プロバイダのデータを使用したレコードの追加

Data as a Service（DaaS）が MDM Hub と統合されていてビジネスエンティティ用に設定されている場合、［DaaS プロバイダ］パネルには DaaS プロバイダの一覧が表示されます。DaaS プロバイダが提供したデータを使用して、レコードを追加します。レコードを追加するには、**［新規］**タブから開始して、ビジネスエンティティのタイプを選択します。

1. ナビゲーションバーで**［新規］**をクリックします。**［新規］**ウィンドウで、ビジネスエンティティタイプを選択して、**［OK］**をクリックします。
2. DaaS プロバイダの必須フィールドを入力します。
例えば、**［表示名］**フィールドに、「Time Warner」と入力します。
3. カーソルを**［表示名］**フィールドの外に移動します。

これで DaaS プロバイダを選択できます。

4. **［DaaS プロバイダ］**パネルで、DaaS サービスプロバイダからレコードに関する情報を要求します。

a. 使用する DaaS プロバイダを選択して**［実行］**をクリックします。

DaaS プロバイダが、組織の表示名に基づいて検索結果を返します。

b. 検索結果のレコードが追加するレコードかどうかを調べます。

1. レコードを選択し、**［プレビュー］**をクリックします。
2. データ値が追加するレコードと一致しない場合、**［戻る］**をクリックします。
3. 同じ方法ですべてのレコードを確認します。

c. 必要に応じて、2 つ以上のレコードを比較するには、レコードを選択して**［比較］**をクリックします。

［比較］ページには、選択したレコードのデータが表示されます。

5. 前の手順の結果に基づいて、次のいずれかのアクションを行います。
   - DaaS プロバイダからデータを追加するには、検索結果または［比較］ページから 1 つ以上のエンティティを選択し、**［これを使用］**をクリックします。すべてのエンティティがマージされ、1 つのレコードが形成されます。このレコードで続行します。
   - 作成するエンティティと一致する結果が DaaS プロバイダから返されない場合は、作業中のレコードが含まれるタブに戻り、詳細を入力して**［保存］**をクリックします。

レコードのコピー

ビジネスエンティティレコードをコピーしてから変更を加え、別のレコードとして保存できます。レコードのコピーを実行するには、レコードを作成する権限が必要です。レコードをコピーする場合、読み取り専用フィールドの値はコピーされません。読み取り専用フィールドの値には、デフォルト値が自動的に入力されるか、フィールドが空のままになります。例えば、自動的に入力される一意の顧客 ID フィールドをレコードに含めることができます。レコードをコピーする場合、顧客 ID 値はコピーされません。フィールドは空のままになります。レコードを保存すると、顧客 ID の値が自動的に入力されます。

1. コピーするレコードを検索して開きます。
2. **［アクション］**メニューから、**［コピー］**を選択します。

   レコードのコピーが表示されます。
3. 要件に基づいて値を変更します。例えば、名前、住所、または電子メールアドレスなどの変更を行います。
4. **［保存］**をクリックします。

第 4 章

ドラフトレコードの操作

この章では、以下の項目について説明します。

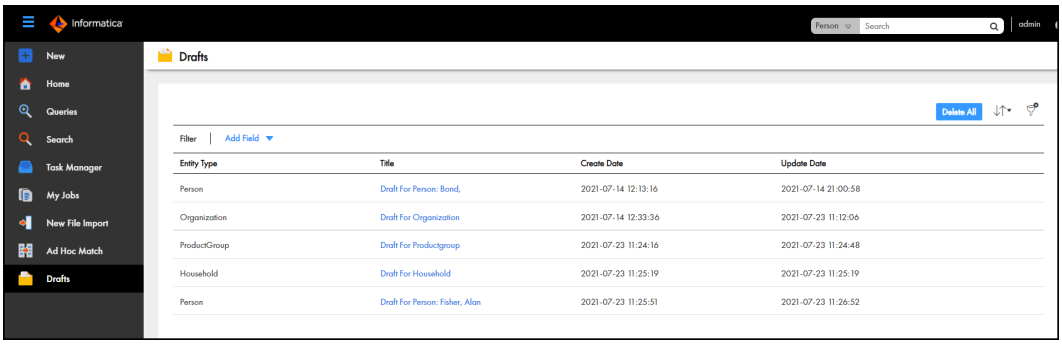
- ドラフトレコードの操作の概要 , 43 ページ
- ドラフトレコードの追加, 44 ページ
- ドラフトレコードの編集, 44 ページ
- ドラフトレコードの送信 , 44 ページ
- ドラフトレコードのフィルタリング , 45 ページ
- ドラフトレコードの削除, 45 ページ

ドラフトレコードの操作の概要

ユーザーロールに作成および編集権限がある場合は、ビジネスエンティティレコードのドラフトを作成できます。レコードを部分的に入力し、ドラフトとして保存し、後で編集して完成させてから、承認のために送信することができます。ドラフトレコードは他のユーザーには表示されません。

[ドラフト] ページを使用して、ドラフトレコードにアクセスして開きます。このページに移動するには、左側のナビゲーションバーにある **[ドラフト]** をクリックします。

次の図に、**[ドラフト]** ページを示します。



ドラフトレコードの追加

ビジネスエンティティレコードを部分的に入力して、ドラフトとして保存することができます。

1. ナビゲーションバーで［**新規**］をクリックし、ビジネスエンティティタイプを選択して、［**OK**］をクリックします。

   エンティティタブが開き、ビジネスエンティティに対応するデータエントリフォームが表示されます。
2. データをレコードに追加します。
3. レコードのドラフトを保存するには、［**キャンセル**］をクリックします。

   ［**新しいレコードを破棄**］ダイアログボックスが表示されます。
4. ［**ドラフトとして保存**］をクリックします。

   レコードはドラフトとして保存されます。［**ドラフト**］ページでドラフトにアクセスできます。

ドラフトレコードの編集

ドラフトレコードを編集して変更を加えてから送信するか、ドラフトとして保持することができます。

1. ナビゲーションバーで［**ドラフト**］をクリックします。
2. 編集するドラフトレコードを選択します。

   レコードが表示されます。
3. ドラフトレコードのデータを編集します。
4. 次のいずれかのアクションを実行します。
   - レコードをドラフト状態で保持するには、［**キャンセル**］をクリックし、［**ドラフトとして保存**］をクリックします。
   - レコードを送信するには、［**保存**］をクリックします。

     確認せずにデータを保存できるユーザーロールの場合、アプリケーションによってレコードがアクティブなレコードとして Hub Store に保存されます。それ以外の場合、アプリケーションによってレコードが保留中のレコードとして保存され、ロールに関連付けられた確認プロセスが開始されます。

ドラフトレコードの送信

ドラフトレコードが完成したら、承認のために送信できます。確認せずにデータを保存できるユーザーロールの場合、アプリケーションによってレコードがアクティブなレコードとして Hub Store に保存されます。それ以外の場合、アプリケーションによってレコードが保留中のレコードとして保存され、ロールに関連付けられた確認プロセスが開始されます。

1. ナビゲーションバーで［**ドラフト**］をクリックします。
2. 送信するドラフトレコードを選択します。

   レコードが表示されます。
3. ［**保存**］をクリックします。

ドラフトレコードのフィルタリング

ドラフトレコードは、ビジネスエンティティタイプまたはタイトルでフィルタリングできます。

1. ナビゲーションバーで［**ドラフト**］をクリックします。
2. ［**フィルタ**］アイコンをクリックします。
3. ［**フィールドの追加**］をクリックして、適用するフィルタを選択します。
4. 次のいずれかの手順を実行します。
   a. ［**エンティティタイプ**］を選択した場合は、フィルタとして使用するビジネスエンティティのタイプを選択します。

      Data Director は、選択したビジネスエンティティタイプに属するすべてのドラフトレコードを取得します。

   b. ［**タイトル**］を選択した場合は、ドラフトレコードのフィルタリングに基づく値を入力します。

      Data Director は、指定された値に一致するすべてのドラフトレコードを取得します。

      例えば、アルファベット b を入力すると、Data Director はタイトルにアルファベットの b を含むすべてのドラフトレコードを一覧表示します。

ドラフトレコードの削除

単一のドラフトレコード、一部のドラフトレコード、またはすべてのドラフトレコードを完全に削除できます。

1. ナビゲーションバーで［**ドラフト**］をクリックします。
2. 次のオプションから選択します。
   - 単一のドラフトレコードを削除するには、削除するレコードにマウスを合わせて、［**削除**］アイコンをクリックし、［**ドラフトの削除**］をクリックします。
   - 複数のドラフトレコードを削除するには、ビジネスエンティティタイプまたはタイトルでレコードをフィルタリングし、［**すべて削除**］をクリックし、確認ダイアログボックスで［**すべて削除**］をクリックします。
   - すべてのドラフトレコードを削除するには、［**すべて削除**］をクリックし、確認ダイアログボックスで［**すべて削除**］をクリックします。

第 5 章

レコードの検索

この章では、以下の項目について説明します。

- レコードの検索の概要, 46 ページ
- 検索ボックスを使用したレコードの検索, 48 ページ
- クエリを使用したレコードの検索, 51 ページ
- クエリの管理, 55 ページ
- 保存済みクエリの移行と共有, 57 ページ
- 子レコードのフィルタ, 58 ページ

レコードの検索の概要

レコードを見つけるには、検索ボックスに検索テキストを入力するか、クエリフォームを使用します。検索結果にはレコードの最も重要な詳細が表示されます。レコードを開くことにより、さらに詳細を表示させることができます。

検索ボックスを使用して、レコードを検索してフィルタできます。ただし、同じ検索やフィルタ操作を繰り返し行う場合は、クエリを作成して保存するのが効率的です。

検索ボックスを使用して全文検索を実行します。検索フォームである検索クエリを使用して、検索条件を指定します。

クエリを使用する場合は、クエリを作成した特定のビジネスエンティティ内で検索を行えます。一方、検索ボックスを使用する場合は、環境に応じて、ビジネスエンティティ内での検索に加えて、すべてのビジネスエンティティに渡って検索できる場合があります。

注: 表示される検索オプションは、MDM 管理者の設定内容によって決まります。レコードを検索するビジネスエンティティに対し必要な権限を持っている必要があります。

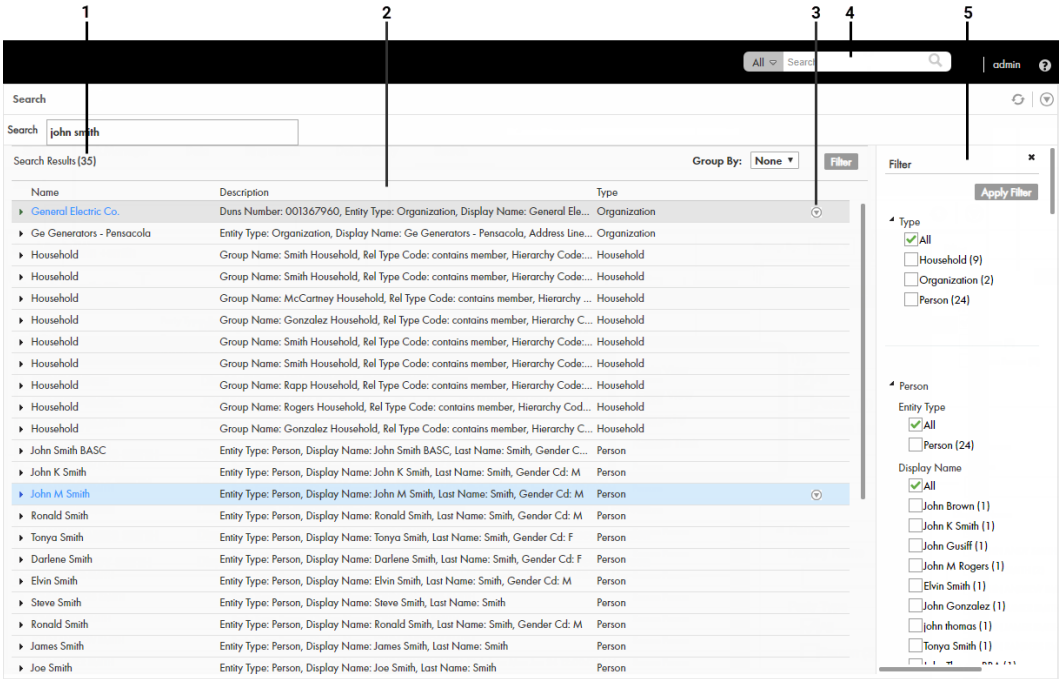
検索ページ

アプリケーションヘッダーの［**検索**］ボックスから検索を実行すると、［**検索**］ページが［**検索**］タブに表示されます。検索を実行すると、検索条件を満たすレコードのリストが返されます。

［**検索**］ページを使用して、検索結果を確認します。検索結果のレコードを展開すると、レコードの詳細のサマリを表示できます。検索結果を絞り込むには、フィルタを使用できます。

ビジネスエンティティタイプに基づいて、検索結果に表示するレコードをグループ化できます。レコードをグループ化した場合、関連するビジネスエンティティタイプのグループ内でレコードを探すことができます。

次の図に、［**検索**］ページの例を示します。



1. 結果の合計
2. ［検索結果］ パネル
3. ［アクション］ メニュー
4. 検索ボックス
5. ［フィルタ］ パネル

［検索］ ページには以下のセクションが含まれます。

結果の合計

検索ボックスに入力した検索文字列に基づく検索結果の合計数が表示されます。

［検索結果］ パネル

見つかった結果の合計数と、検索結果の一部であるレコードのリストが表示されます。検索結果に表示されたレコードをビジネスエンティティタイプ別にグループ化できます。

［アクション］ メニュー

レコードに実行できるアクションが表示されます。例えば、**［ビジネスエンティティ］** ビューなどのビューでレコードを開いたり、エンティティに対するタスクを作成したりできます。

注: MDM 管理者がこの目的でカスタムビューを作成した場合は、ビューの名前が変わる場合があります。

［フィルタ］ パネル

検索結果をフィルタするためのフィルタ条件が表示されます。フィルタを使用し、選択したフィルタ条件または入力したフィルタ条件の値に基づいて検索結果を絞り込みます。検索結果をフィルタする必要がない場合は、**［フィルタ］** パネルを非表示にできます。

フィルタ条件

フィルタプロパティ。このプロパティを選択するか、値を入力して、検索結果を絞り込むことができます。

［クエリ］ページ

［クエリ］ページを使用して、クエリを作成して実行します。クエリを実行すると、指定した基準を満たすレコードのリストが返されます。

［クエリ］ページを開くには、**［クエリ］**タブをクリックします。デフォルトのクエリがある場合は、デフォルトのクエリが開きます。ない場合は、**［保存済みクエリ］**パネルが表示され、クエリを作成するか、または保存済みクエリを選択することができます。

クエリを実行すると、**［検索結果］**パネルに検索条件を満たすレコードがリストされます。

次の表に、**［クエリ］**ページのユーザーインタフェース要素を示します。

ユーザーインタフェース要素	説明
Query パネル	保存したクエリまたは開いているクエリを一覧表示する。自分が作成したクエリはクエリパネルに表示される。
実行	開いているクエリを実行する。
保存	クエリを保存する。
保存済みクエリに戻る	保存したクエリが**［保存済みクエリ］**パネルに表示される。
［クエリ結果］パネル	クエリ条件を満たすレコードがリストされる。

検索ボックスを使用したレコードの検索

検索ボックスを使用して、レコードの検索を実行できます。表示、編集、または削除するレコードを検索する場合があります。

Data Director アプリケーションは、エラスティック検索を使用するように設定する必要があります。アプリケーションがエラスティック検索を使用するように構成されている場合、1 つのビジネスエンティティ内のレコードを検索できます。

レコードを検索するには、検索ボックスに検索文字列全体または一部を入力します。検索文字列には、キーワード、数値、および演算子を含めることができます。a、an、of、with などのストップワードは、検索処理では無視されます。

ワイルドカード演算子*および?を検索文字列で使用できます。ワイルドカード演算子*は、ゼロ個以上の文字に一致するプレースホルダです。ワイルドカード演算子?は単一の文字に一致します。

次の表に、検索文字列の例とそれぞれの働きについて説明します。

検索文字列の例	検索動作
John	John、John Smith、John Anderson、John Anderson Smith などの John を含むレコードを検索します。
John Smith	John、Smith、または John と Smith の両方を含むレコード（John Smith や John Anderson Smith など）を検索します。

検索文字列の例	検索動作
John Anderson Smith	John Smith、John Anderson、John Anderson Smith など、検索文字列を構成する 2 つ以上の用語を含むレコードを検索します。 3 つ以上の用語で検索文字列を構成する場合、検索結果には少なくとも n-1 個の用語が含まれます。この例では、少なくとも 3-1 = 2 個の用語が検索結果に含まれます。
John*	Johnson や Johnny など、John で始まる値を含むレコードを検索します。
Jo*n	Johansson や Jordan など、Jo で始まり n で終わるレコードを検索します。
Al?k	Alek や Alok など、Al と k の間に 1 文字が含まれるレコードを検索します。
Ale?	Alek や Alex など、Ale の後に 1 文字が含まれるレコードを検索します。
Smith-Jones	Smith-Jones や Smith Jones など、Smith と Jones の両方が含まれるレコードを検索します。
Dave&Smith	特殊文字&を含んでいる Dave&Smith が含まれるレコードを検索します。 &、+、=、~などの特殊文字を含むレコードを検索できます。
The Washington Post	ストップワード The は無視し、Washington、Post、または Washington と Post の両方を含むレコードを検索します。

エラスティック検索環境でのレコードの検索

検索ボックスを使用してレコードを検索します。

1. **［検索］** ボックスのリストから、ビジネスエンティティのタイプを選択します。

   ヒント: 検索リストには、表示の権限を持つビジネスエンティティのタイプが含まれます。リストが空の場合は、権限を追加するように MDM 管理者に依頼します。

2. **［検索］** ボックスで、次のいずれかのタスクを実行します。

   - 検索するレコードの検索文字列をすべて入力するか、検索文字列とワイルドカード文字のアスタリスク（*）を入力します。ワイルドカード文字は検索文字列の末尾か途中に使用できます。例えば John を検索する場合、Jo*または J*n と指定できます。
   - 検索文字列を提示するように検索を設定した場合は、検索文字列を数文字入力して、検索文字列として提示された値のいずれかを選択します。

     注: 値が提示されるのは、1 つのビジネスエンティティタイプで検索した場合だけです。

   検索結果に検索文字列の各単語が含まれている必要がある場合は、各検索単語の前に+演算子を追加します。

3. **［検索］** アイコンをクリックします。

   検索結果が **［検索結果］** パネルに表示されます。

4. 検索結果を絞り込むには、フィルタを適用できます。

レコードのフィルタリング

検索を実行したら、フィルタを使用して検索結果を絞り込むことができます。例えば、John Smith の検索結果を絞り込むには、都市名 Tronto で結果をフィルタリングできます。

1. 検索を実行します。

   検索結果は、**[検索]** ページの **[検索結果]** パネルに表示されます。

2. **[フィルタ]** パネルで、必要なフィルタ条件の値を選択するか入力します。

   注: 日時フィールドでフィルタする場合、日付は指定できますが時間は指定できません。デフォルトの時刻（00:00:00 UTC）が使用されます。一部の数値フィルタは、検索結果で値が 10 進法表記で表示されていても、指数表記で表示される場合があります。例えば、フィルタで 10544444.6 が 1.05444446E7 として表示されることがあります。

3. **[適用]** をクリックします。

   検索結果には、適用したフィルタに一致したレコードのみが含まれます。

4. すべてのフィルタ条件をクリアするには、**[すべてクリア]** をクリックします。

レコードの表示エラスティック検索環境

[ビジネスエンティティ] ビューの **[検索結果]** パネルから、または任意のレコードビューからレコードを開くことができます。レコードを開く前に、レコードをプレビューできます。**[レコードのプレビュー]** ウィンドウにプレビューが表示され、最大で 10 レベルまでレコードを表示できます。このレベルには、親レコードのレベルと子レコードのレベルの両方が含まれます。

1. **[検索結果]** パネルで、目的のレコードを選択します。

   注: 説明の前に「保留中」と記されている場合、レコードに未承認の保留中の変更があることを示しています。レコードを開くことはできますが、確認および承認プロセスが終了するまで、変更を行うことはできません。

2. 正しいレコードがあることを確認するには、**[プレビューの表示]** アイコンをクリックします。

   [レコードのプレビュー] にレコードの詳細が表示されます。

3. レコードを開くには、**[新しいウィンドウで開きます]** アイコンをクリックします。

   レコードが **[ビジネスエンティティ]** ビューで開きます。開いているレコードを参照および編集できます。

4. 他のビューでレコードを開く場合は、**[その他のアクション]** アイコンをクリックしてから **[レコードの詳細]** を選択します。表示するタブを選択します。

   注: 開いたレコードに表示されるタブは、Data Director の設定とユーザーロールの権限によって異なります。

   Data Director アプリケーションでは、次のビューが利用可能である可能性があります。

ビュー	説明
一致したレコード	開いたレコードと一致するレコードを表示する。重複レコードを識別して解決できる。
相互参照レコード	レコードのベストバージョンオブトゥルースに貢献するレコードを表示する。別のレコードとマージされたレコードをマージ解除できる。
履歴	レコードの存続期間に渡るデータの変更を表示する。データを変更したデータイベントを識別できる。

ビュー	説明
階層	レコードの階層リレーションを示すツリー図を表示します。選択したレコードの階層リレーションを追加、編集、および削除できます。
ネットワーク	レコードが他のレコードとどのように関連しているかを示すネットワーク図を表示します。選択したレコードの関連リレーションを追加、編集、および削除できます。

選択したビューでレコードが開きます。

クエリを使用したレコードの検索

同じ検索やフィルタ操作を繰り返し実行する場合、検索クエリを使用します。検索クエリを使用する場合、検索条件を指定します。表示、編集、または削除するレコードを検索するために、クエリを使用できます。

クエリを作成および管理するには、**[クエリ]** ページを使用します。特定のビジネスエンティティに基づくレコードを検索するために、クエリを作成できます。作成したクエリを再利用するには、クエリを保存します。クエリを頻繁に使用する場合は、クエリをデフォルトクエリとして設定できます。

他のルックアップフィールドに依存するルックアップフィールドを含むクエリを作成する場合、その他のルックアップフィールドは自動的にクエリに含まれます。例えば、[市] ルックアップフィールドは [州] および [国] ルックアップフィールドに依存します。[市] ルックアップフィールドのみを含むクエリを作成する場合、[州] および [国] ルックアップフィールドは自動的にクエリに含まれます。

クエリのタイプ

基本クエリまたは拡張クエリを使用できます。

基本クエリで求める結果が返されない場合は、拡張クエリを使用します。基本クエリでは検出されないレコードを、拡張クエリで見つけることができます。

基本クエリ

基本クエリは、簡単なテキスト比較を使用して、クエリ値を含むレコードを見つけます。テキストおよびワイルドカード文字（*）を使用して値をクエリできます。

ワイルドカード文字は、特別な検索記号で、基本クエリで特定の文字の代わりにテキストパターンを指定するために使用できます。アスタリスク（*）のワイルドカード文字を使用すると、目的のレコードが見つかる可能性を高めることができます。ワイルドカード文字は、正確に一致するテキストがわからない場合や、類似テキストを検索する場合に便利です。

次の表に、検索文字列の例とそれぞれの働きについて説明します。

クエリ文字列の例	クエリの動作
John Smith	フィールド値に John、Smith、または John や Smith の何らかのバリエーションが含まれるレコードをクエリします。
"John Smith"	フィールド値に John Smith または John Smith の何らかのバリエーションが含まれるレコードをクエリします。

クエリ文字列の例	クエリの動作
John*	John で始まる値が含まれるレコードをクエリします。例えば、Johnson や Johnny が該当します。
Jo*n	Jo で始まり n で終わるレコードをクエリします。例えば、Johansson や Jordan が該当します。
*	すべてのレコードを返します。

注: Microsoft SQL Server の環境では、基本クエリで大文字小文字が区別されません。

拡張クエリ

拡張クエリでは、クエリ値を含むレコードを見つけるために、一致する論理と一致が有効な属性を使用します。一致ルールを拡張クエリで使用するには、一致ルールセットを有効にする必要があります。

拡張クエリの結果にはあいまい一致も含まれており、より信頼性が高くなります。。あいまい一致では、スペルのバリエーションやその他の違いを考慮に入れて、完全には同一でないデータの一致が見逃されないようにしています。例えば、拡張クエリで、"Street"という単語のバリエーションである、"St."や"St"と一致させることができます。

注: 拡張クエリは一致ルールセットを使用します。MDM 管理者が Hub コンソールから一致ルールセットを編集または削除する場合、関連するクエリは Data Director アプリケーションから削除されます。

拡張クエリを使用する場合は、次の条件が満たされていることを確認します。

- ビジネスエンティティに、一致が有効な属性があること。
- クエリで使用する一致ルールセットが、Hub コンソールの［**ルールによる検索を有効にする**］オプションを使用するように、MDM 管理者によって設定されていること。

クエリの作成

特定のビジネスエンティティ内のレコードを検索するために、クエリを作成できます。作成したクエリの所有者は自分になります。

1. ナビゲーションバーで［**クエリ**］をクリックします。
2. ［**保存済みクエリ**］パネルで、［**追加**］アイコンをクリックします。

   ［**新しいクエリ**］ダイアログボックスが表示されます。
3. ［**ビジネスエンティティ**］リストから、検索を実行するビジネスエンティティを選択します。
4. クエリタイプを選択します。

クエリタイプ	説明
基本	クエリ値を含むレコードを見つけるには簡単なテキスト比較を使用します。
拡張	クエリ値を含むレコードを見つけるには一致する論理と一致が有効な属性を使用します。

5. 拡張クエリタイプを選択した場合は、［**一致ルールセット**］リストから一致するルールセットを選択します。

適切な一致ルールセットがリストに表示されない場合にのみ、**［デフォルト］**の一致ルールを選択します。一致ルールは、指定した値に基づいて生成されます。

選択した一致ルールセットで使用可能なフィールドが表示されます。

6. クエリの検索条件として含めるフィールドを選択します。

   選択したフィールドは、**［選択したフィールド］**セクションに表示されます。

7. **［選択したフィールド］**セクションで、フィールドをドラッグして並び順を再調整します。

   各フィールドは、設定した順序でクエリフォームに表示されます。

8. 検索結果のオプションを指定します。

   a. クエリで大文字と小文字を区別するには、**［大文字小文字の区別］**オプションを有効にします。

   b. 検索結果に保留中のレコードを表示するには、**［保留中のレコードの表示］**オプションを有効にします。

   c. 検索結果をソートするには、**［ソート基準］**リストから、検索結果のソート基準にするフィールド名を選択します。

   d. クエリのソート順を、昇順または降順になるように選択します。

9. **［OK］**をクリックします。

   クエリが作成されて、［クエリ］ページ上で開きます。

10. クエリを再利用するために保存するには、**［保存］**をクリックします。

    ［クエリの保存］ダイアログボックスが表示されます。

11. クエリ名と説明を入力します。

12. クエリをデフォルトのクエリとして使用する場合は、**［デフォルトとして設定］**を有効にします。

    デフォルトクエリは、**［クエリ］**タブを開いたときに表示されるクエリです。

13. クエリを他のユーザーと共有するには、**［全員と共有］**を有効にします。

    デフォルトでは、作成者がクエリを所有します。所有者以外のユーザーはクエリを編集できません。

14. **［保存］**をクリックします。

    クエリが保存されて、**［保存済みクエリ］**パネルに表示されます。

作成したクエリを実行したり、クエリを保存して必要なときに実行したりできます。

クエリの実行

クエリを実行してレコードを検索できます。保存されていないクエリを実行するには、検索条件を入力してクエリを実行します。保存済みのクエリを実行するには、まず、クエリを開きます。

1. **［保存済みクエリ］**パネルで、実行するクエリを開きます。

   a. デフォルトのクエリが開かれている場合に保存済みクエリを実行するには、**［戻る］**アイコンをクリックして、**［保存済みクエリ］**ページに移動します。

   b. クエリが所属するビジネスエンティティを展開します。

   c. クエリ名をクリックします。

      クエリフォームが表示されます。

2. 検索するレコードの検索条件を入力します。

3. **［実行］**をクリックします。

   クエリ結果が**［検索結果］**パネルに表示されます。

クエリ結果の表示

クエリを実行すると、**[検索結果]** パネルに表示されるクエリの結果を参照できます。

[検索結果] パネルからレコードを開くことができます。レコードを開く前に、レコードをプレビューできます。**[レコードのプレビュー]** ウィンドウにプレビューが表示されます。

[レコードのプレビュー] と **[ビジネスエンティティ]** ビューには、親レコードと、最大 10 レベルまでの子レコードを表示できます。上位 2 レベルの子レコードが展開されます。それより下の子レコードレベルを表示するには、レコードレベルを展開します。

目的に対して重要なフィールドのみを表示するように、結果をカスタマイズできます。また、結果を CSV ファイルにエクスポートできます。

クエリ結果からレコードを開く

レコードを見つけるためにクエリを実行した後、**[検索結果]** パネルからレコードを開くことができます。

1. **[検索結果]** パネルで、目的のレコードを選択します。
2. 必要に応じて、正しいレコードがあることを確認するために、レコードをプレビューします。
   a. **[プレビューの表示]** アイコンをクリックします。

      [レコードのプレビュー] にレコードの詳細が表示されます。

   b. レコードのプレビュー後、**[閉じる]** をクリックします。
3. レコードを開くには、**[新しいウィンドウで開きます]** アイコンをクリックします。

   レコードが **[ビジネスエンティティ]** ビューで開きます。レコードを参照および編集できます。
4. 他のビューでレコードを開く場合は、**[その他のアクション]** アイコンをクリックしてから **[レコードの詳細]** を選択します。表示するタブを選択します。

   注: 開いたレコードに表示されるタブは、Data Director の設定とユーザーロールの権限によって異なります。

   Data Director アプリケーションでは、次のビューが利用可能である可能性があります。

ビュー	説明
一致したレコード	開いたレコードと一致するレコードを表示する。重複レコードを識別して解決できる。
相互参照レコード	レコードのベストバージョンオブトゥルースに貢献するレコードを表示する。別のレコードとマージされたレコードをマージ解除できる。
履歴	レコードの存続期間に渡るデータの変更を表示する。データを変更したデータイベントを識別できる。
階層	レコードの階層リレーションを示すツリー図を表示します。選択したレコードの階層リレーションを追加、編集、および削除できます。
ネットワーク	レコードが他のレコードとどのように関連しているかを示すネットワーク図を表示します。選択したレコードの関連リレーションを追加、編集、および削除できます。

   選択したビューでレコードが開きます。

クエリ結果のカスタマイズ

表示する必要のあるフィールドだけを含めるように、**[検索結果]** パネルに表示されるクエリ結果をカスタマイズできます。

1. **[検索結果]** パネルから、**[設定]** アイコンをクリックします。

   [クエリカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスが表示されます。
2. 表示するフィールドを **[検索結果]** パネルで選択します。
3. 必要に応じて、検索結果に表示されるフィールドの順番を変更します。
4. **[OK]** をクリックします。

   [クエリカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスが閉じます。クエリ結果には、選択したフィールドのみが含まれます。

クエリ結果のエクスポート

クエリ結果を CSV ファイルで表示するには、クエリ結果を CSV ファイルにエクスポートします。

▶ クエリ結果を CSV ファイルにエクスポートします。

- **[検索結果]** パネルに表示されないフィールドを含むすべてのフィールドをエクスポートするには、**[アクション]** > **[すべてのフィールドのエクスポート]** をクリックします。
- **[検索結果]** パネルに表示されるフィールドのみをエクスポートするには、**[アクション]** > **[現在のフィールドのエクスポート]** をクリックします。

  注: クエリ結果をエクスポートする前に、**[検索結果]** パネルに表示される結果をカスタマイズして、エクスポートするフィールドのみを含めることができます。

クエリの管理

クエリを保存した後、クエリを変更したり、不要なクエリを削除することがあります。

クエリを管理するために、次のタスクを実行できます。

- 保存したクエリの編集。
- 保存したクエリの削除。
- 既存のクエリの新規クエリとしての保存。

注: 拡張クエリは一致ルールセットを使用します。MDM 管理者が Hub コンソールから一致ルールセットを編集または削除する場合、関連するクエリは Data Director アプリケーションから削除されます。

保存したクエリの編集

[保存済みクエリ] パネルを使用して、クエリを編集します。所有するクエリを編集できます。所有するクエリは、自分で作成した、または環境にインポートしたクエリです。

1. **[保存済みクエリ]** パネルで、ビジネスエンティティを展開し、クエリをクリックします。

   クエリが表示されます。
2. **[アクション]** > **[クエリの編集]** の順にクリックします。

   [クエリの編集] ダイアログボックスが表示されます。
3. 必要に応じてクエリを編集します。

クエリに対して次の変更を行うことができます。

- フィールドの追加。
- フィールドの削除。
- クエリの大文字小文字の区別の有効化。
- クエリ結果が保存される必要のあるフィールド名の選択。
- 昇順または降順のソート順の設定。

4. **[OK]** をクリックします。

   クエリが更新されます。クエリを保存または実行できます。

5. クエリを保存または実行します。

保存済みクエリの削除

各ビジネスエンティティに対し、所有するクエリを削除できます。

1. **[保存済みクエリ]** パネルで、ビジネスエンティティを展開します。
2. クエリを選択して、**[アクション]** > **[削除]** の順にクリックします。

   削除の確認ダイアログボックスが表示されます。

3. クエリを削除するには、**[はい]** をクリックします。

   クエリが削除されます。

既存のクエリの新規クエリとしての保存

クエリを最初から作る代わりに、既存のクエリを使用して別のクエリを作成できます。既存のクエリを選択するかまたは開き、新しいクエリとして保存します。

1. **[保存済みクエリ]** パネルで、新しいクエリとして保存するクエリを選択します。
2. **[アクション]** > **[名前を付けて保存]** をクリックします。

   [名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

3. クエリに一意の名前と説明を入力します。
4. 必要に応じて、次のクエリオプションを有効にします。
   - デフォルトとして設定。クエリはデフォルトのクエリになります。
   - 全員と共有。クエリは他のユーザーと共有されます。
5. **[保存]** をクリックします。

   クエリのコピーが新しい名前で保存されて、クエリが開きます。

6. 必要に応じて、新しいクエリを変更します。
   a. **[アクション]** > **[編集]** をクリックします。
   b. 必要に応じてクエリを編集します。

      クエリに対して次の変更を行うことができます。

      - フィールドの追加。
      - フィールドの削除。
      - クエリの大文字小文字の区別の有効化。

- クエリ結果が保存される必要のあるフィールド名の選択。
- 昇順または降順のソート順の設定。

c. ［**OK**］をクリックします。

変更と一緒にクエリが保存されます。

保存済みクエリの移行と共有

MDM 管理者が Data Director の設定をある環境から別の環境に移行するときに、保存済みクエリは移行されません。クエリをソース Data Director アプリケーションからエクスポートし、その後クエリをターゲット Data Director アプリケーションにインポートする必要があります。

アプリケーション内のすべての保存済みクエリを移行することも、個別の保存済みクエリを移行することもできます。クエリを移行するときに、ターゲットアプリケーションにソースアプリケーション内のクエリと同じ名前のクエリが含まれる場合、クエリの名前は変更されます。例えば、PersonQuery という名前のクエリがターゲット環境にすでにある場合、クエリの名前は PersonQuery 1 に変更されます。

また、保存済みクエリを別のユーザーと共有して、そのユーザーはクエリを自分のアプリケーションにインポートできます。自分の環境にインポートしたクエリの所有者は自分になります。

すべての保存済みクエリの移行および共有

すべての保存済みクエリを移行するには、クエリをソース Data Director アプリケーションからエクスポートし、その後クエリをターゲット Data Director アプリケーションにインポートします。また、すべての保存済みクエリを別のユーザーと共有して、そのユーザーはクエリを自分の環境にインポートできます。

1. ［**保存済みクエリ**］パネルヘッダーから［**エクスポート**］アイコンをクリックします。

   保存済みのすべてのクエリが格納された Queries.json ファイルが、デフォルトのダウンロード場所にダウンロードされます。

2. ターゲットアプリケーションに JSON ファイルをインポートします。

   a. ダウンロードされた JSON ファイルをターゲットアプリケーション環境のアクセス可能な場所にコピーします。

   b. ［**保存済みクエリ**］パネルヘッダーから［**インポート**］アイコンをクリックします。

   c. クエリ JSON ファイルを特定してインポートします。

   すべての保存済みクエリがターゲット環境に移行されます。

単一の保存済みクエリの移行および共有

保存済みクエリを移行するには、クエリをソース Data Director アプリケーションからエクスポートし、その後クエリをターゲット Data Director アプリケーションにインポートできます。

1. ソースアプリケーションから、移行するクエリをエクスポートします。

   a. ［**保存済みクエリ**］パネルで、エクスポートするクエリが所属するビジネスエンティティを展開します。

   b. クエリを選択して、［**アクション**］ > ［**エクスポート**］の順にクリックします。

   保存済みクエリが格納された Queries.json ファイルが、デフォルトのダウンロード場所にダウンロードされます。

2. ターゲットアプリケーションに JSON ファイルをインポートします。
   a. JSON ファイルをターゲットアプリケーション環境のアクセス可能な場所にコピーします。
   b. ターゲットアプリケーションで、［**保存済みクエリ**］パネルヘッダーから［**インポート**］アイコンをクリックします。
   c. JSON ファイルを特定してインポートします。

   保存済みクエリがターゲット環境に移行されます。

子レコードのフィルタ

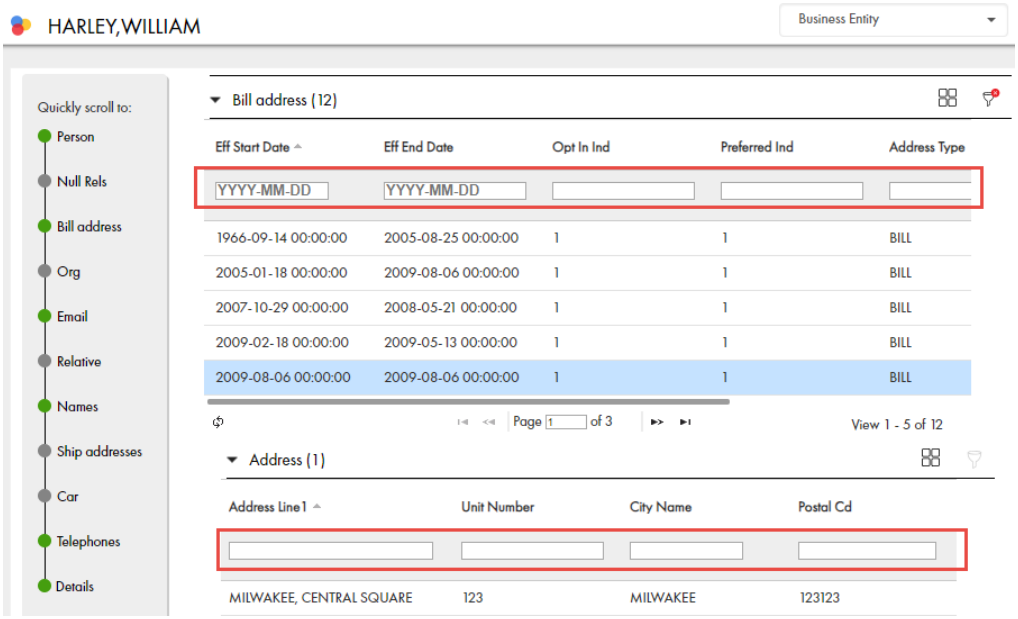
［ビジネスエンティティ］ビューで、フィールド値に基づいて子レコードをフィルタできます。子レコードセクションのレコード数が 4 レコードを超えると、フィルタが有効になります。子レコードが複数ページにリストされた場合でも、フィルタは、子レコード全体のセットに適用されます。

［ビジネスエンティティ］ビューから離れると、フィルタはクリアされます。フォームビューとテーブルビューを切り替えたとき、フィルタは維持されます。

注: フォームビューで日付でフィルタすると、レコードは時間ではなく日付でフィルタされます。

1. 子レコードのセクションを展開します。
2. ［**フィルタ**］アイコンをクリックします。

   フィルタフィールドが表示されます。



3. フィルタ条件を入力し、**Enter** キーを押します。

   フィルタが適用され、すべてのフィルタ条件を満たすレコードが表示されます。

第 6 章

レコードの編集

この章では、以下の項目について説明します。

- レコードの編集の概要, 59 ページ
- 単一レコードの編集, 59 ページ
- 複数のレコードの編集, 61 ページ
- 関連レコードの追加と編集, 63 ページ
- レコードの削除, 67 ページ

レコードの編集の概要

レコードに情報を追加または情報を変更することができます。単一レコードまたは複数のレコードを変更できます。レコードを変更するには、レコードを検索して、［ビジネスエンティティ］ビューでレコードを開きます。

ユーザーロールに権限がある場合は、レコード内のデータの編集やレコードの削除を行うことができます。変更を保存すると、ユーザーロールに基づいて確認プロセスが開始される場合があります。この場合、確認プロセスが終了するまで Data Director によって要求された変更が保留中のレコードに保存されます。確認が終了して承認された場合は、Data Director によって保留中のレコードからアクティブなレコードに変更が適用されます。

保留中のレコードを編集する場合、編集できるのは、保留中の変更がないルートレコードまたは子レコードのみです。

単一レコードの編集

単一レコード内の情報を追加したり、変更する場合があります。

単一レコード内の情報を追加したり、変更する場合があります。単一レコードに変更を加えるには、レコードを検索して、**［ビジネスエンティティ］**ビューでレコードを開きます。

ユーザーロールに権限がある場合は、単一レコードの編集や削除を行うことができます。

注: 保留中のレコードを編集する場合、編集できるのは、保留中の変更がないルートレコードまたは子レコードのみです。

レコードへの変更を保存すると、ユーザーロールに応じて確認プロセスが自動的に開始されます。この場合、確認プロセスが終了するまで Data Director によって要求された変更が保留中のレコードに保存されます。確

認が終了して承認された場合は、Data Director によって保留中のレコードからアクティブなレコードに変更が適用されます。

レコードの編集のシナリオ

John Smith という顧客が、発送済み製品が届かないと連絡してきたとします。この顧客の住所を確認して間違いを訂正し、製品を正しい住所に転送する必要があります。

John Smith のレコードを探して選択し、開いて住所を確認します。住所の郵便番号が誤っていることが判明しました。住所の情報を訂正後、レコードを閉じて保存します。正しい住所に製品を確実に再送します。

レコードの編集

ユーザーロールに編集権限が含まれている場合は、アクティブ状態のレコードを編集できます。

編集できるのは、保留中の変更がないルートレコードまたは子レコードのみです。黄色の保留中のアイコンは、レコードに保留中の変更が含まれていることを示します。

1. **［検索］**ページの**［検索結果］**パネルから、編集するレコードを開きます。

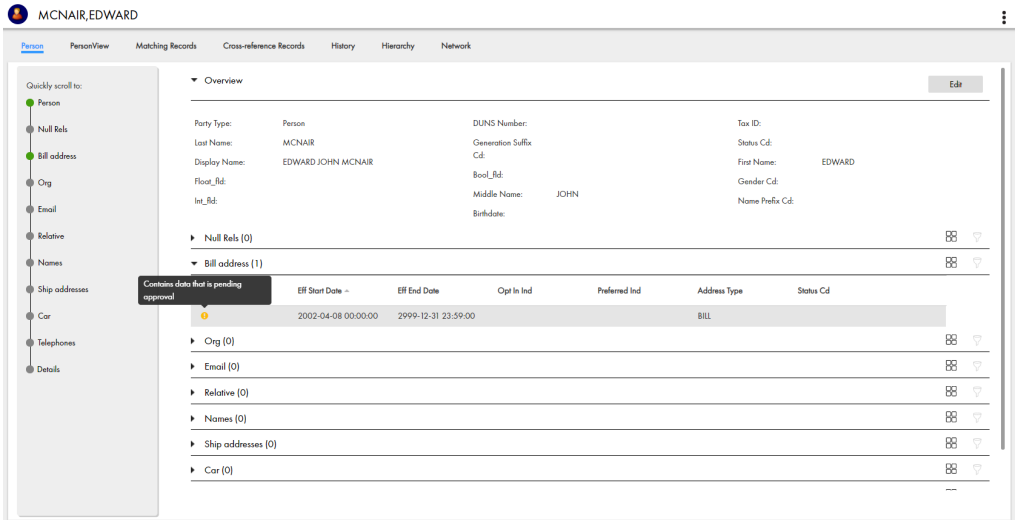
   レコードビューにレコードが表示されます。

2. これが編集に適したビューでない場合は、別のタブを選択してください。

3. **［編集］**をクリックします。

   ヒント: ボタンが無効な場合は、レコードを編集する権限がないか、レコードに承認保留中の変更があります。

   次の図は、編集モードでの Edward John McNair のレコードを示しています。また、このレコードには、保留中の変更があるため編集できない子レコードが含まれています。



4. 必要に応じて、ルートレコードのデータを編集します。

   a. 上部の任意の場所をクリックします。

      セクションが編集可能になります。

   b. データを編集します。

5. 必要に応じて、子レコードのデータを編集します。

   a. 子セクションを展開します。

b. **［編集］**アイコンをクリックします。

セクションが編集可能になります。

c. データを編集します。

d. **［適用］**アイコンをクリックします。

6. **［保存］**をクリックします。

ユーザーロールで、確認せずにデータを保存することが許可されている場合、アプリケーションによってビジネスエンティティが MDM Hub ストアにアクティブなレコードとして保存されます。それ以外の場合、アプリケーションによってレコードが保留中のレコードとして保存され、ロールに関連付けられた確認プロセスが開始されます。

複数のレコードの編集

一括編集を実行して、特定のフィールドの 1 つの値を複数のレコードにわたり別の値で置換します。検索画面の**［検索と置換］**オプションを使用して、一括編集を実行します。

例えば、病院が、複数の患者レコードに誤ったジェンダーアイデンティティが含まれているとレポートしています。どのレコードが影響を受けるのかを確認し、エラーを修正する必要があります。

影響を受けるレコードを見つけて、置換する値を決定します。変更を確認した後で、レコードを更新したことを病院に通知します。

ユーザーが Data Director のレコードを更新すると、変更によりレビューワークフロープロセスがトリガされます。

MDM 管理者は、ユーザーロールの一括編集操作を実行する権限を有効にする必要があります。

複数のレコードの編集

ユーザーロールに一括編集権限が含まれている場合は、アクティブ状態の複数のレコードを編集できます。

注: 保留状態のレコードは、そのレコードに承認保留中の変更があるため、編集できません。確認プロセスおよび承認プロセスが終了するまで待機する必要があります。

1. **［検索］**ページの**［検索］**パネルから、変更するレコードを検索します。

   レコードが**［検索結果］**パネルに表示されます。

   注: ［クエリ］パネルを使用して、以前に検索したレコードを検索することもできます。

2. **［フィルタ］**で、検索結果を絞り込むためのフィルタを選択します。

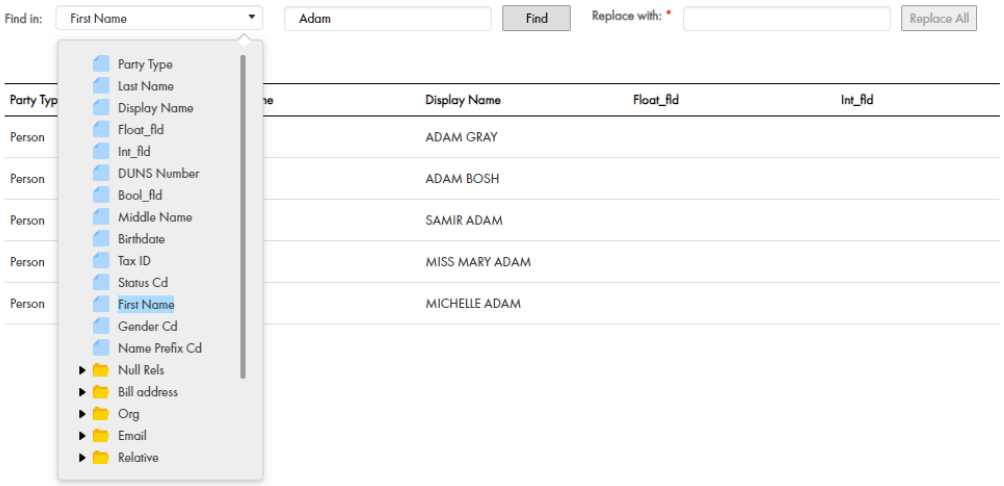
   ［検索結果］パネルに、**［フィルタ］**パネルに入力した値に直接関連するレコードが表示されます。

3. ［検索と置換］アイコンをクリックします。

   ［検索と置換］ウィンドウが開きます。

4. **［検索:］**ドロップダウンリストで、カラムを選択し、カラムに検索する値を入力します。

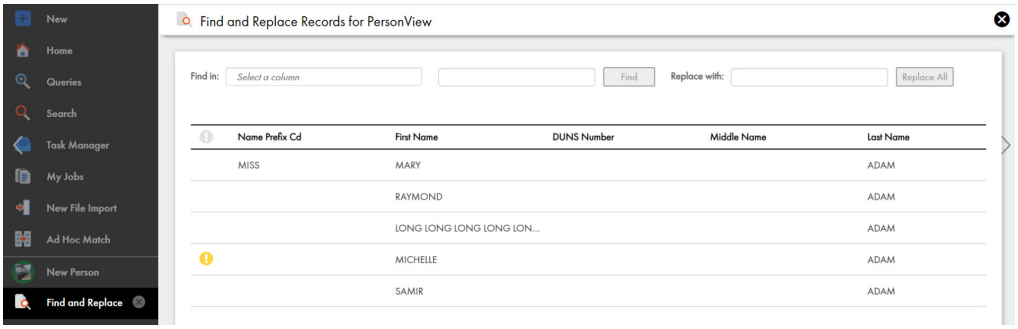
次の図に、カラムの選択方法および検索値「Adam」の入力方法を示します:



注: ルックアップおよび依存ルックアップフィールドに対して［検索と置換］操作を使用するには、両方のフィールドの値を入力する必要があります。例えば、［国］ルックアップフィールドおよび［州］依存ルックアップフィールドを置換する場合、ルックアップおよび依存ルックアップフィールドに検索値を入力する必要があります。

5. **［検索］**をクリックします。

   検索結果には、指定した値と一致したレコードのみが表示されます。
   次の図は、検索結果です。



6. **［置換後の文字列:］**フィールドに、新しい値を入力します。
7. **［すべて置換］**をクリックします。

   レコードを置換する確認メッセージが表示されます。
8. **［すべて置換］**をクリックします。

   置換されたレコードの数を示すメッセージが表示されます。

一括編集のステータスの表示

ジョブ監視を使用して、現在および過去のバルク編集ジョブのステータスを確認できます。バルク編集バッチジョブは、MDM Hub コンソールの**［リソース特権］**ページで**検索-置換実行**特権が選択されている場合に実行されます。特権が選択されていない場合、非同期ジョブは実行されません。

1. ナビゲーションメニューから、**［ジョブ監視］**を選択します。
2. **［バルク編集］**タブをクリックします。

   バルク編集ジョブは、最新のジョブがリストの一番上になるように編成されています。

3. 現在の日付と時刻のジョブを検索します。
4. ジョブのステータスを確認します。次の表に、考えられるステータスを示します。

ステータスメッセージ	説明
成功	すべてのレコードが正常に更新されました
実行中	レコードを更新しています
警告	すべてのレコードが正常に更新されたわけではありません
エラー	バルク編集ジョブを初期化できませんでした

5. ジョブが警告で終了した場合は、ジョブの詳細を展開し、**[失敗]** カラムの番号をクリックします。

   エラーの説明が.CSV ファイルで表示されます。
6. エラーを修正して、バルク編集ジョブを再度実行します。

一括編集の確認プロセスのトリガ

バルク編集を実行すると、レコードはすぐに更新されます。ただし、MDM 管理者はワークフロープロセスを設定して、置換するレコードを確認および承認できます。レコードへの変更は確認プロセスをトリガし、要求された変更をタスクマネージャでの承認待ちとして保存します。

MDM 管理者またはマネージャなどの権限を持つユーザーは、承認待ちのレコードを引き受けおよび承認する必要があります。タスクマネージャで承認待ちのレコードを編集することはできません。

MDM 管理者は、バルク編集タスクを設定して、バッチジョブをトリガすることもできます。置換するレコードが MDM 管理者が設定した値を下回っている場合、バッチジョブはトリガされません。置換するレコードが MDM 管理者が設定した値を上回っている場合、バッチジョブがトリガされます。

例えば、MDM 管理者は、バッチジョブをトリガする最大値として 1000 レコードを設定します。1000 レコード以上を更新すると、バッチジョブがトリガされます。更新するレコードが 1000 件未満の場合、バッチジョブはトリガされず、レコードはすぐに更新されます。

関連レコードの追加と編集

ビジネスエンティティのリレーションは、2 つのエンティティ間の関係を記述します。MDM Hub では、同じビジネスエンティティ内のレコード間の階層リレーションに加えて、ビジネスエンティティ間の 1 対多および多対多のリレーションもサポートされます。ビジネスエンティティとビジネスエンティティに関連するレコードの間のリレーションに対して追加、表示、編集、および管理を行うことができます。

[関連レコード] パネルで、表示の権限を持つビジネスエンティティを表示できます。タイプが異なるビジネスエンティティ間でリレーションを作成するには、両方のビジネスエンティティに対する編集権限がユーザーロールに含まれている必要があります。

2 つのエンティティの間にリレーションが存在する場合、関連レコードをビジネスエンティティに追加できます。例えば、「組織が個人を採用する」は、「Organization」ビジネスエンティティと「Person」ビジネスエンティティの間に存在するリレーションです。Person のレコードまたは従業員を関連レコードとして Organization に追加できます。[関連レコード] パネルは、[ビジネスエンティティ] ビューで開かれるビジネスエンティティに直接関連するビジネスエンティティの一覧を表示します。

注: ビジネスエンティティの編集時に［関連レコード］パネルが表示されない場合は、MDM 管理者に問い合わせます。

関連レコードの追加および編集のシナリオ

組織が個人を採用するような、「Organization」ビジネスエンティティタイプと「Person」ビジネスエンティティタイプの間のリレーションが設定されます。従業員を追加する組織（Informatica）があるとします。John Smith は Informatica の従業員です。

Informatica のレコードを検索します。レコードを開きます。John Smith のレコードを検索します。John Smith を関連レコードとして Informatica に追加します。評価後は John Smith の役職と給与が異なります。次に、リレーションの詳細を更新し、変更を反映してください。Informatica のレコードを開き、Informatica と John Smith の間のリレーションを選択します。リレーションの詳細を更新します。

関連レコードの追加

レコードにリレーションが設定されている場合、レコードに関連レコードを追加できます。**［ビジネスエンティティ］**ビューでレコードを検索して開きます。関連レコードとして追加する関連レコードを検索し、そのレコードを**［関連レコード］**パネルに追加します。

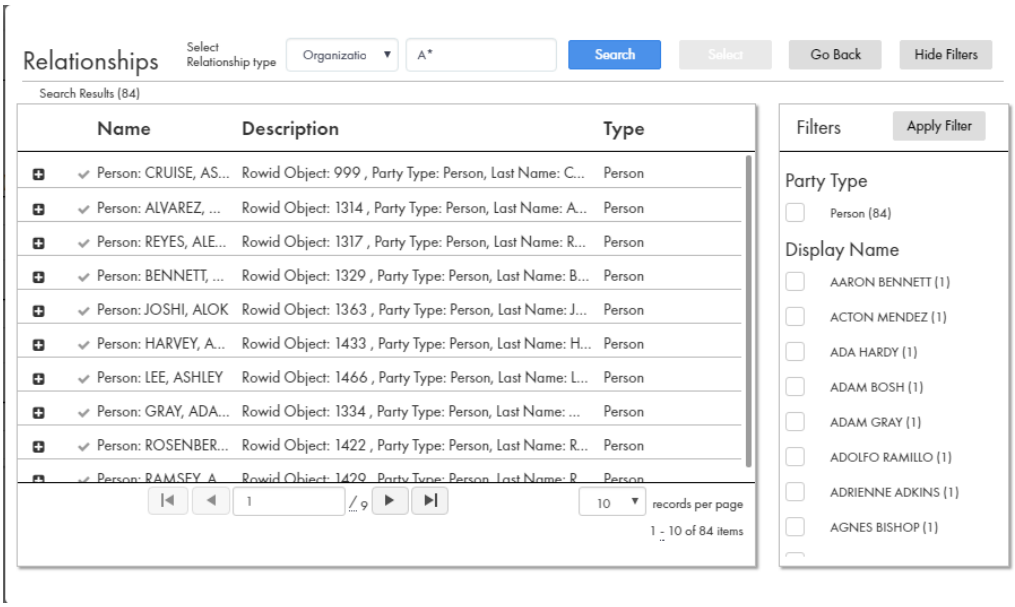
注: **［関連レコード］**パネルは**［ビジネスエンティティ］**ビューに存在している必要があります。タイプが異なるビジネスエンティティ間でリレーションを作成するには、両方のビジネスエンティティに対する編集権限がユーザーロールに含まれている必要があります。

1. **［検索］**ページの**［検索結果］**パネルから、関連レコードの追加先となるレコードを選択します。
2. レコードを開きます。

   ［関連レコード］パネルには、開いたレコードに直接関連するレコードが表示されます。**［関連レコード］**パネルは複数ある可能性があります。
3. **［関連レコード］**パネルで、**［新規］**をクリックします。

   ［リレーション］ダイアログボックスが開きます。
4. リレーションタイプを選択します。
5. **［検索］**ボックスで、検索するレコードの検索文字列をすべて入力するか、検索文字列とワイルドカード文字のアスタリスク（*）を入力します。
6. **［検索］**をクリックします。

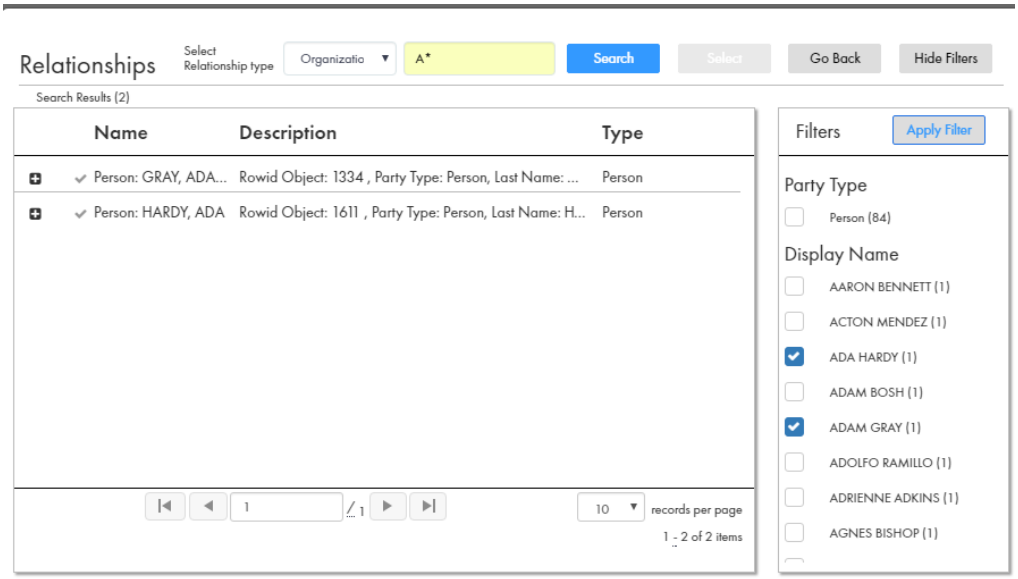
次の図は、検索結果とフィルタパネルを示しています。



7. **［フィルタ］** パネルで、必要なフィルタ条件の値を選択します。
8. **［フィルタの適用］** をクリックします。

   設定したフィルタに基づいて、変更された検索結果が **［検索結果］** パネルに表示されます。

   次の図は、フィルタされたレコードを示しています。

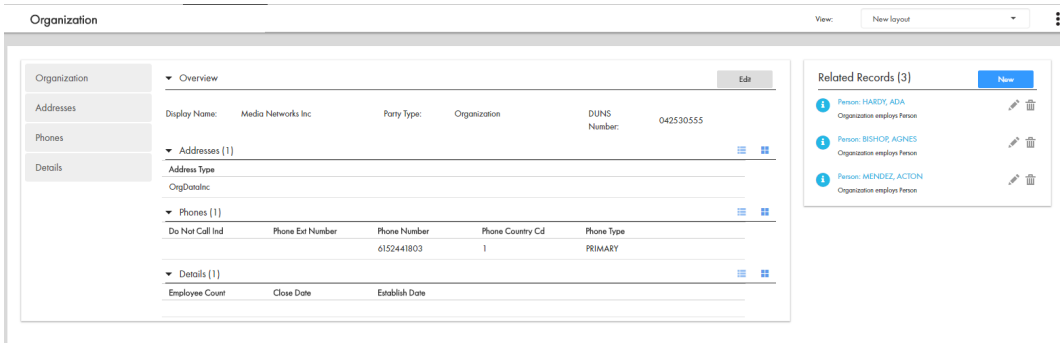


9. 関連レコードとして追加するレコードを選択し、**［選択］** をクリックします。
10. リレーションに追加属性がある場合、その追加属性を指定します。

    例えば、PersonOwnsAutomobile リレーションで、燃費と価格を指定する場合があります。
11. **［適用］** をクリックします。

    レコードが関連レコードとして追加され、**［関連レコード］** パネルに表示されます。

次の図は、［**関連レコード**］パネルの関連レコードを示しています。



関連レコードの表示

関連レコードを［**関連レコード**］パネルで表示できます。コンポーネント内の各関連レコードは、［**ビジネスエンティティ**］ビューで開くことができるリンクになっています。

注: MDM 管理者がこの目的でカスタムビューを作成した場合は、ビューの名前が変わる場合があります。

1. ［**検索**］ページの［**検索結果**］パネルから、レコードを選択します。
2. レコードを開きます。

   関連レコードが［**関連レコード**］パネルに一覧表示されます。

関連レコードの削除

レコードと関連レコードの間のリレーションを削除できます。レコードを検索し、［**関連レコード**］パネルの関連レコードを削除します。

1. ［**検索**］ページの［**検索結果**］パネルから、編集するレコードを選択します。
2. レコードを開きます。

   ［**関連レコード**］パネルには、開いたレコードに直接関連するレコードが表示されます。［**関連レコード**］パネルは複数ある可能性があります。
3. 削除する関連レコードを選択し、［**削除**］アイコンをクリックします。

   確認ボックスが表示されます。
4. ［**はい**］をクリックします。

   Data Director により、レコードと関連レコードの間のリレーションが削除され、［**関連レコード**］パネルに関連レコードが表示されなくなります。

リレーションの詳細の編集

レコードと関連レコードの間のリレーションの詳細を編集できます。リレーションに関連付けられた追加属性を編集できます。レコードを検索し、［**関連レコード**］パネルからリレーションを編集できます。

1. ［**検索**］ページの［**検索結果**］パネルから、編集するレコードを選択します。
2. レコードを開きます。

   ［**関連レコード**］パネルには、開いたレコードに直接関連するレコードが表示されます。［**関連レコード**］パネルは複数ある可能性があります。
3. ［**関連レコード**］パネルで、編集する関連レコードを選択し、［**編集**］アイコンをクリックします。

4. 追加属性を編集し、**［適用］**をクリックします。

   例えば、役職と給与は OrganizationEmploysPerson リレーションに関連付けられている 2 つの属性であると仮定します。評価後に、その Person レコードの役職と給与を編集して変更を反映できます。

レコードの削除

ユーザーロールに削除権限が含まれている場合は、アクティブ状態のレコードを削除できます。保留状態のレコードは、ワークフローの一部であり、承認が保留中であるため削除できません。

1. **［検索］**ページの**［検索結果］**パネルから、削除するレコードを選択します。
2. レコードを開きます。
3. **［アクション］** > **［削除］**をクリックします。

   確認ボックスが表示されます。
4. **［はい］**をクリックします。

   Data Director では、削除されたレコードとしてマークが付けられるとそのレコードは表示されなくなりますが、そのレコードはデータベースからは削除されません。

第 7 章

バルクデータのインポート

この章では、以下の項目について説明します。

- バルクデータのインポートの概要, 68 ページ
- バルクレコードのインポート, 69 ページ
- バルクリレーションのインポート, 69 ページ
- レコードの更新, 70 ページ
- フィールドマッピング, 70 ページ
- レコードのプレビュー, 72 ページ
- データのインポート, 73 ページ
- 新規ファイルのインポート確認プロセスのトリガ, 75 ページ
- ファイルのインポートのサマリレポート, 76 ページ
- 新規レコードと既存レコードの照合, 77 ページ

バルクデータのインポートの概要

Excel または CSV ソースファイルから Data Director へデータとリレーションを一括でインポートできます。Unicode 文字を含むデータ（中国語、日本語、韓国語など）はサポートされます。一度に最大 10000 のレコードをインポートできます。ただし、管理者はプロパティファイルでインポートするレコードの最大数を増やすまたは減らすことができます。

新しいデータおよびリレーションをインポートする前に、システムはソースファイルのカラムまたは既存のレコードの値に基づき、最適なターゲットフィールドを識別してマッピングします。ターゲットフィールドとソースファイルを比較し、システムが推奨したマッピングを受け入れるか、拒否することができます。

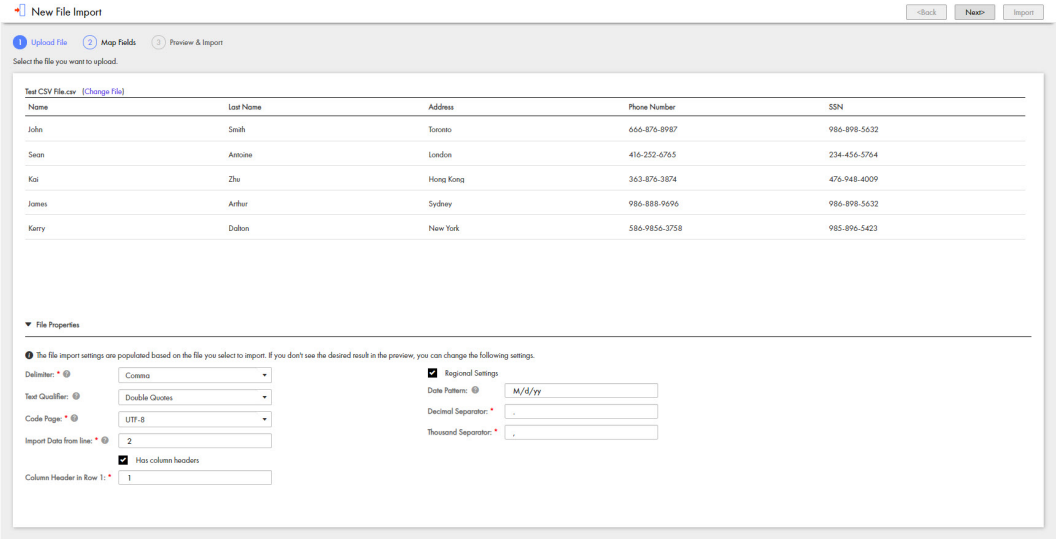
インポート操作が完了した後、インポートされたレコードと拒否されたレコードの数を示す、インポートサマリが生成されます。ユーザーロールに権限がある場合は、Data Director はインポートされたレコードをアクティブなレコードとして保存します。それ以外で、ユーザーロールが確認プロセスをトリガするように設定されている場合は、Data Director はインポートされたレコードを保留中のレコードとして保存し、ユーザーロールに関連する確認プロセスを開始します。

バルクレコードのインポート

Excel または CSV ソースファイルから複数のビジネスエンティティを含むデータをインポートできます。インポートプロセスにより、1 度の操作で複数のプライマリレコードを作成または更新できます。インポートは実行中の任意の時点で停止できます。しかし、インポートされたレコードはロールバックできません。

特殊文字を使用したファイル名のインポートはサポートされません。例えば、次のファイルはインポートできません: My:File.csv。次の特殊文字はサポートされていません: / \ * ? % : | " < >

次の図に、CSV ファイルがインポートされた［新規ファイルのインポート］ウィンドウを示します:

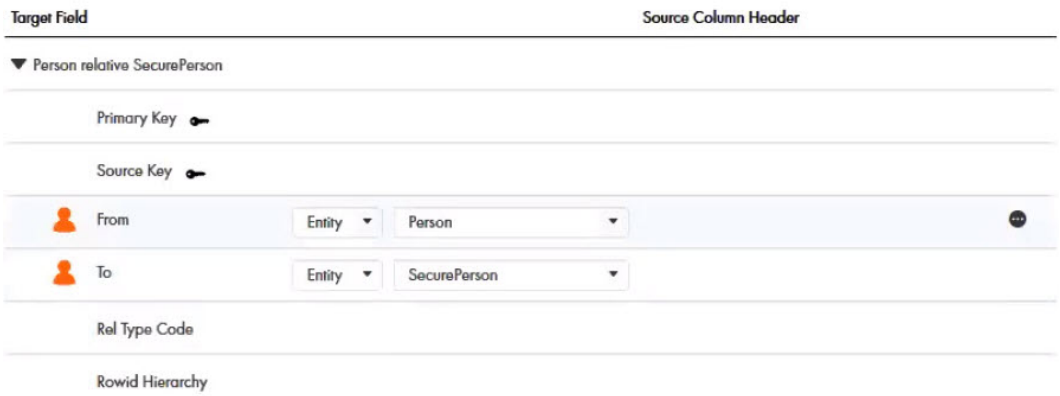


ファイルのプロパティはインポートするために選択したファイルに基づいて読み込まれます。インポートファイルのプロパティを編集できます。「データのインポート」 (ページ 73)を参照してください。

バルクリレーションのインポート

リレーションを一括でインポートして、新しいリレーションを定義できます。以前マップしたリレーションを選択するか、またはビジネスエンティティ間のリレーションを手動で定義できます。例えば、Person ビジネスエンティティと SecurePerson ビジネスエンティティ間のリレーションを定義できます。

次の図に、［リレーション］パネルでリレーションを定義する方法を示します:



システムはアイコンをマッピングされたリレーションフィールドに割り当てます。アイコンはマッピングされた各リレーションに関連付けられた信頼性のレベルを示します。信頼性指標に基づいて、マッピングされたリレーションを受け入れるか、拒否することができます。

信頼度レベルの詳細については、「フィールドマッピング」 (ページ 70)を参照してください。

レコードの更新

データをインポートして、既存の親レコードを更新、子レコードを更新、および子レコードを追加できます。例えば、プライマリアドレスフィールドを更新し、セカンダリアドレスをレコードに追加するとします。データをインポートして親レコードを更新し、セカンダリアドレスを新しい子レコードとして追加する必要があります。

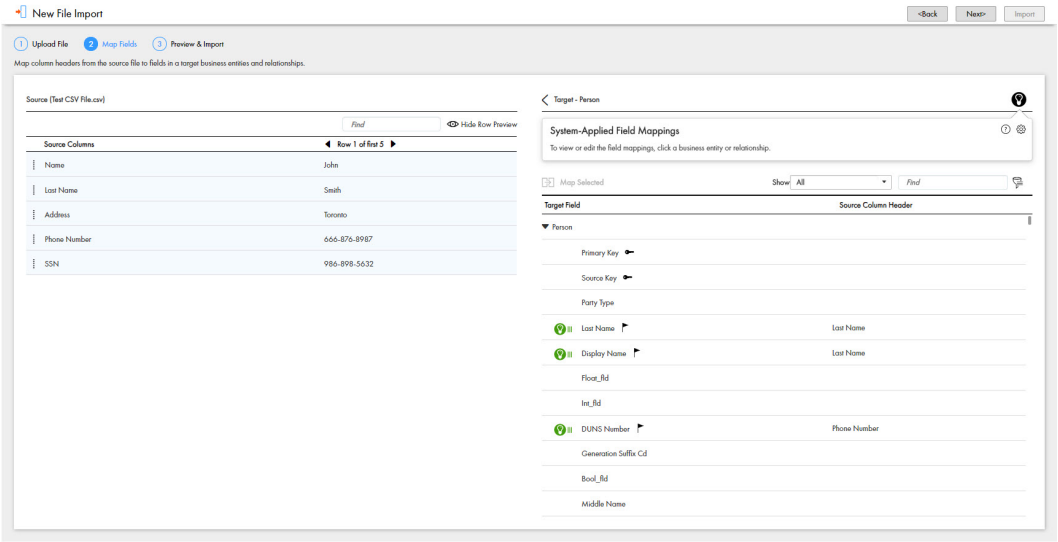
データをインポートして親レコードを更新する前に、ソースファイルに行 ID プライマリキーまたはソースキーを追加します。子レコードを更新するには、ソースファイルに親行 ID、子行 ID、または子相互参照プライマリキーを追加します。相互参照レコードを更新するには、ソースファイルに相互参照プライマリキーを追加します。

注: ソースキーとソースシステムを使用してファイルをインポートしてレコードを更新する場合、すべての必須フィールドに値を入力する必要があります。必須フィールドに値を入力しないと、エラーが表示されます。

フィールドマッピング

カラムをソースファイルから Data Director の適切なビジネスエンティティおよびリレーションへマップできます。

次の図に、ソースカラムおよび識別されたビジネスエンティティを示します:



信頼性アイコンは最適なビジネスエンティティに割り当てられます。アイコンは各ビジネスエンティティに関連付けられた信頼性のレベルを示します。信頼性指標に基づき、ビジネスエンティティを受け入れるか、拒否することができます。

以下の表で、信頼性アイコンについて説明します。

信頼性アイコン	説明
	高レベルの信頼性を示します。すべてのソースカラムはビジネスエンティティにマッピングされています。マッピングを手動で確認および受け入れることができます。
	中レベルの信頼性を示します。すべてのソースカラムは中レベルの信頼性でビジネスエンティティにマッピングされています。マッピングを手動で確認、受け入れまたは拒否することができます。
	低レベルの信頼性を示します。すべてのソースカラムは低レベルの信頼性でビジネスエンティティにマッピングされていますマッピングを拒否する必要があります。

デフォルト値の設定

追加設定オプションを使用して、ターゲットフィールドのデフォルト値を設定できます。ソースフィールドに null 値が含まれている場合、ターゲットフィールドにデフォルト値が入力されます。

例えば、社会保障のターゲットフィールドのデフォルト値を 111-11-1111 として設定したとします。社会保障のソースフィールドに値が含まれない場合、システムは社会保障のターゲットフィールドにデフォルト値の 111-11-1111 を入力します。

また、日付形式のターゲットフィールドのデフォルト値を設定することもできます。例えば、デフォルト値を YYYY-MM-DD に設定します。ソースフィールドの日付形式が DD-MM-YYYY の場合、システムは日付形式にデフォルト値の YYYY-MM-DD を入力します。

ターゲットフィールドのフィルタリング

フィルタを使用して、必要なターゲットフィールドとソースカラムを表示できます。

次の表にフィルタのオプションの一覧を示します。

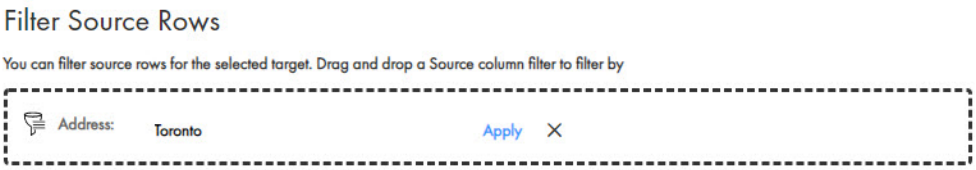
フィルタオプション	説明
マップ済み	マップ済みのすべてのソースカラムとターゲットフィールドを表示します
マッピング解除済み	マッピング解除済みのすべてのソースカラムとターゲットフィールドを表示します
ユーザーマッピング済み	ユーザーによるマップ済みのすべてのソースカラムとターゲットフィールドを表示します
自動マッピング済み	システムによるマップ済みのすべてのソースカラムとターゲットフィールドを表示します
すべて	すべてのソースカラムとターゲットフィールドを表示します

ソースローのフィルタリング

［ソースローのフィルタ］オプションを使用して、ソースローをフィルタリングしてターゲットのビジネスエンティティまたはリレーションに手動でマッピングできます。例えば、ソースファイルに CreditCard ソースローが含まれ、この行を正しいターゲットビジネスエンティティにマップする必要があるとします。CreditCard ソースローをドラッグして［ソースローのフィルタ］パネルにドロップします。ターゲットビジネスエンティティのリストが、オプションの 1 つとしてのクレジットカードとともに表示されます。CreditCard ソースローをクレジットカードのターゲットビジネスエンティティにマッピングできます。

1. **［新規ファイルのインポート］**パネルで、**［フィールドをマッピング］**の下のフィルタアイコンをクリックします。

   ［ソースローのフィルタ］ボックスが表示されます。



2. ソースカラムから、ソースローをドラッグして**［ソースローのフィルタ］**ボックスにドロップします。

   ソースローが［ソースローのフィルタ］ボックスに表示されます。

3. テキストボックスに、フィルタ条件を入力し、**［適用］**をクリックします。

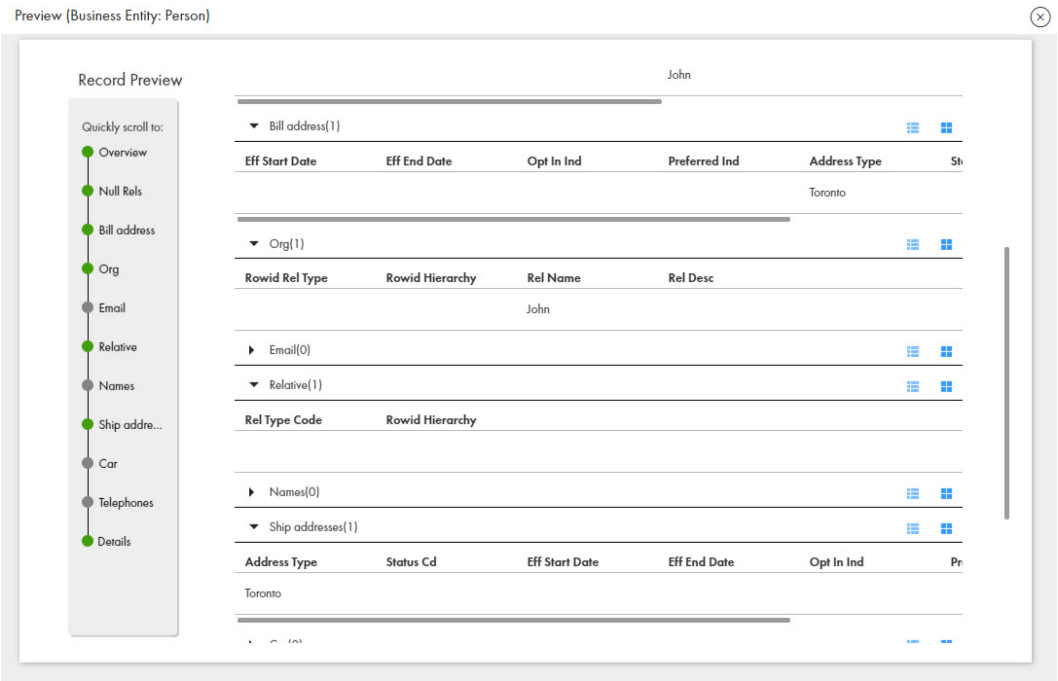
   入力したフィルタ条件に応じて、ターゲットビジネスエンティティが表示されます。

レコードのプレビュー

ファイルのインポート操作を完了する前に、インポートするレコードをプレビューできます。

［プレビューの表示］アイコンをクリックして、インポートするレコードの詳細を表示します。該当するルート、親、子、ルックアップ、および依存ルックアップフィールドを表示できます。

次の図は、インポートするレコードを含む**［レコードのプレビュー］**パネルを示しています。



データのインポート

データを Data Director に一括でインポートできます。インポート操作により、複数のレコードとリレーションをソースファイルから Data Director にインポートできます。

1. 左のナビゲーションパネルで、**[新規ファイルのインポート]** をクリックします。

   [新規ファイルのインポート] ページが開きます。

2. インポートするファイルを選択するには、CSV または Excel ソースファイルをドラッグアンドドロップするか、または **[参照]** をクリックして、ソースファイルを選択します。

   ソースファイルデータがアップロードされます。

   注: 特殊文字を含むファイル名はインポートできません。

3. **[次へ]** をクリックします。

   インポートされたデータを含むソースファイルが表示されます。

4. **[ファイルのプロパティ]** パネルで、次のインポートファイルのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
区切り文字	インポートファイル内でデータ値の区切りを表す文字。事前に定義された区切り文字を選択するか、**[その他]** を選択してカスタムの区切り文字を定義します。
テキスト修飾子	文字列を囲むためにファイルで使用される記号。

プロパティ	説明
コードページ	Unicode エンコード標準を選択します。
行からデータをインポート	データのインポート元のソースファイルの行を選択します。
ロー 1 のカラムヘッダー	必要なカラムのローヘッダー番号を選択します。
地域設定	地理的な場所に基づいて日付と時間の形式を設定します。
日付パターン	インポートファイルの日付フィールドの日付形式。
小数点記号	小数位の区切り文字カンマまたはピリオドを選択します。デフォルトではピリオドが使用されます。
3 桁ごとの区切り文字	1000 ごとの区切り。区切り文字なし、カンマ、またはピリオドを選択します。デフォルトでは、区切り文字は使用しません。

5. **［次へ］** をクリックします。

   ［フィールドをマッピング］ ページに、ソースファイルデータ、システムの推奨ターゲットおよび信頼性指標が表示されます。

6. 次のアクションを実行できます。

   a. システムの推奨マッピングを受け入れるには、**［承認］** をクリックします。推奨マッピングがビジネスエンティティの下に表示されます。

   b. システムの推奨マッピングを拒否するには、**［拒否］** をクリックします。

   c. システムの推奨マッピングを部分的に受け入れるには、ビジネスエンティティの横のチェックボックスを選択し、**［承認］** をクリックします。

7. ビジネスエンティティまたはリレーションを展開して、マッピングしたターゲットフィールドのリストを確認します。マッピングしたターゲットフィールドをフィルタして、ターゲットフィールドのマッピング方法を表示します。

   a. **［表示］** ドロップダウンリストをクリックします。

      フィルタオプションの一覧が表示されます。次のいずれかのオプションを選択します。

フィルタオプション	説明
マップ済み	すべてのマッピングしたソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。
マッピング解除済み	すべてのマッピング解除したソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。
ユーザーマッピング済み	すべてのユーザーマッピングしたソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。

フィルタオプション	説明
自動マッピング済み	すべてのシステムマッピングしたソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。
すべて	すべてのソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。

8. ［**次へ**］をクリックします。

   ［**プレビューおよびインポート**］画面が開きます。

9. インポート元のソースシステムを指定するには、［**ソースシステム**］ドロップダウンからオプションを選択します。

   注: フィールドにプレビューエラーが表示された場合、ソースファイルに無効な値が含まれている可能性があります。例えば、社会保障番号フィールドに英数字が含まれている場合、プレビューエラーが表示されます。元のソースファイルですべてのプレビューエラーを修正し、ファイルを再度インポートする必要があります。

10. ファイルをインポートする前にレコードをプレビューできます。［**プレビューの表示**］をクリックします。

11. ［**インポート**］をクリックします。

    インポートプロセスの完了後、［マイジョブ］ウィンドウに、インポートされたレコード、拒否されたレコードおよび未処理のレコードの数が表示されます。

12. 拒否されたレコードのリストを CSV ファイルでダウンロードするには、［**ダウンロード**］をクリックします。

新規ファイルのインポート確認プロセスのトリガ

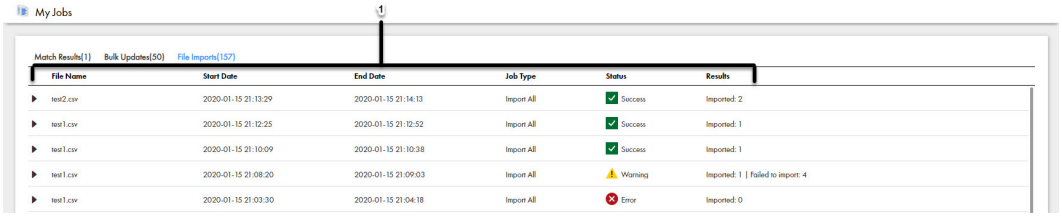
バルクデータを含む新規ファイルをインポートすると、確認プロセスがトリガされ、要求された変更が保留中のレコードとしてタスクマネージャに保存されます。MDM 管理者またはマネージャなどの適切な権限を持つユーザーは、保留中のレコードを引き受けおよび承認する必要があります。タスクマネージャで承認待ちのレコードを編集することはできません。

すべての一括インポートタスクはバッチジョブをトリガします。MDM 管理者は、一括インポートタスクの最大値を設定して、バッチジョブをトリガする必要があります。例えば、MDM 管理者は、バッチジョブをトリガする最大値として 1000 レコードを設定します。1000 レコード以上をインポートすると、バッチジョブがトリガされます。インポートするレコードが 1000 件未満の場合、バッチジョブはトリガされず、レコードはすぐにインポートされます。

ファイルのインポートのサマリレポート

データおよびリレーションを Data Director にインポートする場合、インポート操作によりサマリレポートが生成されます。ナビゲーションバーで、**［マイジョブ］**をクリックし、インポートされたファイルのリストを表示します。

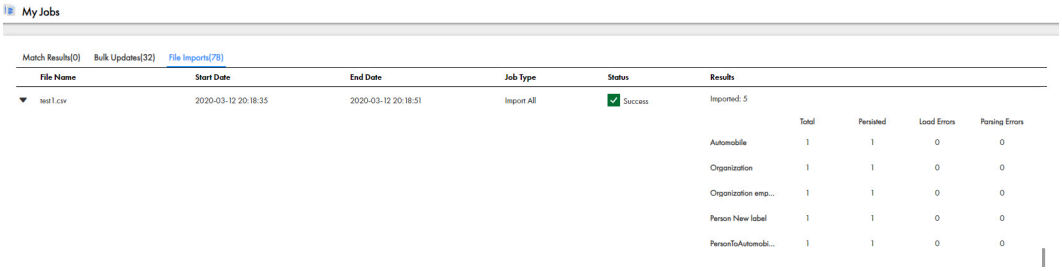
次の図に、インポートされたファイルのリストを含む［マイジョブ］ページを示します:



1. ファイル名
2. 開始日
3. 終了日
4. ジョブタイプ
5. ステータス
6. 比較結果

ファイルを展開して、インポートされたファイルの結果を表示できます。

次の図に、サンプルのインポートサマリレポートを示します:



次の表に、［結果］フィールドの要素を示します。

要素	説明
合計	インポートされたレコードの総数。
存続済み	エラーなしで存続済みのインポートされたレコードの数。
ロードエラー	ロードエラーのためインポートされなかった拒否されたレコードの数。
解析エラー	解析エラーのためインポートされなかった拒否されたレコードの数。

インポート操作では、拒否されたレコードは Excel または CSV ファイルに書き込まれます。拒否されたレコードをダウンロードし、そのレコードを正しいデータで更新して、修正されたレコードを再インポートすることができます。

新規レコードと既存レコードの照合

ファイルをインポートする前に、照合を実行して、インポートするレコードと既存のレコードを比較することができます。照合プロセスは、重複するレコードと一致しないレコードを識別します。一致したレコード、一致しなかったレコード、またはすべてのレコードをインポートすることを選択できます。

一致ルールセット

一致ルールセットには、一致ルールの論理セットが含まれています。一致ルールは一致プロセスの条件を定義し、2 つのレコードが重複しているかどうかを判断します。一致の要件および目的に基づき、MDM Hub 管理者は MDM Hub コンソールに一致ルールセットを設定します。アドホック照合プロセスは一致ルールセットを使用して重複レコードを識別します。

一致ルールセットの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 Hub 設定ガイド*』を参照してください。

一致したレコード

データを Data Director にインポートして、アドホック照合を実行し、新規レコードと既存のレコードを比較できます。

1. ナビゲーションパネルで、**［アドホック照合］** をクリックします。

   ［アドホック照合］ ページが開きます。
2. インポートするファイルを選択するには、ドラッグして CSV または Excel ファイルにドロップします。
3. オプションで、**［参照］** をクリックできます。
4. **［次へ］** をクリックします。

   ［ファイルプロパティ］ ページが開きます。
5. **［ファイルプロパティ］** パネルで、次のアドホック照合のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
シートからのインポート	ソースファイル名を選択します。このオプションは Excel ファイルにのみ適用されます。
行からデータをインポート	データのインポート元のソースファイルの行を選択します。
カラムヘッダーがあります	各カラムの表ヘッダーを表示する場合に選択します
行のカラムヘッダー	カラムが必要な行のヘッダー番号を入力します。
地域設定	このオプションは、レコードに国際文字が含まれる場合に選択します。
日付パターン	インポートファイルの日付フィールドの日付形式。

プロパティ	説明
小数点記号	小数位の区切り文字カンマまたはピリオドを選択します。デフォルトではピリオドが使用されます。
3 桁ごとの区切り文字	1000 ごとの区切り。区切り文字なし、カンマ、またはピリオドを選択します。デフォルトでは、区切り文字は使用しません。

6. **［次へ］**をクリックします。

   ［フィールドをマッピング］ページに、ソースファイルデータ、システムの推奨ターゲットおよび信頼性指標が表示されます。

7. 次のアクションを実行できます。

   a. システムの推奨マッピングを受け入れるには、**［承認］**をクリックします。推奨マッピングがビジネスエンティティの下に表示されます。

   b. システムの推奨マッピングを拒否するには、**［拒否］**をクリックします。

   c. システムの推奨マッピングを部分的に受け入れるには、ビジネスエンティティの横のチェックボックスを選択し、**［承認］**をクリックします。

8. ビジネスエンティティまたはリレーションを展開して、マッピングしたターゲットフィールドのリストを確認します。マッピングしたターゲットフィールドをフィルタして、ターゲットフィールドのマッピング方法を表示できます。

   a. **［表示］**ドロップダウンリストをクリックします。

      フィルタオプションの一覧が表示されます。次のいずれかのオプションを選択します。

フィルタオプション	説明
マップ済み	すべてのマッピングしたソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。
マッピング解除済み	すべてのマッピング解除したソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。
ユーザーマッピング済み	すべてのユーザーマッピングしたソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。
自動マッピング済み	すべてのシステムマッピングしたソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。
すべて	すべてのソースカラムおよびターゲットフィールドが表示されます。

9. **［次へ］**をクリックします。

   ［一致結果をプレビュー］画面が表示されます。

10. 一致ルールセットを選択するには、**［一致ルールセット］**ドロップダウンをクリックします。

    ソースファイルデータが、［一致結果をプレビュー］パネルに表示されます。

11. ファイルをインポートする前にレコードをプレビューできます。**［プレビューの表示］**をクリックします。

12. **［一致］**をクリックします。

    一致ジョブが完了します。

13. 一致プロセスの完了後、**［マイジョブ］**ウィンドウをクリックして、一致結果を表示します。

14. 一致したレコードのリストを Excel または CSV ファイルでダウンロードするには、［**ダウンロード**］をクリックします。

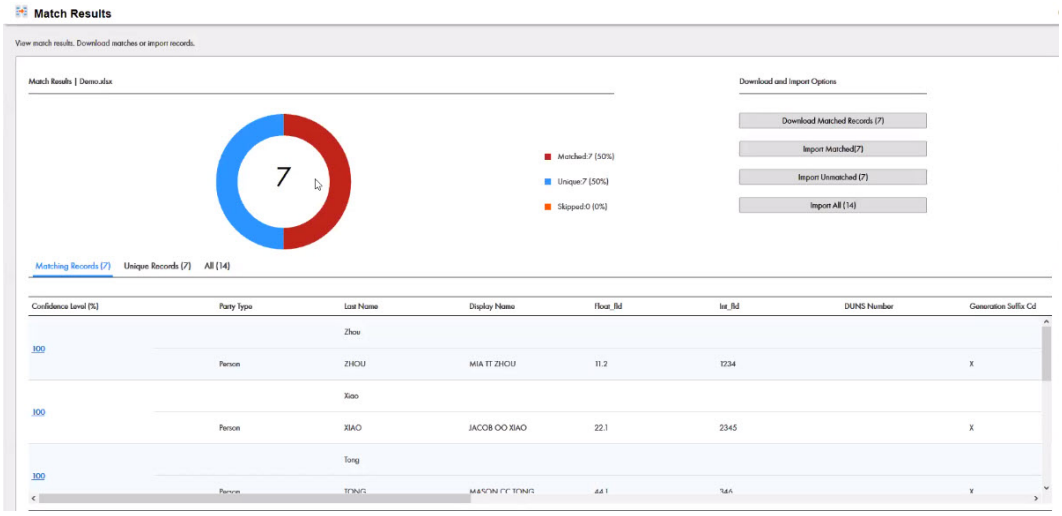
一致結果

アドホック照合を実行すると、Data Director は一致結果を生成し、そこには一致、一意、スキップ済みおよびすべてのレコードの詳細が含まれます。一致結果を確認して、システム推奨レコードをインポートするかどうかを判断できます。

一致結果は次の情報を示します:

- 一致したレコード数
- 一意のレコードの数
- スキップ済みレコード
- すべてのレコード

次の図に、サンプルの一致結果と一致したレコードのリストを示します:



次の表で、［一致結果］パネルのタブについて説明します。

タブ名	説明
一致したレコード	入力レコードと既存の一致したレコードを一致ペアとして一覧表示し、信頼性レベルを割り当てます。例えば、姓が「Smith」のインポートレコードと、姓が「Smith」の既存のレコードは 100%の信頼性レベルに割り当てられ、ペアになります。は信頼性レベルスコアをクリックして、適用されている一致ルールを表示できます。
一意のレコード	一致しない入力レコードの一覧を示します。
スキップ済み	システムにより処理されなかったレコードの一覧を示します。
すべてのレコード	一致、一致しない、およびスキップ済みレコードの一覧を示します。

一致、一意およびすべてのレコードを一覧表示する Microsoft Excel ファイルまたは CSV ファイルとして、一致レポートをダウンロードできます。

第 8 章

重複レコードの解決

この章では、以下の項目について説明します。

- 重複レコードの解決概要, 80 ページ
- 重複レコードのシナリオ, 83 ページ
- 重複レコードの解決, 84 ページ
- 単一レコードでの重複する子レコードの解決, 87 ページ

重複レコードの解決概要

組織が持つデータが複数のシステムに由来しているために、重複が発生し、レコードのマージが困難になる場合があります。重複レコードを解決するには、Data Director の［**一致したレコード**］ビューを使用します。重複を識別し、最善データを単一のマスタレコードにマージできます。

注: MDM 管理者がこの目的でカスタムビューを作成した場合は、ビューの名前が変わる場合があります。

重複レコードをマージする場合、マージされたレコードがどのようになるかをプレビューすることができます。プレビューの結果に問題がなければ、レコードをマージできます。

レコードを表示およびマージするのに必要な権限を持っている必要があります。必要な特権を持っているビジネスエンティティのみを参照できます。追加のロール特権を要求するには、MDM 管理者に問い合わせます。

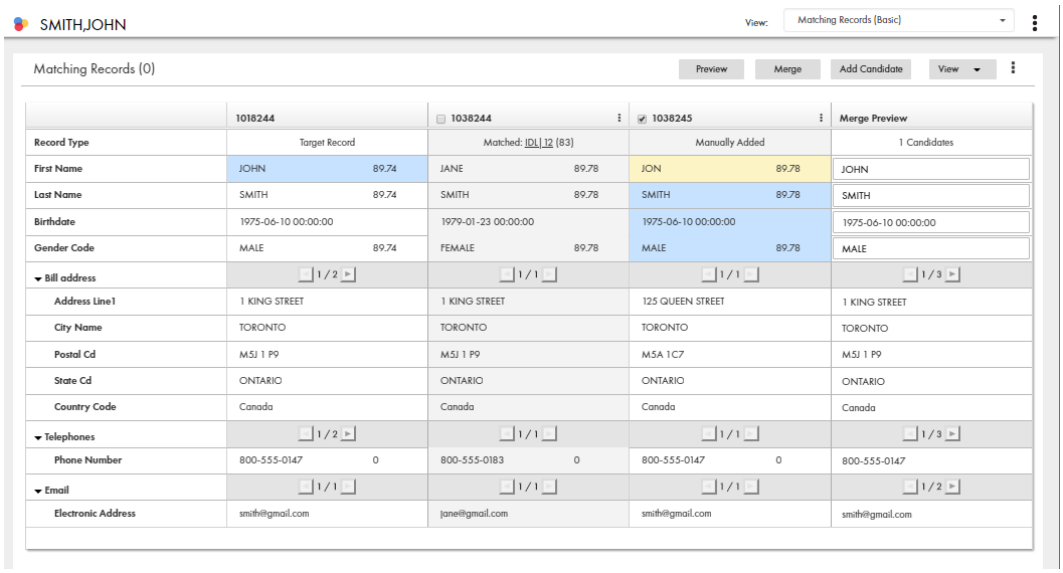
［一致するレコード］ビュー

［**一致したレコード**］の基本ビューまたは［**一致したレコード**］の詳細ビューを使用して、重複レコードを解決できます。使用するアプリケーションで、［**一致したレコード**］のいずれかまたは両方のビューが設定されている場合があります。

［一致したレコード］の基本ビュー

［**一致したレコード**］の基本ビューを使用して、重複する親レコードのみをマージできます。

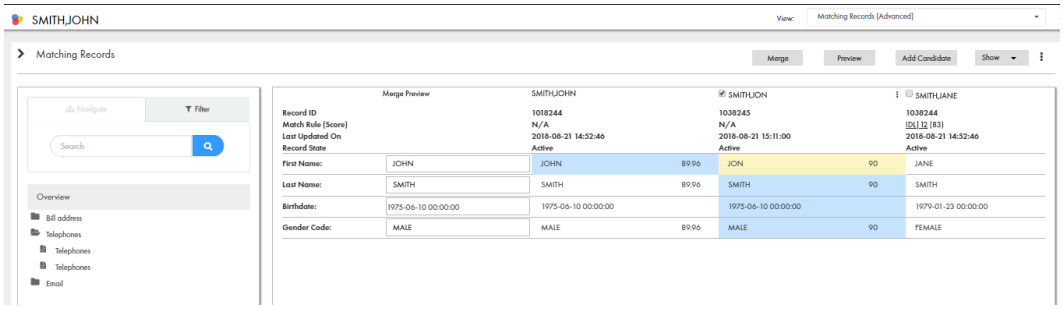
次の図に、［**一致したレコード**］の基本ビューの例を示します。



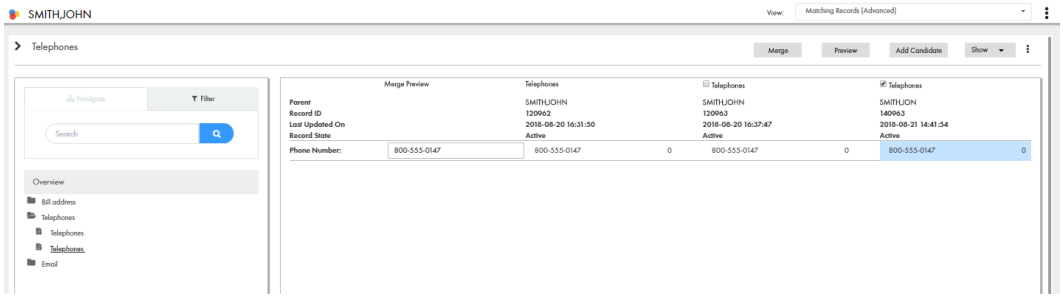
［一致したレコード］の詳細ビュー

［**一致したレコード**］の詳細ビューを使用して、重複する親および子レコードをマージできます。

次の図に、親レベルレコードを表示する、［**一致したレコード**］の詳細ビューの例を示します。



次の図に、子レベルレコードを表示する、［**一致したレコード**］の詳細ビューの例を示します。



一致したレコードと一致ルール

Data Director は一致したレコードを特定するための一致ルールに依存します。MDM 管理者はデータ特性およびレコードの一致とマージ要件に基づき一致ルールを設定します。

一致ルールは、一致したレコードに同一の値や類似した値があるかどうかを判断します。また、一致ルールは、自動的にマージするレコードと、［**一致したレコード**］ビューに表示するレコードを決定します。

例えば、住所に基づく一致ルールについて考えます。一致ルールに基づき、John Smith と Jane Smith は同じ住所を共有しているため、一致したレコードとして識別されます。住所は同じですが、彼らは別々の個人です。彼らのレコードは重複ではなく、マージすることはできません。

[一致したレコード] ビューに表示されるレコードには、それぞれに関連付けられた一致率があります。一致率は、一致ルールに基づいています。一致率が高いと、レコードは近い一致になります。一致率が低いと、レコードは遠い一致になります。

注: 一致ジョブが実行されると、一致したレコードが識別されます。一致ジョブが最近実行されていない場合には、**[一致したレコード]** ビューに、一部の一致候補しか含まれていない可能性があります。 以前のバージョンからアップグレードする場合、既存の一致したレコードのマッチ率は null に設定されます。マッチ率は新しい一致に対してのみ表示されます。

一致ルールの詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

ベストバージョンオブトゥルースと信頼スコア

ベストバージョンオブトゥルースは、重複レコードから最も信頼できるフィールドの値をマージした結果です。Data Director は、信頼スコアを使用して、最も信頼できるフィールド値を評価および判断します。重複レコードのマージを準備するときに、ベストバージョンオブトゥルースを完成させることができます。

[マージのプレビュー] カラムの値を、正しいと思う値を使用して昇格またはオーバーライドして、ベストバージョンオブトゥルースを完成させることができます。オーバーライドする値を有効にするには、MDM 管理者は管理システムの信頼度を設定しておく必要があります。レコードをマージするときに、オーバーライドする値を含む子レベルのレコードもマージされる場合、編集レコードと呼ばれる追加の相互参照レコードが作成または更新される可能性があります。**[マージのプレビュー]** カラムの値をオーバーライドするときに、編集レコードが作成または更新されます。編集レコードにはオーバーライドするフィールド値のみが含まれます。

編集レコードを識別するには、次のフィールド値を検索します。

- ソースシステム。値は `Admin` です。
- ソースプライマリキー。値は MDM Hub により生成され、レコード ID と同じか、または `SYS:<number>`形式をとります。

環境に信頼が設定されている場合、**[一致したレコード]** ビューに表示されるレコードに、信頼が有効化されたフィールドに関連付けられた信頼スコアが設定されます。信頼スコアは、ソースシステム、変更履歴、およびその他のビジネスルールに基づいてフィールド値に関連付けられる、相対的な信頼性の尺度です。このスコアは、ゼロから 100 の範囲で表されます。信頼スコアが高いフィールド値は、信頼スコアが低いフィールド値よりも信頼性が高くなります。

ベストバージョンオブトゥルースと信頼スコアの詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

重複レコードのマージ

重複を解決するには、重複と識別したレコードをマージします。重複レコードをマージすると、単一のマスタレコードが作成されます。

マージするレコードは、親レコードレベルと、場合によって子レコードのレベルで構成されます。子レコードは、親レコードとの間に 1 対 1 または 1 対多のリレーションを持つことがあります。例えば、John Smith のレコードは、名前、生年月日、性別の詳細を親レコードのレベルで持ちます。子レコードのレベルには、住所、メール、電話番号が含まれます。

注: IDD アプリケーション開発者は、ビジネスエンティティの構造を定義するときに親対子のリレーションを定義します。

レコードをマージする際に、重複親レコードは 1 つの親レコードにマージされます。マージするレコードに子レコードがある場合は、シナリオを識別してそれに応じた処理を行う必要があります。

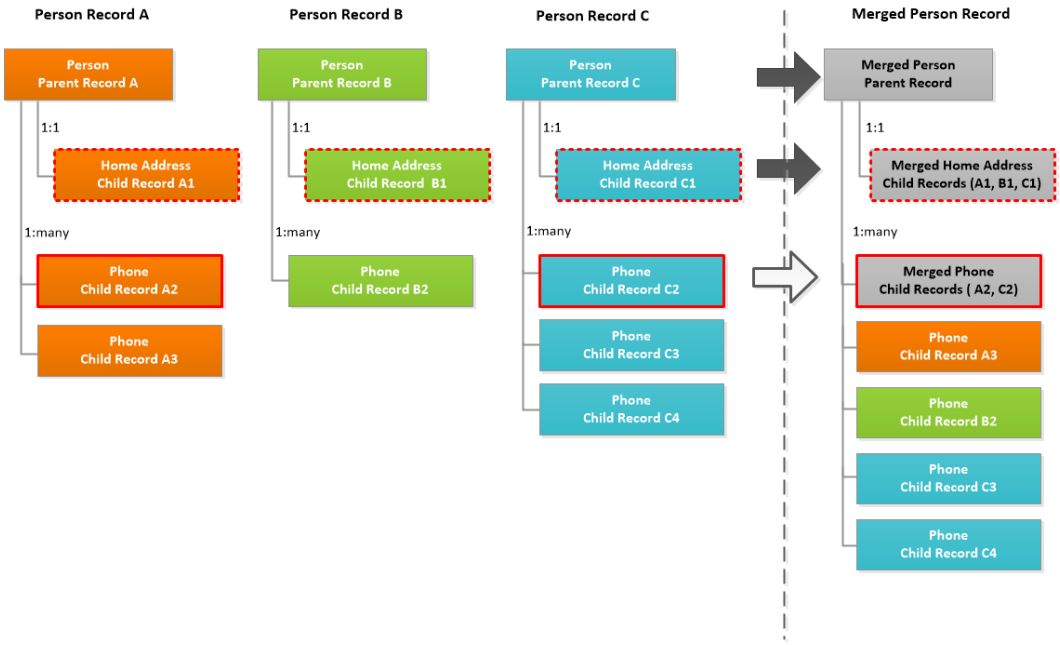
次の表は、子レコードのシナリオと、関連アクションおよび各アクションの結果を示します。

子レコードのシナリオ	アクション	結果
1 対 1 のリレーションを持つ重複子レコード	自動的にマージ。	各親レコードの 1 対 1 の子レコードは、自動的に、マージ後の親レコードの子レコードになる。
1 対多のリレーションを持ついくつかの重複子レコード	マージする重複子レコードを選択する。	重複する子レコードがマージされると、マージ後の親レコードの子レコードになる。選択されなかった子レコードは、マージ後の親レコードの子レコードになる。
1 対多のリレーションを持つ一意の子レコード	自動的に継承。	各親レコードの子レコードは、マージされた親レコードの子レコードになる。

例

3 つの重複レコードをマージする例について考えます。各レコードの親レベルに、名前、生年月日、および性別の詳細があります。子レコードレベルには、自宅の住所と電話番号があります。

次の図は、3 人のレコードがどのようにマージされるかを示しています。



重複レコードのシナリオ

保険会社に勤めているとします。Paula Laine という顧客が住宅保険の保険内容を確認するために電話をかけてきました。Laine さんに保険証券番号を尋ね、その保険証券番号を［**検索**］ボックスに入力します。

検索結果で、その保険証券番号が含まれるレコードを選択し、［**ビジネスエンティティ**］ビューで開きます。いくつかの個人情報を確認してから、契約内容に関する Laine さんからの質問に答えます。

質問に答えた後で、他に保険契約を結んでいるか Laine さんに尋ねます。Laine さんから、自分の会社の子会社の自動車保険に加入しているという回答を得ます。その自動車保険の保険証券番号を［**検索**］ボックスに入

力すると、その自動車保険が含まれるレコードが返されます。個人データがもう一方のレコードのデータに一致することを確認します。

会話を終えた後で、住宅保険が含まれるレコードを［**一致したレコード**］ビューで開きます。類似するレコードから、自動車保険が含まれるエンティティを選択します。［**プレビュー**］をクリックして、両方の保険が保険証券セクションに表示されることを確認します。さらに、異なるソースレコードから提供された Laine さんのミドルネームや携帯電話番号などのデータにより、マージされたレコードがさらに充実したことを確認できます。マージのプレビューがベストバージョンオブトゥルースを表していることを確信したら、マージプロセスを開始します。

重複レコードの解決

［**一致したレコード**］ビューは、レコードの重複を識別する場合に使用します。それらをマージすることで重複レコードを解決できます。レコードをマージするためには、ユーザーロールにマージ権限が含まれる必要があります。

［**一致したレコード**］の基本ビューまたは［**一致したレコード**］の詳細ビューを使用して、重複レコードを解決できます。重複する親レコードのみをマージする場合、［**一致したレコード**］の基本ビューを使用します。重複する親および子レコードをマージするには、［**一致したレコード**］の詳細ビューを使用します。使用するアプリケーションで、［**一致したレコード**］の両方のビューが設定されている場合があります。

注: MDM 管理者がこの目的でカスタムビューを作成した場合は、ビューの名前が変わる場合があります。

一致したレコードの基本ビューを使用する場合

［**一致したレコード**］の基本ビューを使用して重複レコードを解決するには、次のタスクを実行します。

1. 重複する親レコードを識別します。
2. 親レコードのベストバージョンオブトゥルースを完成させます。
3. 子レコードがある場合は、重複する子レコードを識別します。
4. 子レコードのベストバージョンオブトゥルースを完成させます。
5. 重複レコードをマージします。

一致したレコードの詳細ビューを使用する場合

［**一致したレコード**］の詳細ビューを使用して重複レコードを解決するには、次のタスクを実行します。

1. 重複する親レコードを識別します。
2. 親レコードのベストバージョンオブトゥルースを完成させます。
3. 重複レコードをマージします。

重複する親レコードの識別

重複するレコードを識別するには、［**一致したレコード**］ビューでターゲットレコードを開きます。［**一致したレコード**］ビューに、ターゲットレコードが一致したレコードとともに表示されます。親レコードレベルで重複を識別することから始めます。

1. ターゲットレコードを開いてから、［**一致したレコード**］タブを選択します。

   注: 開いたレコードに表示されるタブは、Data Director の設定とユーザーロールの権限によって異なります。

   ［**一致したレコード**］ビューに、一致したレコードが表示されます。

2. **［一致したレコード］**の詳細ビューの場合のみ: 必要に応じて、特定の一致ルールを満たすレコードのみを表示します。
   a. **［フィルタ］**タブをクリックします。
   b. **［一致ルールの指定］**を選択します。
   c. フィールドをクリックし、リストから一致ルールを選択します。
3. ターゲットレコードと統合する重複レコードが、**［一致したレコード］**ビューに表示されない場合は、レコードを手動で追加します。

   クエリを使用して追加するレコードを検索する場合、この手順を実行する前にクエリを作成する必要があります。
   a. **［候補を追加］**をクリックします。

      検索のユーザーインタフェースが表示されます。
   b. 追加するレコードを検索して選択します。
   c. **［選択］**をクリックします。

      ［一致したレコード］ビューにレコードが追加されます。
4. 必要に応じて、重複を特定するのに役立つ可能性のある情報をさらに表示するには、**［表示］**をクリックして、オプションを選択します。

オプション	説明
システムフィールド	システムフィールドを表示します。このオプションは、**［一致したレコード］**の基本ビューには表示されません。
選択したレコード	マージ用に選択したレコードのみが表示されます。このオプションは、**［一致したレコード］**の基本ビューには表示されません。
信頼スコア	信頼が有効なすべてのフィールドの信頼スコアを表示します。信頼の設定は、MDM 管理者が管理します。

5. ターゲットレコードとマージする重複レコードを識別します。
   a. 一致したレコードのそれぞれのデータをターゲットレコードと比較します。
   b. 重複レコードを選択します。

      注: ユーザーロールに、レコードをマージする権限が含まれていない場合は、レコードを選択できません。ロール特権の変更を要求するには、MDM 管理者に問い合わせます。

      ［マージのプレビュー］カラムにレコードのマージの結果が表示されます。
6. 必要に応じて、マージしないレコードや重複ではないレコードを削除します。
   a. **［一致したレコード］**ビューから手動で追加されたレコードを削除するには、レコードの**［アクション］**メニューから**［候補を削除］**をクリックします。
   b. システムで一致したレコードを**［一致したレコード］**ビューから削除して、ターゲットレコードの一致として分離するには、レコードの**［アクション］**メニューから**［一致しない］**をクリックします。

      一致したレコードを切り離すと、そのレコードが再度自動的に一致することはありません。

ベストバージョンオブトゥルースの完成

統合する重複レコードを識別したら、ベストバージョンオブトゥルースを完成させます。**［一致したレコード］**ビューの**［マージのプレビュー］**カラムには、信頼スコアに基づいてベストバージョンオブトゥルースが表示

されます。［**マージのプレビュー**］カラムの値を、正しいと思う値を使用して昇格またはオーバーライドして、ベストバージョンオブトゥルースを完成させることができます。

1. ［**マージのプレビュー**］カラムの値を確認します。
2. ［**マージのプレビュー**］カラムに表示される値が正しくない場合、一致したレコードのフィールドの値を確認し、次のアクションのいずれかを実行します。

アクション	説明
正しい値をクリックする	正しい値は、［**マージのプレビュー**］カラムに表示されます。Data Director は、間違った値に代わって、正しい値を昇格させる。
正しい値を［**マージのプレビュー**］カラムに入力する	Data Director は、［**マージのプレビュー**］カラムに入力した値を使用して、間違った値をオーバーライドする。 **注**: 編集の特権を持ったフィールドでのみ編集を行えます。

重複する子レコードの識別

［**一致したレコード**］の詳細ビューを使用する場合、子レコードおよび子孫レコードを［**一致したレコード**］ビューで確認することで、重複する子レコードを識別できます。他の親レコードの子レコードと比較するターゲット子レコードを選択します。マージする重複子レコードを選択します。

注: 子レコードを操作するときに、親レコードが重複ではなかったことを示すデータが見つかる場合があります。レコードの概要に戻り、その親レコードのチェックボックスをクリアします。［**マージのプレビュー**］カラムのデータが更新されます。

1. ［**ナビゲート**］パネルで、ノードを展開してターゲットレコードとして子レコードを選択します。

   ターゲット子レコードが［マージのプレビュー］カラムの隣に表示されます。残りの子レコードは別のカラムに表示されます。

   ヒント: レコードが保留中のステータスを示す場合、レコードは他のレコードとマージできません。
2. ターゲット子レコードとマージする、重複する子レコードを選択します。

   ヒント: レコードが保留中のステータスを示す場合は、他のレコードとマージするためにレコードを選択できません。

   ［**マージのプレビュー**］カラムに、ターゲット子レコードを重複する子レコードとマージした結果が表示されます。
3. ターゲット子レコードをさらに展開できる場合は、レコードを展開して表示されるノードを選択します。

   子レコードのすべてのフィールドが表示されます。
4. 残りの子レコードでこのプロセスを繰り返します。必要に応じて、子孫レコードで同じプロセスを実行することもできます。
5. ［**マージ**］をクリックします。
6. ［**重複をマージ**］ダイアログボックスで、マージを確認します。

   手動マージ要求は内部変更リストに保存されます。

重複レコードのマージ

重複レコードを識別し、ベストバージョンオブトゥルースを完成させたら、重複レコードをマージできます。

1. 必要に応じて、レコードのマージの結果をプレビューします。
   a. ［**プレビュー**］をクリックします。

      ［**レコードのプレビュー**］が表示されます。
   b. レコードを確認します。
   c. ［**一致したレコード**］ビューに戻るには、［**戻る**］をクリックします。
2. 重複レコードを手動でマージするか、重複レコードを自動マージジョブのキューに入れます。
   - 重複レコードを手動でマージするには、［**マージ**］をクリックします。

     ユーザーロールの権限に基づいて、以下のいずれかのアクションが起こります。

ユーザーロールの権限	結果
レコードをマージするために確認プロセスが必要	選択した重複レコードは、マージの確認ワークフローを経由する。レコードはアクティブ状態のままになるが、レコードがマージされるのは、マージの提案が承認された後になる。
レコードをマージするために確認プロセスが不要	選択した重複レコードは単一レコードにマージされて、アクティブ状態のままになる。

   - 重複レコードを自動的にマージするには、［**アクション**］メニューをクリックして、［**マージのキューに入れる**］をクリックします。

     レコードはマージのキューに入り、自動マージジョブが実行されるとマージされます。自動マージジョブは、MDM 管理者が実行します。

     注: ユーザーロールにレコードをマージする権限がない場合、［**マージのキューに入れる**］メニュー項目は使用できません。

関連項目：

- 「ベストバージョンオブトゥルースの確立」 (ページ 90)
- 「重複する親レコードの識別」 (ページ 84)

単一レコードでの重複する子レコードの解決

単一レコード内にある重複する子レコードを解決するには、［**一致したレコード**］ビューでレコードを開きます。他のレコードは選択しないでください。

1. 子レコードが重複しているレコードを開き、［**一致したレコード**］タブを選択します。

   注: 開いたレコードに表示されるタブは、Data Director の設定とユーザーロールの権限によって異なります。

   ［**一致したレコード**］ビューにレコードが表示されます。
2. ［**ナビゲート**］パネルで、ノードを展開してターゲットレコードとして子レコードを選択します。

   ターゲット子レコードが［**マージのプレビュー**］カラムの隣に表示されます。残りの子レコードは別のカラムに表示されます。

3. ターゲット子レコードとマージする、重複する子レコードを選択します。

   ［マージのプレビュー］ カラムに、ターゲット子レコードを重複する子レコードとマージした結果が表示されます。最も信頼できるフィールドの値が強調表示されます。強調表示された値は、［マージのプレビュー］カラムに表示されます。

4. **［マージのプレビュー］** カラムの値を確認します。
5. **［マージのプレビュー］** カラムに表示される値が正しくない場合、一致したレコードのフィールドの値を確認し、次のアクションのいずれかを実行します。

アクション	説明
正しい値をクリックする	正しい値は、**［マージのプレビュー］** カラムに表示されます。Data Director は、間違った値に代わって、正しい値を昇格させる。
正しい値を **［マージのプレビュー］** カラムに入力する	Data Director は、**［マージのプレビュー］** カラムに入力した値を使用して、間違った値をオーバーライドする。 **注**: 編集の特権を持ったフィールドでのみ編集を行えます。

6. 残りの子レコードでこのプロセスを繰り返します。必要に応じて、子孫レコードで同じプロセスを実行することもできます。
7. 重複レコードを手動でマージするか、重複レコードを自動マージジョブのキューに入れます。
   - 重複レコードを手動でマージするには、**［マージ］** をクリックします。

     ユーザーロールの権限に基づいて、以下のいずれかのアクションが起こります。

ユーザーロールのタイプ	結果
レコードをマージするために確認プロセスが必要	選択した重複レコードは、マージの確認ワークフローを経由する。レコードはアクティブ状態のままになるが、レコードがマージされるのは、マージの提案が承認された後になる。
レコードをマージするために確認プロセスが不要	選択した重複レコードは単一レコードにマージされて、アクティブ状態のままになる。

   - 重複する子レコードを自動的にマージするには、**［アクション］** メニューをクリックして、**［マージのキューに入れる］** をクリックします。

     子レコードはマージのキューに入り、自動マージジョブが実行されるとマージされます。自動マージジョブは、MDM 管理者が実行します。

     注: ユーザーロールにレコードをマージする権限がない場合、**［マージのキューに入れる］** メニュー項目は使用できません。

第 9 章

ベストバージョンオブトゥルースの確立

この章では、以下の項目について説明します。

- マスタレコードとベストバージョンオブトゥルース, 89 ページ
- シナリオ, 89 ページ
- ベストバージョンオブトゥルースの確立, 90 ページ
- マスタレコードへの手動更新の理解, 91 ページ
- 相互参照レコードのマージ解除, 92 ページ

マスタレコードとベストバージョンオブトゥルース

MDM Hub のマスタレコードではベストバージョンオブトゥルースが保持されます。MDM Hub は複数のソースシステムから最も信頼性の高いデータを各マスタレコードに統合し、ベストバージョンオブトゥルースを確立します。

MDM Hub には相互参照レコードのソースデータが保存されます。**[相互参照レコード]** ビューで、データスチュワードはこれらの相互参照レコードを調べ、どのソースデータをマスタレコードに提供するかを調査できます。次に、データスチュワードはマスタレコードがベストバージョンオブトゥルースを表すように、ソースデータの統合方法を調整できます。

MDM Hub は相互参照レコードのフィールドの信頼スコアを計算します。信頼の計算は、管理者が決めた設定およびルールに基づきます。信頼スコアの計算を規定するルールの設定の詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

注: MDM 管理者がこの目的でカスタムビューを作成した場合は、ビューの名前が変わる場合があります。

シナリオ

データスチュワードが、マスタレコードの顧客データがベストバージョンオブトゥルースを表していない理由を調査するとします。

ある顧客の電話番号が最近 555-5555 に変更されました。この電話番号が含まれた相互参照レコードはないため、データスチュワードはマスタレコードで電話番号フィールドを選択し、正しい電話番号を入力します。

顧客レコードのマスタデータには、ある顧客のミドルネームが「Stacy」と表示されています。実際には、ミドルネームのスペルは「Stacey」です。データスチュワードは、正しいスペルになっている相互参照レコードがあるが、そのレコードがマスタレコードにデータを提供していないことに気づきます。データスチュワードは正しいスペルになっているフィールドをマスタレコードへの提供元として選択します。

Joe Smith のマスタレコードに、実際には Joe Smith ではない顧客の 2 つの相互参照レコードが含まれています。データスチュワードは、Joe Smith のマスタレコードからこれらの一致しない 2 つの相互参照レコードをマージ解除します。マスタレコードがマージ解除された相互参照レコードから作成されます。

ベストバージョンオブトゥルースの確立

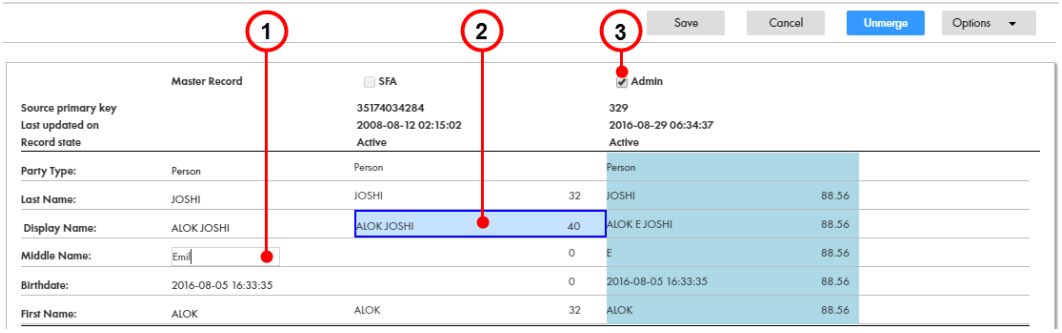
データスチュワードは、**[相互参照レコード]** ビューを使用してマスタレコードの構成を調べることができます。次に、データスチュワードは、マスタレコードが確実にベストバージョンオブトゥルースを表すように調整を行うことができます。

注: MDM 管理者がこの目的でカスタムビューを作成した場合は、ビューの名前が変わる場合があります。

最も信頼性の高いフィールドに最善データが含まれていない場合、データスチュワードは以下のアクションを行い、ベストバージョンオブトゥルースを確立できます。

アクション	説明	方法
正しい値を入力する	相互参照レコードに正しい値が存在しない場合、データスチュワードはマスタレコードに正しい値を入力できます。	[マスタレコード] カラムで不正な値をクリックし、正しい値を入力します。Enter キーを押し、[保存] をクリックします。
正しい提供元フィールドを選択する	信頼スコアが最も高いフィールドにベストバージョンオブトゥルースが含まれていない場合、データスチュワードはマスタレコードにデータを提供する正しいデータが含まれるフィールドを選択できます。	正しいデータが含まれるフィールドをクリックします。[保存] をクリックします。
一致しないソースデータを削除する	相互参照レコードを特定のマスタレコードに関連付けることが適切でない場合、データスチュワードはその相互参照レコードをマージ解除できます。マージ解除した相互参照レコードから新しいマスタレコードが作成されます。	一致しないデータが含まれる相互参照レコードのチェックボックスを選択し、**[マージ解除]** をクリックします。 マージ解除の詳細については、「相互参照レコードのマージ解除」 (ページ 92) を参照してください。

次の図は、データスチュワードがベストバージョンオブトゥルースを確立する方法を示しています。

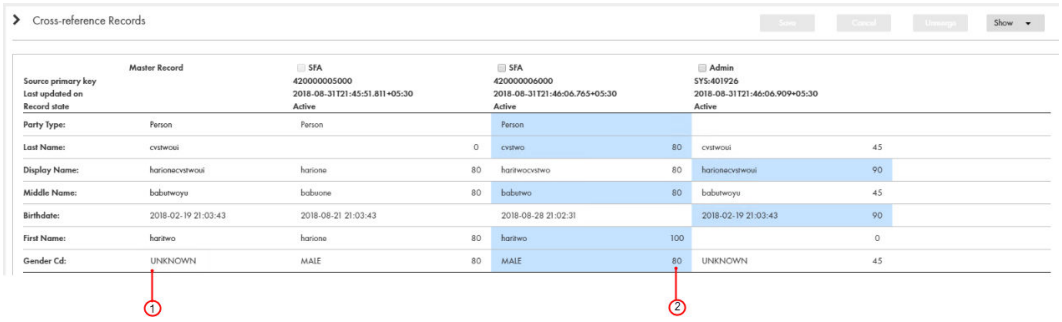


1. 正しい値を入力する
2. 正しい提供元フィールドを選択する
3. マージ解除する相互参照レコードを選択する

マスタレコードへの手動更新の理解

[相互参照レコード] ビューの強調表示されたセルは、信頼スコアが最も高い値を示します。フィールドの信頼スコアに関係なく、値を手動で更新できます。マスタレコードの値を手動で更新すると、[マスタレコード] カラムに変更後の値が表示されます。信頼スコアが最も高い値を識別するために、セルは引き続き強調表示されます。

例えば、可能性のある値として、UNKNOWN、MALE、および FEMALE があるジェンダーコードフィールドがあるとします。次の図で、[マスタレコード] カラムのジェンダーコードは [UNKNOWN] ですが、最も信頼される値は [MALE] です。



1. マスタレコードの値は、[UNKNOWN] です。
2. 最も信頼される値（80%）は [MALE] です。

[マスタレコード] カラムの値は、値 [UNKNOWN] で更新されます。[管理] カラムで、値 [UNKNOWN] の信頼スコアは 45 になっています。これは、[性別コード] フィールドが [UNKNOWN] のときは必ず、検証ルールが信頼スコアをダウングレードするためです。

ヒント: マスタレコードの値を更新する別の方法は、`TrustOverrideField` パラメータを指定して Put API を呼び出すことです。アップグレード後、Put プロセスは、信頼オーバーライドのあるフィールドを除くすべてのフィールドの最善バージョンを再計算します。

相互参照レコードのマージ解除

相互参照レコードを特定のマスタレコードに関連付けることが適切でない場合、データスチュワードはその相互参照レコードをマージ解除できます。マージ解除した相互参照レコードから新しいマスタレコードが作成されます。

次の図は、5 つの相互参照レコードで構成されたマスタレコードから 1 つの相互参照レコードをマージ解除したときのマージ解除の動作を示しています。

第 10 章

データ変更の調査

この章では、以下の項目について説明します。

- データ変更の調査の概要, 93 ページ
- データ変更の調査のシナリオ, 93 ページ
- イベント前後のデータの比較, 94 ページ

データ変更の調査の概要

特定のレコードについて、異なる時点でのベストバージョンオブトゥルースを比較することができます。レコードのデータが不適切に変更されたことが疑われる場合、**[履歴]** ビューを使用して、データ変更の原因となったデータイベントを特定することができます。

[履歴] ビューには、レコードの存続期間にわたってデータがどのように変化したかが時系列で表示されます。レコード内に存在した、任意の時点のデータを表示できます。データイベント前後のデータを表示し、イベントによってデータが不適切に変更されていないかどうかを確認します。データイベントとは、編集操作、マージ操作など、レコードのデータを変更する何らかのアクションです。

データ変更の調査のシナリオ

ある顧客が、最近メールアドレスを変更したことを報告し、現在の連絡先の詳細が登録されていることを確認したいと考えているとします。この顧客のレコードの **[履歴]** ビューを確認します。

アドレスを変更したのは今年の 10 月だという顧客からの報告に基づいて、その頃に発生したデータイベントを **[履歴]** ビューに時系列で表示します。その顧客のレコードで 10 月に複数のデータイベントが発生したことが確認できます。[メール] 子レコードに移動し、データイベント前後のデータを比較します。その顧客の新しいメールアドレスが追加されたことを確認します。さらに調査を進め、その顧客のミドルネームが追加されたことに気づきます。

注: MDM 管理者がこの目的でカスタムビューを作成した場合は、ビューの名前が変わる場合があります。

イベント前後のデータの比較

[階層] ビューを使用して、マスタデータへの変更を比較します。

1. レコードを開いて、**[履歴]** タブを選択します。

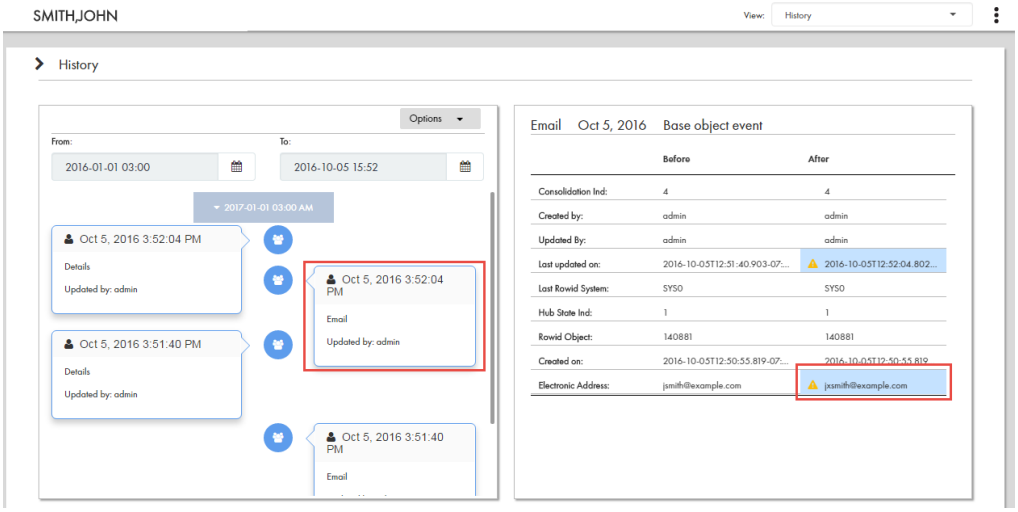
   注: 開いたレコードに表示されるタブは、Data Director の設定とユーザーロールの権限によって異なります。

   [履歴] ビューが開きます。レコードへの変更がタイムラインに表示されます。

2. 必要に応じて、フィルタを選択してさまざまなタイプのイベントを表示または非表示にします。

3. 必要に応じて、データイベントをグループ化する時間の単位を選択します。そのためには、**[オプション]** をクリックして異なるタイムスケールを選択します。例えば、月次タイムスケールを選択するには **[M]** を選択します。

   次の図は、10 月でグループ化したデータイベントを示しています。

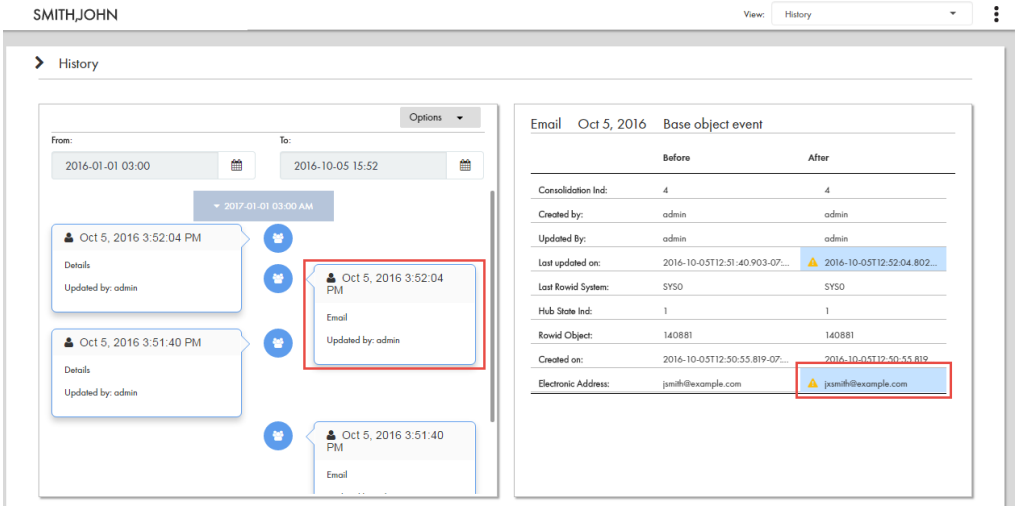


4. **[メール]** というラベルが付いたイベントをクリックします。

   イベントの詳細パネルには、イベント前後のレコードの詳細と、レコードが更新された時刻が表示されます。この例では、メールアドレスが jsmith@example.com から jxsmith88@example.com に変更されています。

5. **［SMITH, JOHN］**というラベルの付いたイベントをクリックします。

次の図は、レコードの表示名が「John Smith」から「John Xavier」に変更されたことを示しています。



第 11 章

リレーションの調査

この章では、以下の項目について説明します。

- リレーションの調査の概要, 96 ページ
- ユーザーインタフェース, 96 ページ
- 階層リレーションの管理, 100 ページ
- ネットワークリレーションの管理, 104 ページ

リレーションの調査の概要

レコードのリレーションを表示することで、レコードがお互いにどのように関係しているかを表示することができます。階層リレーションとネットワークリレーションの、2 種類のリレーションを作成および管理できます。階層リレーションはレコード間の親子関係を定義し、ネットワークリレーションは関連するレコードを定義します。

ユーザーインタフェース

Data Director インタフェースを使用して、レコードの階層リレーションとネットワークリレーションを管理します。

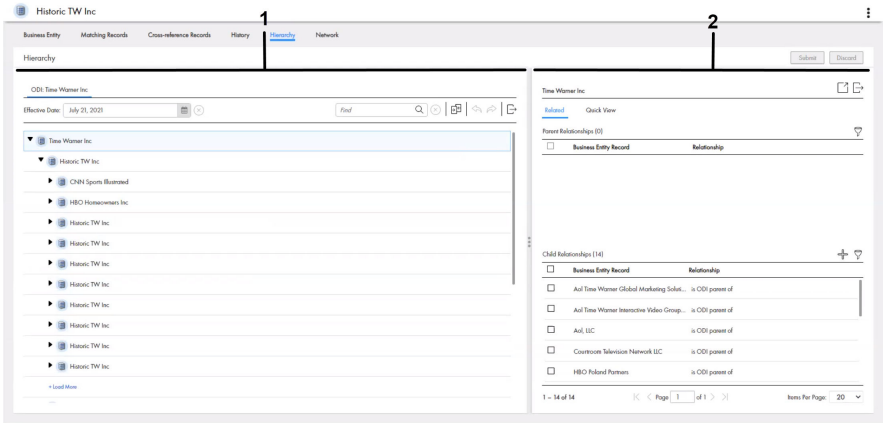
［階層］ビュー

［階層］ビューには、開いているレコードの階層リレーションが表示されます。**［階層］**ビューを使用して、リレーションを表示、作成、管理します。

確認および承認のために、階層の変更を送信できます。階層を編集するときに、変更は**［階層］**ビューでハイライトされています。

各階層の階層リレーションを含む、レコードの階層を表示できます。有効日の階層を表示する、または階層の現在のバージョンと別の日のバージョンを比較できます。階層をエクスポートすることもできます。

次の図に、レコードのサンプルの**［階層］**ビューを示します。



1. ［階層］パネル
2. ［リレーション］パネル

［階層］パネル

次の表に、［階層］パネルのユーザーインタフェース要素の一覧を示します。

ユーザーインタフェース要素	ユーザーインタフェース要素
［階層］タブ	レコードが属する階層を示します。
グラフ	選択した階層に基づいて開いているレコードの階層リレーションのツリーを示します。

レコードは複数の階層に属していることがあります。階層コンポーネントにデフォルト階層を定義することで、［階層］パネルにレコードのデフォルト階層がロードされます。階層を定義しない場合、［階層］パネルにはレコードが属する階層のリストがロードされます。

［リレーション］パネル

次の表に、［リレーション］パネルのユーザーインタフェース要素の一覧を示します。

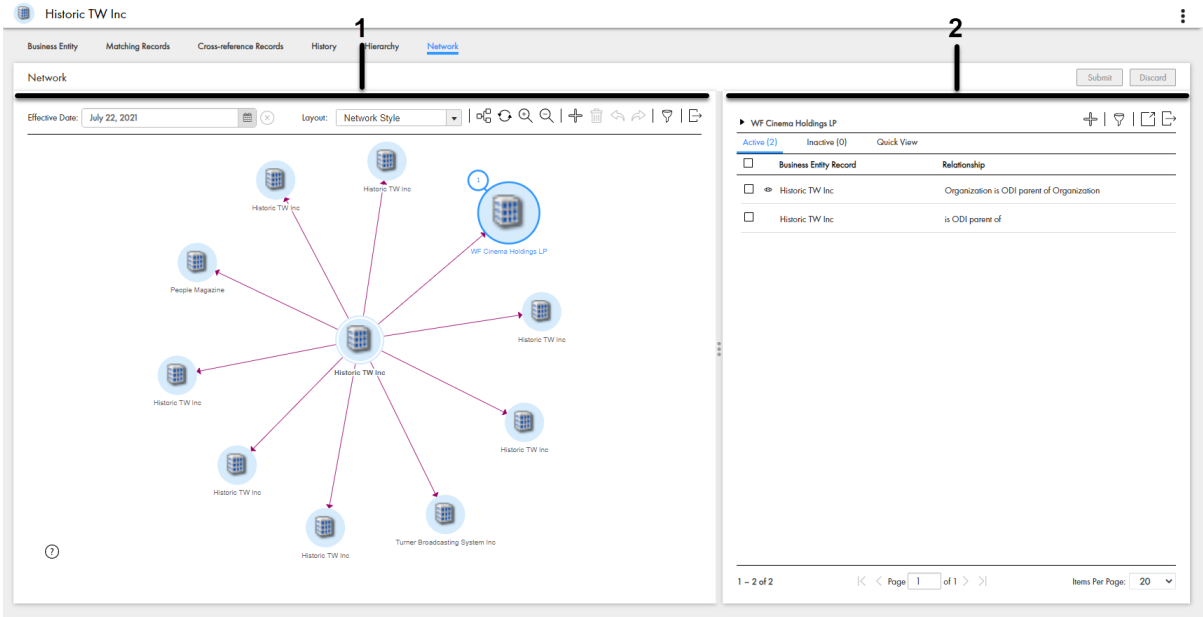
ユーザーインタフェース要素	説明
［関連］タブ	選択した［階層］タブに基づいて開いているレコードの親および子リレーションを示します。
［クイックビュー］タブ	オプション。開いているレコードの詳細の圧縮サマリを示します。 **注**: MDM 管理者は **［クイックビュー］** タブを設定します。ビューを設定するには、MDM 管理者に連絡してください。

［ネットワーク］ビュー

［ネットワーク］ビューには、ネットワークリレーションおよび階層リレーションを含む、開いているレコードのすべてのリレーションが表示されます。**［ネットワーク］**ビューを使用して、ネットワークリレーションを表示、作成、管理し、階層リレーションを表示します。

有効日のレコードのネットワークリレーションを表示できます。ネットワークグラフのリレーションおよびレコードを表示、非表示およびフィルタすることができます。ネットワークグラフをエクスポートすることもできます。

次の図に、レコードのサンプルの**［ネットワーク］**ビューを示します。



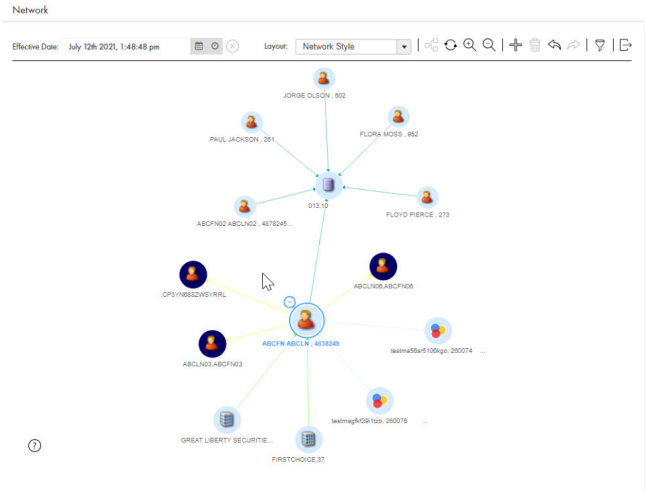
1. ［ネットワーク］パネル
2. ［リレーション］パネル

［ネットワーク］パネル

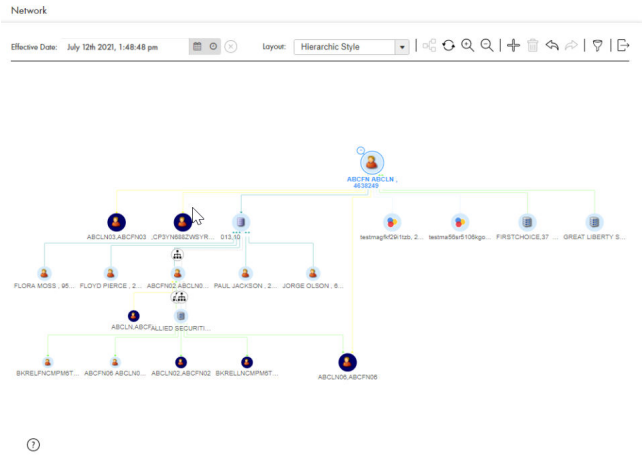
ネットワークパネルには、開いているレコードのリレーションのネットワークを表示するキャンバスが含まれています。キャンバスでノードを展開、縮小および再配置できます。ネットワークにリレーションおよびレコードを追加することもできます。

リレーションは、連結グラフまたはツリーグラフとして視覚化できます。

ネットワークレイアウトは、連結グラフでリレーションを視覚化します。次の図は、ネットワークレイアウトの連結グラフとしてのリレーションを示しています。



階層レイアウトは、ツリーグラフでリレーションを視覚化します。次の図は、階層レイアウトのツリーグラフとしてのリレーションを示しています。



［リレーション］パネル

次の表に、［リレーション］パネルのユーザーインタフェース要素の一覧を示します。

ユーザーインタフェース要素	説明
［アクティブ］タブ	有効日に基づいて開いているレコードのアクティブなネットワークリレーションを示します。
［非アクティブ］タブ	有効日に基づいて開いているレコードの非アクティブなネットワークリレーションを示します。
［クイックビュー］タブ	オプション。開いているレコードの詳細の圧縮サマリを示します。 **注**: MDM 管理者は **［クイックビュー］** タブを設定します。ビューを設定するには、MDM 管理者に連絡してください。

階層リレーションの管理

レコードは複数の階層に属することができます。階層にはレコード間の階層リレーションが含まれます。例えば、John Smith のレコードが Organization 階層および Household 階層の一部であるとします。

[階層] ビューを使用して、レコードの階層リレーションを表示および管理します。例えば、John Smith のレコードを表示すると、レコードが Organization 階層および Household 階層に属することが分かります。John Smith のレコードの Organization 階層には、Informatica のレコードから United States のレコードへの階層リレーションと、さらに United States のレコードから John Smith のレコードへの階層リレーションがあります。

階層リレーションの現在のバージョンと別の日のバージョンを比較できます。リレーションの開始日または終了日を設定できます。レコードの詳細については、**[クイックビュー]** タブを使用するか、エンティティタブでレコードを開くことができます。

[階層] ビューからレコードを開く

[階層] ビューを使用して、開いたレコードと他のレコード間の階層リレーションを確認します。

[階層] ビューでレコードを開くには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- **[検索]** タブの検索結果で、**[その他のオプション]** アイコンをクリックし、**[階層]** を選択します。
- **[クエリ]** タブの検索結果で、**[その他のオプション]** アイコンをクリックし、**[階層]** を選択します。
- 開いたレコードを表示するレコードビューで、**[階層]** をクリックします。

階層のレコードおよびリレーションの表示

ノードを展開または縮小したり、レコードの親と子のリレーションを表示したり、リレーションのプロパティを表示したりすることで階層内のレコードとリレーションを表示します。

1. 階層を移動するには、ノードの横にある矢印アイコンをクリックして、ノードを展開または縮小します。

   選択したノードの子リレーションが表示または非表示になります。
2. レコードの親リレーションと子リレーションを表示するには、キャンバスでノードを選択します。

   [関連] タブに、選択したレコードの親リレーションと子リレーションが表示されます。
3. リレーションをフィルタリングするには、リレーションパネルで、**[フィルタ]** アイコンをクリックして、フィルタを追加します。

   リレーションパネルのリレーションのリストが更新されます。
4. レコードを検索するには、階層パネルで、**[検索]** フィールドに検索用語を入力し、**[検索]** をクリックします。検索用語をクリアして検索をキャンセルするには、**[検索の中止]** をクリックします。

   注: 階層内の最初の 1000 ノードのみを検索できます。

階層リレーションの追加

階層リレーションを階層に追加するには、リレーションを設定するレコードを検索してから、リレーションを定義します。

1. **[階層]** ビューで、キャンバスのノードにマウスを合わせてから、**[新規リレーションを選択したエンティティに追加]** アイコンをクリックします。

   [関連レコードの追加] ウィンドウが表示されます。

2. リレーションを作成するレコードを見つけるには、次のアクションを実行します。
   a. リレーションリストで、リレーションを選択します。
   b. 関連レコードを検索するクエリを実行します。
   c. 検索結果で、レコードを選択し［**選択**］をクリックします。

      ヒント: 複数のレコードを選択するには、**Ctrl** キーを押しながらレコードを選択します。
3. 必要に応じて、リレーションの属性を定義します。
4. ［**保存**］をクリックします。

階層リレーションをレコードに追加しました。レコードは、選択したノードの子として階層に表示されます。

階層の編集が完了したら、承認のために変更を送信します。詳細については、「階層変更の送信」 (ページ 103)を参照してください。

階層リレーションの削除

不要になった階層リレーションを削除します。

階層リレーションがアクティブではなくなった場合、リレーションの終了日を設定できます。詳細については、「今日を階層リレーションの終了日として設定する」 (ページ 101)を参照してください。

▶ ［**階層**］ビューで、キャンバスのノードにマウスを合わせてから、［**選択済みのリレーションを削除**］アイコンをクリックします。

レコードへの階層リレーションは階層に表示されなくなります。リレーションパネルで、削除されたリレーションは赤でハイライト表示されます。

階層の編集が完了したら、承認のために変更を送信します。詳細については、「階層変更の送信」 (ページ 103)を参照してください。

階層リレーションのリレーションプロパティの編集

リレーションフィールド、またはリレーションの開始日あるいは終了日を編集します。

1. ［**階層**］ビューで、リレーションのプロパティを編集するには、次のアクションのいずれかを実行します。
   a. キャンバスのノードにマウスを合わせて、［**選択済みのリレーションを編集**］アイコンをクリックします。
   b. キャンバスのノードを選択します。リレーションパネルで、リレーションにマウスを合わせて、［**その他のアクション**］アイコンをクリックし、［**編集**］を選択します。

   ［**リレーションの編集**］パネルが開きます。
2. 必要に応じて、リレーションフィールドを編集します。

   注: MDM 管理者は、リレーションに使用可能なリレーションフィールドを設定します。フィールドを変更するには MDM 管理者に連絡してください。
3. 必要に応じて、リレーションの開始日または終了日を編集します。
4. ［**適用**］をクリックします。

今日を階層リレーションの終了日として設定する

リレーションの終了日として今日を設定し、リレーションを非アクティブとして示します。

1. ［**階層**］ビューで、キャンバス上のノードを選択します。

2. リレーションパネルで、リレーションにマウスを合わせ、［**その他のアクション**］アイコンをクリックして、［**終了日として本日を設定**］を選択します。

   注: 終了日は、デフォルトで有効日から 1 つの設定済み時間測定単位を引いたものになります。有効日が今日で、設定されたタイムラインの粒度が日である場合、終了日は昨日です。例えば、今日が 2021 年 1 月 22 日の場合、終了日は 2021 年 1 月 21 日です。

注: 終了日は、デフォルトで有効日から 1 つの設定済み時間測定単位を引いたものになります。有効日が今日で、設定されたタイムラインの粒度が日である場合、終了日は昨日です。例えば、今日が 2021 年 1 月 22 日の場合、終了日は 2021 年 1 月 21 日です。

有効日付または履歴日付との比較

現在のバージョンの階層を、別の有効日付または履歴日付のバージョンの階層と比較します。

1. ［**階層**］ビューで、［**比較**］アイコンをクリックします。

   ［**比較元**］パネルと［**比較先**］パネルが表示されます。
2. ［**比較先**］パネルで、日付のタイプを選択します。
3. 日付を選択してください。
4. ［**比較**］をクリックします。

［**比較元**］パネルに、現在のバージョンの階層および階層リレーションが表示されます。［**比較先**］パネルに、選択した日付のバージョンの階層および階層リレーションが表示されます。変更はハイライト表示されています。

次の表で、これらのハイライトについて説明します。

ハイライト	示す内容
緑	新しいリレーション
黄	編集されたリレーション
赤	削除されたリレーション

［階層］ビューからのレコードの表示

エンティティタブでレコードを開いて、レコードの詳細を表示できます。

1. ［**階層**］ビューで、キャンバス上のノードを選択します。
2. リレーションパネルで、リレーションにマウスを合わせ、［**その他のアクション**］アイコンをクリックして、［**開く**］を選択します。

   レコードがエンティティタブで開きます。

階層のエクスポート

階層内のすべてのノード、または階層内の展開されているノードのみを、CSV ファイルにエクスポートします。

注: MDM 管理者は、エクスポートに含まれるフィールドを設定します。エクスポート設定を変更するには、MDM 管理者に連絡してください。

1. ［**階層**］ビューで、［**エクスポート**］アイコンをクリックします。

2. 次のいずれかのエクスポートオプションを選択します。

オプション	説明
すべて	縮小されているノードを含む、階層内のすべてのノードをエクスポートします。
拡張	階層内の展開されているノードをエクスポートします。

3. CSV ファイルを保存します。

階層変更の送信

階層の変更が完了したら、変更を送信します。

1. **［階層］**ビューで、**［送信］**をクリックします。

   ［階層変更を送信］ウィンドウが表示されます。

2. 変更を確認します。

   次の表で、これらのハイライトについて説明します。

ハイライト	示す内容
緑	新しいリレーション
黄	編集されたリレーション
赤	削除されたリレーション

3. **［承認］**をクリックします。

ユーザーロールにより、確認せずにデータを保存することが許可されている場合、アプリケーションによって階層が保存されます。それ以外の場合、アプリケーションによって階層の変更が保留中の変更として保存され、ロールに関連付けられた確認プロセスが開始されます。例えば、ワークフローがトリガされ、マネージャが変更を承認または却下するための階層タスクが作成されます。

複数の階層リレーションの管理

リレーションパネルで複数の階層リレーションを管理します。複数のリレーションを編集または削除し、複数のリレーションを 1 つの親から別の親に移動することができます。

複数の階層リレーションの編集

同じリレーションタイプの複数のアクティブな子リレーションのプロパティを編集できます。例えば、複数のリレーションに同じ終了日を使用したい場合があります。

1. リレーションパネルで、編集するレコードを選択します。
2. 選択したレコードの 1 つにマウスを合わせ、**［その他のアクション］**アイコンをクリックし、**［編集］**を選択します。
3. 変更するプロパティを編集します。
4. **［適用］**をクリックします。
5. **［送信］**をクリックします。

   ［階層変更を送信］ウィンドウが表示されます。

6. ［**承認**］をクリックします。

複数の階層リレーションの削除

不要になった複数のアクティブな子リレーションを削除できます。

1. リレーションパネルで、削除するレコードを選択するか、［**すべて選択**］を選択してすべてのレコードを選択します。
2. 選択したレコードの 1 つにマウスを合わせ、［**その他のアクション**］アイコンをクリックし、［**削除**］を選択します。
3. ［**送信**］をクリックします。

   ［**階層変更を送信**］ウィンドウが表示されます。
4. ［**承認**］をクリックします。

複数のレコードの移動

複数のアクティブな子のリレーションを 1 つの親から別の親に移動できます。

1. リレーションパネルで、移動するレコードを選択します。
2. 選択したレコードの 1 つにマウスを合わせ、［**その他のアクション**］アイコンをクリックし、［**移動先**］を選択します。
3. ［**移動先**］フィールドで［**その他のアクション**］アイコンを選択します。

   ［**関連レコードの追加**］ウィンドウが表示されます。
4. ターゲットビジネスエンティティを検索し、［**選択**］をクリックします。
5. ［**既存の関連レコード**］フィールドで［**リレーションの終了**］または［**リレーションの削除**］を選択します。
6. ［**適用**］をクリックします。
7. 変更するプロパティを編集します。
8. ［**適用**］をクリックします。
9. ［**送信**］をクリックします。

   ［**階層変更を送信**］ウィンドウが表示されます。
10. ［**承認**］をクリックします。

ネットワークリレーションの管理

レコードのネットワークリレーションを表示できます。例えば、John Smith のレコードは X100 キーボードのレコードと関連しているとします。Informatica のレコードは John Smith のレコードと関連しています。Informatica は John Smith を雇用しているからです。

［**ネットワーク**］ビューを使用して、レコードの階層リレーションおよびネットワークリレーションを表示します。［**ネットワーク**］ビューで追加のネットワークリレーションを作成することもできます。

有効日のレコードのネットワークリレーションを表示できます。リレーションの開始日または終了日を設定できます。レコードの詳細については、［**クイックビュー**］タブを使用するか、エンティティタブでレコードを開くことができます。

［ネットワーク］ビューでレコードを開く

［ネットワーク］ビューを使用して、開いたレコードと他のレコード間のネットワークリレーションと階層リレーションを確認します。

［ネットワーク］ビューでレコードを開くには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- **［検索］**タブの検索結果で、**［その他のオプション］**アイコンをクリックし、**［ネットワーク］**を選択します。
- **［クエリ］**タブの検索結果で、**［その他のオプション］**アイコンをクリックし、**［ネットワーク］**を選択します。
- 開いたレコードを表示するレコードビューで、**［ネットワーク］**をクリックします。

ネットワーク内のレコードとリレーションの表示

ノードを展開または縮小したり、アクティブおよび非アクティブなリレーションを表示したり、キャンバス上のリレーションを表示または非表示にしたりすることで、ネットワーク内のレコードとリレーションを表示します。

1. ノードを展開するには、ノードをダブルクリックします。
2. キャンバスの詳細を変更するには、**［レイアウト］**リストでレイアウトを選択します。

   次のいずれかの値を使用します。

   - ネットワーク。連結グラフにリレーションを表示します。デフォルトは**［ネットワーク］**です。
   - 階層。ツリーグラフにリレーションを表示します。
3. ネットワークグラフのビジネスエンティティまたはリレーションをフィルタリングするには、**［フィルタ］**アイコンをクリックして、フィルタを追加します。
4. リレーションをフィルタリングするには、**［アクティブ］**タブで、**［フィルタ］**アイコンをクリックして、フィルタを追加します。
5. 有効日のネットワーク内のリレーションを表示するには、**［有効日］**フィールドで日付を選択します。
6. キャンバスでリレーションを非表示にするには、**［アクティブ］**タブで行にマウスポインタを合わせ、**［その他のアクション］**アイコンをクリックし、**［キャンバスに非表示］**をクリックします。

   キャンバスでリレーションが非表示になり、**［キャンバスに表示済み］**アイコンが行から消えます。
7. キャンバスでリレーションを表示するには、**［アクティブ］**タブで行にマウスを合わせ、**［その他のアクション］**アイコンをクリックし、**［キャンバスに表示］**をクリックします。

   キャンバスでリレーションが表示され、**［キャンバスに表示済み］**アイコンが行に表示されます。
8. キャンバスに表示されているレコードをフィルタリングするには、リレーションパネルで**［フィールドの追加］**をクリックして、フィルタを選択します。ビジネスエンティティ、リレーション、またはノードの可視性でフィルタリングできます。最大 3 つのフィルタを使用することもできます。

   リレーションパネルには、使用されているフィルタに従ってレコードが表示されます。

   注: フィルタオプションは、アクティブなリレーションと非アクティブなリレーションで使用できます。

ネットワークリレーションのレコードへの追加

ネットワークリレーションを階層に追加するには、リレーションを設定するレコードを検索してから、リレーションを定義します。

1. ［ネットワーク］ビューで、リレーションを追加するノードを選択します。

2. リレーションを追加するには、次のいずれかのアクションを実行します。
   - ネットワークパネルで、キャンバスのノードにマウスを合わせてから、**[追加]** アイコンをクリックします。
   - リレーションパネルで、**[ビジネスエンティティレコードを追加]** アイコンをクリックします。

   [関連レコードの追加] ウィンドウが表示されます。
3. リレーションを作成するレコードを見つけるには、次のアクションを実行します。
   a. リレーションリストで、リレーションを選択します。
   b. 関連レコードを検索するクエリを実行します。
   c. 検索結果で、レコードを選択し **[選択]** をクリックします。

      ヒント: 複数のレコードを選択するには、**Ctrl** キーを押しながらレコードを選択します。
4. 必要に応じて、リレーションの属性を定義します。
5. **[保存]** をクリックします。

ネットワークリレーションをレコードに追加しました。リレーションおよびレコードがネットワークに表示されます。

ネットワークへのレコードの追加

関連レコードをネットワークに追加します。

1. **[ネットワーク]** ビューで、ツールバーの **[ビジネスエンティティレコードを追加]** アイコンをクリックします。

   保存済みクエリウィンドウが開きます。
2. 関連レコードを検索するクエリを実行します。
3. レコードを選択してから **[選択]** をクリックします。

[ネットワーク] ビューに、レコードノードが表示されます。リレーションを定義する **[リレーションの編集]** パネルが表示されます。または、レコードへのネットワークリレーションを作成します。

次に、レコードへのネットワークリレーションを作成します。

ネットワー内のレコード間のリレーションの作成

ネットワーク内の接続されていないレコードにネットワークリレーションを追加します。

1. **[ネットワーク]** ビューで、ノードにマウスを合わせてから、**[矢印]** アイコンをクリックします。
2. 矢印をドラッグし、リレーションを作成するレコードノード上でリリースします。

   [リレーションの編集] パネルが開きます。
3. オプションで、リレーションフィールドがある場合、リレーション属性を指定します。
4. オプションで、タイムラインが有効な場合、開始日または終了日を設定します。

今日をネットワークリレーションの終了日として設定する

リレーションの終了日として今日を設定し、リレーションを非アクティブとして示します。

1. **[ネットワーク]** ビューで、キャンバス上のノードを選択します。

2. リレーションパネルで、リレーションにマウスを合わせ、［**その他のアクション**］アイコンをクリックして、［**終了日として本日を設定**］を選択します。

   注: 終了日は、デフォルトで有効日から 1 つの設定済み時間測定単位を引いたものになります。有効日が今日で、設定されたタイムラインの粒度が日である場合、終了日は昨日です。例えば、今日が 2021 年 1 月 22 日の場合、終了日は 2021 年 1 月 21 日です。

注: 終了日は、デフォルトで有効日から 1 つの設定済み時間測定単位を引いたものになります。有効日が今日で、設定されたタイムラインの粒度が日である場合、終了日は昨日です。例えば、今日が 2021 年 1 月 22 日の場合、終了日は 2021 年 1 月 21 日です。

ネットワークリレーションの削除

不要になったネットワークリレーションを削除します。

▶ ［**ネットワーク**］ビューで、キャンバスのノードにマウスを合わせてから、［**選択済みのリレーションを削除**］アイコンをクリックします。

ネットワークリレーションのリレーションプロパティの編集

リレーションフィールド、またはリレーションの開始日あるいは終了日を編集します。

1. ［**ネットワーク**］ビューで、リレーションのプロパティを編集するには、キャンバスでノードを選択します。
2. リレーションパネルで、リレーションにマウスを合わせて、［**その他のアクション**］アイコンをクリックし、［**編集**］を選択します。

   ［**リレーションの編集**］パネルが開きます。
3. 必要に応じて、リレーションフィールドを編集します。

   注: MDM 管理者は、リレーションに使用可能なリレーションフィールドを設定します。フィールドを変更するには MDM 管理者に連絡してください。
4. 必要に応じて、リレーションの開始日または終了日を編集します。
5. ［**適用**］をクリックします。

ネットワークビューで関連レコードを開く

レコードを開いて、レコードの詳細を表示できます。

▶ リレーションパネルでレコードを開くには、次のいずれかのアクションを実行します。

- レコードを選択し、［**開く**］アイコンをクリックします。
- レコードにマウスを合わせ、［**その他のアクション**］アイコンをクリックし、［**開く**］を選択します。

ネットワークのエクスポート

ネットワークのイメージをエクスポートします。

注: MDM 管理者は、エクスポートに含まれるフィールドを設定します。エクスポート設定を変更するには、MDM 管理者に連絡してください。

1. ［**ネットワーク**］ビューで、［**グラフのエクスポート**］アイコンをクリックします。
2. PNG ファイルを保存します。

複数のネットワークリレーションの管理

リレーションパネルで複数のネットワークリレーションを管理します。複数のリレーションを編集または削除し、複数のリレーションを 1 つのノードから別のノードに移動することができます。

複数のネットワークリレーションの編集

同じリレーションタイプの複数のリレーションのプロパティを編集できます。例えば、複数のリレーションに同じ終了日を使用したい場合があります。

1. リレーションパネルで、編集するレコードを選択します。
2. 選択したレコードの 1 つにマウスを合わせ、**［その他のアクション］**アイコンをクリックし、**［編集］**を選択します。
3. 変更するプロパティを編集します。
4. **［適用］**をクリックします。
5. **［送信］**をクリックします。

   ［ネットワークサマリーの変更］ウィンドウが表示されます。
6. **［承認］**をクリックします。

複数のネットワークリレーションの削除

不要になった複数のネットワークリレーションを削除できます。

1. リレーションパネルで、削除するレコードを選択します。
2. 選択したレコードの 1 つにマウスを合わせ、**［その他のアクション］**アイコンをクリックし、**［削除］**を選択します。
3. **［送信］**をクリックします。

   ［ネットワークサマリーの変更］ウィンドウが表示されます。
4. **［承認］**をクリックします。

複数のレコードの移動

複数のネットワークリレーションを 1 つのノードから別のノードに移動できます。

注: ネットワークパネルで非表示のリレーションを移動することはできません。

1. リレーションパネルで、移動するレコードを選択します。
2. 選択したレコードの 1 つにマウスを合わせ、**［その他のアクション］**アイコンをクリックし、**［移動先］**を選択します。
3. **［移動先］**フィールドで**［その他のアクション］**アイコンを選択します。

   ［関連レコードの追加］ウィンドウが表示されます。
4. ターゲットビジネスエンティティを検索し、**［選択］**をクリックします。
5. **［既存の関連レコード］**フィールドで**［リレーションの終了］**または**［リレーションの削除］**を選択します。
6. **［適用］**をクリックします。
7. 変更するプロパティを編集します。
8. **［適用］**をクリックします。
9. **［送信］**をクリックします。

   ［ネットワークサマリーの変更］ウィンドウが表示されます。

10. ［**承認**］をクリックします。

第 12 章

データ変更イベントでの有効期間の調査

この章では、以下の項目について説明します。

- データ変更イベントでの有効期間の調査の概要, 110 ページ
- データ変更イベントの調査のシナリオ, 110 ページ
- データ変更イベントの表示, 111 ページ
- データ変更イベントの追加, 112 ページ
- データ変更イベントの削除, 113 ページ

データ変更イベントでの有効期間の調査の概要

データ変更イベントは、著作物のステータス、アドレス、一定期間有効な電話番号などのデータに対する変更です。レコードには複数のデータ変更イベントが含まれる場合があります。[**タイムライン**] ビューを使用して、レコードのデータ変更イベントを調査します。

データに変更が発生すると、有効期間が新しくなったり、既存または今後の有効期間が更新されたりします。[**タイムライン**] ビューを使用して、一定期間のデータに対する変更を表示します。また、タイムラインに対してデータ変更イベントの追加と削除を行うこともできます。データ変更イベントを管理するには、[**ビジネスエンティティ**] ビューまたは [**データ**] ビューを使用します。

注: [**タイムライン**] ビューは、サブジェクト領域モデルからビジネスエンティティモデルにアップグレードした顧客のみ使用できます。タイムラインが MDM Hub Store のベースオブジェクトで有効な場合、[**タイムライン**] ビューはベースオブジェクトに属するビジネスエンティティで使用できます。

データ変更イベントの調査のシナリオ

あなたの会社は、Alex Sam の保険を更新し、新しい保険パッケージを Alex Sam に提案したいと考えています。最適なパッケージを提案するには、Alex Sam のレコードのデータ変更イベントを調査する必要があります。

タイムラインビューで Alex Sam のレコードを開きます。Alex Sam のデータ変更イベントを表示する特定時点を指定します。指定した時点までに起こったデータ変更イベントがタイムラインビューに表示されます。データ変更イベントを選択して詳細を表示します。以前、Alex Sam が独身で、Alex Johns と呼ばれていたことが

わかります。これで、Alex にもあなたの会社にもメリットをもたらす最適な保険パッケージを提案するための役立つ情報が入手できました。

データ変更イベントの表示

［タイムライン］ビューでレコードのデータ変更イベントを表示できます。

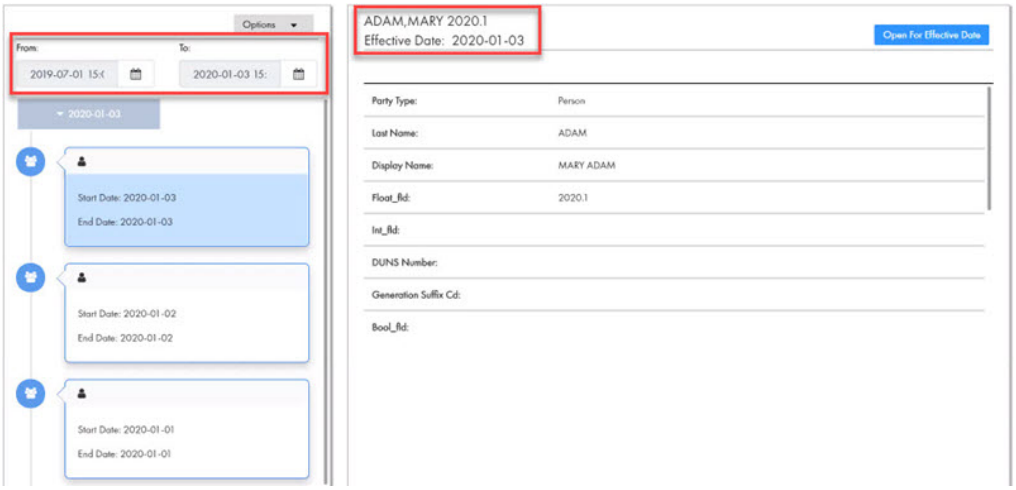
1. ［データ］ビューで、**［有効期間］**をクリックします。

   レコードが**［タイムライン］**ビューに表示されます。現在の日付までに発生したレコードのデータ変更イベントがビューに表示されます。

2. 現在の日付ではなく特定の時点までに発生したデータ変更イベントを特定するには、カレンダーの**［開始:］**および**［終了:］**フィールドを使用して日付範囲を選択します。

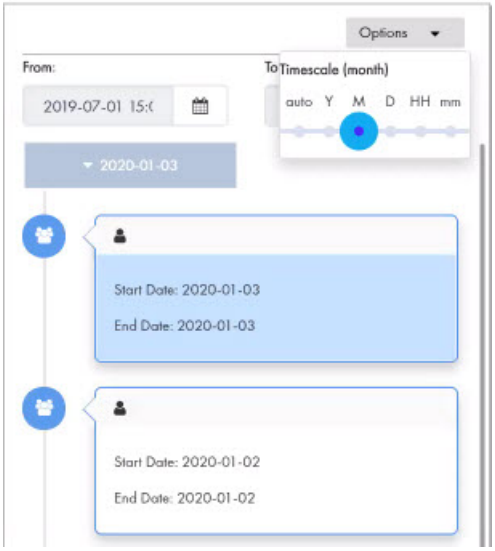
   指定した時点までに発生した、レコードのデータ変更イベントが降順で表示されます。

   次の図は、2019 年 7 月 1 日から 2020 年 1 月 3 日までに「Adam, Mary」レコードに対して発生したデータ変更イベントを示しています。



3. データイベントをグループ化する時間単位を選択するには、**［オプション］**をクリックして別のタイムスケールを選択します。例えば、年単位の期間を選択するには**［Y］**を、月単位の期間を選択するには**［M］**を選択します。

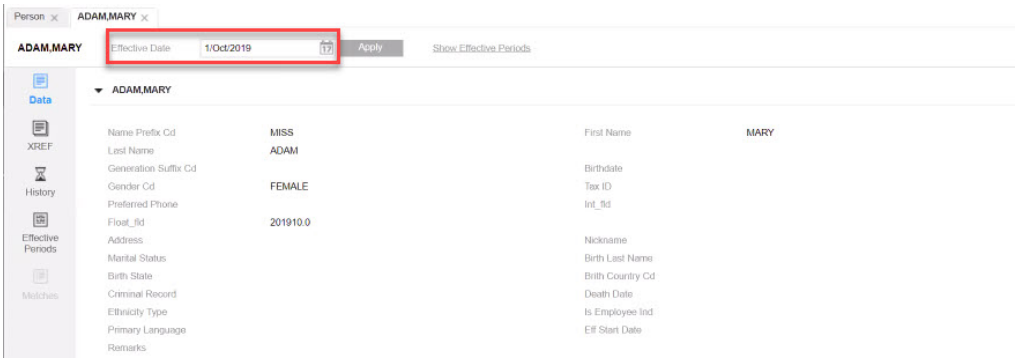
次の図は、2019 年 1 月から 2019 年 7 月までに発生したデータイベントを示しています。



4. 特定の日付のデータイベントの既存の値を表示するには、そのイベントをクリックし、**[有効日のイベントを開く]** をクリックします。

   データビュー内にデータイベントが開き、指定した有効日の既存の値が表示されます。

   次の図は、2019 年 10 月 1 日に有効な、「Adam, Mary」の既存のデータイベントの値を示しています。



データ変更イベントの追加

子レコードのデータ変更イベントを **[タイムライン]** ビューのタイムラインに追加できます。

1. **[タイムライン]** ビューでレコードを開きます。
2. 子レコードを表示するには、子レコードタブをクリックします。

   子レコードのデータ変更イベントが表示されます。
3. タイムラインに追加するデータ変更イベントを選択し、**[タイムラインへのレコードの追加]** をクリックします。

   子レコードのデータ変更イベントがタイムラインに追加されます。

データ変更イベントの削除

子レコードのデータ変更イベントを［**タイムライン**］ビューのタイムラインから削除できます。

1. ［**タイムライン**］ビューでレコードを開きます。
2. 必要に応じて、現在の日付以外の特定の時点までに発生したデータ変更イベントを識別するためには、［**履歴の日付の最大値**］フィールドを使用して日付を選択します。

   レコードで指定した時点までに発生したデータ変更イベントが表示されます。
3. タイムラインの中で調査するデータ変更イベントが含まれる部分を表示するには、日付範囲を入力するかスライダを使用します。
4. データ変更イベントを削除するには、イベントを右クリックして、［**タイムラインからレコードを削除**］をクリックします。

   データ変更イベントがタイムラインから削除されます。

パート II: サブジェクト領域を使用する Data Director

この部には、以下の章があります。

- サブジェクト領域レコードの追加, 115 ページ
- 履歴ビューでのデータ変更の調査（従来のビュー）, 118 ページ
- ［一致］ビューでのレコードのマージ, 122 ページ
- ［XREF］ビューでのレコードのマージ解除, 128 ページ
- ［データ］タブの検索クエリ, 134 ページ
- ［データ］タブでのレコードの操作, 145 ページ
- 階層とリレーションの調査, 152 ページ
- ［有効期間］ビューでのタイムラインデータの調査, 157 ページ
- データのインポート, 160 ページ

第 13 章

サブジェクト領域レコードの追加

この章では、以下の項目について説明します。

- ［データ］ビューでのレコードの追加の概要, 115 ページ
- ［データ］ビューでのレコードの作成, 116 ページ

［データ］ビューでのレコードの追加の概要

サブジェクト領域に基づいてレコードを作成するには、**［新規］**タブで**［サブジェクト領域］**オプションを使用して、サブジェクト領域を選択します。

注: ［新規］タブを使用するには、サブジェクト領域の作成権限がユーザーロールに含まれている必要があります。

注: ［新規］ウィンドウに**［ビジネスエンティティ］**と**［サブジェクト領域］**の両方のオプションが表示される場合は、どちらを使用するかを MDM 管理者に問い合わせてください。**［ビジネスエンティティ］**オプションの場合はエンティティタブが表示され、**［サブジェクト領域］**オプションの場合は**［データ］**タブが表示されます。

［データ］ビューでのサブジェクト領域の追加の例

自分が大手保険会社の保険勧誘員であるとします。新しい顧客、Anthony Lomax さんと電話で話をしています。Lomax さんをデータベースに追加する必要があります。

Anthony Lomax さんを追加するには、次の手順を実行します。

1. 検索を実行して既存のレコードがないか確認します。検索で返される結果はありません。
2. ナビゲーションバーで**［新規］**をクリックします。**［新規］**ウィンドウで、サブジェクト領域として**［Person］**を選択します。
3. ［データ］ビューで、フォームに Lomax さんの情報を入力します。

［データ］ビューでのレコードの作成

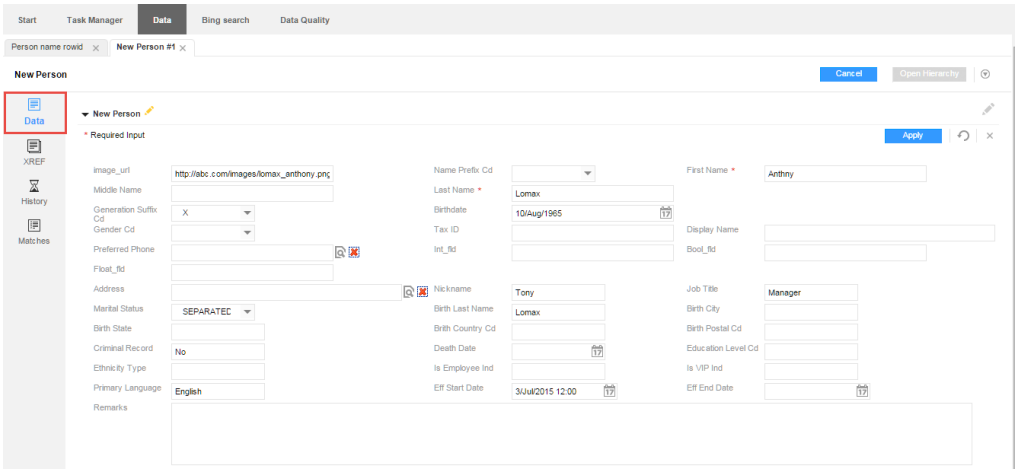
サブジェクト領域に基づいてレコードを追加するには、**［新規］**タブからサブジェクト領域を選択します。MDM 管理者は、サブジェクト領域と、そのサブジェクト領域に入力する必要のあるデータ型を定義します。

1. ナビゲーションバーで**［新規］**をクリックします。**［新規］**ウィンドウで、サブジェクト領域を選択します。
   例えば、保険会社のアプリケーションでは、［Customer］サブジェクト領域グループ内に［Person］サブジェクト領域を定義します。Anthony Lomax を顧客として追加するには、ビジネスユーザーが**［新規］**をクリックして、**［Customer］** > **［Person］**を選択します。

   ［データ］タブには、データエントリフォームが空の**［新規 Person］**タブがあります。赤いアスタリスクのあるフィールド名は、必須フィールドです。
2. 各必須フィールドで、フィールドをクリックして値を入力します。
3. データがあるオプションの各フィールドで、フィールドをクリックして値を入力します。
4. 必要に応じて、**［image_url］**フィールドにイメージファイルへの URL を入力します。最適な結果を得るには、200 x 200 ピクセル以下の画像をリンクします。

   注: MDM Hub は、画像のファイルではなく、画像の URL を保存します。ファイルの場所が変更された場合、URL を更新する必要があります。

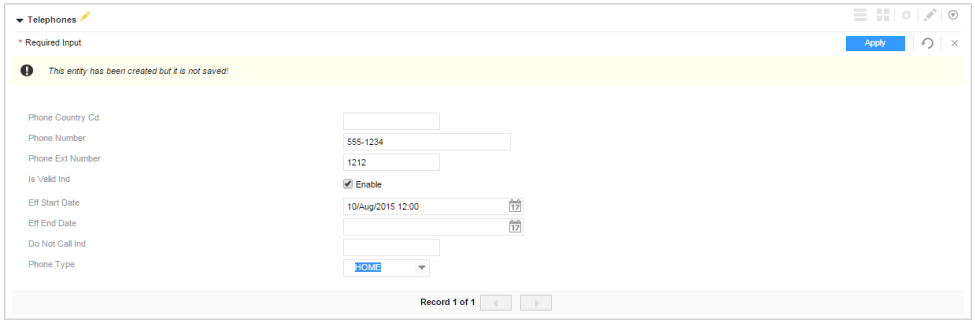
   次の図は、レコードの一部のデータを示しています。



5. **［適用］**をクリックします。

   アプリケーションによってデータが検証されます。エラーがある場合は修正します。
6. **［データ］**ビューの各セクションにデータを追加します。
   a. **［住所］**や**［電話］**などのセクションを展開します。
   b. **［追加］**アイコンをクリックします。
   c. フィールドを入力します。

次の図は、**［電話］**セクションを示しています。



d. **［適用］**をクリックします。

7. フィールドの値を変更する必要がある場合、**［編集］**アイコンをクリックしてフィールドを編集し、**［適用］**をクリックします。
8. データの追加が完了したら、データを保存します。
   - 確認なしでデータを保存することが許可されているユーザーロールの場合、**［保存］**をクリックします。アプリケーションによってレコードが MDM Hub ストアのアクティブなレコードに保存されます。
   - それ以外の場合、**［承認のために送信］**をクリックします。**［タスクの作成］**ダイアログボックスで、タスクの詳細を確認し、必要に応じて詳細を編集して、**［OK］**をクリックします。アプリケーションによってレコードが保留中のレコードに保存され、確認プロセスが開始されます。

第 14 章

履歴ビューでのデータ変更の調査（従来のビュー）

この章では、以下の項目について説明します。

- データ変更の調査の概要, 118 ページ
- ［履歴］ビューを開く, 119 ページ
- ［履歴］ビューでのデータイベントの表示, 119 ページ
- データイベント前後のデータの比較, 121 ページ

データ変更の調査の概要

特定のレコードについて、異なる時点でのベストバージョンオブトゥルースを比較することができます。レコードのデータが不適切に変更されたことが疑われる場合、**［履歴］**ビューを使用して、データ変更の原因となったデータイベントを特定することができます。

［履歴］ビューには、レコードの存続期間にわたってデータがどのように変化したかが時系列で表示されます。レコード内に存在した、任意の時点のデータを表示できます。データイベント前後のデータを表示し、イベントによってデータが不適切に変更されていないかどうかを確認します。データイベントとは、編集操作、マージ操作など、レコードのデータを変更する何らかのアクションです。

データ変更の調査のシナリオ

ある顧客が、最近になって自分の所有ではない不動産物件に対する電気料金請求書が届き始めたと連絡してきたとします。この顧客を表すレコードが、不適切に更新されたと思われます。顧客の**［履歴］**ビューを調べて、どのデータイベントが問題の原因になったかを判断します。

間違った請求が届き始めたのは今年の 6 月だという顧客からの報告に基づいて、その頃に発生したデータイベントを**［履歴］**ビューに時系列で表示します。レコードが 6 月にマージされたことが判明しました。マージ前のデータとマージ後のデータを比較します。Joe Smith という顧客のレコードが、John Smith という顧客のレコードとマージされていました。これらのレコードは別々の顧客を表すため、個別のレコードにします。

［履歴］ビューを開く

［階層］ビューを使用して、マスタデータへの変更を調査します。

［履歴］ビューでレコードを開くには、以下のアクションを実行します。

1. 検索結果を表示する**［検索］**タブから、レコードを選択します。**［開く］**をクリックします。

   レコードが**［データ］**ビューに表示されます。

2. **［履歴］**アイコンをクリックします。

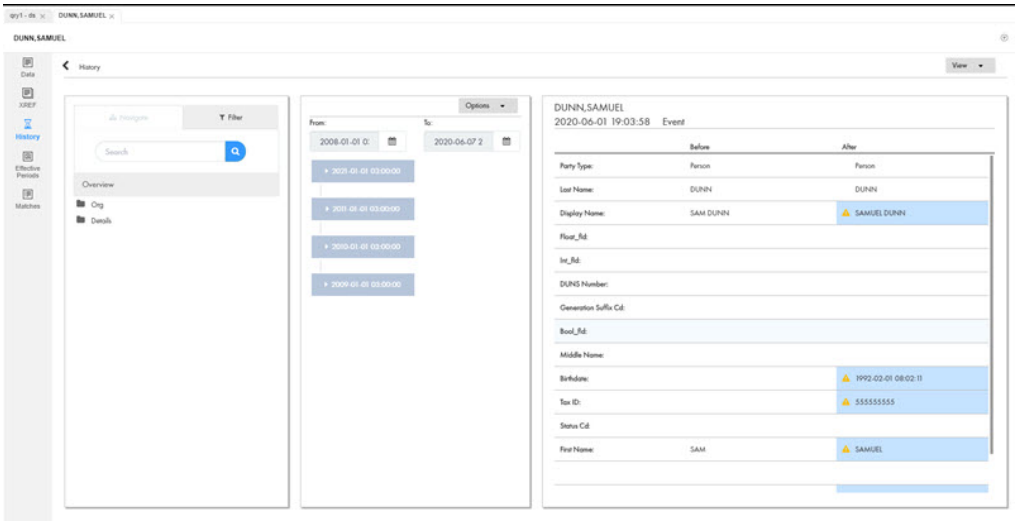
   ［履歴］ビューが開きます。

［履歴］ビューでのデータイベントの表示

［履歴］ビューに、レコードに対して行われたデータ変更を表示できます。データイベントは降順で表示されます。

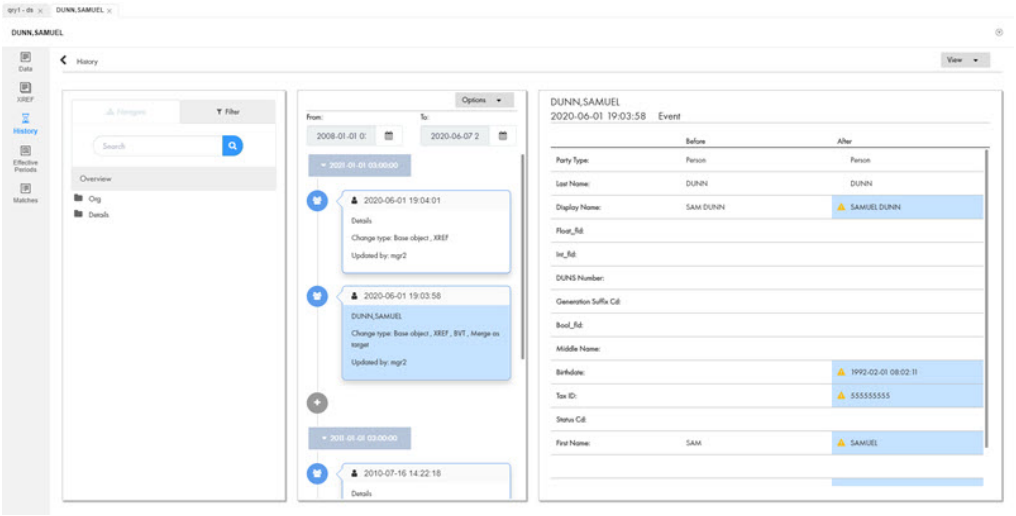
1. **［階層］**ビューでレコードを開きます。

   現在の日付までにレコードに対して行われた変更が表示されます。
   次の図は、2008 年 1 月 1 日から 2020 年 6 月 7 日までに「Dunn, Samuel」レコードに対して発生したデータ変更イベントの履歴を示しています。



2. データ変更イベントの履歴についての詳細を表示するには、データイベントを展開します。

次の図は、「Dunn, Samuel」レコードのデータ変更イベントを展開した状態を示しています。

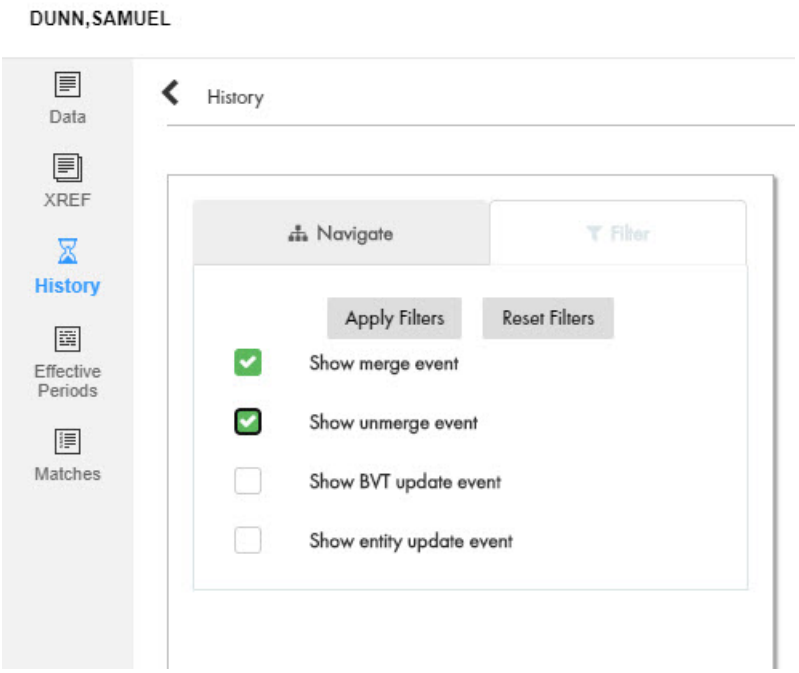


3. 現在の日付ではなく特定の時点までに発生したデータ変更イベントを特定するには、カレンダーの［**開始:**］および［**終了:**］フィールドを使用して日付範囲を選択します。

   指定した時点までにレコードで対して発生したデータ変更イベントの履歴が降順で表示されます。

4. イベントをタイプで別に表示または非表示にするには、フィルタを使用します。

   次の図は、使用可能なフィルタを示しています。



データイベント前後のデータの比較

特定の時点におけるレコードのベストバージョンオブトゥルースを表示し、その相違点を比較できます。データイベント前後のデータを表示し、データイベントがレコードのデータにどのような影響を与えたのかを確認できます。

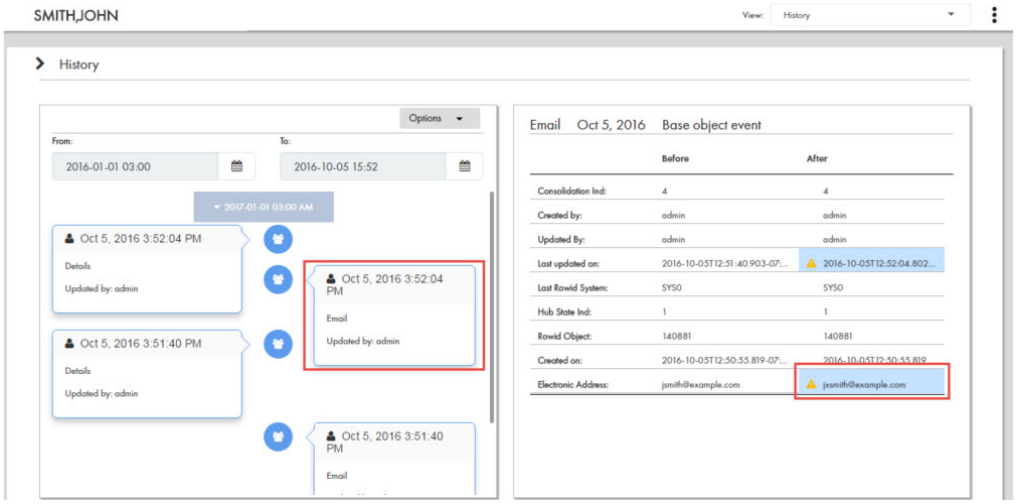
1. **[階層]** ビューでレコードを開きます。

   レコードへの変更がタイムラインに表示されます。

2. 必要に応じて、フィルタを選択してさまざまなタイプのイベントを表示または非表示にします。

3. 必要に応じて、データイベントをグループ化する時間の単位を選択します。そのためには、**[オプション]** をクリックして異なるタイムスケールを選択します。例えば、月次タイムスケールを選択するには **[M]** を選択します。

   次の図は、10 月でグループ化したデータイベントを示しています。

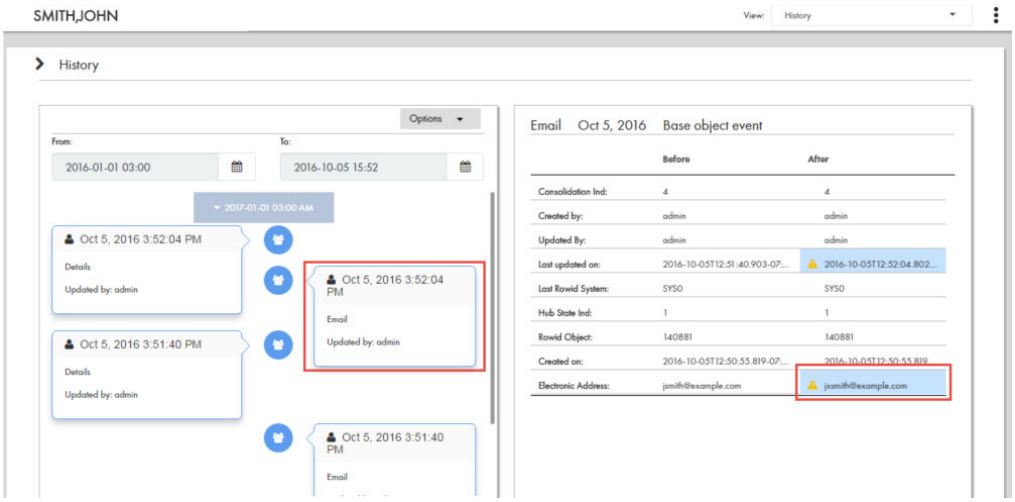


4. **[メール]** というラベルが付いたイベントをクリックします。

   イベントの詳細パネルには、イベント前後のレコードの詳細と、レコードが更新された時刻が表示されます。この例では、メールアドレスが jsmith@example.com から jxsmith88@example.com に変更されています。

5. **[SMITH, JOHN]** というラベルの付いたイベントをクリックします。

   次の図は、レコードの表示名が「John Smith」から「John Xavier」に変更されたことを示しています。



第 15 章

［一致］ビューでのレコードのマージ

この章では、以下の項目について説明します。

- レコードのマージの概要, 122 ページ
- ［一致マージ比較］ビューを開く, 123 ページ
- マージ候補の選択, 124 ページ
- マージのプレビュー結果のオーバーライド, 125 ページ
- Sending a Merge Proposal for Review, 126

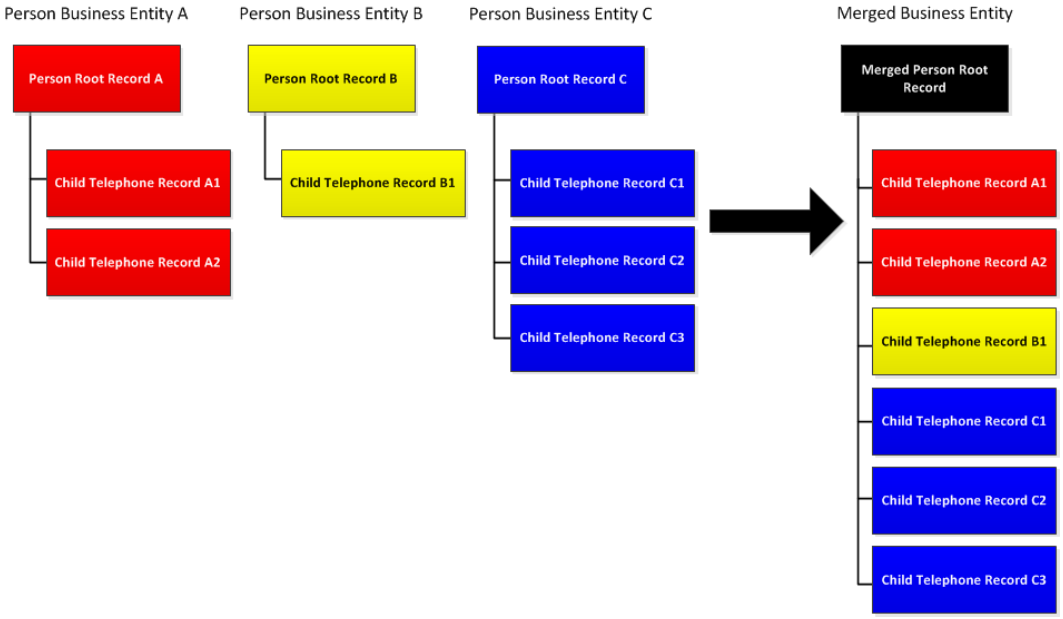
レコードのマージの概要

同じレコード（顧客など）のデータが含まれる 2 つ以上のレコードを、1 つの統合されたレコードにマージできます。マージの結果として生成されたレコードがそのレコードのベストバージョンオブトゥルースとなります。

類似したレコードをマージする前に、**［一致］**ビューでレコードの一致を表示できます。**［一致］**ビューでレコードを開くと、SearchMatch API は一致カラムとルールの定義に基づいて、一致したレコードを検索します。IDD アプリケーションは、SearchMatch API が取得した一致したレコードと、一致テーブルからの一致したレコードを表示します。

レコードをマージすると、レコードのルートレコードが 1 つのルートレコードに統合されます。各ルートレコードの子レコードは、マージされたルートレコードの子レコードになります。

次の図は、ルートレコードと子レコードのマージ結果を示しています。



[一致マージ比較] ビューからレコードを開くことができます。一致する可能性がある類似のレコードを表示できます。その後、一致する可能性があるレコードをマージ候補として選択できます。レコードと、選択したマージ候補のマージ結果をプレビューできます。

優先フィールドの値を変更する場合は、優先フィールドを別のレコードから選択するか、フィールドの新しい値を手動で入力します。[マージのプレビュー] カラムの値が最も正確であると確信したら、提案されたマージを送信し、承認を要求することができます。

レコードのマージの例

顧客と電話で話をしているとします。レコードを開くと、同じようなレコードがあり、同じ顧客を表している可能性がありました。一致する可能性があるものをマージ候補として選択し、マージの結果をプレビューします。

マージのプレビューは正しいようです。ただし、次の値が誤っていることを顧客に確認します。

- レコードには、顧客の生年月日として、1970 年 6 月 23 日と 1970 年 6 月 19 日の 2 つが含まれています。Informatica Data Director は 1970 年 6 月 23 日を正しい生年月日として選択していますが、顧客の生年月日は 1970 年 6 月 19 日です。正しい生年月日として、1970 年 6 月 19 日を手動で選択します。
- 顧客から、ファイルに保存されている名前のスペルが誤っていると指摘されました。名前のマージ結果を無効にして、正しいスペルを手動で入力します。

マージのプレビューがベストバージョンオブトゥルースを表していることを確信したら、提案されたマージを確認用に送信します。

[一致マージ比較] ビューを開く

[一致マージ比較] ビューを使用して、類似するデータが含まれるレコードを調査します。

▶ **[一致マージ比較]** ビューでレコードを開くには、次のいずれかのアクションを実行します。

- 検索結果を表示する［**検索**］タブから、レコードを 2 つ以上選択します。［**アクション**］ > ［**比較**］をクリックします。
- レコードを開いて、［**一致**］アイコンをクリックします。

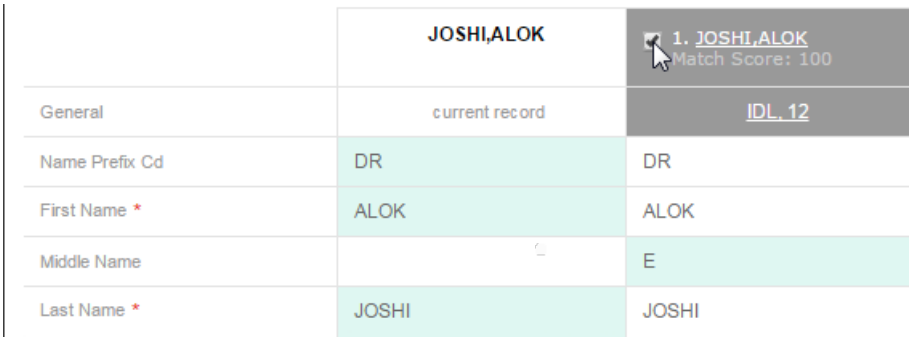
［**一致マージ比較**］ビューが開きます。マージのプレビューにレコードの一致候補が表示されます。

マージ候補の選択

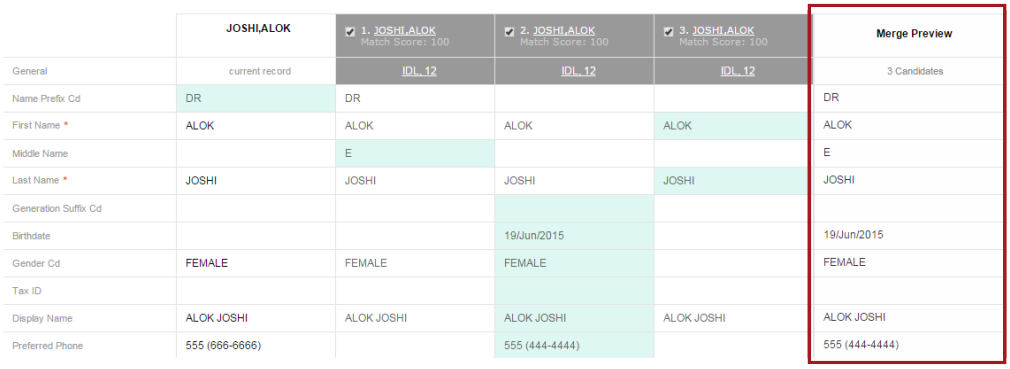
［**一致マージ比較**］ビューを使用して、別のレコードと一致する可能性があるレコードが Data Director によって特定されているかどうかを確認できます。その後、潜在的な一致をマージ候補として選択できます。

［**一致マージ比較**］ビューの左側のカラムに、比較対象のレコードの値が表示されます。潜在的な一致であるすべてのレコードが現在のレコードの右のカラムに表示されます。マージ候補として選択した任意のレコードと現在のレコードをマージした結果生成されるレコードの値がマージのプレビューに表示されます。［**一致マージ比較**］を最初に表示したときに、潜在的な一致はマージ候補として選択されていません。

1. ［**一致マージ比較**］ビューで、潜在的な一致の値を確認します。
2. 現在のレコードの重複であると判断された各レコードのチェックボックスを選択します。



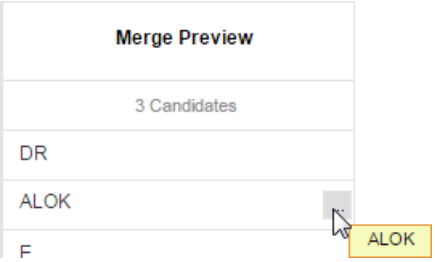
［マージのプレビュー］カラムには、マージ候補として選択したレコードと現在のレコードをマージした結果生成されるレコードが表示されます。強調表示されたフィールドに、マージされたレコードのプレビューデータが表示されます。



マージのプレビュー結果のオーバーライド

Informatica Data Director は、フィールドの信頼スコアに基づいて、どのフィールドにベストバージョンオブトゥルースが含まれるかを決定します。最高の信頼スコアを持つフィールドが、最も信頼できるとみなされます。MDM Hub コンソールで信頼計算を設定します。値を手動で選択または入力し、信頼計算をオーバーライドできます。

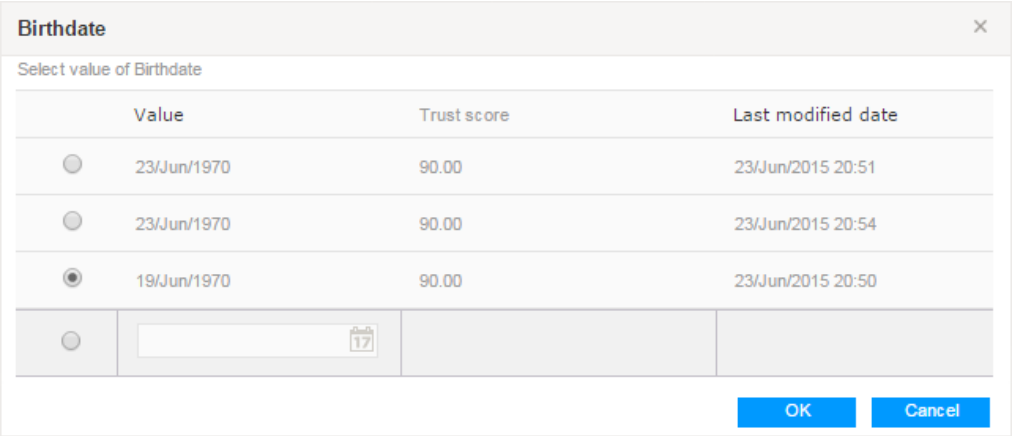
1. ［マージのプレビュー］カラムでフィールドの右側にポインタを移動すると、**［信頼オーバーライド］**ボタンが表示されます。



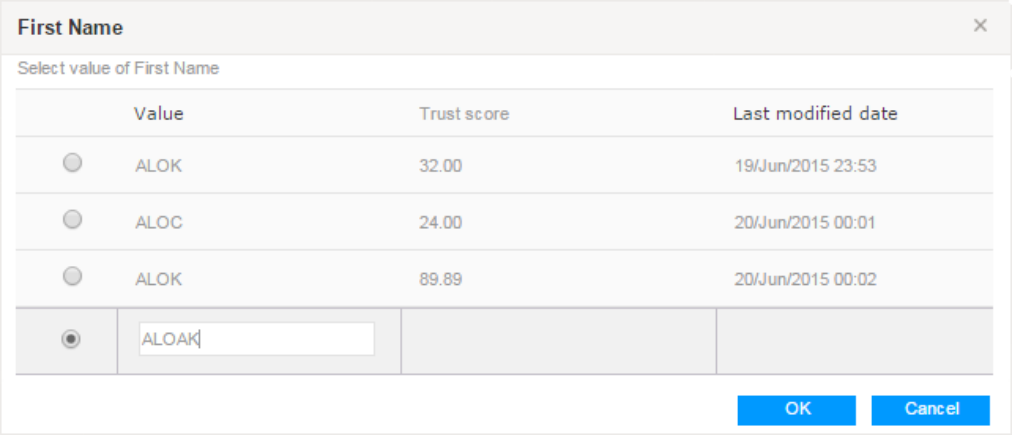
2. **［信頼オーバーライド］**ボタンをクリックします。

   ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックスのタイトルバーにフィールドの名前が表示されます。

3. 最も信頼できる値を選択するには、その値を選択します。



4. 新しい値を入力するには、空のフィールドを選択した後、新しい値を入力します。



5. **［OK］**をクリックします。

選択および入力した値が最も信頼できるとみなされ、マージされたレコードのプレビューに表示されます。

Sending a Merge Proposal for Review

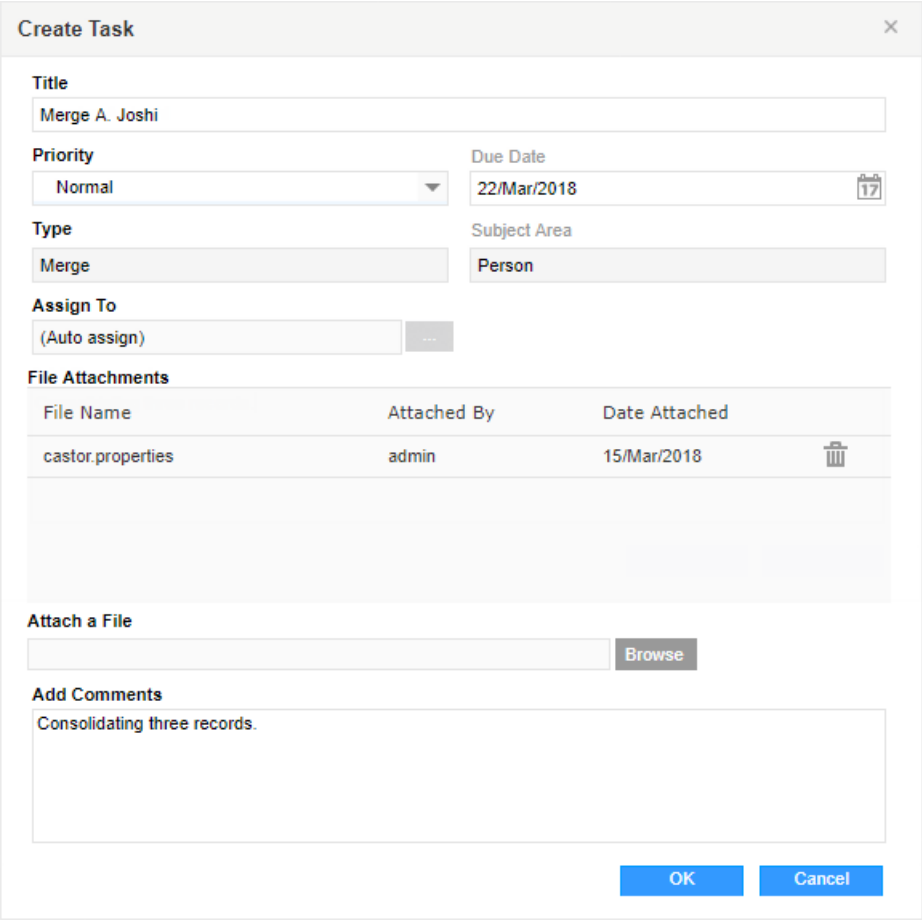
After you are satisfied with the merge results that appear in the Merge Preview column, you can send the merge proposal for review.

1. Ensure you are satisfied with the results in the Merge Preview column.
2. Click **Actions** > **Create Merge Task**.

   Note: When using Data Directorwith Subject Areas and the ActiveVOS workflow, clicking on **Task Actions** > **Merge** rather than **Actions** > **Create Merge Task** will result in an error.

   The **Create Task** dialog box opens.
3. In the **Title** field, enter a meaningful title for the merge task.

   For example, enter `Merge A. Joshi`.



4. Change any default task attributes.
5. Optionally, add comments or attachments for the task reviewer.

Note: The **File Attachments** section is available only if your IDD global properties are configured to enable attachments for tasks. For more information, see the *Multidomain MDM Data Director の実装ガイド*.

6. Click **OK**.

A merge review process begins.

第 16 章

［XREF］ビューでのレコードのマージ解除

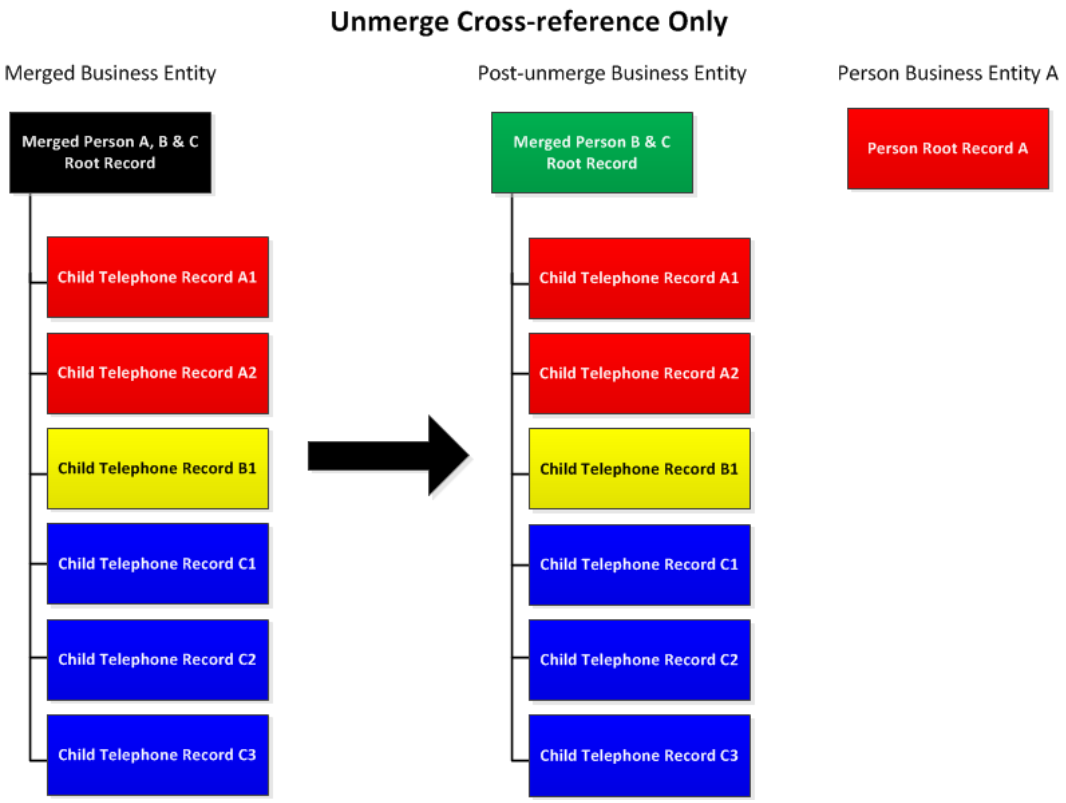
この章では、以下の項目について説明します。

- レコードのマージ解除の概要, 128 ページ
- ［XREF］ビューを開く, 131 ページ
- 確認のためのマージ解除プロポーザルの送信, 132 ページ

レコードのマージ解除の概要

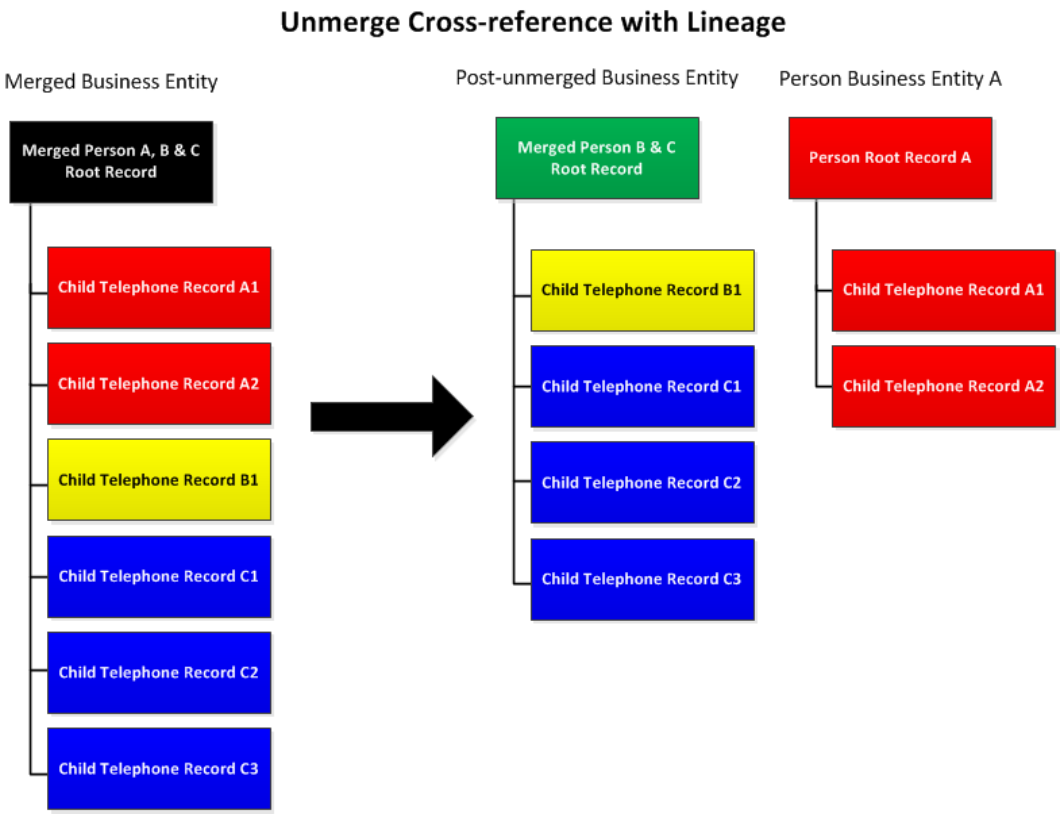
別のレコードとマージされたレコードをマージ解除できます。**［XREF］**ビューを使用して、レコードのベストバージョンオブトゥルースの提供元であるレコードを表示できます。レコードとマージすべきではない相互参照レコードを特定する場合に、権限のあるユーザーまたはマージ解除タスクを作成可能なユーザーは、レコードのマージを解除できます。相互参照レコードのみのマージを解除することも、相互参照レコードとリネージュのマージを解除することも可能です。

次の図は、相互参照レコードのみをマージ解除した結果を示しています。



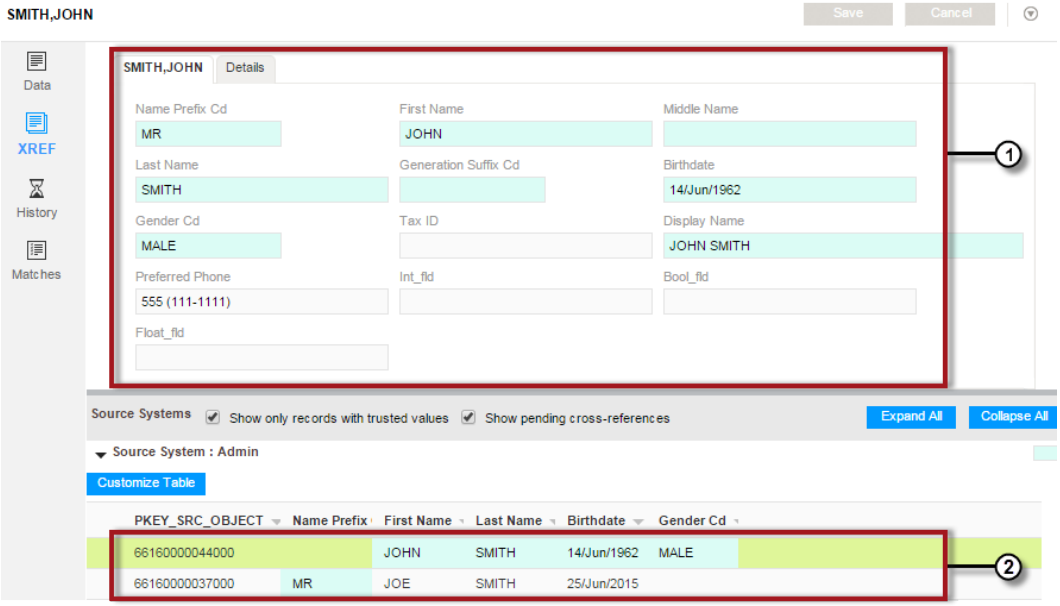
相互参照レコードとリネージュとのマージを解除すると、マージされていないレコードのみがマージ解除ツリーから削除されます。マージ前と同じように、子レコードはマージされていないレコードに関連付けられます。

次の図は、相互参照とリネージュをマージ解除した結果を示しています。



[XREF] ビューでレコードのマージを解除できます。相互参照ビューには、レコードのベストバージョンオブトゥルースと、レコードとマージされた相互参照レコードが表示されます。相互参照レコードは、生成元のソースシステム別に体系的に管理されます。強調表示されたフィールドには、ベストバージョンオブトゥルースの提供元の値が示されます。相互参照レコードを選択して、レコードからマージ解除するレコードのマージ解除タスクを作成できます。

次の図に、[**XREF**] ビューを示します。



1. ベストバージョンオブトゥルース
2. 提供元の相互参照レコード

レコードのマージ解除の例

2 つのレコードを 1 つのレコードにマージすべきでないことに気付きました。マージ操作を元に戻す必要があります。

レコードを [**XREF**] ビューで表示し、どの相互参照レコードをマージ解除する必要があるかを確認します。ある相互参照レコードは Joe Smith を表し、別の相互参照レコードが John Smith を表しています。子レコードには、Joe Smith に適用される住所の情報が含まれています。マージ解除タスクを作成し、相互参照レコードをリネージュでマージ解除することをタスクの確認者に勧めます。リネージュによるマージ解除により、適切な住所レコードが、マージ解除済みレコードと関連付けられます。

[XREF] ビューを開く

[**XREF**] ビューを使用して、マージされたレコードをマージ解除します。ソースシステムと保留中の相互参照レコードを表示することもできます。

▶ [**XREF**] ビューでレコードを開くには、レコードを開いて [**XREF**] アイコンをクリックします。

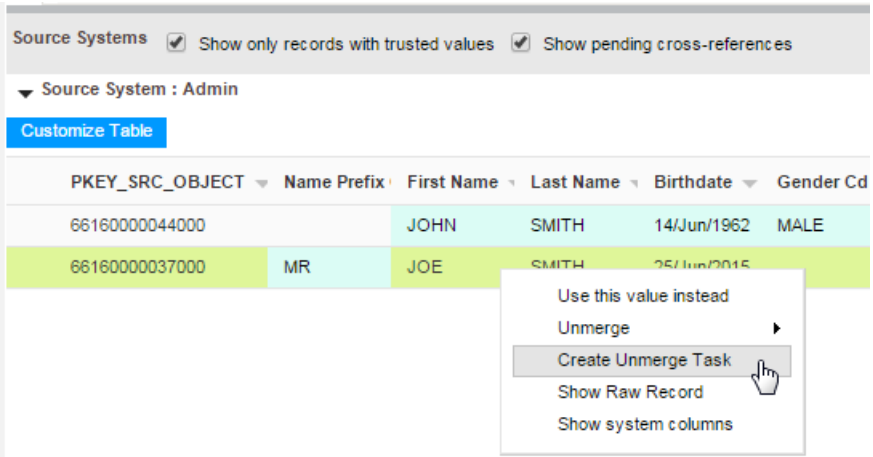
[**XREF**] ビューが開きます。フィールドには、選択したレコードのマスタデータが表示されます。フィールドの下には、レコードに接続されたソースシステムが表示されます。

確認のためのマージ解除プロポーザルの送信

［**XREF**］ビューを使用して、1 つのレコードに統合された相互参照レコードを調べます。マージ解除する相互参照レコードを選択できます。

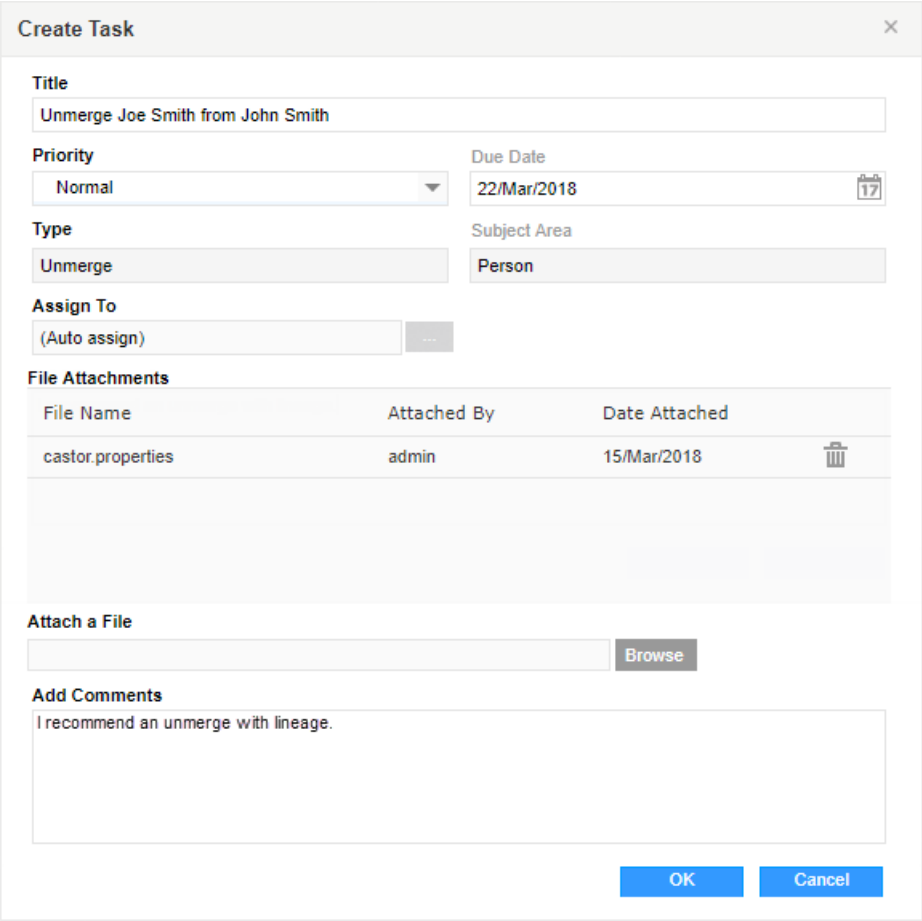
1. ［**XREF**］ビューでレコードを表示します。
2. ビューの下半分で相互参照レコードを調べます。マージ解除する相互参照レコードを特定します。

   ［**詳細**］タブをクリックして、子レコードデータを表示します。
3. 相互参照レコードを右クリックして、［**マージ解除タスクの作成**］を選択します。



   ［**タスクの作成**］ダイアログボックスが開きます。
4. ［**タイトル**］フィールドにマージタスクの意味のあるタイトルを入力します。

例えば、Unmerge Joe Smith from John Smith と入力します。



5. デフォルトのタスク属性を変更します。
6. 必要に応じて、タスクレビュアにコメントまたは添付を追加します。

   注: IDD グローバルプロパティがタスクの添付を有効にするように設定されている場合のみ、**[ファイル添付]** セクションが利用できます。詳細については、「*Multidomain MDM Data Director の実装ガイド*」を参照してください。
7. **[OK]** をクリックします。

   マージ解除確認プロセスが開始されます。

第 17 章

［データ］タブの検索クエリ

この章では、以下の項目について説明します。

- データタブの検索クエリの概要, 134 ページ
- 検索のタイプ, 134 ページ
- 基本検索クエリと拡張検索クエリ, 135 ページ
- 詳細検索クエリ, 137 ページ
- 検索結果, 140 ページ
- 保存済みの検索クエリ, 141 ページ

データタブの検索クエリの概要

［検索フォーム］を使用して、**［データ］**タブで検索クエリを実行します。クエリを実行すると、検索タブが開き、検索結果が表示されます。各検索タブには検索クエリ名のラベルが付けられるため、各検索アクションを識別することができます。複数の検索タブを開いて異なるタイプのデータ検索を複数のサブジェクト領域内やサブジェクト領域グループにわたって行うことができます。

検索には、基本、拡張、詳細のいずれかの検索タイプを使用できます。現在の検索条件は、参照しやすいように検索結果の最上部に表示されます。クエリを頻繁に使用する場合、そのクエリをデフォルトのクエリとして設定することを検討してください。環境によっては、個別のサブジェクト領域を対象にした検索のほかに、1 つのサブジェクト領域グループに属するすべてのサブジェクト領域を対象に検索することもできます。

検索のタイプ

［データ］タブでは、次のタイプの検索を実行できます。

- 基本検索。テキストを検索します。ワイルドカードも使用できます。
- 拡張検索。一致対応属性を検索します。あいまい論理一致をサポートします。
- 詳細検索。クエリ文を使用して検索します。

基本検索

基本検索では、単純なテキスト比較を使用し、指定された検索条件に基づいてデータを取得します。基本検索では大文字と小文字が区別されるため、マスタデータに表示されているように、大文字と小文字を注意して使

用する必要があります。大文字と小文字の両方を検索する場合は、ワイルドカード文字を使用することができます。例えば、「%upplies」のように指定します。

注:

- Microsoft SQL Server 環境の基本検索では、大文字と小文字は区別されません。
- Microsoft SQL Server 環境では、検索要求に角括弧（[]）と LIKE 演算子は使用できません。検索クエリで角括弧を使用するには、角括弧のペアを追加して、1 つ目の角括弧（[）を囲みます（[[]）。例えば、名が%[ABC123]%のように始まるレコードを検索するには、次の検索クエリを使用します。

  ```
  first_name like '%[[]ABC123]%'
  ```

次のような場合に基本検索を使用することを検討してください。

- 正確な検索対象テキストとワイルドカードパターン（またはルックアップ値）を検索条件として指定することで、信頼性の高い結果が得られる場合。
- 指定可能なすべての属性に対して検索を実行する必要がある場合。

拡張検索

拡張検索では、一致する論理と一致が有効な属性が使用されてレコードが検索されます。拡張検索では、大文字小文字は区別されません。

次のような場合に、拡張検索の使用を考慮します。

- 基本検索で希望する検索結果を得られなかったので、検索の規模を拡張する場合。
- あいまい論理を使用して検索を実行する場合。スペルのバリエーション、スペルミスの可能性、その他の違いを考慮に入れ、完全には同一でないデータの一致を検出することで、信頼性の高い一致を検出できます。例えば、あいまい論理を使用して、"Street"という単語のバリエーションである"St."を検索できます。

拡張検索を使用する場合は、次の制限事項に注意してください。

- 検索に使用できる属性が少なくなる場合があります。拡張検索の場合、検索に使用できるのは一致対応属性として設定されている属性だけです。［検索］タブでは、一致対応属性以外の属性は選択できません（グレー表示される）。
- **［検索］**タブで［拡張検索］を選択できない場合（グレー表示されている場合）は、選択したサブジェクト領域またはサブジェクト領域グループに指定できる一致対応属性がありません。
- **［検索］**タブでは、属性（アスタリスクが付いている）を必ず 1 つ指定する必要があります。

注:

- 結果とパフォーマンスを最適化するには、拡張検索を適切に定義する必要があります。
- 拡張検索を実行するときは、検索済みのクエリのマッチ率を表示できます。マッチ率を使用して、検索済みのクエリと比較した場合の検索結果の類似度を特定できます。マッチ率の最大値は 100 です。

詳細検索

詳細クエリビルダを使用して、複雑なクエリ文を作成します。

基本検索クエリと拡張検索クエリ

基本検索クエリと拡張検索クエリの作成を簡単に切り替えることができます。

基本検索でのワイルドカード

基本検索の検索条件では、特定の文字ではなくテキストのパターンを指定するための特殊な検索記号として、ワイルドカードを使用します。ワイルドカードは、特に、正確なテキストが不明な場合や、よく似たテキストを検索する場合に、目的のデータの検出率を高めるために使用します。

注: ワイルドカードは、基本検索でのみ使用します。拡張検索では、あいまい検索がデフォルトで行われるため、ワイルドカードの使用は必要ありません。

IDD では、以下の 2 種類のワイルドカードを使用できます。

- アスタリスク（*）
- パーセント記号（%）

この 2 つのワイルドカードの検索時の動作は同じです。この 2 つのワイルドカードは互換性があるため、どちらを使用してもかまいません。

ワイルドカードは、以下の 2 つの方法で使用できます。

ワイルドカードが表すもの	説明

末尾までのすべての文字のプレースホルダ	ワイルドカードの左側にある文字を検索します。ワイルドカードの右側にある文字は何でもかまいません。例えば、名の検索条件として以下を指定したとします。
	`Mar*`
	または
	`Mar%`
	次のような検索結果が返されます。
	`Mary`、`Mark`、`Marilyn`、`Marty`

1 文字を示すプレースホルダ	ワイルドカードの位置にある文字が、どのような文字でも検索されます。例えば、名の検索条件として以下を指定したとします。
	`T*m`
	または
	`To*`
	次のような検索結果が返されます。
	`Tim`、`Tom`

ヒント: 基本検索でワイルドカードを使用する場合には、ワイルドカード文字を必ず正しい位置に挿入します。挿入位置が間違っていると、予期しない検索結果が返される可能性があります。

検索条件の指定

[検索] タブにクエリを開いたら、探しているデータを表す検索条件を指定できます。

- 必須属性がある場合には、その属性の検索条件を指定する必要があります。必須属性にはアスタリスク（*）が付いています。
- 拡張検索を使用できない場合（グレー表示されている場合）は、選択したサブジェクト領域に、指定できる一致対応属性がないことを示しています。
- 拡張検索を選択した場合、一致対応属性だけを使用できます。使用できない属性はグレー表示されます。使用できない属性を検索条件として指定することはできません。
- 基本検索では、ワイルドカードを使用してテキストのパターンを検索できます。
- 選択した属性がルックアップ（国のリストなど）として設定されている場合は、検索する値のドロップダウンリストが表示されます。

注:

- タイムラインが有効なプライマリオブジェクトの場合、検索条件と有効日付を［**検索**］ワークスペースで指定することにより有効日付の検索クエリを実行できます。
- タイムラインが有効なレコードの検索を実行している場合、有効期間が空だと、検索結果の日付は現在の有効日付またはベースオブジェクトの値に基づきます。
- 検索条件をクリアするには、［**アクション**］メニューから［**リセット**］を選択します。ドロップダウンリスト内の選択を取り消すには、DELETE キーまたは BACKSPACE キーを押します。

基本クエリまたは拡張クエリの作成

クエリを作成するには、［**検索フォーム**］を開きます。

1. ［**検索フォーム**］を開くには、ナビゲーションバーで［**データ**］をクリックします。
2. ［**検索フォーム**］が表示されていない場合、［**検索フォーム**］をクリックします。
3. ［**アクション**］メニューから、基本または拡張クエリの［**新規**］ > ［**標準**］をクリックします。
4. ［**クエリビルダ**］ウィンドウで、検索範囲に含めるサブジェクト領域またはサブジェクト領域グループを選択します。
5. ［**使用可能な属性**］リストを展開し、このクエリの検索条件として含める属性を選択します。

   アプリケーション開発者が Informatica Data Director をどのように設定したかに基いて、相互参照データやその他のサブジェクト領域のような、選択したサブジェクト領域やサブジェクト領域グループの外にあるデータを検索できます。
6. ［**追加された属性**］リストでは、一連の属性を並べ替えて、検索クエリ画面に表示する属性の順序を指定することができます。
7. 可能な場合は、ソートの基準となる属性を選択して、昇順または降順のソート順を指定します。
8. ［**OK**］をクリックします。

   クエリが［**検索**］タブに表示されます。
9. クエリを再度使用するには、その他のクエリを作成または開く前に該当のクエリを保存します。

詳細検索クエリ

詳細クエリビルダを使用して、自由形式のクエリテキストを使用して複雑なクエリを作成します。詳細検索の機能を使用することで、標準（基本または拡張）クエリよりも詳細に検索条件を指定できます。 詳細検索条件は、クエリの SQL WHERE 句で使用されます。

詳細検索では SQL 構文を使用し、次のものがサポートされます。

- 論理演算子 - AND/OR/NOT
- EXIST、NOT EXISTS、COUNT 条件
- 比較演算子による範囲比較（=、>、<、>=、<=、BETWEEN）

クエリ構文は必ず検証するようにします。 無効な構文のクエリは保存できません。

論理演算子

検索クエリに複数の条件を含める場合、論理演算子を使用します。

次の表に、使用可能な演算子と各演算子の例を示します。

演算子	説明	例
AND	2 つの条件式を評価し、以下の戻り値を返す。 - 両方の条件が真の場合は TRUE を返す。 - 両方の条件が偽の場合は FALSE を返す。 - それ以外の場合は UNKNOWN を返す。	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS|CITY_NAME = 'New York' AND COLUMN.C_PARTY|ORGANIZATION_NAME = 'Informatica LLC'
OR	2 つの条件式を評価し、以下の戻り値を返す。 - 両方の条件が真の場合は TRUE を返す。 - 両方の条件が偽の場合は FALSE を返す。 - それ以外の場合は UNKNOWN を返す。	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS|CITY_NAME = 'London' OR MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS|CITY_NAME = 'Paris'
NOT	この演算子の後に続く条件式を否定する。 - 指定した条件が偽の場合に、TRUE を返す。 - 指定した条件が真の場合に、FALSE を返す。 - 不明な場合は、UNKNOWN のままになる。	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS|COUNTRY_CODE = 'USA' and NOT MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS|CITY_NAME = 'Los Angeles'

条件演算子

サポートされている条件に基づいて検索結果を絞り込む場合、条件演算子を使用します。

次の表に、使用可能な演算子と各演算子の例を示します。

演算子	説明	例
EXISTS	少なくとも 1 つの行が、サブクエリ内に指定された条件に一致する場合、TRUE を返します。NOT EXISTS も有効な演算子です。	EXISTS(C_MT_PERSON_DETAILS, MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_PERSON_DETAILS|BIRTH_CITY = 'NEW YORK')
COUNT	指定された条件に一致する行の数を返します。	COUNT(C_MT_ADDRESS, MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_PARTY_ADDRESS_REL|ADDRESS_TYPE = 'Shipping')

比較演算子

検索する属性値に基づいて検索結果を絞り込む場合、比較演算子を使用します。

次の表に、使用可能な演算子と各演算子の例を示します。

演算子	説明	例
=	等しい	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_CUSTOMER|ACCOUNT_CD = '123456879'
>	より大きい	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS|POSTAL_CD > 42000
<	より小さい	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS|POSTAL_CD < 30000

演算子	説明	例
>=	以上	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_CUSTOMER|SALES >= 1000000
<=	以下	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_CUSTOMER|SALES <= 1000000
BETWEEN	2 つの値の範囲内にあるもの（2 つの値自体も含む）	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS|POSTAL_CD BETWEEN 94000 AND 96000

詳細検索クエリの日付構文

クエリに日付システムカラムが含まれる場合は、期待するクエリ結果が確実に得られるように、正しい構文を使用する必要があります。

日付システムカラム（CREATE_DATE カラムなど）にはすべて、ミリ秒の粒度が設定されています。比較演算子'='をクエリに使用する場合は、日付をミリ秒の粒度に指定する必要があります。

例えば、以下のクエリはミリ秒の粒度で日付を指定していないため、2013 年 8 月 23 日に作成されたレコードの結果を返しません。

```
Person.CREATE_DATE = '23/Aug/2013'
```

ミリ秒の粒度を指定せずに特定の日付のクエリを実行するために、その日付の範囲でクエリを実行できます。

例えば、以下のクエリは 2013 年 8 月 23 日に作成されたレコードを返します。

```
Person.Create Date >= '23/Aug/2013' AND Person.Create Date < '24/Aug/2013'
```

詳細検索クエリの作成

詳細クエリを作成するには、**詳細クエリビルダ**を使用します。

1. ナビゲーションバーで［**データ**］をクリックします。

   ［**データ**］タブで、新しいタブが開き、［**検索フォーム**］が表示されます。
2. ［**アクション**］メニューから、［**新規**］ > ［**詳細**］を選択します。

   ［**詳細クエリビルダ - 新しいクエリ**］ダイアログボックスが開きます。
3. 検索するサブジェクト領域を［**サブジェクト領域**］リストから選択します。
4. 検索に含める属性を［**使用可能な属性**］フィールドから選択します。
   - 結果に属性の数を含めるには、［**COUNT の挿入**］をクリックします。
   - データが存在しているかどうかを確認するには、［**EXISTS の挿入**］をクリックします。

   選択した属性は［**クエリフィルタ条件**］フィールドに表示されます。
5. 必要に応じて、論理演算子、条件演算子、および比較演算子をクエリに追加します。
6. 必要に応じて、ソートオプションを［**結果のソート基準**］リストから選択し、昇順または降順のソート順を選択します。
7. 必要に応じて、［**大文字と小文字を区別しない**］検索を有効にします。
8. クエリ構文を検証するには、［**クエリの検証**］をクリックします。
   - クエリに構文エラーがある場合、［**クエリ検証エラー**］ダイアログボックスが開き、構文エラーの説明が表示されます。［**閉じる**］をクリックし、すべての構文エラーを修正して、クエリを再検証します。
   - クエリに構文エラーがない場合、クエリが有効であることを示す確認メッセージが表示されます。［**閉じる**］をクリックします。

9. ［**OK**］をクリックします。IDD によってクエリが再検証され、構文エラーがないことが確認されます。

   IDD で構文エラーが検出されなければ、［**データ**］タブで検索タブが開きます。
   IDD で構文エラーが検出されると、［**クエリ検証エラー**］ダイアログボックスが開きます。クエリの問題を解決したら、もう一度［**OK**］をクリックします。

10. ［**検索の実行**］をクリックします。

    クエリ結果が［**検索**］タブに表示されます。

詳細検索クエリの例

```
COLUMN.C_PARTY|LAST_NAME like 'H%'
MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_PERSON_DETAILS|REMARKS is not NULL
COLUMN.C_PARTY|GENDER_CD = 'M'
```

検索結果

検索を実行すると、検索結果が検索タブに表示されます。検索結果からビジネスエンティティを開くことができます。検索結果をエクスポートすることもできます。

検索結果からレコードを開く

レコードを調査するには、検索結果からレコードを選択し、［**データ**］タブでレコードを開くことができます。［**データ**］タブで検索フォームを使用するか、［**クエリ**］をクリックするか、ヘッダーの［**検索**］ボックスを使用して検索します。

タイムラインが有効化されているレコードを開く場合、レコードを表示する有効期間を指定します。［有効日付］フィールドのデフォルト値は現在の日付です。［有効日付］フィールドを空のままにした場合、すべてのレコードバージョンが開きます。

1. レコードを検索します。
2. 検索結果で、レコードを選択します。
3. 以下のいずれかのビューでレコードを開きます。

ビュー	説明
データ	レコードの表示と編集を行うには、［**開く**］をクリックする。
一致	レコードを重複している可能性のあるレコードと比較するには、［**アクション**］ > ［**比較**］をクリックします。
階層	レコード間のリレーションの図を表示するには、［**開いている階層**］をクリックする。
ビジネスエンティティ	レコードに関する他の情報ソースのコンテキストでレコードの表示と編集を行うには、［**エンティティビュー**］をクリックする。

4. 確認のメッセージが表示された場合は、調査の対象期間を指定します。

   レコードがビューで開きます。

関連項目：

- 「重複レコードの解決」 (ページ 80)

検索結果のエクスポート

作業環境の構成によっては、すべての検索結果または選択した検索結果を CSV ファイルにエクスポートできます。

- すべての結果をエクスポートするには、［**アクション**］ > ［**エクスポート**］ > ［**すべての結果**］をクリックします。
- 結果の一部をエクスポートするには、**Ctrl** キーを押してレコードをクリックします。［**アクション**］ > ［**エクスポート**］ > ［**一部の結果**］をクリックします。

保存済みの検索クエリ

再利用することが予想される検索クエリは保存することを検討してください。

クエリを実行するには、あらかじめそのクエリを開いておき、検索フォームに表示されるようにする必要があります。保存したクエリのリストにあるすべての使用可能なクエリを開くことができます。使用可能なクエリとは、他のユーザーが公開しているクエリと、自分が作成したクエリです。

クエリのカラムの読み取り特権、サブジェクト領域の読み取り特権、サブジェクト領域のコンフィギュレーションマネージャツールで検索パッケージとして構成されているパッケージの読み取り特権が必要です。

検索クエリの保存

クエリを保存して再度使用できるようにするには、該当のクエリをクエリビルダに保存します。クエリを保存した場合、Informatica Data Director は保存したユーザーをクエリの所有者と認識します。

1. ［検索］タブで、［**アクション**］メニューから［**保存**］を選択します。別の名前を付けて保存する場合は、代わりに［**名前を付けて保存**］をクリックします。
2. ［保存］ウィンドウで、別のクエリ名を指定できます。
3. デフォルトのクエリを作成するかどうかを示します。
4. 環境とロールによっては、このクエリを公開としてマークするオプションが表示されることがあります。公開すると、他のユーザーも使用できるようになります。
5. ［**保存**］をクリックします。

保存済みの検索クエリの実行

保存済みの検索クエリは、［**検索フォーム**］から実行します。

1. ［**検索フォーム**］の上部で、［**保存済みクエリ**］を選択します。
2. 保存したクエリを選択するか、デフォルトのクエリを使用します。
3. ［**クエリを開く**］をクリックします。
4. 検索で必要な場合は、フィールドに値を入力します。
5. ［**検索の実行**］をクリックします。

   検索結果が表示されます。

保存済みクエリの詳細の表示

作成日や所有者などクエリの詳細を表示できます。

1. **［検索フォーム］**の上部で、**［保存済みクエリ］**を選択します。
2. クエリにマウスポインタを置きます。
   ポップアップウィンドウに、クエリに関する情報が示されます。

デフォルトクエリの設定

デフォルトクエリは、［検索］タブを開いたときに表示されるクエリです。通常は、デフォルトクエリは、ジョブ内で最も頻繁に使用されると予想されるクエリです。各ユーザーが自分用のデフォルトクエリを設定できます。

デフォルトでは、デフォルトクエリは定義されていません。使用する保存済みクエリを明示的に指定する必要があります。デフォルトクエリは、他にもっと頻繁に使用するクエリがあった場合、後から変更することもできます。

1. **［検索フォーム］**の上部で、**［保存済みクエリ］**を選択します。
2. デフォルトクエリとして指定するクエリを選択します。
3. **［アクション］**メニューから**［デフォルトとして設定］**をクリックします。
   クエリ名の表示が太字に変わります。

保存済みクエリの名前の変更

クエリを作成して保存した場合でも、そのクエリの名前を変更できます。

1. **［検索フォーム］**の上部で、**［保存済みクエリ］**を選択します。
2. クエリ名を右クリックし、**［名前の変更］**をクリックします。
3. 別の名前を入力します。
4. **［保存］**をクリックします。

保存済みクエリの編集

作成したクエリを変更するには、そのクエリを編集して変更を保存します。所有者が自分ではないクエリは編集できません。

1. 編集するクエリを開きます。
2. 検索フォームの**［アクション］**メニューから、**［編集］**をクリックします。
3. **［クエリビルダ］**ウィンドウで、必要な変更を行います。
4. **［OK］**をクリックします。
5. 変更を保存します。

保存済みクエリの削除

不要になったクエリは削除することをお勧めします。クエリの作成者でなければクエリを削除できません。

1. **［検索フォーム］**の上部で、**［保存済みクエリ］**を選択します。
2. クエリ名を右クリックし、**［クエリの削除］**をクリックします。

保存済みクエリの共有

クエリをパブリックにしたり、ブックマークリンクを共有したりすることで、クエリを他のユーザーと共有できます。

保存済みクエリをパブリックとしてマーク

Informatica Data Director のユーザーは、保存済みのパブリッククエリを使用できます。パブリッククエリはその所有者のみが変更できます。

1. **［検索フォーム］**で、**［保存済みクエリ］**を選択します。
2. 保存済みクエリを右クリックして、**［パブリック/プライベートとしてマーク］**をクリックします。
3. クエリがパブリックであることを確認するには、クエリにマウスポインタを置きます。ポップアップウィンドウで、**［可視性］**設定が**［パブリック］**に設定されていることを確認します。

クエリのブックマークの共有

特定のクエリを他のユーザーと共有するには、ブックマークリンクをコピーして、テキストまたは電子メールに貼り付けます。ユーザーがブックマークリンクをたどると、Informatica Data Director が開き、ユーザーにログイン画面が表示され、ブックマークされた検索クエリが表示されます。

1. ［検索フォーム］で、共有するクエリを開きます。
2. **［アクション］**メニューで**［ブックマークの表示］**をクリックします。
3. ブックマークのリンクをコピーします。リンクを他のユーザーと共有します。

   ユーザーはリンクをたどってクエリを表示することができます。

保存済みクエリのエクスポート

Informatica Data Director の設定をある環境から別の環境に移行する場合、保存した検索クエリは移行されません。保存済みのクエリを使用する必要がある場合はそれらを移行先の環境にエクスポートすることができます。

1. 検索フォームを開き、**［保存済みクエリ］**を選択します。
2. エクスポートするクエリを右クリックし、**［クエリのエクスポート］**をクリックします。

クエリ XML ファイルはブラウザのデフォルトのダウンロード場所にダウンロードされます。

保存済みクエリのインポート

Informatica Data Director の設定をある環境から別の環境に移行する場合、保存した検索クエリは移行されません。保存済みクエリをソース環境からターゲット環境にインポートできます。

あるクエリが、インポートされるクエリと同じ名前であり同じユーザーによって所有されている場合、インポートプロセスによりそのクエリは上書きされます。あるクエリが、インポートされるクエリと同じ名前であるが別のユーザーによって所有されている公開クエリである場合、インポートプロセスでは、クエリをインポートするユーザーに対して、同じ名前の別バージョンのクエリが作成されます。

クエリにエラーがある場合、インポートプロセスでそのクエリは無視されます。クエリが無視されると、「一部のクエリをインポートできませんでした」というメッセージが表示されます。エラーを確認するには、Hub サーバーのログファイルを確認します。

1. **［検索フォーム］**の上部で、**［保存済みクエリ］**を選択します。
2. **検索フォーム**を右クリックし、**［クエリのインポート］**をクリックします。

3. **［クエリのインポート］**ダイアログボックスで、**［参照］**をクリックします。保存済みクエリを含む XML ファイルを選択します。
4. **［インポート］**をクリックします。

第 18 章

［データ］タブでのレコードの操作

この章では、以下の項目について説明します。

- ［データ］タブでのレコードの操作の概要, 145 ページ
- 検索結果からレコードを開く, 146 ページ
- 子レコードのフィルタの作成, 147 ページ
- ［フォーム］ビューと［テーブル］ビューの切り替え, 148 ページ
- システムカラムの表示, 148 ページ
- レコードのコピー, 149 ページ
- レコードのデータの編集, 149 ページ
- 有効期間の編集, 149 ページ
- 有効期間の追加, 150 ページ
- タイムラインが有効なレコードの集計期間の表示, 150 ページ
- レコードの調査, 150 ページ
- レコードの削除, 151 ページ

［データ］タブでのレコードの操作の概要

［データ］タブを使用して、レコードを調べます。

［データ］タブの**［データ］**ビューでは、レコードを確認して編集できます。また、左側のナビゲーションアイコンを使用して、レコードの履歴、その相互参照レコード、およびマージ候補を表示できます。

［データ］ビューの**［検索フォーム］**を使用すれば、レコードを検索できます。**［データ］**タブからの検索の詳細については、「データタブの検索クエリの概要」 (ページ 134)を参照してください。

［データ］タブの保留中のレコード

保留中のレコードには、承認が保留中のデータが含まれています。

［データ］タブでは、保留中のレコードは次の方法で処理されます。

- 検索結果では、保留中のレコードがあるレコードが結果内に表示されます。
- **［データ］**ビューで、承認が保留中の新しく作成したレコードを開くと、ビューに親レコードの保留中のデータとすべての子レコードが表示されます。
- **［データ］**ビューで、親レコードへの変更が保留中のレコードを開くと、ビューには承認済みのデータが表示され、保留中の変更は表示されません。

- **［データ］**ビューで、子レコードへの変更が保留中のレコードを開くと、ビューには承認済みのデータが表示され、保留中の変更は表示されません。
- **［データ］**ビューで、保留中の新しい子レコードがあるレコードを開くと、ビューには保留中の新しい子レコードは表示されません。

検索結果からレコードを開く

レコードを調査するには、検索結果からレコードを選択し、**［データ］**タブでレコードを開くことができます。**［データ］**タブで検索フォームを使用するか、**［クエリ］**をクリックするか、ヘッダーの**［検索］**ボックスを使用して検索します。

タイムラインが有効化されているレコードを開く場合、レコードを表示する有効期間を指定します。［有効日付］フィールドのデフォルト値は現在の日付です。［有効日付］フィールドを空のままにした場合、すべてのレコードバージョンが開きます。

1. レコードを検索します。
2. 検索結果で、レコードを選択します。
3. 以下のいずれかのビューでレコードを開きます。

ビュー	説明
データ	レコードの表示と編集を行うには、**［開く］**をクリックする。
一致	レコードを重複している可能性のあるレコードと比較するには、**［アクション］** > **［比較］**をクリックします。
階層	レコード間のリレーションの図を表示するには、**［開いている階層］**をクリックする。
ビジネスエンティティ	レコードに関する他の情報ソースのコンテキストでレコードの表示と編集を行うには、**［エンティティビュー］**をクリックする。

4. 確認のメッセージが表示された場合は、調査の対象期間を指定します。

   レコードがビューで開きます。

関連項目：

- 「重複レコードの解決」 (ページ 80)

子レコードのフィルタの作成

［子］タブに複数の子レコードがある場合、子レコードをカラム名とその値に基づいてフィルタ処理し、特定（またはサブセット）のエントリのみを表示することができます。［データ］ビューで作成されたフィルタはすべてそのセッション用の一時的なもので、レコードを閉じると、作成したフィルタはすべて失われます。

フィルタオプションは、一対多、および多対多の子リレーションの場合にのみ有効です。また、複数のフィルタ条件が適用されている場合はその結果に AND 条件を満たすレコードがすべて含まれ、同じ列に対して複数の条件が設定されている場合はその結果に OR 条件を満たすレコードがすべて含まれます。

1. **［データ］**ビューで［子］タブをクリックし、**［フィルタ］**ボタンをクリックします。

   ［フィルタ］ダイアログボックスが表示されます。

2. **［カラム］**ドロップダウンリストで、カラムの値を選択します。

   注:

   - **［カラム］**ドロップダウンリストの表示でサポートされているのは、文字列と数字のデータタイプのカラム名のみです。
   - **［カラム］**ドロップダウンリストにルックアップ値は表示されません。

3. 次のいずれかのフィルタ条件をドロップダウンリストから選択します。

利用可能なデータタイプ	条件	説明
文字列と数字	=	カラムの値はフィルタ条件と一致する必要があります
文字列と数字	! =	カラムの値がフィルタ条件と一致してはなりません
数字	>	カラムの値はフィルタ条件よりも大きい値である必要があります
数字	<	カラムの値はフィルタ条件よりも小さい値である必要があります
数字	>=	カラムの値はフィルタ条件と等しいかそれよりも大きい値である必要があります
数字	<=	カラムの値はフィルタ条件と等しいかそれよりも小さい値である必要があります
文字列と数字	NULL 可能	カラムの値がフィルタ結果に含まれるには、NULL である必要があります
文字列と数字	NULL でない	カラムの値がフィルタ結果に含まれるには、NULL であってはなりません
文字列	開始	カラムの値はフィルタ条件で始まる必要があります
文字列	終了	カラムの値はフィルタ条件で終わる必要があります

利用可能なデータタイプ	条件	説明
文字列	含む	カラムの値はフィルタ条件を含む必要があります
数字	範囲	カラムの値はフィルタ条件の範囲内である必要があります

4. **［値］** フィールドにフィルタ条件を入力します。
5. 別のフィルタ条件を作成する場合は、［追加］ボタン（緑のプラスのボタン）をクリックします。

   注: フィルタ条件を削除する場合は、［削除］ボタン（赤いクロスのボタン）をクリックします。
6. **［適用］** をクリックします。

   注: フィルタをクリアする場合は、**［フィルタをクリア］** ボタンをクリックします。

［フォーム］ビューと［テーブル］ビューの切り替え

場合によって、次の 2 つのビューを切り替えることができます。

- *［フォーム］ビュー*には、紙面のフォームのように、1 つのレコードとその属性が縦に並べて表示されます。1 つのレコードだけを調べる場合は、**［フォームビューに切り替え］** をクリックします。
- *［テーブル］ビュー*には、1 つ以上のレコードのリストが表形式で表示されます。テーブル内の各行は、異なるレコードを示します。**［テーブルビューに切り替え］** をクリックすると、関連するレコードすべての概要リストが表示されます。

注:

- サブジェクト領域の子の場合、IDD の設定方法に応じて、デフォルトビューが［フォーム］ビューまたは［テーブル］ビューになります。
- 選択済みの子レコードの場合、関連する孫レコードのみが［フォーム］ビューまたは［テーブル］ビューで表示されます。

システムカラムの表示

［データ］ ビューに表示されるレコードのシステムカラムを表示するには、**［アクション］** メニューから **［システムカラム］** を選択します。Data Director に、システムカラムの詳細が示すウィンドウが開きます。

システムカラムを表示して、レコードが作成された日付、レコードの作成者、行 ID などのレコードのメタデータを表示できます。

レコードのコピー

親レコードとその子の一部をコピーして、既存のレコードと同じようなレコードを作成することができます。タイムラインが有効なレコードはコピーできません。

1. ［**データ**］タブの［**データ**］ビューで、レコードを開きます。
2. ［**アクション**］ > ［**コピー**］をクリックします。
3. 新規レコードウィンドウで、必要な属性データを変更します。
4. ［**保存**］または［**承認のために送信**］を適宜選択します。

レコードのデータの編集

レコードのデータを編集できます。データを編集する場合、レコードの有効期間は編集できません。

1. データを編集するレコードを開きます。

   保留状態のレコードは、ワークフローの一部であり、承認が保留中であるため編集できません。
2. ［**アクション**］ > ［**データの編集**］の順にクリックします。
3. データを編集します。
4. ［**適用**］をクリックします。

   編集したフィールドが強調表示されます。
5. ［**保存**］をクリックします。

   Data Director によって、変更がデータベースに書き込まれます。

有効期間の編集

誤った有効期間を修正するには、レコードの有効期間を編集します。データ変更イベントを追跡するレコードの有効期間を編集できます。レコードの有効期間を編集すると、Data Director によって、新しい有効期間でレコードが保存されます。

1. 有効期間を編集するレコードバージョンを開きます。

   保留状態のレコードは、ワークフローの一部であり、承認が保留中であるため編集できません。

   a. 編集する有効期間のあるレコードを開きます。

   b. レコードの［**有効期間を表示**］リンクをクリックします。

   c. ［**有効日付**］フィールドで、日付選択を使用して、編集する有効期間内の日付を選択します。

   d. ［**適用**］をクリックします。

      編集する有効期間で有効なレコードバージョンが開きます。
2. ［**アクション**］ > ［**期間の日付の編集**］の順にクリックします。
3. ［**有効期間の編集**］日付フィールドで、日付選択を使用して有効期間の正しい開始日と終了日を選択します。
4. 更新したレコードバージョンに含めるプライマリレコードおよび子レコードを選択します。

5. **［保存］**をクリックします。

   Data Director によって、有効期間が更新されたレコードバージョンが保存されます。

有効期間の追加

新しい有効期間に該当するレコードバージョンを追加できます。追加する有効期間は、既存の有効期間に隣接している必要があります。データ変更イベントを追跡するレコードに有効期間を追加できます。

1. 有効期間を追加するレコードを開きます。
2. 新しい有効期間にコピーするレコードバージョンを選択します。
3. **［アクション］** > **［新しい期間の作成］**をクリックします。
4. **［新しい有効期間の作成］**日付フィールドで、日付選択を使用して有効開始日と有効終了日を選択します。
5. 新しいレコードバージョンに含めるプライマリレコードおよび子レコードを選択します。
6. **［保存］**をクリックします。

   Data Director によって、指定した有効期間の新しいレコードバージョンが作成されます。

タイムラインが有効なレコードの集計期間の表示

タイムラインが有効なレコードの場合、**［有効期間を表示］**リンクをクリックし、レコードの有効期間の計算済み集計期間を表示できます。集計期間は、どのオブジェクト（親、子、および孫）についてもレコードのデータが変更されなかった期間です。そのレコードの有効期間すべての交点です。

例えば、親レコードの有効期間を 2012 年 5 月 1 日から 2012 年 5 月 31 日の期間で保存し、同じレコードの子レコードの有効期間を 2012 年 5 月 1 日から 2012 年 5 月 15 日の期間で保存したとします。2012 年 5 月 1 日付のレコードの集計期間は、2012 年 5 月 1 日から 2012 年 5 月 15 日となります。

注:

- **［有効期間の表示］**のリンクは、**［保存］**の操作が完了してから有効になります。
- ［データ］ビューで**［有効期間を表示］**のリンクをクリックすると、オブジェクト（親、子、および孫）の有効開始日と有効終了日を表示できます。
- レコードの表示される集計期間は**［有効日付］**フィールドで選択した日付と直接関連しています。

レコードの調査

［データ］タブで、レコードのビューを変更できます。レコードの履歴、相互参照レコード、マージできる可能性のある候補、関連レコードの図を表示できます。

1. **［データ］**ビューでレコードを開きます。
2. 確認のメッセージが表示された場合は、調査の対象期間を指定します。
3. 調査パスに基づいて、以下のいずれかのビューを選択します。

- レコードの表示と編集を行うには、**［データ］**アイコンをクリックします。**［データ］**ビューが開きます。
- 保留中の変更を表示するには、**［XREF］**アイコンをクリックします。**［XREF］**ビューが開きます。
- レコードの変更履歴を表示するには、**［履歴］**アイコンをクリックします。**［履歴］**ビューが開きます。
- 重複している可能性のあるレコードとレコードを比較するには、**［一致］**アイコンをクリックします。**［一致マージ比較］**ビューが開きます。
- レコード内およびレコード間のリレーションの図を表示するには、**［開いている階層］**ボタンをクリックします。**［履歴］**ビューが開きます。
- レコードに関する他の情報ソースの文脈でレコードの表示と編集を行うには、**［エンティティビュー］**ボタンをクリックします。エンティティタブが開きます。このタブには、レコードの名前が表示されます。

レコードの削除

目的のレコードを削除できます。**［データ］**ビューに表示されたレコードを削除するには、**［アクション］**メニューから**［削除］**を選択します。

Data Director では、削除されたレコードとしてマークが付けられるとそのレコードは表示されなくなりますが、そのレコードはデータベースからは削除されません。親レコードを削除した場合、Data Director は子レコードを削除済みとしてマークしません。タイムラインが有効なレコードを削除した場合、Data Director はすべての有効期間にわたって、そのレコードを削除済みとしてマークします。

第 19 章

階層とリレーションの調査

この章では、以下の項目について説明します。

- リレーションの調査の概要, 152 ページ
- ユーザーインタフェース, 152 ページ
- リレーションの管理, 154 ページ

リレーションの調査の概要

レコードには、他のレコードへのリレーションがある場合があります。［階層］ビューが有効な場合は、レコードが他のレコードとどのように関連しているかを示すグラフを表示できます。

［階層］ビューを使用して、リレーションおよび関連するレコードを調査します。

注: MDM 管理者がこの目的でカスタムビューを作成した場合は、ビューの名前が変わる場合があります。

ユーザーインタフェース

レコードのリレーションを管理するには、Data Director インタフェースを使用します。

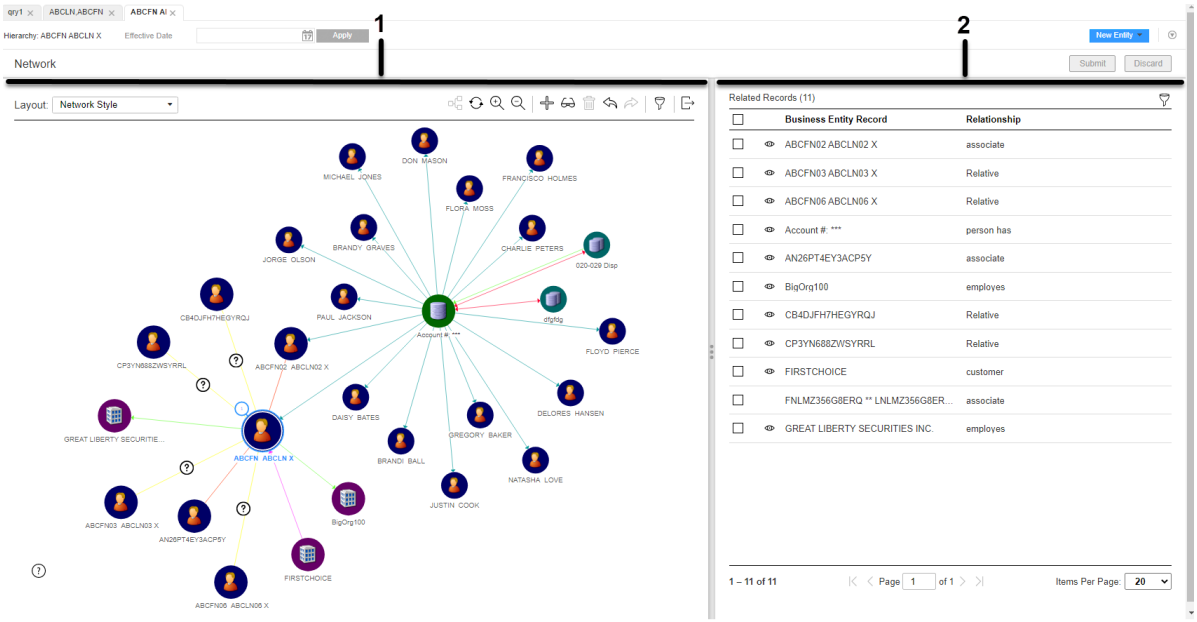
注: ［階層］ビューに、ネットワークレイアウトのレコードのリレーションが表示されます。

［階層］ビュー

［階層］ビューには、開いているレコードのすべてのリレーションが表示されます。**［階層］**ビューを使用して、リレーションを表示、作成、管理し、階層リレーションを表示します。

レコードのリレーションを表示できます。ネットワークレイアウト内のリレーションおよびレコードを表示、非表示およびフィルタすることができます。また、ネットワークレイアウトに表示されたリレーションをエクスポートすることもできます。

次の図に、レコードのサンプルの**［階層］**ビューを示します。



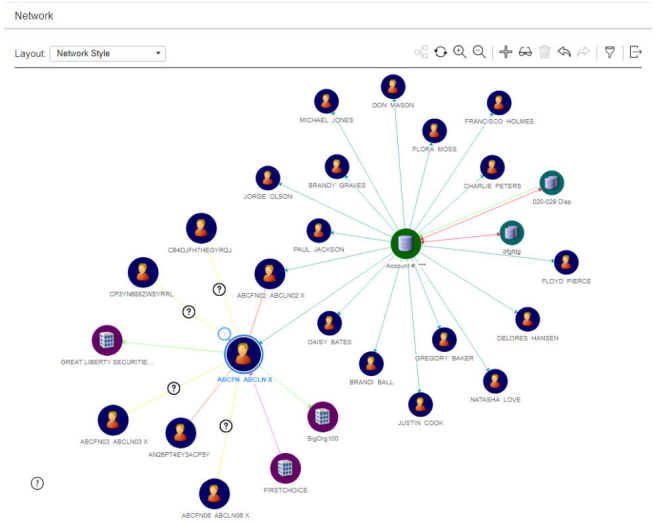
1. ［ネットワーク］パネル
2. ［リレーション］パネル

［ネットワーク］パネル

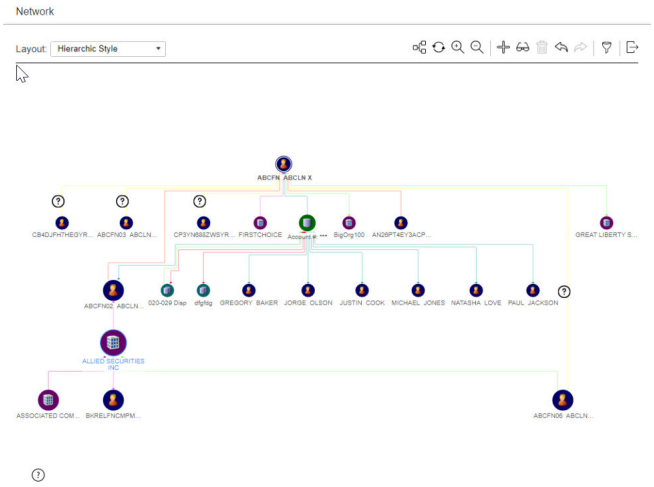
ネットワークパネルには、開いているレコードのリレーションを表示するキャンバスが含まれています。キャンバスでノードを展開、縮小および再配置できます。リレーションとレコードを追加することもできます。

リレーションは、連結グラフまたはツリーグラフとして視覚化できます。

ネットワークレイアウトは、連結グラフでリレーションを視覚化します。次の図は、ネットワークレイアウトを示しています。



階層レイアウトは、ツリーグラフでリレーションを視覚化します。次の図は、階層レイアウトを示しています。



［リレーション］パネル

［リレーション］パネルには、開いているレコードのビジネスエンティティおよびリレーションが表示されます。レコードをフィルタしたり、ビジネスエンティティとリレーションフィールドを追加することができます。

リレーションの管理

レコードのネットワークリレーションを表示できます。例えば、個人ビジネスエンティティ「Sam Dunn」に、組織ビジネスエンティティ「Bank of America」の銀行口座が設定されているとします。Informatica レコード「Sam Dunn」は「Bank of America」に関連付けられています。

［階層］ビューを使用して、レコードのネットワークリレーションを表示します。**［階層］**ビューで追加のネットワークリレーションを作成することもできます。

注: リレーションを作成または更新した場合、リレーションは［階層］ビューにすぐには反映されません。リレーションに対するすべての更新は累積されます。［送信］ボタンをクリックしてリレーションを更新するか、［破棄］ボタンをクリックして更新を破棄する必要があります。

［階層］ビューからレコードを開く

［階層］ビューを使用して、開いているレコードと他のレコード間の階層リレーションを表示します。

［階層］ビューでレコードを開くには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- **［データ］**タブで 1 つまたは複数のレコードを選択し、**［開いている階層］**をクリックします。
- **［クエリ］**タブの検索結果からレコードを開き、**［開いている階層］**をクリックします。
- 開いたレコードを表示するレコードビューで、**［ネットワーク］**をクリックします。

レコードおよびリレーションの表示

レコードおよびリレーションを表示するには、キャンバスでノードを展開します。

1. ノードを展開するには、ノードをダブルクリックします。

2. ネットワークグラフのビジネスエンティティ、階層タイプ、リレーション、またはリレーションの方向をフィルタリングするには、**[フィルタ]** アイコンをクリックして、フィルタを追加します。

レコードへのリレーションの追加

リレーションを追加するには、リレーションを設定するレコードを検索してから、リレーションを定義します。

1. **[階層]** ビューで、キャンバスのノードにマウスを合わせてから、**[追加]** アイコンをクリックします。

   [検索] ウィンドウが表示されます。
2. リレーションを作成するレコードを見つけるには、次のアクションを実行します。
   a. 関連レコードを検索する検索クエリを実行します。
   b. 検索結果からレコードを 1 つまたは複数選択します。
3. **[キャンバスに追加]** をクリックします。

   [リレーションの追加] パネルが表示されます。
4. リレーションの属性を入力し、**[保存]** をクリックします。

   [階層] ビューにリレーションとレコードが表示されます。

   注: キャンバス内の元に戻すボタンまたはやり直しボタンを使用して、変更を適用したり、元に戻したりできます。

関連レコードの追加

ネットワークレイアウトに新しいレコードを追加します。

1. **[階層]** ビューで、**[新規エンティティ]** ボタンをクリックします。

   新しいエンティティウィンドウが **[データ]** ビューに表示されます。
2. 新しいエンティティ属性を入力し、**[保存]** をクリックします。

   [階層] ビューに新しいエンティティが表示されます。

次に、レコードへのリレーションを作成します。

レコード間のリレーションの作成 :

ネットワークレイアウト内の接続されていないレコードにリレーションを追加します。

1. **[階層]** ビューで、ノードにマウスを合わせてから、**[矢印]** アイコンをクリックします。
2. 矢印をドラッグし、リレーションを作成するレコードノード上でリリースします。

   [リレーションの編集] パネルが開きます。
3. オプションで、リレーションフィールドがある場合、リレーション属性を指定します。
4. オプションで、タイムラインが有効な場合、開始日または終了日を設定します。

リレーションの削除

不要になったリレーションを削除します。

- **[階層]** ビューで、キャンバスのノードにマウスを合わせてから、**[削除]** アイコンをクリックします。

ネットワークリレーションの表示または非表示

キャンバスでのリレーションの表示/非表示を切り替えることができます。

1. ［**ネットワーク**］ビューで、キャンバス上のノードを選択します。
2. リレーションを非表示にするには、リレーションにマウスを合わせて、［**その他のアクション**］アイコンをクリックしてから［**キャンバスで非表示**］を選択します。

   キャンバスにリレーションが表示されなくなります。
3. リレーションを表示するには、リレーションにマウスを合わせて、［**その他のアクション**］アイコンをクリックしてから［**キャンバスで表示**］を選択します。

   キャンバスにリレーションが表示されます。

リレーションプロパティの編集

リレーションフィールド、またはリレーションの開始日あるいは終了日を編集します。

1. ［**階層**］ビューで、リレーションのプロパティを編集するには、キャンバスでノードを選択します。
2. リレーションパネルで、リレーションにマウスを合わせて、［**その他のアクション**］アイコンをクリックし、［**編集**］を選択します。

   ［**リレーションの編集**］パネルが開きます。
3. リレーションのプロパティを編集します。
4. 必要に応じて、［**リレーションの開始日**］および［**リレーションの終了日**］フィールドを編集します。

階層のエクスポート

階層のイメージをエクスポートします。

1. ［**階層**］ビューで、［**グラフのエクスポート**］アイコンをクリックします。
2. PNG ファイルを保存します。

第 20 章

［有効期間］ビューでのタイムラインデータの調査

この章では、以下の項目について説明します。

- データ変更イベントでの有効期間の調査の概要, 157 ページ
- ［有効期間］ビューを開く, 158 ページ
- データ変更イベントの表示, 158 ページ

データ変更イベントでの有効期間の調査の概要

データ変更イベントは、著作物のステータス、アドレス、一定期間有効な電話番号などのデータに対する変更です。レコードには複数のデータ変更イベントが含まれる場合があります。**［有効期間］**ビューを使用して、レコードのデータ変更イベントを調査します。

データに変更が発生すると、有効期間が新しくなったり、既存または今後の有効期間が更新されたりします。**［有効期間］**ビューを使用して、一定期間のデータに対する変更を表示します。また、タイムラインに対してデータ変更イベントの追加と削除を行うこともできます。データ変更イベントを管理するには、**［データ］**ビューを使用します。

注: MDM Hub ストアの基本オブジェクトに対してタイムラインが有効になっている場合は、その基本オブジェクトに対して**［有効期間］**ビューを使用できます。

データ変更イベントの表示の例

あなたの会社では、Adam Mary の保険を更新して、新しい保険パッケージを提案したいと考えているとします。適切なパッケージを提案するには、「Adam Mary」というビジネスエンティティのデータ変更イベントを調査する必要があります。

［有効期間］ビューで、Adam Mary のビジネスエンティティを開きます。Adam Mary のデータ変更イベントを表示する特定の時点を指定します。指定した時点までに起こったデータ変更イベントがビューに表示されます。データ変更イベントを選択して詳細を表示します。Adam Mary は以前は独身で、Alex Mary という名前であったことがわかります。これで、Adam Mary にもあなたの会社にもメリットをもたらす適切な保険パッケージを提案するための情報を入手することができました。

［有効期間］ビューを開く

有効な日付を持つデータを調査するには、**［有効期間］**ビューを使用します。

注: このビューは、管理者がタイムライン機能を有効にしている場合にのみ使用できます。

［有効期間］ビューでレコードを開くには、以下のアクションを実行します。

1. 検索結果を表示する**［検索］**タブから、レコードを選択します。**［開く］**をクリックします。

   レコードが**［データ］**ビューに表示されます。
2. **［有効期間］**アイコンをクリックします。

   ［有効期間］ビューが開きます。

データ変更イベントの表示

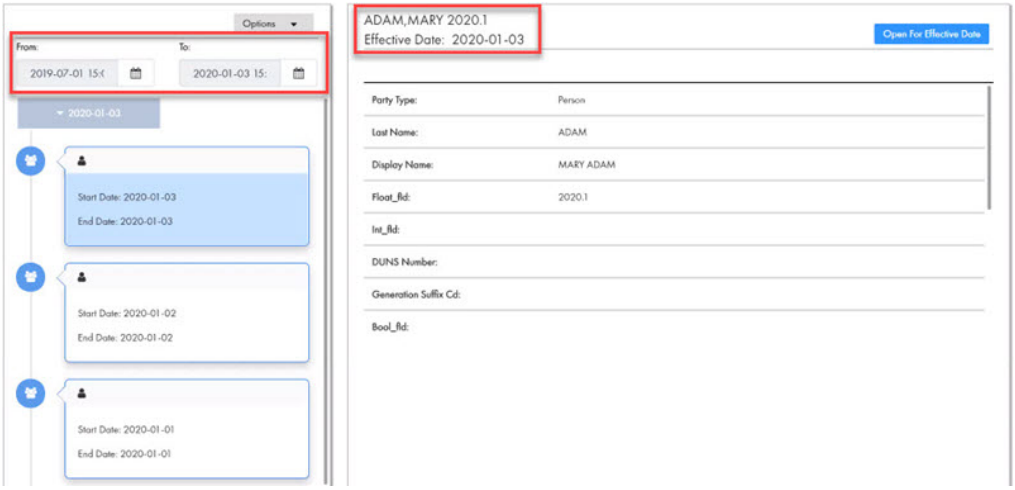
［有効期間］ビューでレコードのデータ変更イベントを表示できます。

1. **［有効期間］**ビューでレコードを開きます。

   現在の日付までに発生したレコードのデータ変更イベントがビューに表示されます。
2. 現在の日付ではなく特定の時点までに発生したデータ変更イベントを特定するには、カレンダーの**［開始:］**および**［終了:］**フィールドを使用して日付範囲を選択します。

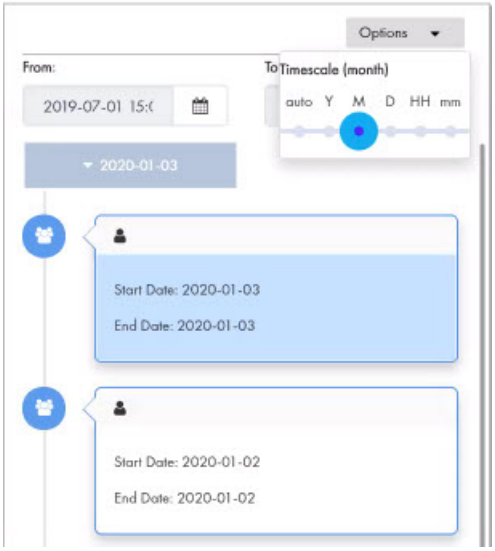
   指定した時点までにレコードに対して発生したデータ変更イベントが降順で表示されます。

   次の図は、2019 年 7 月 1 日から 2020 年 1 月 3 日までに「Adam, Mary」レコードに対して発生したデータ変更イベントを示しています。



3. データイベントをグループ化する時間単位を選択するには、**［オプション］**をクリックして別のタイムスケールを選択します。例えば、年単位の期間を選択するには**［Y］**を、月単位の期間を選択するには**［M］**を選択します。

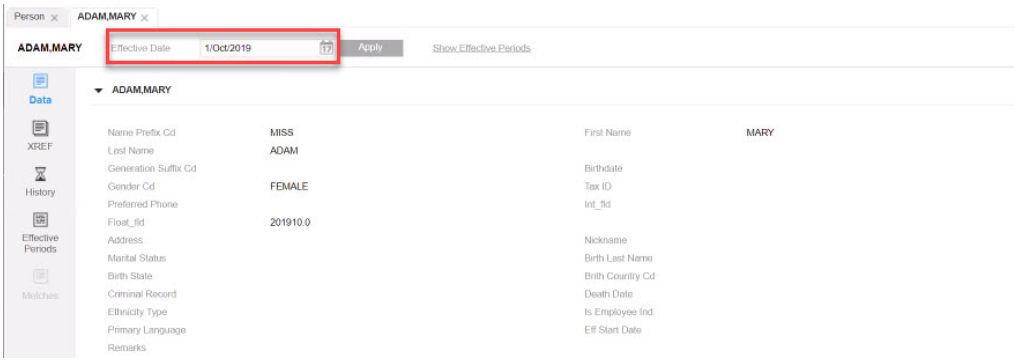
次の図は、2019 年 1 月から 2019 年 7 月までに発生したデータイベントを示しています。



4. 特定の日付のデータイベントの既存の値を表示するには、そのイベントをクリックし、**[有効日のイベントを開く]** をクリックします。

   データビュー内にデータイベントが開き、指定した有効日の既存の値が表示されます。

   次の図は、2019 年 10 月 1 日に有効な、「Adam, Mary」の既存のデータイベントの値を示しています。



第 21 章

データのインポート

この章では、以下の項目について説明します。

- データインポートの概要, 160 ページ
- MDM Hub サーバーでのデータインポートの有効化, 161 ページ
- データインポートテンプレートのインポート, 162 ページ
- ファイルからソースデータをインポート, 162 ページ

データインポートの概要

MDM 管理者は、認可されたユーザーが Data Director を使用してソースファイルからデータをインポートすることを許可できます。単一のソースファイルから最大 10,000 のレコードをインポートできます。

注: データインポート機能は、サブジェクト領域とともに Data Director を使用する場合にのみ利用可能になります。

データをインポートして次のタスクを実行します。

- 1 回の一括操作で複数のプライマリ、子、および孫オブジェクトを作成する。
- 1 回の一括操作で複数のプライマリ、子、および孫オブジェクトを更新する。

データをインポートするには、ソースファイルとデータインポートテンプレートが必要です。データインポートテンプレートには、ソースファイル内のデータを、ベースオブジェクトテーブル内のカラムにマッピングするインポートプロファイルが含まれます。

Data Director では、インポートするデータの重複照合操作を実行しません。

ソースファイル

データはソースファイルからインポートします。

ソースデータを含む次のいずれかのファイル形式を使用できます。

- `.csv`。カンマなどの区切り文字でデータが区切られたフラットファイル。
- `.xlsx`。スプレッドシート内のカラムにデータが編成された Microsoft Excel ワークブック。

データインポートテンプレート

データインポートテンプレートは、ソースファイル内のデータを、オペレーショナルリファレンスストア上のベースオブジェクトテーブル内のカラムにどのようにマッピングするかを定義します。データインポートテン

プレートを作成するには、ソースファイルとオペレーショナルリファレンスストアスキーマの両方の構造を把握している必要があります。

データインポートテンプレートは、データをインポートするために Data Director が使用するインポートプロファイルが含まれた XML 構成ファイルです。インポートプロファイルは、ソースファイル内のデータの構造とベースオブジェクトテーブル内のユーザー定義カラム間のマッピングを定義します。インポートプロファイルはサブジェクト領域ごとに定義します。

インポートプロファイルでは、日付フィールドと数値フィールドの書式を指定できます。書式を指定するには、日付フィールドは Java `SimpleDateFormat` パターン、数値フィールドは Java `DecimalFormat` パターンを使用します。

リソースキットには、サンプルテンプレートファイルとサンプルソースファイルが含まれています。サンプルファイルは*<MDM Hub installation directory>*/hub/resourcekit/samples/BDD/import にあります。

データインポート例

例えば、データスチュワードが Microsoft Excel スプレッドシートから顧客レコードをインポートする必要があるとします。このスプレッドシートでは、カラム 1 に姓名の名の方が、カラム 2 には姓が入力されています。

オペレーショナルリファレンスストアには、名と姓のカラムを含む C_PARTY という名前のベースオブジェクトテーブルが含まれています。IDD アプリケーションは、Person サブジェクト領域を定義します。

データスチュワードは、MDM 管理者に、ソースファイル内のデータ構成と一致するデータインポートテンプレートの作成を依頼します。開発者は、次のマッピングを使用して Person サブジェクト領域用のインポートプロファイルをこのテンプレートに定義します。

- ソースファイルのカラム 1 を、C_PARTY ベースオブジェクトの FIRST_NAME カラムにマッピング。
- ソースファイルのカラム 2 を、C_PARTY ベースオブジェクトの LAST_NAME カラムにマッピング。

次のサンプルコードは、この例のインポートプロファイルを示したものです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<DataImportTemplateConfig xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
                          xsi:noNamespaceSchemaLocation="data-import-template.xsd">
    <ImportProfile name="IMPORT_SA_PERSON" displayName="Import profile for SA Person"
                subjectArea="Person" effectivePeriodStart="6" effectivePeriodEnd="7"
                effectiveDateFormat="dd.MM.yyyy">
  <PrimaryObject>
      <Column index="1">C_PARTY|FIRST_NAME</Column>
      <Column index="2">C_PARTY|LAST_NAME</Column>
                ...
     </PrimaryObject>
    </ImportProfile>
</DataImportTemplateConfig>
```

MDM Hub サーバーでのデータインポートの有効化

データをインポートできるようにするには、**[新規]** ウィンドウに **[データインポート]** オプションが表示されている必要があります。オプションが表示されたら、この手順をスキップできます。

[データインポート] のメニュー項目が見つからない場合は、Hub サーバーのプロパティファイルで `cmx.dataview.enabled=true` プロパティを有効にするように、MDM 管理者に依頼します。Hub サーバープロパティの詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

1. Hub サーバーをホストするアプリケーションサーバーを停止します。

2. 次の場所に移動します。

   `<MDM Hub installation directory>/hub/server/resources/`

3. `cmxserver.properties` ファイルを開いて、プロパティ `cmx.dataview.enabled=true` を設定します。
4. ファイルを保存します。
5. アプリケーションサーバーを起動します。

データインポートテンプレートのインポート

IDD コンフィギュレーションマネージャから、MDM 管理者はデータインポートテンプレートを Data Director（IDD）アプリケーションにインポートします。インポートプロセスによってテンプレートが検証されます。

1. IDD コンフィギュレーションマネージャにログインします。
2. アプリケーションを選択します。
3. **［インポート］** > **［既存の IDD アプリケーションへのインポート］** をクリックします。

   ［既存の IDD アプリケーションへのインポート］ ウィンドウが表示されます。
4. **［構成タイプ］** リストから **［データインポートテンプレート］** を選択します。
5. **［参照］** をクリックし、データインポートテンプレートを含む XML ファイルを選択します。
6. **［インポート］** をクリックします。

   インポートプロセスによってテンプレートが検証されます。**［検証結果］** ウィンドウが開き、エラーがあれば表示されます。
7. 検証エラーがあった場合は、テンプレート内のエラーを解決してからテンプレートを再インポートしてください。
8. **［検証結果］** ウィンドウで **［OK］** をクリックします。

ファイルからソースデータをインポート

ソースファイルからオペレーショナルリファレンスストアにデータをインポートするにはインポートウィザードを使用します。Data Director ではサービス統合フレームワーク Put API を使用してデータをインポートします。

重要: インポートプロセスの開始後は、変更をロールバックできません。

1. ナビゲーションバーで **［新規］** をクリックします。**［データインポート］** とサブジェクト領域のタイプを選択します。

   注: ［データインポート］ オプションが表示されない場合、IDD アプリケーションがこのオプションを表示して、データをインポートするように設定されていません。MDM 管理者に連絡します。

   インポートウィザードの **［全般］** ページが表示されます。
2. テンプレートに複数のインポートプロファイルが含まれている場合、リストから使用するインポートプロファイルを選択します。
3. **［参照］** をクリックして、ソースファイルを選択します。
4. **［次へ］** をクリックします。

［**インポートプロパティ**］ページが開きます。

5. ソースファイルが.csv ファイルの場合、次のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
区切り文字	ソースファイル内でデータ値の区切りに使用されている文字を指定します。
コードページ	ソースファイル内のデータの解釈に使用する文字エンコーディングを指定します。
テキスト修飾子	テキスト文字列を引用符で囲む場合、引用符のタイプを指定します。

6. ソースファイルが.xlsx ファイルの場合、［**ワークシート名**］リストから、データを含むワークシートを選択します。
7. ソースファイルからインポートするデータを制御するには、次のプロパティを設定します。

プロパティ	説明
ヘッダ	データではなく見出しが入っているため最初の行を省略する場合は、［**ヘッダは最初の行です**］を選択します。
次の行からインポートを開始	最初の行以外の任意の場所からインポートを開始する場合は、行番号を入力します。

8. データのプレビューを確認します。
9. ［**次へ**］をクリックします。

   ［**インポートの進捗状況**］ページが開きます。
10. ［**開始**］をクリックします。

    インポートプロセスが開始されます。インポートプロセスが終了すると、メッセージが表示されます。

    注: ワークシートの場合、インポートプロセスは、データを含む行、空だが書式設定されている行、空だがデータが含まれる行に挟まれている行について、インポートを試みます。Data Director は、空の行については処理しないで拒否します。
11. ［**完了**］をクリックします。

パート III: タスクとレビュー

この部には、以下の章があります。

- タスク, 165 ページ
- 確認プロセスへの参加, 173 ページ
- タスクの管理, 187 ページ
- 確認プロセス参照, 199 ページ

第 22 章

タスク

この章では、以下の項目について説明します。

- タスクの概要, 165 ページ
- タスクマネージャ, 165 ページ
- 潜在的な所有者, 170 ページ
- 潜在的なタスクアクション, 171 ページ
- タスクの検索, 171 ページ

タスクの概要

タスクとは、編集済みレコードの確認、マージプロポーザルの確認、新しいレコードの承認など、完了する必要のあるアクティビティです。ワークフローは、リンクされた複数のタスクで構成されています。

タスクは確認プロセスによって生成されます。確認プロセスは、自動化されたビジネスプロセスです。ユーザーがレコードの追加、編集、マージ、またはマージ解除を行うと、そのアクションによって確認プロセスが開始されます。確認プロセスにより、ビジネスマネージャまたはデータスチュワードは、データをマスタデータにする前にデータの確認と最終承認を確実に実行することができます。

タスクには、タスクの詳細と、確認が必要な関連レコードが含まれます。タスクでは、レコードの編集の承認または却下、レコードのマージ、またはレコードのマージ解除などのアクションを実行する必要があります。タスクを引き受けることにより、タスクで作業できます。タスクの割り当て、解放、編集などのタスク管理アクションを実行することにより、タスクを管理できます。また、承認または却下などのアクションを実行することでタスクを管理することもできます。

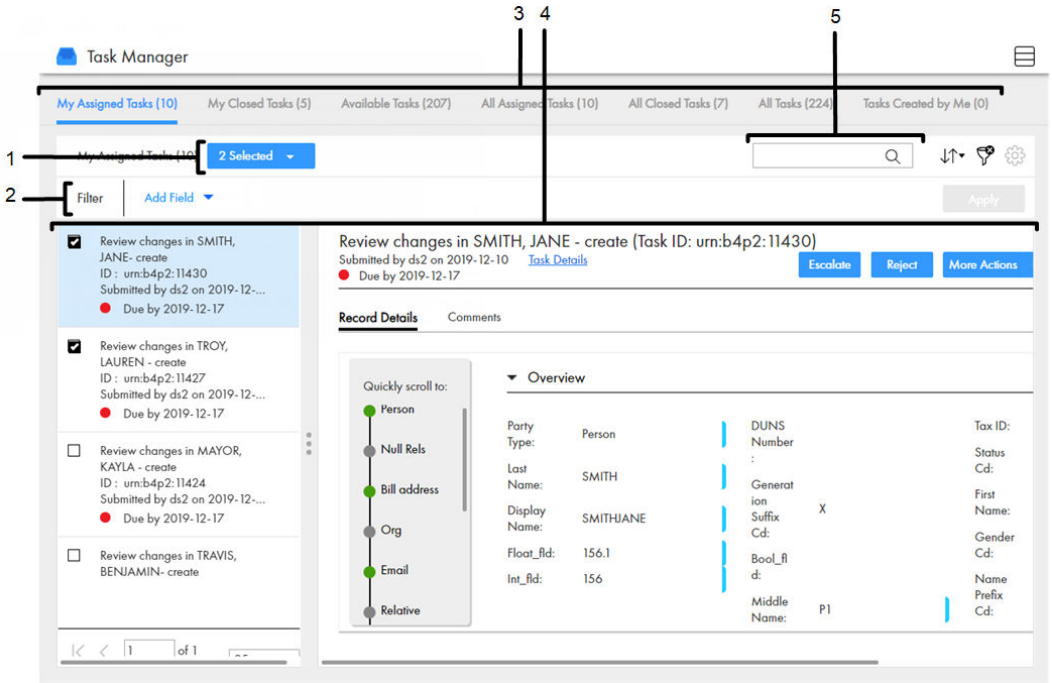
注: 別のタスクタイプ、トリガ、またはワークフローが必要な場合は、MDM 管理者にお問い合わせください。MDM 管理者はタスクの設定を編集できます。

タスクマネージャ

［タスクマネージャ］を使用して、確認プロセスで生成されたタスクの整理、引き受け、解決を行います。また、タスクの割り当て、解放、編集などのタスク管理アクションを実行することもできます。

タスクマネージャに移動するには、ナビゲーションバーで［**タスクマネージャ**］をクリックします。または、［**ホーム**］ページのタスクインボックスからタスクのタイトルをクリックできます。この場合は、選択したタスクと関連付けられたレコードがタスクマネージャに表示されます。

次の図は、2 つのタスクが選択されたタスクマネージャの詳細ビューを示しています。



1. 選択済みリスト
2. カスタムフィルタ
3. ［クイックフィルタ］タブ
4. 表示
5. 検索

次の表に、タスクマネージャのユーザーインタフェース要素を示します。

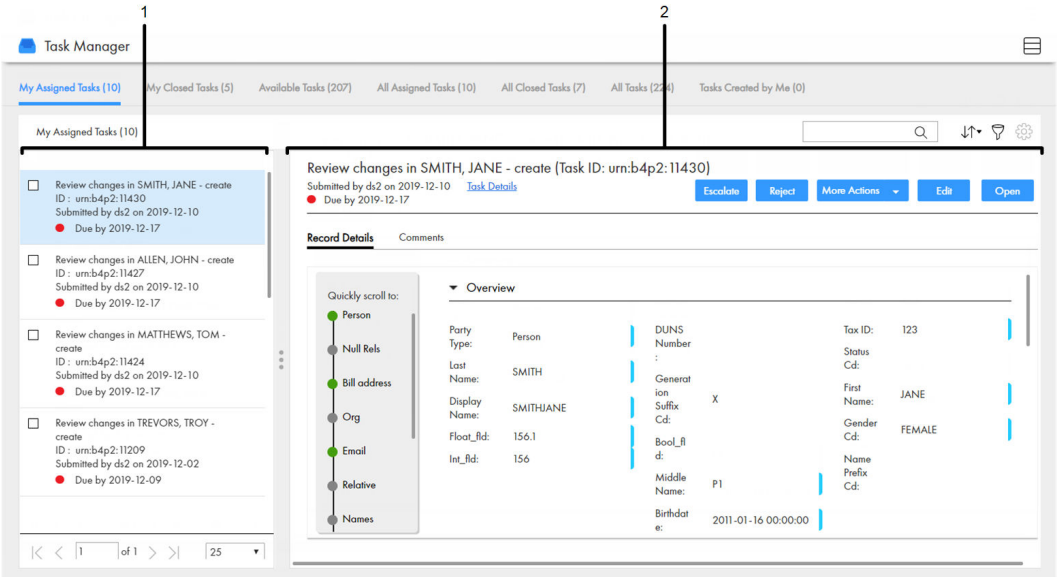
ユーザーインタフェース要素	説明
選択済みリスト	選択したタスクに対してタスク管理アクションを実行します。**［選択済み］**リストを使用するには、複数のタスクの横にあるチェックボックスを選択します。 次のタスク管理アクションを実行できます。 - 割り当て - 解放 - 編集 - 引き受け - 受け入れ、拒否または引き受け解除などのタスクアクション **注**: 使用可能なタスク管理アクションは、選択したタスクと ActiveVOS ワークフローによって異なります。
カスタムフィルタ	選択したフィルタに基づいてタスクをフィルタします。カスタムフィルタを使用するには、**［フィルタ］**アイコンをクリックし、フィルタを追加します。 次のフィルタの任意の組み合わせを使用できます。 - ビジネスエンティティ - 階層 - 作成日 - 期限 - 所有者 - 優先度 - タスクのタイトル - タスクタイプ

ユーザーインタフェース要素	説明
表示	タスクのリストを詳細ビューまたはリストビューに表示します。ビューを切り替えるには、タスクマネージャのツールバーにある［**詳細ビュー**］アイコンまたは［**リストビュー**］アイコンを使用します。
［クイックフィルタ］タブ	タブの事前定義済みフィルタ条件に基づいてタスクを表示します。 次のフィルタのいずれかを使用します。 - 割り当てられたタスク。開いている割り当てられたタスクを表示します。 - 終了したタスク。終了したタスクを表示します。 - 使用可能なタスク。ユーザーグループが使用できる未割り当てのタスクをすべて表示します。 - すべての割り当てられたタスク。ユーザーグループ内のユーザーが割り当てられたすべてのタスクを表示します。 - すべての終了したタスク。ユーザーグループ内のユーザーが終了したすべてのタスクを表示します。 - すべてのタスク。ユーザーグループが使用できる、終了したタスク、割り当てられたタスク、未割り当てのタスクをすべて表示します。 - 自分が作成したタスク。作成したタスクを表示します。
検索	検索テキストのタスクを検索します。

［詳細］ビュー

［詳細］ビューには、タスクのリストと、選択したタスクに関連付けられているレコードが表示されます。タスクはクイックフィルタに基づいてフィルタリングされます。カスタムフィルタおよび検索用語を使用して、タスクをさらにフィルタリングすることができます。

次の図に、タスクマネージャの［詳細］ビューで選択したタスクを示します:



1. タスクパネル
2. 確認パネル

タスクパネル

タスクパネルには、クイックフィルタ、カスタムフィルタ、および検索語句に基づいてタスクが一覧表示されます。タスクパネルは、詳細ビューでのみ表示できます。

ナビゲーションバーからタスクマネージャを開くと、タスクパネルに最初のクイックフィルタでフィルタリングされたタスクが表示されます。**[ホーム]** ページのタスクインボックスからタスクを開くと、選択したタスクの詳細のみがタスクパネルに表示されます。

次の表に、タスクパネルに表示できる詳細を一覧表示します。

タスクの詳細	説明
タスクのタイトル	確認タスクの簡単な説明を表示するリンク。レコードを確認して、タスクにアクションを実行するには、タスクのタイトルをクリックします。タスクマネージャでタスクが開き、関連するレコードが確認パネルに表示されます。ロールに権限がある場合は、タスクにアクションを実行する前に、このビューからレコードを編集できます。
タイプ	プロセス内のユーザーアクティビティの名前。
優先度	タスクの優先度。タスクの優先度を低、ノーマル、高のいずれかに設定できます。タスクの生成中に、確認プロセスによって同じタイプのすべてのタスクに同じ優先度が割り当てられます。
タスクステータスと期限	タスクのステータスと、タスクの期限となる日付。 タスクのステータスは［オープン］または［終了］のいずれかになります。タスクのステータスがオープンの場合、タスクに関連付けられているレコードを表示できます。 確認プロセスで、タスクの作成日に定義済みの期間を加算してデフォルトの期限が計算されます。 それぞれのタスクの期限の先頭には、次に示す色付きのドットのいずれかが付いています。 - 緑。タスクの期限が過ぎていないことを示します。 - 赤。タスクの期限が過ぎていることを示します。 - オレンジ。タスクが 24 時間以内に期限切れになることを示します。
所有者	サインインしたユーザーの名前。
ID	タスクを生成した確認プロセスのインスタンス ID。
送信日と作成者	タスクを作成したユーザーの名前と、ユーザーがタスクを作成した日付。

注: 別のタスクの詳細が必要な場合は、MDM 管理者に問い合わせます。MDM 管理者は、関連タスクの詳細が表示されるようにアプリケーションを更新できます。

確認パネル

確認パネルを使用して、変更済みレコード、タスクに追加されたコメント、およびワークフローの図を確認します。確認パネルの内容は、レコードに加えられた変更のタイプによって変わります。

注: タスク管理者の場合、レビューパネルで変更をレビューする権限がない可能性があります。

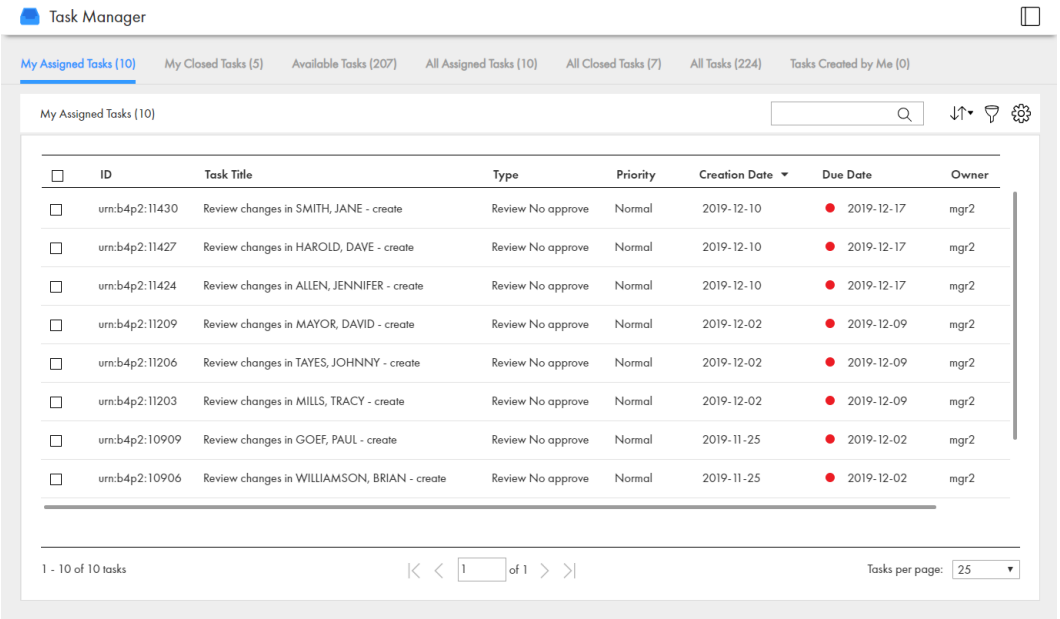
次の表で、確認パネルの要素について説明します。

要素	説明
レコード詳細	タスクに関連付けられたレコードの詳細を表示します。
コメント	タスクに追加されたコメントのリストを表示します。
ワークフローの図	タスクに関連付けられたプロセスフローを図で示します。 ワークフロー図を表示できるのは、ActiveVOS abAdmin ロールが割り当てられている場合のみです。
タスクの詳細	タスクの詳細を編集モードで表示します。
アクション	タスクで実行できるアクションです。可能なアクションは、確認プロセスでのタスクの定義によって決まります。サンプルアクションは、［承認］、［拒否］、および［引き受け解除］にできます。
その他のアクション	タスクで実行できる追加アクションです。
編集	レコードを編集モードで開きます。
開く	レコードを個別のタブで開きます。

リストビュー

［リスト］ビューには、クイックフィルタに基づいてフィルタされたタスクのリストが表示されます。カスタムフィルタおよび検索用語を使用して、タスクをさらにフィルタリングすることができます。

次の図に、［リスト］ビューでタスクが選択されているタスクマネージャを示します:



次の表に、タスクリストに表示できる詳細の一覧を示します。

タスクの詳細	説明
タスクのタイトル	確認タスクの簡単な説明を表示するリンク。レコードを確認して、タスクにアクションを実行するには、タスクのタイトルをクリックします。タスクマネージャでタスクが開き、関連するレコードが確認パネルに表示されます。ロールに権限がある場合は、タスクにアクションを実行する前に、このビューからレコードを編集できます。
タイプ	プロセス内のユーザーアクティビティの名前。
優先度	タスクの優先度。タスクの優先度を低、ノーマル、高のいずれかに設定できます。タスクの生成中に、確認プロセスによって同じタイプのすべてのタスクに同じ優先度が割り当てられます。
タスクステータスと期限	タスクのステータスと、タスクの期限となる日付。 タスクのステータスは［オープン］または［終了］のいずれかになります。タスクのステータスがオープンの場合、タスクに関連付けられているレコードを表示できます。 確認プロセスで、タスクの作成日に定義済みの期間を加算してデフォルトの期限が計算されます。 それぞれのタスクの期限の先頭には、次に示す色付きのドットのいずれかが付いています。 - 緑。タスクの期限が過ぎていないことを示します。 - 赤。タスクの期限が過ぎていることを示します。 - オレンジ。タスクが 24 時間以内に期限切れになることを示します。
所有者	サインインしたユーザーの名前。
ID	タスクを生成した確認プロセスのインスタンス ID。
送信日と作成者	タスクを作成したユーザーの名前と、ユーザーがタスクを作成した日付。

注: 別のタスクの詳細が必要な場合は、MDM 管理者に問い合わせます。MDM 管理者は、関連タスクの詳細が表示されるようにアプリケーションを更新できます。

潜在的な所有者

潜在的な所有者は、タスクを実行できるユーザーグループに属するユーザーです。タスクの潜在的な所有者は、選択したタスクとタスク定義によって異なります。

タスクで作業するには、タスクを引き受けます。自分が潜在的な所有者であるタスクのみを引き受けることができます。タスクマネージャの［**使用可能なタスク**］タブには、自分が潜在的な所有者である、未割り当てのすべてのタスクが表示されます。

タスクの潜在的な所有者であるユーザーにタスクを割り当てたり、再割り当てしたりできます。複数のタスクを割り当てまたは再割り当てする場合、可能性がある担当者は、選択したすべてのタスクによって共有される潜在的な所有者です。

例えば、John Smith のレコードのレビュータスクと Jane Smith のレコードのマージタスクを再割り当てするとします。レビュータスクの潜在的な所有者は、Data Steward のロール、マネージャのロール、または上級マネージャのロールが割り当てられたユーザーです。マージタスクの潜在的な所有者は、マネージャのロール、および上級マネージャのロールが割り当てられたユーザーです。これらのタスクを一緒に再割り当てする場合、潜在的な所有者は、マネージャのロールまたは上級マネージャのロールが割り当てられたユーザーです。

さまざまなタスクを割り当てまたは再割り当てする場合、すべてのタスクで共有される潜在的な所有者がいない可能性があります。潜在的な所有者の数を増やすには、同じタスクタイプのタスクを管理します。例えば、マージタスクを管理したい場合があります。

注: 自分と自分以外の同僚が異なるユーザーロール、タスク定義、ワークフロートリガ、または ActiveVOS ワークフローを必要とする場合は、MDM 管理者に連絡してください。MDM 管理者は設定を変更できます。

潜在的なタスクアクション

潜在的なタスクアクションは、タスクに対して実行できるアクションです。タスクの潜在的なタスクアクションは、選択したタスクと ActiveVOS ワークフローによって異なります。

複数のタスクで作業している場合、潜在的なタスクアクションは、選択したすべてのタスクによって共有されるタスクアクションです。例えば、John Smith のレコードに関連するマージタスクとマージ解除タスクをレビューしているとします。マージタスクの潜在的なタスクアクションは、マージ、キャンセル、および引き受け解除です。マージ解除タスクの潜在的なタスクアクションは、マージ解除、キャンセル、および引き受け解除です。これらのタスクに対して一緒にアクションを実行する場合、潜在的なタスクアクションはキャンセルおよび引き受け解除です。

さまざまなタスクをレビューする場合、すべてのタスクで共有される潜在的なタスクアクションがない可能性があります。タスクアクションの数を増やすには、同じタスクタイプのタスクをレビューします。例えば、マージタスクをレビューしてアクションを実行したい場合があります。

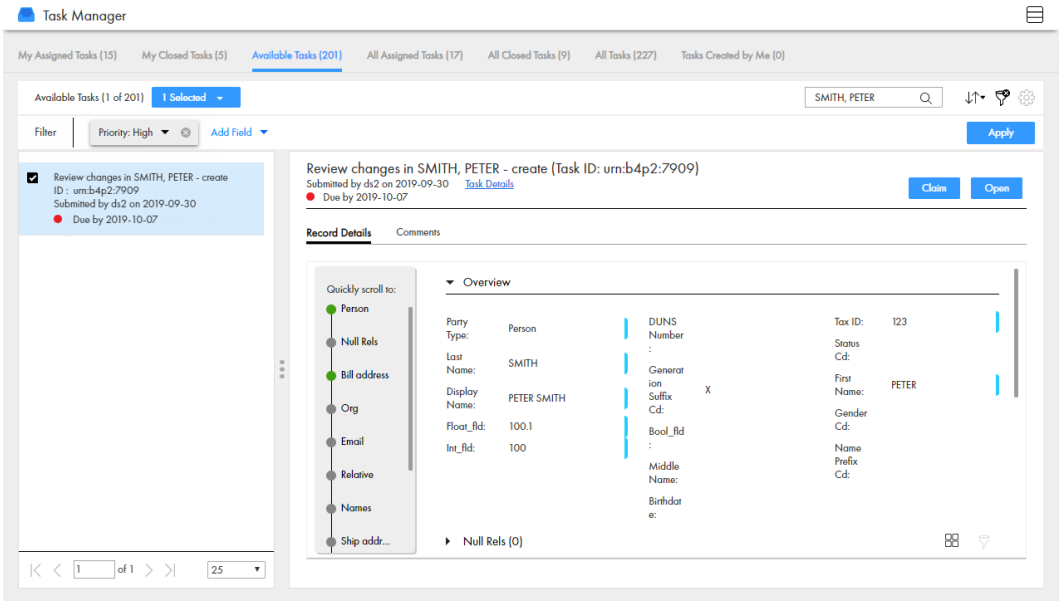
注: 自分と自分以外の同僚が異なるユーザーロール、タスク定義、ワークフロートリガ、または ActiveVOS ワークフローを必要とする場合は、MDM 管理者に連絡してください。MDM 管理者は設定を変更できます。

タスクの検索

クイックフィルタ、カスタムフィルタ、またはタスクマネージャの検索を使用して、操作または管理するタスクを検索できます。クイックフィルタの選択、カスタムフィルタの追加、および検索語の入力により、タスクパネルが更新されます。

例えば、Peter Smith のレコードに関連する優先度の高いタスクを見つけたい場合があります。それらのタスクを検索するには、**[使用可能なタスク]** クイックフィルタを使用し、優先度のカスタムフィルタを追加して、Peter Smith を検索することができます。

次の図に、タスクを検索する方法の例を示します:



注: タスクマネージャの［**検索**］ボックスを使用するには、ビジネスエンティティを使用する Data Director アプリケーションが Elasticsearch を使用するように設定されている必要があります。Elasticsearch を有効にし、検索可能フィールドを設定するには、MDM 管理者に連絡してください。

第 23 章

確認プロセスへの参加

この章では、以下の項目について説明します。

- 確認プロセスへの参加の概要, 173 ページ
- タスクの引き受け, 174 ページ
- タスクの解決, 175 ページ
- タスクの作業の整理, 183 ページ

確認プロセスへの参加の概要

ビジネスユーザーが Data Director 内のデータを変更すると、その変更により確認プロセスが開始される場合があります。確認プロセスは、変更の確認準備ができた場合にビジネスマネージャとデータスチュワードに通知する自動化されたビジネスプロセスワークフローです。

注: タスクマネージャがアプリケーションで有効ではない場合、ユーザーロールに確認プロセスに参加する権限がない可能性があります。場合によっては、確認プロセスが環境に必要でないことがあります。

確認プロセスのタイプは、MDM 管理者がアプリケーションをどのように設定したかと、デフォルトの確認プロセスが使用されているかによって異なります。デフォルトでは、編集、マージ、マージ解除の確認プロセスは異なります。

編集の確認プロセスの例

経理部スタッフが Data Director を使用して、サプライヤの銀行取引情報を最新に保っているとします。サプライヤの代表者が経理部のスタッフメンバに連絡し、サプライヤの銀行取引情報を変更するように要求しました。

経理部では、各 Data Director ユーザー資格情報に、次のユーザーロールのうちいずれかが含まれます。

- ユーザー: このスタッフメンバには、レコードの追加と変更を行う権限がありますが、その変更が確認プロセスを経てから、マスタデータが更新されます。
- マネージャ: マネージャは一種のビジネスユーザーであり、権限が高くなっています。マネージャは変更を確認しますが、変更を承認することはできません。マネージャは、変更に同意したら、上級マネージャに処理を委ねます。
- SrManager.上級マネージャは一種のマネージャであり、権限がさらに高くなっています。上級マネージャには、変更を確認して承認する権限があります。

スタッフメンバは、サプライヤの代表者による要求に応じて、サプライヤのデータを編集します。次の手順では、確認プロセスの流れを説明します。

1. スタッフメンバがサプライヤの銀行取引情報を変更し、変更を保存します。MDM Hub Store で、サプライヤレコードの状態が、アクティブから保留に変更されます。提案された編集は相互参照レコードに保存されます。この保存操作により、確認プロセスが開始されます。
2. 確認プロセスのインスタンスが開始され、実行アクティビティが始まります。
3. 確認プロセスが最初のユーザーのアクティビティに達すると、マネージャへのタスク通知が生成されます。たとえば、デフォルトの確認プロセスでは、最初のユーザーのアクティビティが［確認不承認］になります。ロールがマネージャになっている、すべてのマネージャがタスクインボックスでタスク通知を受信します。タスクタイプは［確認不承認］になります。
4. あるマネージャがタスクを要求します。タスクはそのマネージャに割り当てられ、その他のマネージャのタスクインボックスからは消去されます。
5. そのマネージャがサプライヤレコードを開き、編集を確認して同意します。マネージャは［エスカレーション］をクリックして、そのタスクを解決します。
6. 確認プロセスにより、タスクは完了としてマークされ、エスカレーションのフローに従って次のアクティビティに進みます。
7. 確認プロセスが次のユーザーのアクティビティに達すると、プロセスにより、上級マネージャへのタスク通知が生成されます。たとえば、デフォルトの確認プロセスでは、次のユーザーのアクティビティが［最終確認］になります。ロールが SrManager になっている、すべての上級マネージャが、タスクインボックスでタスク通知を受信します。タスクタイプは［最終確認］になります。
8. ある上級マネージャがタスクを要求します。タスクはその上級マネージャに割り当てられ、その他の上級マネージャのタスクインボックスからは消去されます。
9. その上級マネージャがサプライヤレコードを開き、編集を確認して同意します。上級マネージャは［承認］をクリックして、タスクについて決断します。
10. 確認プロセスはタスクを完了としてマークし、承認フローに従います。変更が承認されたことを確認プロセスが MDM Hub に通知し、確認プロセスは終了します。MDM Hub が、サプライヤの銀行取引レコードの銀行取引情報を変更します。サプライヤのレコードはアクティブ状態に変更されます。

タスクの引き受け

1 つの確認担当者ロールを、複数のユーザーで共有できます。タスクで作業するには、自分の作業中に他のユーザーが同じタスクで作業できないように、タスクを引き受ける必要があります。タスクを引き受ける前に、コメントや添付ファイルを確認します。

1. **［タスクマネージャ］** をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。
2. **［使用可能なタスク］** をクリックします。

   タスクパネルに、ユーザーグループの割り当てを解除したすべてのタスクが一覧表示されます。
3. 引き受けるタスクを選択します。

   確認パネルにレコードが表示されます。
4. 必要に応じて、タスクの詳細、コメント、添付ファイルを確認します。
   a. **［コメント］** タブをクリックして、コメントを確認します。
   b. **［タスクの詳細］** をクリックします。

c. 優先度や期限など、タスクの詳細を確認します。

d. **［ファイル添付］**セクションで添付ファイルをダウンロードします。

e. **［キャンセル］**をクリックします。

5. **［引き受け］**をクリックします。

タスクパネルが更新されます。タスクが**［自分に割り当てられたタスク］**タブに表示されます。ユーザー名は、タスクの**［所有者］**フィールドに表示されます。

タスクの解決

タスクを解決するには、新しいレコードまたは変更されたレコードを確認し、アクションを実行します。可能なアクションは、確認プロセスでのタスクの定義によって決まります。

編集済みレコードの確認

編集されたレコードを確認するためにタスクを開くと、編集された値が含まれるフィールドがマークされています。

MDM Hub ストアでは、保留中状態に設定された相互参照レコードに、提案された編集が含まれます。

1. **［ホーム］**ページのタスクインボックスで、編集済みレコードを確認するための要求であるタスクをクリックします。

   タスクマネージャの確認パネルにレコードが表示されます。

   注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。

2. 必要に応じて、タスクの詳細、コメント、添付ファイルを確認します。

   a. **［コメント］**タブをクリックして、コメントを確認します。

   b. **［タスクの詳細］**をクリックします。

   c. 優先度や期限など、タスクの詳細を確認します。

   d. **［ファイル添付］**セクションで添付ファイルをダウンロードします。

   e. **［キャンセル］**をクリックします。

3. 強調表示されたフィールドを探し、編集内容が有効かどうかを判断します。

4. 誤植や誤った値が見つかり、正しい値を知っている場合は、**［編集］**をクリックしてフィールドを編集します。

   注: 次の手順は、タスクを解決するための十分な情報を持っているかどうか、または他のユーザーからの評価が必要と思われるかどうかによって決まります。

5. タスクを解決するには、該当するアクションボタンをクリックするか、**［その他のアクション］**をクリックして次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
承認	編集内容に同意し、変更の承認がタスクタイプで許可されている場合、**［承認］**をクリックします。ActiveVOS(R)サーバーは、関連する最終確認ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。

アクション	説明
エスカレーション	編集内容に同意しても、ワークフローのこの時点での承認がタスクタイプで許可されていない場合、**[エスカレーション]** をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する [確認不承認] ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
拒否	1 つまたは複数の編集内容に同意しない場合、**[拒否]** をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、レコードを編集したユーザーに通知を送信します。 **注**: ソースシステムで拒否されたレコードが更新された場合、そのレコードは再び承認プロセスに送られます。
<その他>	メニューに他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、ビジネスプロセスの作成者に問い合わせてください。

タスクが閉じます。

6. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、該当するアクションボタンをクリックするか、**[その他のアクション]** をクリックして次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、**[再割り当て]** をクリックし、ユーザーを選択して、[コメント] ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**[タスクの詳細]** をクリックし、ユーザーを **[割り当て担当者]** リストから選択します。
引き受け解除	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**[引き受け解除]** をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。同じロールを持つ誰かがタスクに対してアクションを実行する必要があります。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**[解放]** ボタンを使用します。
解放	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**[解放]** をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。 **注**: 解放アクションは、タスク管理アクションです。複数のタスクを解放するには、**[選択済み]** リストから **[解放]** を選択します。

タスクは開いたままですが、拒否したユーザーに割り当てられなくなります。

7. 確認のメッセージが表示された場合は、コメントや添付ファイルを追加して、追加情報を提供します。

   注: コメントや添付ファイルの追加を求められたり、確認のメッセージが表示されたりするかどうかは、Data Director の設定によって決まります。必須フィールドには赤い線が表示されます。

関連項目：

- 「タスクの引き受け」 (ページ 174)
- 「タスクマネージャ」 (ページ 165)

新しいレコードの確認

新しいレコードを確認するためのタスクを開いたら、レコード内のすべてのフィールド値を検証する必要があります。複数の手順がある段階的な確認プロセスを実行する場合、各レビュアは、担当フィールドのみを検証します。

MDM Hub ストアでは、新しいレコードが承認されるまで、親レコードと子レコードは保留状態になっています。

1. **［ホーム］**ページのタスクインボックスで、新しいレコードを確認するための要求であるタスクをクリックします。

   タスクマネージャの確認パネルにレコードが表示されます。

   注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。

2. 必要に応じて、タスクの詳細、コメント、添付ファイルを確認します。

   a. **［コメント］**タブをクリックして、コメントを確認します。

   b. **［タスクの詳細］**をクリックします。

   c. 優先度や期限など、タスクの詳細を確認します。

   d. **［ファイル添付］**セクションで添付ファイルをダウンロードします。

   e. **［キャンセル］**をクリックします。

3. レコードの値がビジネス要件を満たすかどうかを確認します。

   注: 次の手順は、タスクを解決するための十分な情報があるかどうか、または他のユーザーからの評価が必要であると考えているかどうかによって決まります。

4. タスクを解決するには、該当するアクションボタンをクリックするか、**［その他のアクション］**をクリックして次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
承認	レコードが許容可能であると考えられ、レコードの承認がタスクタイプで許可されている場合は、**［承認］**をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する［最終確認］ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
エスカレーション	レコードが許容可能であると考えられても、ワークフローのこの時点での承認がタスクタイプで許可されていない場合は、**［エスカレーション］**をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する［確認不承認］ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
拒否	1 つまたは複数の値に同意しない場合、**［拒否］**をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、レコードを追加したユーザーに通知を送信します。 **注**: ソースシステムで拒否されたレコードが更新された場合、そのレコードは再び承認プロセスに送られます。
<その他>	メニューに他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、ビジネスプロセスの作成者に問い合わせてください。

タスクが閉じます。

5. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、該当するアクションボタンをクリックするか、**［その他のアクション］**をクリックして次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、**［再割り当て］**をクリックし、ユーザーを選択して、［コメント］ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**［タスクの詳細］**をクリックし、ユーザーを**［割り当て担当者］**リストから選択します。
引き受け解除	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**［引き受け解除］**をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。同じロールを持つ誰かがタスクに対してアクションを実行する必要があります。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**［解放］**ボタンを使用します。
解放	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**［解放］**をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。 **注**: 解放アクションは、タスク管理アクションです。複数のタスクを解放するには、**［選択済み］**リストから**［解放］**を選択します。

タスクは開いたままですが、拒否したユーザーに割り当てられなくなります。

6. 確認のメッセージが表示された場合は、コメントや添付ファイルを追加して、追加情報を提供します。

   注: コメントや添付ファイルの追加を求められたり、確認のメッセージが表示されたりするかどうかは、Data Director の設定によって決まります。必須フィールドには赤い線が表示されます。

関連項目：

- 「タスクの引き受け」 (ページ 174)
- 「タスクマネージャ」 (ページ 165)

マージタスクの確認

マージタスクを確認するためのタスクを開くと、プライマリレコードが、マージ用に選択されたレコードの横に表示されます。

1. **［ホーム］**ページのタスクインボックスで、マージプロポーザルを確認するための要求であるタスクをクリックします。

   タスクマネージャの確認パネルにレコードが表示されます。

   注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。

2. 必要に応じて、タスクの詳細、コメント、添付ファイルを確認します。
   a. **［コメント］**タブをクリックして、コメントを確認します。
   b. **［タスクの詳細］**をクリックします。
   c. 優先度や期限など、タスクの詳細を確認します。
   d. **［ファイル添付］**セクションで添付ファイルをダウンロードします。
   e. **［キャンセル］**をクリックします。

3. マージのプレビューを確認し、マージが有効かどうかを判断します。マージのプレビューに表示されたフィールドは強調表示されています。

注: 次の手順は、タスクを解決するための十分な情報を持っているかどうか、または他のユーザーからの評価が必要と思われるかどうかによって決まります。

4. 必要に応じて、提案されたマージタスクに変更を加えます。

   a. 提案されたマージタスクを変更するには、次のタスクのいずれかを実行します。

タスク	手順
マージするレコードを追加します。	**[候補を追加]** をクリックします。レコードを検索して、ビューにレコードを追加できます。
マージしないレコードを削除します。	**[アクション]** メニューから、オプションを選択します。 - **[候補を削除]**。手動で追加されたレコードを、確認パネルから削除します。 - **[一致しない]**。システムで一致したレコードを確認パネルから削除して、ターゲットレコードの一致から分離します。
ベストバージョンオブトゥルースを完成させます。	正しい値を含むフィールドを選択するか、または **[マージのプレビュー]** カラムに正しい値を入力します。

   b. **[更新]** をクリックします。

      マージタスクが更新されました。

5. タスクを解決するには、以下のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
マージ	マージプロポーザルに同意し、変更の承認がタスクタイプで許可されている場合は、**[マージ]** をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する [マージ] ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセス内の次のアクティビティを実行します。
キャンセル	マージプロポーザルに同意しない場合は、**[キャンセル]** をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、マージを提案したユーザーに通知を送信します。
<その他>	メニューに他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、ビジネスプロセスの作成者に問い合わせてください。

タスクが閉じます。

6. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、該当するアクションボタンをクリックするか、**［その他のアクション］**をクリックして次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、**［再割り当て］**をクリックし、ユーザーを選択して、［コメント］ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**［タスクの詳細］**をクリックし、ユーザーを**［割り当て担当者］**リストから選択します。
引き受け解除	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**［引き受け解除］**をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。同じロールを持つ誰かがタスクに対してアクションを実行する必要があります。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**［解放］**ボタンを使用します。
解放	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**［解放］**をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。 **注**: 解放アクションは、タスク管理アクションです。複数のタスクを解放するには、**［選択済み］**リストから**［解放］**を選択します。

タスクは開いたままですが、拒否したユーザーに割り当てられなくなります。

7. 確認のメッセージが表示された場合は、コメントや添付ファイルを追加して、追加情報を提供します。

   注: コメントや添付ファイルの追加を求められたり、確認のメッセージが表示されたりするかどうかは、Data Director の設定によって決まります。必須フィールドには赤い線が表示されます。

関連項目：

- 「タスクの引き受け」 (ページ 174)
- 「タスクマネージャ」 (ページ 165)
- 「重複レコードの解決」 (ページ 84)

マージ解除タスクの確認

マージ解除タスクを確認するためのタスクを開くと、プレビューにマージ解除の結果が表示されます。

1. **［ホーム］**ページのタスクインボックスで、マージ解除プロポーザルを確認するための要求であるタスクをクリックします。

   レコードのマージ解除のプレビューが、タスクマネージャの確認パネルに表示されます。

   注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。

2. 必要に応じて、タスクの詳細、コメント、添付ファイルを確認します。
   a. **［コメント］**タブをクリックして、コメントを確認します。
   b. **［タスクの詳細］**をクリックします。
   c. 優先度や期限など、タスクの詳細を確認します。
   d. **［ファイル添付］**セクションで添付ファイルをダウンロードします。
   e. **［キャンセル］**をクリックします。
3. マージ解除のプレビューを確認し、マージ解除が正当であるかどうかを確認します。プレビューに表示されるフィールドは強調表示されています。

注: 次の手順は、タスクを解決するための十分な情報を持っているかどうか、または他のユーザーからの評価が必要と思われるかどうかによって決まります。

4. タスクを解決するには、該当するアクションボタンをクリックするか、**[その他のアクション]** をクリックして次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
マージ解除	マージ解除プロポーザルに同意し、変更の承認がタスクタイプで許可されている場合は、**[マージ解除]** をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する [マージ解除] ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
キャンセル	マージ解除プロポーザルに同意しない場合は、**[キャンセル]** をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、マージ解除を提案したユーザーに通知を送信します。
<その他>	メニューに他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、ビジネスプロセスの作成者に問い合わせてください。

タスクが閉じます。

5. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、該当するアクションボタンをクリックするか、**[その他のアクション]** をクリックして次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、**[再割り当て]** をクリックし、ユーザーを選択して、[コメント] ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**[タスクの詳細]** をクリックし、ユーザーを **[割り当て担当者]** リストから選択します。
引き受け解除	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**[引き受け解除]** をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。同じロールを持つ誰かがタスクに対してアクションを実行する必要があります。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**[解放]** ボタンを使用します。
解放	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**[解放]** をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。 **注**: 解放アクションは、タスク管理アクションです。複数のタスクを解放するには、**[選択済み]** リストから **[解放]** を選択します。

タスクは開いたままですが、拒否したユーザーに割り当てられなくなります。

6. 確認のメッセージが表示された場合は、コメントや添付ファイルを追加して、追加情報を提供します。

   注: コメントや添付ファイルの追加を求められたり、確認のメッセージが表示されたりするかどうかは、Data Director の設定によって決まります。必須フィールドには赤い線が表示されます。

関連項目：

- 「タスクの引き受け」 (ページ 174)
- 「タスクマネージャ」 (ページ 165)

階層タスクの確認

承認および却下する変更をマークして、提案された階層への変更を確認し、タスクアクションを実行します。

1. タスクマネージャで、編集された階層を確認するための要求であるタスクを選択します。

   タスクマネージャの確認パネルにレコードが表示されます。

   注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。

2. 必要に応じて、タスクの詳細、コメント、添付ファイルを確認します。
   a. ［**コメント**］タブをクリックして、コメントを確認します。
   b. ［**タスクの詳細**］をクリックします。
   c. 優先度や期限など、タスクの詳細を確認します。
   d. ［**ファイル添付**］セクションで添付ファイルをダウンロードします。
   e. ［**キャンセル**］をクリックします。
3. 階層の変更を確認します。
4. 提案された変更を承認または却下するには、変更の横にある適切なアイコンをクリックします。

オプション	説明
承認アイコン	提案された階層への変更を承認します。
却下アイコン	提案された階層への変更を却下します。

   デフォルトでは、すべての変更が承認済みとしてマークされます。

5. タスクを解決するには、該当するアクションボタンをクリックするか、［**その他のアクション**］をクリックして次のいずれかのアクションを選択します。

オプション	説明
承認	承認および却下された提案された変更が許容可能と思われる場合は、［**承認**］をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連するユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
キャンセル	提案された変更が不要になったと思われる場合は、［**キャンセル**］をクリックします。ActiveVOS サーバーはタスクを閉じます。
却下	提案された変更をさらに確認するために送り返す場合は、［**却下**］をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連するユーザーアクティビティを完了としてマークし、タスクを要求者に送り返します。タスクには、承認および却下としてマークした提案された変更が表示されます。
解放	未割り当てタスクのプールにタスクを戻すには、［**解放**］をクリックし、［**コメント**］ボックスに説明を入力します。同じロールを持つ誰かがタスクに対してアクションを実行する必要があります。

却下された階層タスクの確認

却下された階層タスクで承認および却下としてマークされた提案された変更を確認します。

1. タスクマネージャで、編集された階層を確認するための要求であるタスクを選択します。

タスクマネージャの確認パネルにレコードが表示されます。

注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。

2. 必要に応じて、タスクの詳細、コメント、添付ファイルを確認します。
   a. ［**コメント**］タブをクリックして、コメントを確認します。
   b. ［**タスクの詳細**］をクリックします。
   c. 優先度や期限など、タスクの詳細を確認します。
   d. ［**ファイル添付**］セクションで添付ファイルをダウンロードします。
   e. ［**キャンセル**］をクリックします。
3. 階層で承認および却下としてマークされた変更を確認します。
4. タスクを解決するには、以下のいずれかのアクションを実行します。

オプション	説明
送信	提案された変更が許容可能と思われる場合は、［**送信**］をクリックします。
キャンセル	提案された変更が不要になったと思われる場合は、［**キャンセル**］をクリックします。ActiveVOS サーバーはタスクを閉じます。
開く	提案された変更を変更する場合は、［**開く**］をクリックします。階層の変更を提案し、確認のために変更を送信します。

タスクの作業の整理

多数のタスクがある場合は、タスクリストのソートとフィルタリング、タスクプロパティの変更、他のユーザーへのタスクの割り当てを行って、タスクを整理できます。

例えば、優先度が最も高いタスクや、期限が最も迫っているタスクの作業しなければならない場合があります。タスクリストをフィルタすると、優先度を高くする必要があるタスクや、延期可能なタスクを見つけることができます。ビジネス内部の緊急性をより適切に反映するようにタスクプロパティを編集し、タスクを解決することができます。また、タスクをマネージャに割り当てる権限がある場合は、タスクプロパティでタスクをマネージャに割り当てることができます。

関連項目：

- 「タスクマネージャ」 (ページ 165)

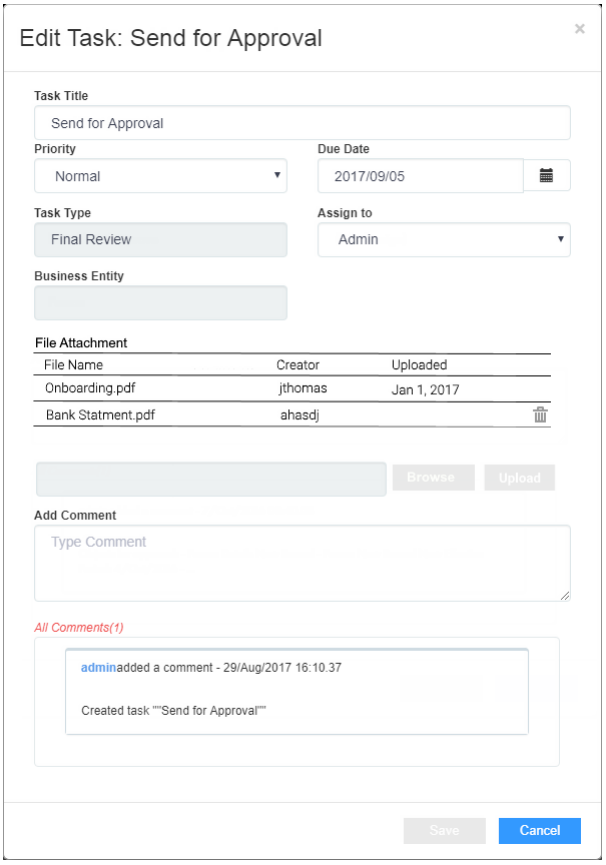
タスクの編集

タスクを操作中に、一部のタスクプロパティの変更が必要になることがあります。例えば、重要なクライアントのレコードが変更された場合、確認タスクの優先度を上げることができます。または、休暇を予定していて、その前に一連のタスクを完了させたい場合、不在になる前の日付にタスクの期限を変更することもできます。

1. ［**タスクマネージャ**］をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。
2. タスクパネルで、編集するタスクをクリックします。
3. 確認パネルで、［**タスクの詳細**］をクリックします。

次の図は、［**タスクの詳細**］ダイアログボックスを示しています。



4. 次のフィールドを 1 つ以上編集して、タスクのプロパティを変更します。

フィールド	説明
タスクのタイトル	意味のあるタイトルを入力します。タイトルには、少なくともレコード名と、確認の起因となった変更を含めることをお勧めします。
優先度	この変更を解決するための事業内の緊急度を反映した優先度を選択します。
期限	変更を解決するための事業内の緊急度を反映した期限を選択します。
割り当て担当者	このタスクを他の誰かに再割り当てします。
ファイル添付	ファイルを添付して、タスクに関して追加の情報を提供します。添付ファイルは、［**タスクの詳細**］ダイアログボックスに表示されます。 **注**: ［**ファイル添付**］フィールドは、タスクで添付ファイルがサポートされる場合にのみ使用可能になります。
コメントの追加	タスクプロパティの編集を説明し、タスクに関する質問および回答を追跡するコメントを追加します。コメントは、［**コメント**］タブに表示されます。

フィールド	説明
プールに戻って割り当てる	未割り当てタスクのプールにタスクを戻して、他のユーザーがタスクを引き受けられるようにします。 **注**: **［プールに戻って割り当てる］**ボタンは、タスクが別のユーザーに属している場合にのみ利用可能になります。

5. **［保存］**をクリックします。

タスクの別のユーザーへの割り当て

［割り当て担当者］リストが**［タスクの編集］**ダイアログボックスで有効になっている場合は、タスクを再割り当てすることができます。

注: 再割り当てを有効にする場合は、MDM 管理者に問い合わせます。MDM 管理者は、再割り当てをサポートするビジネスプロセス管理（BPM）アダプタを実装する必要があります。

1. **［タスクマネージャ］**をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。
2. **［自分に割り当てられたタスク］**を選択します。

   タスクパネルに割り当てられたタスクがリストされます。
3. タスクパネルで、別のユーザーに割り当てるタスクを選択します。

   確認パネルにレコードが表示されます。
4. タスクについて追加情報を指定するには、**［タスクの詳細］**をクリックし、コメントまたは添付ファイルを追加します。

   注: コメントや添付ファイルのオプションがない場合は、MDM 管理者に連絡して、コメントと添付ファイルを有効にするように依頼します。
5. タスクを割り当てるには、**［割り当て担当者］**リストからユーザーを選択します。
6. **［保存］**をクリックします。

タスクの割り当てをプールに戻す

ユーザーグループのユーザーがタスクを実行できない場合に、そのユーザーのタスクを、割り当てられていないタスクのプールに送信して、他のユーザーがそれらを引き受けられるようにできます。タスクの割り当てをプールに戻すオプションは、タスクが別のユーザーに属している場合にのみ利用可能になります。

1. **［タスクマネージャ］**をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。
2. タスクパネルで、プールに送信するタスクを選択します。

   確認パネルにレコードが表示されます。
3. 確認パネルで、**［タスクの詳細］**をクリックします。
4. **［プールに戻って割り当てる］**をクリックします。

タスクの引き受け解除

他の誰かが処理した方が良いタスクを引き受けているまたは割り当てられている場合、このタスクの引き受けを解除できます。引き受けが解除されたタスクは未割り当てタスクのプールに返されます。

1. ［**タスクマネージャ**］をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。

2. タスクパネルで、引き受けを解除する割り当てられたタスクをクリックします。

   確認パネルにレコードが表示されます。

3. 確認パネルで、［**その他のアクション**］ > ［**否認**］をクリックします。

4. 確認のメッセージが表示された場合は、コメントや添付ファイルを追加して、追加情報を提供します。

   注: コメントや添付ファイルの追加を求められたり、確認のメッセージが表示されたりするかどうかは、Data Director の設定によって決まります。必須フィールドには赤い線が表示されます。

第 24 章

タスクの管理

この章では、以下の項目について説明します。

- タスクの管理の概要, 187 ページ
- タスクの引き受け, 188 ページ
- タスクの解決, 189 ページ
- タスクの作業の整理, 196 ページ

タスクの管理の概要

タスクの管理アクションを実行することで、ビジネスエンティティレコードに関連するタスクを管理できます。タスクを引き受け、割り当て、解放または編集できます。または、受け入れ、拒否または引き受け解除などのタスクでのアクションを行うことができます。例えば、休暇中のユーザーにより引き受けられたタスクを解放する必要や、John Smith のレコードに関連しているタスクの優先度を編集する必要がある場合があります。

実行できるタスク管理アクションは、ロールおよびタスク定義により異なります。タスク管理者ロールに割り当てられたユーザーは、すべてのタスクを管理でき、その他のユーザーはユーザーロールで使用可能なタスクのみを管理できます。

複数のロールに割り当てられている場合、より多くのタスク管理アクションを実行できる可能性があります。例えば、データスチュワードロールとタスク管理者ロールに割り当てられている場合です。データスチュワードで使用可能なタスクを管理でき、タスク管理者としてすべてのタスクを管理することもできます。

次の表に、ユーザーロールで使用可能なタスク管理アクションの一覧を示します:

ユーザーロール	タスク管理アクション
タスク管理者	ユーザーは次のタスク管理アクションを、すべてのタスクで実行できます: - 割り当て - 解放 - 編集
その他のユーザーロール	ユーザーは次のタスク管理アクションを、自分のユーザーロールで使用可能なタスクで実行できます: - 引き受け ユーザーは次のタスク管理アクションを、タスクに割り当てられているかどうかに基づいてタスクで実行できます: - 解放 - 編集 - 受け入れ、拒否または引き受け解除などのタスクアクション **注**: 使用可能なタスクアクションは、選択したタスクおよび ActiveVOS ワークフローにより異なります。

注: 自分と自分以外の同僚が異なるユーザーロール、タスク定義、ワークフロートリガ、または ActiveVOS ワークフローを必要とする場合は、MDM 管理者に連絡してください。MDM 管理者は設定を変更できます。

タスクの引き受け

作業するタスクを引き受けます。このようにすることで、自分の作業中に他のユーザーが同じタスクで作業できないようにします。

1. **［タスクマネージャ］** をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。

2. **［使用可能なタスク］** をクリックします。

   タスクパネルに、ユーザーグループの割り当てを解除したすべてのタスクが一覧表示されます。

3. オプションで、管理するタスクを検索するには、カスタムフィルタまたは検索を使用します。

   - **［フィルタ］** アイコンをクリックしてからフィルタを追加します。
   - 検索ボックスに検索語を入力してから検索アイコンをクリックします。

   詳細については、「タスクの検索」 (ページ 171)を参照してください。

4. タスクを選択し、タスクの詳細、コメントおよび添付ファイルを確認します。

   a. **［コメント］** タブをクリックして、コメントを確認します。

   b. **［タスクの詳細］** をクリックします。

   c. 優先度や期限など、タスクの詳細を確認します。

   d. **［ファイル添付］** セクションで添付ファイルをダウンロードします。

   e. **［キャンセル］** をクリックします。

5. 手順 4 を繰り返して、引き受ける追加のタスクを見つけます。

6. 管理するタスクの横のチェックボックスを選択します。

   ［選択済み］ リストが表示されます。

7. ［**選択済み**］リストから、［**引き受け**］を選択します。

タスクパネルが更新されます。タスクが［**自分に割り当てられたタスク**］タブに表示されます。ユーザー名は、タスクの［**所有者**］フィールドに表示されます。

タスクの解決

タスクを確認してアクションを実行することにより、タスクを解決できます。実行できるアクションは、選択したタスクと ActiveVOS ワークフローによって異なります。

複数のタスクを解決する場合、選択したすべてのタスクで共有されるアクションのみを実行できます。実行可能なアクションの数を増やすには、同じタスクタイプのタスクをレビューします。

可能なアクションの詳細については、「潜在的なタスクアクション」 (ページ 171)を参照してください。

編集済みレコードの確認

編集済みレコードを確認し、アクションを実行してタスクを解決します。タスクを解決できない場合は、タスクの引き受けを解除して、タスクを使用可能なタスクのプールに戻します。または、タスクを解決できる別のユーザーが分かっている場合は、そのユーザーにタスクを再割り当てします。

開始する前に、作業するタスクを引き受けます。

編集済みタスクのタスクを確認すると、編集済みの値を含むフィールドがマークされています。

1. ［**タスクマネージャ**］をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。

2. ［**割り当てられたタスク**］をクリックします。

   タスクパネルに割り当てられたタスクがリストされます。

3. オプションで、管理するタスクを検索するには、カスタムフィルタまたは検索を使用します。
   - ［**フィルタ**］アイコンをクリックしてからフィルタを追加します。
   - 検索ボックスに検索語を入力してから検索アイコンをクリックします。

   詳細については、「タスクの検索」 (ページ 171)を参照してください。

4. タスクを選択し、確認パネルで編集済みレコードを確認します。
   a. 強調表示されたフィールドを探し、編集内容が有効かどうかを判断します。
   b. 誤植や誤った値が見つかり、正しい値を知っている場合は、［**編集**］をクリックしてフィールドを編集します。
5. 確認する編集済みのレコードごとに手順 4 を繰り返します。
6. アクションを実行するタスクの横にあるチェックボックスを選択します。
   例えば、承認する編集を含むタスクの横にあるチェックボックスを選択します。

   ［**選択済み**］リストが表示されます。

7. ［**選択済み**］リストから、［**その他のアクション...**］を クリックします。

   ［**その他のアクション...**］ダイアログボックスが表示されます。

8. タスクを解決するには、以下のいずれかのアクションを選択します。

オプション	説明
承認	編集内容に同意し、変更の承認がタスクタイプで許可されている場合、**[承認]** をクリックします。ActiveVOS(R)サーバーは、関連する最終確認ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
エスカレーション	編集内容に同意しても、ワークフローのこの時点での承認がタスクタイプで許可されていない場合、**[エスカレーション]** をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する［確認不承認］ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
拒否	編集内容に同意しても、ワークフローのこの時点での承認がタスクタイプで許可されていない場合、**[エスカレーション]** をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する［確認不承認］ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
<その他>	他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、MDM 管理者に連絡してください。

タスクは

注: すべてのタスクによって共有される潜在的なタスクアクションのみが表示されます。詳細については、「潜在的なタスクアクション」 (ページ 171)を参照してください。

閉じています。

9. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、**[再割り当て]** をクリックし、ユーザーを選択して、［コメント］ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**[その他のアクション...]** ダイアログボックスを閉じます。**[その他のアクション...]** から **[編集]** を選択し、**[割り当て担当者]** リストからユーザーを選択します。
引き受け解除	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**[引き受け解除]** をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。同じロールを持つユーザーがタスクに対してアクションを実行できます。

注: すべてのタスクによって共有される潜在的なタスクアクションのみが表示されます。詳細については、「潜在的なタスクアクション」 (ページ 171)を参照してください。

タスクは開いたままですが、自分には割り当てられていません。

10. 確認のメッセージが表示された場合は、コメントや添付ファイルを追加して、追加情報を提供します。

注: コメントや添付ファイルの追加を求められたり、確認のメッセージが表示されたりするかどうかは、Data Director の設定によって決まります。必須フィールドには赤い線が表示されます。

タスクパネルが更新されます。変更により、タスクによってはタスクパネルに表示されなくなるものもあります。

新しいレコードの確認

新しいレコードを確認し、アクションを実行してタスクを解決します。タスクを解決できない場合は、タスクの引き受けを解除して、タスクを使用可能なタスクのプールに戻します。または、タスクを解決できる別のユーザーが分かっている場合は、そのユーザーにタスクを再割り当てします。

開始する前に、作業するタスクを引き受けます。

新しいレコードのタスクを確認する場合、新しいレコード内のすべてのフィールド値を検証する必要があります。

1. **［タスクマネージャ］**をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。

2. **［割り当てられたタスク］**をクリックします。

   タスクパネルに割り当てられたタスクがリストされます。

3. オプションで、管理するタスクを検索するには、カスタムフィルタまたは検索を使用します。

   - **［フィルタ］**アイコンをクリックしてからフィルタを追加します。
   - 検索ボックスに検索語を入力してから検索アイコンをクリックします。

   詳細については、「タスクの検索」 (ページ 171)を参照してください。

4. タスクを選択し、レコードの値がビジネス要件を満たすかどうかを確認します。
5. 確認する新しいレコードごとに手順 4 を繰り返します。
6. アクションを実行するタスクの横にあるチェックボックスを選択します。
   例えば、承認する新しいレコードのタスクの横にあるチェックボックスを選択します。

   ［選択済み］リストが表示されます。

7. **［選択済み］**リストから、**［その他のアクション...］を**クリックします。

   ［その他のアクション...］ダイアログボックスが表示されます。

8. タスクを解決するには、以下のいずれかのアクションを選択します。

   注: すべてのタスクによって共有される潜在的なタスクアクションのみが表示されます。詳細については、「潜在的なタスクアクション」 (ページ 171)を参照してください。

オプション	説明
承認	レコードが許容可能であると考えられ、レコードの承認がタスクタイプで許可されている場合は、**［承認］**をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する［最終確認］ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
エスカレーション	レコードが許容可能であると考えられても、ワークフローのこの時点での承認がタスクタイプで許可されていない場合は、**［エスカレーション］**をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する［確認不承認］ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
拒否	レコード内の 1 つまたは複数の値に同意しない場合、**［拒否］**をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、レコードを追加したユーザーに通知を送信します。 **注**: ソースシステムで拒否されたレコードが更新された場合、そのレコードは再び承認プロセスに送られます。

オプション	説明
<その他>	他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、MDM 管理者に連絡してください。

タスクは閉じています。

9. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、**[再割り当て]** をクリックし、ユーザーを選択して、[コメント] ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**[その他のアクション...]** ダイアログボックスを閉じます。**[その他のアクション...]** から **[編集]** を選択し、**[割り当て担当者]** リストからユーザーを選択します。
引き受け解除	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**[引き受け解除]** をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。同じロールを持つユーザーがタスクに対してアクションを実行できます。

注: すべてのタスクによって共有される潜在的なタスクアクションのみが表示されます。詳細については、「潜在的なタスクアクション」 (ページ 171)を参照してください。

タスクは開いたままですが、自分には割り当てられていません。

10. 確認のメッセージが表示された場合は、コメントや添付ファイルを追加して、追加情報を提供します。

    注: コメントや添付ファイルの追加を求められたり、確認のメッセージが表示されたりするかどうかは、Data Director の設定によって決まります。必須フィールドには赤い線が表示されます。

タスクパネルが更新されます。変更により、タスクによってはタスクパネルに表示されなくなるものもあります。

マージタスクの確認

マージタスクを確認し、アクションを実行してタスクを解決します。タスクを解決できない場合は、タスクの引き受けを解除して、タスクを使用可能なタスクのプールに戻します。または、タスクを解決できる別のユーザーが分かっている場合は、そのユーザーにタスクを再割り当てします。

開始する前に、作業するタスクを引き受けます。

マージタスクを確認すると、プライマリレコードが、マージ用に選択されたレコードの横に表示されます。

1. **[タスクマネージャ]** をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。

2. **[割り当てられたタスク]** をクリックします。

   タスクパネルに割り当てられたタスクがリストされます。

3. オプションで、管理するタスクを検索するには、カスタムフィルタまたは検索を使用します。

   - **[フィルタ]** アイコンをクリックしてからフィルタを追加します。

- 検索ボックスに検索語を入力してから検索アイコンをクリックします。

詳細については、「タスクの検索」 (ページ 171)を参照してください。

4. マージタスクを選択し、マージタスクを確認して、マージが有効かどうかを判断します。マージのプレビューに表示されたフィールドは強調表示されています。
5. 必要に応じて、提案されたマージタスクに変更を加えます。
   a. 提案されたマージタスクを変更するには、次のタスクのいずれかを実行します。

タスク	手順
マージするレコードを追加します。	**[候補を追加]** をクリックします。レコードを検索して、ビューにレコードを追加できます。
マージしないレコードを削除します。	**[アクション]** メニューから、オプションを選択します。 - **[候補を削除]**。手動で追加されたレコードを、確認パネルから削除します。 - **[一致しない]**。システムで一致したレコードを確認パネルから削除して、ターゲットレコードの一致から分離します。
ベストバージョンオブトゥルースを完成させます。	正しい値を含むフィールドを選択するか、または **[マージのプレビュー]** カラムに正しい値を入力します。

   b. **[更新]** をクリックします。

      マージタスクが更新されました。

6. 確認するマージタスクごとに手順 4 から 5 を繰り返します。
7. アクションを実行するタスクの横にあるチェックボックスを選択します。
   例えば、承認するマージタスクの横にあるチェックボックスを選択します。

   [選択済み] リストが表示されます。
8. **[選択済み]** リストから、**[その他のアクション...]** をクリックします。

   [その他のアクション...] ダイアログボックスが表示されます。
9. タスクを解決するには、以下のいずれかのアクションを選択します。

   注: すべてのタスクによって共有される潜在的なタスクアクションのみが表示されます。詳細については、「潜在的なタスクアクション」 (ページ 171)を参照してください。

オプション	説明
マージ	マージプロポーザルに同意し、変更の承認がタスクタイプで許可されている場合は、**[マージ]** をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する [マージ] ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセス内の次のアクティビティを実行します。
キャンセル	マージプロポーザルに同意しない場合は、**[キャンセル]** をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、マージを提案したユーザーに通知を送信します。
<その他>	他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、MDM 管理者に連絡してください。

タスクは閉じています。

10. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、**［再割り当て］** をクリックし、ユーザーを選択して、［コメント］ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**［その他のアクション...］** ダイアログボックスを閉じます。**［その他のアクション...］** から **［編集］** を選択し、**［割り当て担当者］** リストからユーザーを選択します。
引き受け解除	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**［引き受け解除］** をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。同じロールを持つユーザーがタスクに対してアクションを実行できます。

注: すべてのタスクによって共有される潜在的なタスクアクションのみが表示されます。詳細については、「潜在的なタスクアクション」 (ページ 171)を参照してください。

タスクは開いたままですが、自分には割り当てられていません。

11. 確認のメッセージが表示された場合は、コメントや添付ファイルを追加して、追加情報を提供します。

    注: コメントや添付ファイルの追加を求められたり、確認のメッセージが表示されたりするかどうかは、Data Director の設定によって決まります。必須フィールドには赤い線が表示されます。

タスクパネルが更新されます。変更により、タスクによってはタスクパネルに表示されなくなるものもあります。

マージ解除タスクの確認

マージ解除タスクを確認し、アクションを実行してタスクを解決します。タスクを解決できない場合は、タスクの引き受けを解除して、タスクを使用可能なタスクのプールに戻します。または、タスクを解決できる別のユーザーが分かっている場合は、そのユーザーにタスクを再割り当てします。

開始する前に、作業するタスクを引き受けます。

マージ解除タスクを確認すると、プレビューにマージ解除の結果が表示されます。

1. **［タスクマネージャ］** をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。

2. **［割り当てられたタスク］** をクリックします。

   タスクパネルに割り当てられたタスクがリストされます。

3. オプションで、管理するタスクを検索するには、カスタムフィルタまたは検索を使用します。

   - **［フィルタ］** アイコンをクリックしてからフィルタを追加します。
   - 検索ボックスに検索語を入力してから検索アイコンをクリックします。

   詳細については、「タスクの検索」 (ページ 171)を参照してください。

4. マージ解除タスクを選択し、マージ解除のプレビューを確認して、マージ解除が正当かどうかを判断します。プレビューに表示されるフィールドは強調表示されています。

5. 確認するマージ解除タスクごとに手順 4 を繰り返します。

6. アクションを実行するタスクの横にあるチェックボックスを選択します。
   例えば、承認するマージ解除タスクの横にあるチェックボックスを選択します。

   ［選択済み］ リストが表示されます。

7. **［選択済み］**リストから、**［その他のアクション...］を**クリックします。

   ［その他のアクション...］ダイアログボックスが表示されます。

8. タスクを解決するには、以下のいずれかのアクションを選択します。

   注: すべてのタスクによって共有される潜在的なタスクアクションのみが表示されます。詳細については、「潜在的なタスクアクション」 (ページ 171)を参照してください。

オプション	説明
マージ解除	マージ解除プロポーザルに同意し、変更の承認がタスクタイプで許可されている場合は、**［マージ解除］**をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する［マージ解除］ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
キャンセル	マージ解除プロポーザルに同意しない場合は、**［キャンセル］**をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、マージ解除を提案したユーザーに通知を送信します。
<その他>	他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、MDM 管理者に連絡してください。

   タスクは閉じています。

9. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、次のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、**［再割り当て］**をクリックし、ユーザーを選択して、［コメント］ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 **注**: このオプションが使用できない場合は、**［その他のアクション**...**］**ダイアログボックスを閉じます。**［その他のアクション**...**］**から**［編集］**を選択し、**［割り当て担当者］**リストからユーザーを選択します。
引き受け解除	使用可能なタスクのプールにタスクを戻すには、**［引き受け解除］**をクリックし、［コメント］ボックスに説明を入力します。同じロールを持つユーザーがタスクに対してアクションを実行できます。

   注: すべてのタスクによって共有される潜在的なタスクアクションのみが表示されます。詳細については、「潜在的なタスクアクション」 (ページ 171)を参照してください。

   タスクは開いたままですが、自分には割り当てられていません。

10. 確認のメッセージが表示された場合は、コメントや添付ファイルを追加して、追加情報を提供します。

    注: コメントや添付ファイルの追加を求められたり、確認のメッセージが表示されたりするかどうかは、Data Director の設定によって決まります。必須フィールドには赤い線が表示されます。

タスクパネルが更新されます。変更により、タスクによってはタスクパネルに表示されなくなるものもあります。

タスクの作業の整理

ユーザーにタスクを割り当てたり、他のユーザーにタスクを再割り当てしたり、使用可能なタスクのプールにタスクを解放したりして、タスクを整理できます。また、タスクのタイトル、期日、優先度、コメント、添付ファイルなど、タスクの詳細を編集することもできます。

例えば、休暇中のユーザーに割り当てられているタスクを別のユーザーに再割り当てすることができます。または、John Smith に関連するタスクの優先度を高い優先度に変更することもできます。

タスクの割り当て

タスクで作業できるユーザーにタスクを割り当てます。例えば、John Smith というレコードに関連するタスクを、そのレコードに関する知識のあるユーザーに割り当てることができます。

1. **［タスクマネージャ］**をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。
2. **［使用可能なタスク］**をクリックします。

   タスクパネルに、ユーザーグループの割り当てを解除したすべてのタスクが一覧表示されます。
3. オプションで、管理するタスクを検索するには、カスタムフィルタまたは検索を使用します。
   - **［フィルタ］**アイコンをクリックしてからフィルタを追加します。
   - 検索ボックスに検索語を入力してから検索アイコンをクリックします。

   詳細については、「タスクの検索」 (ページ 171)を参照してください。
4. 管理するタスクの横のチェックボックスを選択します。

   ［選択済み］リストが表示されます。
5. **［選択済み］**リストから、**［割り当て］**を選択します。

   ［割り当て］ダイアログボックスが表示されます。
6. **［割り当て担当者］**リストから、タスクを割り当てるユーザーを選択します。

   注: ［割り当て担当者］リストには、すべての選択されたタスクで共有される潜在的な所有者が含まれます。詳細については、「潜在的な所有者」 (ページ 170)を参照してください。
7. オプションでコメントを追加します。
8. **［割り当て］**をクリックします。

タスクパネルが更新されます。タスクは割り当てられたユーザーの**［開いているタスク］**タブに表示されます。割り当て担当者のユーザー名は、タスクの**［所有者］**フィールドに表示されます。

タスクの再割り当て

タスクで作業できる他のユーザーにタスクを再割り当てします。タスク管理者であれば、タスクで作業できないユーザーが引き受けたタスクを再割り当てできます。タスクの潜在的な所有者であるユーザーにのみタスクを再割り当てできます。

1. **［タスクマネージャ］**をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。
2. 自分の割り当てられたタスクを再割り当てするには、**［割り当てられたタスク］**をクリックします。

   タスクパネルに、自分の割り当てられたすべてのタスクが一覧表示されます。
3. 割り当てられたタスクを再割り当てするには、**［すべての割り当てられたタスク］**をクリックします。

タスクパネルに、割り当てられたすべてのタスクが一覧表示されます。

4. オプションで、管理するタスクを検索するには、カスタムフィルタまたは検索を使用します。
   - **［フィルタ］** アイコンをクリックしてからフィルタを追加します。
   - 検索ボックスに検索語を入力してから検索アイコンをクリックします。

   詳細については、「タスクの検索」 (ページ 171)を参照してください。
5. 管理するタスクの横のチェックボックスを選択します。

   ［選択済み］ リストが表示されます。
6. **［選択済み］** リストから、**［割り当て］** を選択します。

   ［割り当て］ ダイアログボックスが表示されます。
7. **［割り当て担当者］** リストから、タスクを再割り当てするユーザーを選択します。

   注: ［割り当て担当者］ リストには、すべての選択されたタスクで共有される潜在的な所有者が含まれます。詳細については、「潜在的な所有者」 (ページ 170)を参照してください。
8. オプションでコメントを追加します。
9. **［割り当て］** をクリックします。

タスクパネルが更新されます。再割り当てされたタスクは、割り当てられたユーザーの **［開いているタスク］** タブに表示されます。割り当て担当者のユーザー名は、タスクの **［所有者］** フィールドに表示されます。

タスクの解放

他のユーザーがタスクで作業できるように、割り当てられたタスクを使用可能なタスクのプールに解放します。例えば、期限までに完了できないタスクを解放することができます。タスク管理者であれば、休暇中のユーザーに割り当てられたすべてのタスクを解放することができます。

1. **［タスクマネージャ］** をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。
2. 自分のタスクを解放するには、**［割り当てられたタスク］** をクリックします。

   タスクパネルに、自分の割り当てられたすべてのタスクが一覧表示されます。
3. 割り当てられたすべてのタスクを解放するには、**［すべての割り当てられたタスク］** をクリックします。

   タスクパネルに、割り当てられたすべてのタスクが一覧表示されます。
4. オプションで、管理するタスクを検索するには、カスタムフィルタまたは検索を使用します。
   - **［フィルタ］** アイコンをクリックしてからフィルタを追加します。
   - 検索ボックスに検索語を入力してから検索アイコンをクリックします。

   詳細については、「タスクの検索」 (ページ 171)を参照してください。
5. 管理するタスクの横のチェックボックスを選択します。

   ［選択済み］ リストが表示されます。
6. **［選択済み］** リストから **［解放］** を選択します。

   ［解放］ ダイアログボックスが表示されます。
7. オプションでコメントを追加します。
8. **［引き受け］** をクリックします。

タスクパネルが更新されます。タスクの潜在的な所有者であるユーザーの **［使用可能なタスク］** タブにタスクが表示されます。これらのユーザーは、タスクを引き受けて作業できます。

タスクの詳細の編集

優先度を上げる、期限を変更するなどの、タスクの詳細を編集できます。

1. **［タスクマネージャ］**をクリックします。

   タスクパネルには、タスクのリストがあります。

2. 割り当てられたタスクを編集するには、**［自分に割り当てられたタスク］**を選択します。

   タスクパネルに割り当てられたタスクがリストされます。

3. 使用可能なすべてのタスクを編集するには、**［使用可能なすべてのタスク］**を選択します。

   タスクパネルに使用可能なすべてのタスクがリストされます。

4. オプションで、管理するタスクを検索するには、カスタムフィルタまたは検索を使用します。

   - **［フィルタ］**アイコンをクリックしてからフィルタを追加します。
   - 検索ボックスに検索語を入力してから検索アイコンをクリックします。

   詳細については、「タスクの検索」 (ページ 171)を参照してください。

5. **［選択済み］**リストから、**［編集］**を選択します。

   ［編集］ダイアログボックスが表示されます。

6. 次のフィールドを 1 つ以上編集して、選択したタスクのプロパティを変更します。

フィールド	説明
タスクのタイトル	意味のあるタイトルを入力します。タイトルには、少なくともレコード名と、確認の起因となった変更を含めることをお勧めします。
優先度	この変更を解決するための事業内の緊急度を反映した優先度を選択します。
期限	変更を解決するための事業内の緊急度を反映した期限を選択します。
割り当て担当者	このタスクを他の誰かに再割り当てします。 **注**: 選択したすべてのタスクで共有されている潜在的な所有者のみが表示されます。詳細については、「潜在的な所有者」 (ページ 170)を参照してください。
ファイル添付	ファイルを添付して、タスクに関して追加の情報を提供します。添付ファイルは、**［タスクの詳細］**ダイアログボックスに表示されます。 **注**: **［ファイル添付］**フィールドは、タスクで添付ファイルがサポートされる場合にのみ使用可能になります。
コメントの追加	タスクプロパティの編集を説明し、タスクに関する質問および回答を追跡するコメントを追加します。コメントは、**［コメント］**タブに表示されます。

7. **［保存］**をクリックします。

タスクパネルが更新されます。**［タスクの詳細］**ダイアログボックスで、各タスクの編集済みのタスクの詳細を表示できます。変更により、タスクによってはタスクパネルに表示されなくなるものもあります。

第 25 章

確認プロセス参照

この章では、以下の項目について説明します。

- 確認プロセス参照の概要, 199 ページ
- 承認を伴う更新のワークフロー, 200 ページ
- ワンステップ承認のワークフロー, 200 ページ
- ツーステップ承認のワークフロー, 201 ページ
- マージワークフロー, 201 ページ
- マージ解除のワークフロー, 201 ページ

確認プロセス参照の概要

確認プロセスは、自動化されたビジネスプロセスです。ユーザーがレコードの追加、編集、マージ、またはマージ解除を行うと、そのアクションによって確認プロセスが開始されます。確認プロセスにより、ビジネスマネージャまたはデータスチュワードは、データをマスタデータにする前にデータの確認と最終承認を確実に実行することができます。

マスタデータの変更が確認のトリガとなるかどうかは、ユーザーロールによって決まります。例えば、データの追加または編集が許可されるが、変更の承認が許可されていないユーザーロールの場合、編集またはマージしたレコードを保存したときに、そのアクションによって確認プロセスが開始されます。

Multidomain MDM には、以下のデフォルトの確認プロセスが付属します。

- 承認を伴う更新のワークフロー
- ワンステップ承認のワークフロー
- ツーステップ承認のワークフロー
- マージワークフロー
- マージ解除のワークフロー

注: 異なるプロセス名やタスクタイプがタスクインボックスに含まれる場合、組織内の他のユーザーが確認プロセスを変更しているか、カスタムプロセスを作成しています。

以下のセクションで、各確認プロセスの目的を説明し、各プロセス内のユーザーアクティビティを明らかにします。プロセス全体を表示するには、ActiveVOS コンソールでプロセスを開きます。

承認を伴う更新のワークフロー

承認を伴う更新ワークフロープロセスで、データスチュワードは更新をキャンセルするか、二段階承認プロセスをとおして更新を送信する前に、変更エンティティを確認します。

次の表に、プロセスにおけるユーザーアクティビティの概要を示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
更新	データスチュワード	データスチュワードは更新を確認し、更新をキャンセルするか、二段階承認をとおして送信します。
確認不承認	マネージャ	マネージャは更新を確認し、それを却下するか、最終確認のために送信します。
最終確認	SrManager	シニアマネージャは更新を確認し、それを却下または承認します。
通知	データスチュワード	承認された場合、データスチュワードは更新が承認された旨の通知を受け取ります。

ワンステップ承認のワークフロー

一段階承認ワークフローのプロセスでは、1 人のシニアマネージャが更新を確認してから、承認または却下する必要があります。

次の表に、プロセスにおけるユーザーアクティビティの概要を示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
最終確認	SrManager	シニアマネージャが更新を確認し、承認または却下します。
通知	データスチュワード	更新が承認されると、レコードには昇格のフラグが立ち、データスチュワードは通知を受け取ります。
更新	データスチュワード	更新が却下されると、データスチュワードは通知を受け取り、更新をキャンセルできます。

ツーステップ承認のワークフロー

二段階承認ワークフロープロセスでは、少なくとも 2 人のビジネスマネージャが確認と承認のプロセスに参加する必要があります。

次の表に、プロセスにおけるユーザーアクティビティの概要を示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
確認不承認	マネージャ	マネージャが更新を確認し、却下するか、最終確認にエスカレーションします。
最終確認	SrManager	シニアマネージャは更新を確認し、それを承認するか、却下します。
通知	データスチュワード	承認された場合、レコードには昇格のフラグが立ち、データスチュワードは通知を受け取ります。
更新	データスチュワード	却下された場合、データスチュワードは通知を受け取り、更新をキャンセルできます。

マージワークフロー

マージ候補を選択するときに、ActiveVOS サーバーでマージワークフロープロセスを開始するタスクを作成できます。

次の表に、プロセス内におけるユーザーアクティビティを示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
マージ	データスチュワード	データスチュワードは候補を確認し、レコードをマージするか、アクションをキャンセルします。

マージ解除のワークフロー

レコードをマージ解除する場合は、ActiveVOS サーバーでマージ解除ワークフロープロセスを開始するタスクを作成できます。

次の表に、プロセス内におけるユーザーアクティビティを示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
マージ解除	データスチュワード	データスチュワードは候補を確認し、レコードをマージ解除するか、アクションをキャンセルします。

索引

B

BVT
　概要 19

H

Highcharts 29

I

IDD アプリケーション
　概要 17
Informatica Data Director
　概要 17

M

MDM 管理者
　概要 17
merge
　proposal, sending for review 126

U

UI
　言語、変更 22
UI 言語
　変更 26

X

XREF ビュー
　エンティティ、マージ解除 128

あ

アプリケーションヘッダー 24

い

イベント
　前後のデータ、比較 121
インタフェース
　概要 24
　言語、変更 22

え

エンティティ
　コピー 149
　システムカラム、［データ］ビューの 148
　ビジネス 18
　開く、検索結果から 140, 146, 150
　削除 151
エンティティタブ
　［データ］タブ、比較 26

お

オブジェクト
　コンポジット、*参照項目ビジネスエンティティ*
　ベース 18

く

クエリ
　インポート 143
　エクスポート 143
　削除 142
　詳細、表示 142
　タイプ 51
　デフォルトクエリ、設定 142
　名前の変更 142
　　ページ
　　タブ 48
　編集 142
　保存 52, 141
　レコード 46
　ワイルドカードの使用 51
　移行、エクスポート、インポート 57
　概要 46
　拡張 52
　基本 51, 52
　基本または拡張、作成 137
　基本検索でのワイルドカード 136
　既定 52
　共有 52
　検索条件 136
　作成 52
　詳細、作成 139
クエリのブックマーク
　共有 143
グラフ
　概要 29

け

検索フォーム
　保存した検索、実行 141

こ

ゴールデンプロファイル
　概要 19
ゴールデンレコード
　概要 19
コマンド
　［テーブル］ビューに切り替え 148
　［フォーム］ビューに切り替え 148

さ

サインイン 22
サブジェクト領域
　概要 19
サブジェクト領域レコード
　追加、［データ］ビューでの 116

し

システムカラム
　［データ］ビュー、表示 148
シナリオ
　ビジネスエンティティレコードの追加 38, 39
詳細クエリ
　日付形式システムカラム 139
　作成 139
詳細検索 137

す

スタートページ
　検索エンジン 30

そ

ソーシャルメディアの投稿
　概要 30
ソースシステム
　ベストバージョンオブトゥルース 19

た

タイムラインビュー
　データ変更イベントの削除 113
　データ変更イベントの追加 112
　データ変更イベントの表示 111
　概要 110
タスク
　ソート 32
　ビジネスエンティティレコード、確認 175
　フィルタリング 32
　マージタスク、確認 192
　マージプロポーザル、確認 178
　マージ解除タスク、確認 194
　マージ解除プロポーザル、確認 180
　引き受ける 174
　引き受け解除 186
　解決 175, 189
　解放 197
　概要 20, 165
　確認 189, 191
　割り当て 185, 196
タスク *(続く)*
　割り当てをプールに戻す 185
　検索 171
　再割り当て 196
　所有権 174, 185
　所有権、設定 185
　新しいレコード、確認 177
　編集 198
タスク、確認 192, 194
タスクインボックス
　カラム 34
　概要 31
タスクパネル
　概要 168
タスクマネージャ
　概要 165
タブ
　検索 46

て

データ
　編集 149
データインポート
　.xlsx データのインポート 162
　データインポートテンプレート 161
　テンプレートのインポート 162
　概要 160
　有効化 161
データインポートテンプレート 161
データエントリフォーム
　［データ］ビュー、使用 116
　［ビジネスエンティティ］ビュー、使用 39, 41
データソース
　ベストバージョンオブトゥルース 19
データ検証
　［ビジネスエンティティ］ビュー 38
データ変更
　［履歴］ビュー、表示 94
　概要 93, 118
　前後、比較 94, 121

と

ドラフト
　フィルタリング 45
　概要 43
　削除 45
　送信 44
　追加 44
　編集 44

は

パスワード
　変更 22

ひ

ビジネスエンティティ
　概要 18
ビジネスエンティティリレーション
　例 64

ビジネスエンティティリレーション編集
追加 63
ビジネスエンティティレコード
フィルタリング 50
開く 50
検索 59
検索と編集の例 60
削除 67
追加 39, 41
追加のシナリオ 38
表示 50
編集 59, 60
編集済み、確認 175
ビュー、従来
言語、変更 26

ふ

フィルタ
［データ］ビューの子レコード 147
タスク 32
フィルタリング
ビジネスエンティティレコード 50
ブックマーク
クエリのブックマークの共有 143
プロセス
れびゅー、概要 20

へ

ベストバージョンオブトゥルース
概要 19

ほ

ホームページ
グラフ 29
ソーシャルメディアの投稿 30
データの更新 34
外部 URL 30
概要 29
保存済みクエリ
概要 141

ま

マージ
タスク、確認 178
プレビュー、オーバーライド 125
概要 20, 82, 122
候補、選択 124
子レコード 86, 87
マージ *(続く)*
重複レコード 82, 87
マージのプレビュー
一致マージ比較での 123
マージ解除
タスク、確認 180
プロポーザル、確認のための送信 132
概要 128
例 131
マスタレコード
概要 89

ゆ

ユーザーインタフェース
概要 24

り

リストビュー
概要 169
リレーション
調査 152

れ

レコード
コピー 42
ベストバージョンオブトゥルースの完成 86
マージ重複 87
検索 46, 49
重複の解決 87
重複の識別 84
新規、確認 177
レコードのマージ
概要 80
レコードの有効期間
追加 150
編集 149

ろ

ローカライズされた
ユーザーインタフェース 22
ログイン 22

わ

ワークフロー
確認プロセス 20
ワイルドカード 136